

深谷市民まちづくりアンケート

調査報告書

令和5年8月

深谷市

目次

1.	I. アンケート調査結果の概要.....	2
1.	アンケート調査の実施方法.....	2
2.	アンケート調査結果の信頼度.....	3
3.	アンケート調査結果の概要.....	4
4.	市全体、地区別の調査結果の分析.....	8
2.	II. アンケート調査結果の詳細.....	17
1.	回答者属性.....	17
2.	深谷市のまちづくりについて.....	19
3.	深谷市の施策について.....	166
4.	自由記入欄（まちづくり全般について）.....	189
3.	III. アンケート調査結果の単純集計結果.....	195
1.	深谷市のまちづくりについて.....	195
2.	深谷市の施策について.....	199
3.	自由記入欄（まちづくり全般について）.....	203
4.	最後に、あなた自身のことについておたずねします。.....	203

1. I. アンケート調査結果の概要

1. アンケート調査の実施方法

(1) 目的

「第2次深谷市総合計画・前期基本計画」に基づき、施策を推進するにあたり、「深谷市民まちづくりアンケート」を実施することで、今後のまちづくりの参考にするための、現在の深谷市の姿および市民の意向や市民ニーズを把握することを目的としています。

(2) アンケートの方法

- ①調査対象：深谷市に居住する18歳以上の市民2,000人を住民基本台帳から無作為抽出しました。
- ②調査方法：アンケート票を郵送により配布・回収しました。
- ③調査期間：令和5年5月8日から同年5月19日に実施しました。

注意：

- ◆ 図表の数値は回答率を表しています。
- ◆ 図表の数値は小数点第1位未満を四捨五入しており、合計が100%にならない場合があります。
- ◆ 複数回答の設問では、合計が100%を超える場合があります。
- ◆ 「Ⅲ-2 深谷市の施策」について
 - ・ 重要度：「重要である」2点、「まあ重要である」1点、「あまり重要でない」-1点、「まったく重要でない」-2点と重要度に応じて得点を設定し、この得点に各々の回答者数を乗じて総得点を算出した上、その総得点を「わからない」「無回答」を除いた回答者数で除した数値です。数値が大きいほど重要度が高く、小さいほど重要度が低いことを表します。
 - ・ 満足度：「満足である」2点、「まあ満足である」1点、「やや不満である」-1点、「不満である」-2点と満足度に応じて得点を設定し、重要度と同様に算出した数値です。数値が大きいほど満足度が高く、小さいほど満足度が低いことを表します。
- ◆ 調査報告書上の重要度・満足度の値、およびその時系列比較の結果は、小数点第3位を四捨五入した値を記載していますが、時系列比較の計算過程においては、四捨五入を行う前の値を使用しているため、紙面上の計算結果と異なる場合があります。

2. アンケート調査結果の信頼度

無作為抽出によるアンケート調査実施にあたり、一般的に統計資料として信頼できる調査結果（信頼度±95%）を確保するために必要な回収票数を、以下の計算式により算出しました。各記号の説明および設定値は下表のとおりです。

・ 計算式

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\varepsilon}{K(\alpha)}\right)^2 \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

・ 各記号の説明と設定値

記号	説明	設定値
n	必要なサンプル数	
N	母数	令和5年4月1日時点の住民基本台帳人口（18歳以上）の総数（141,343人）とする
ε	信頼度の誤差範囲	±5%とする
K(α)	信頼度に基づく定数（※）	信頼度95%設定により、1.96とする
P	母比率	安全性の確保を考慮し、50%と設定する

以上より、必要な回収票数は以下のように算出され、

$$n = \frac{141,343}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \times \frac{141,343-1}{0.5 \times (1-0.5)} + 1} \approx 383$$

深谷市においては、383票回収すれば信頼度95%±5%の調査結果を得ることができることが分かります。

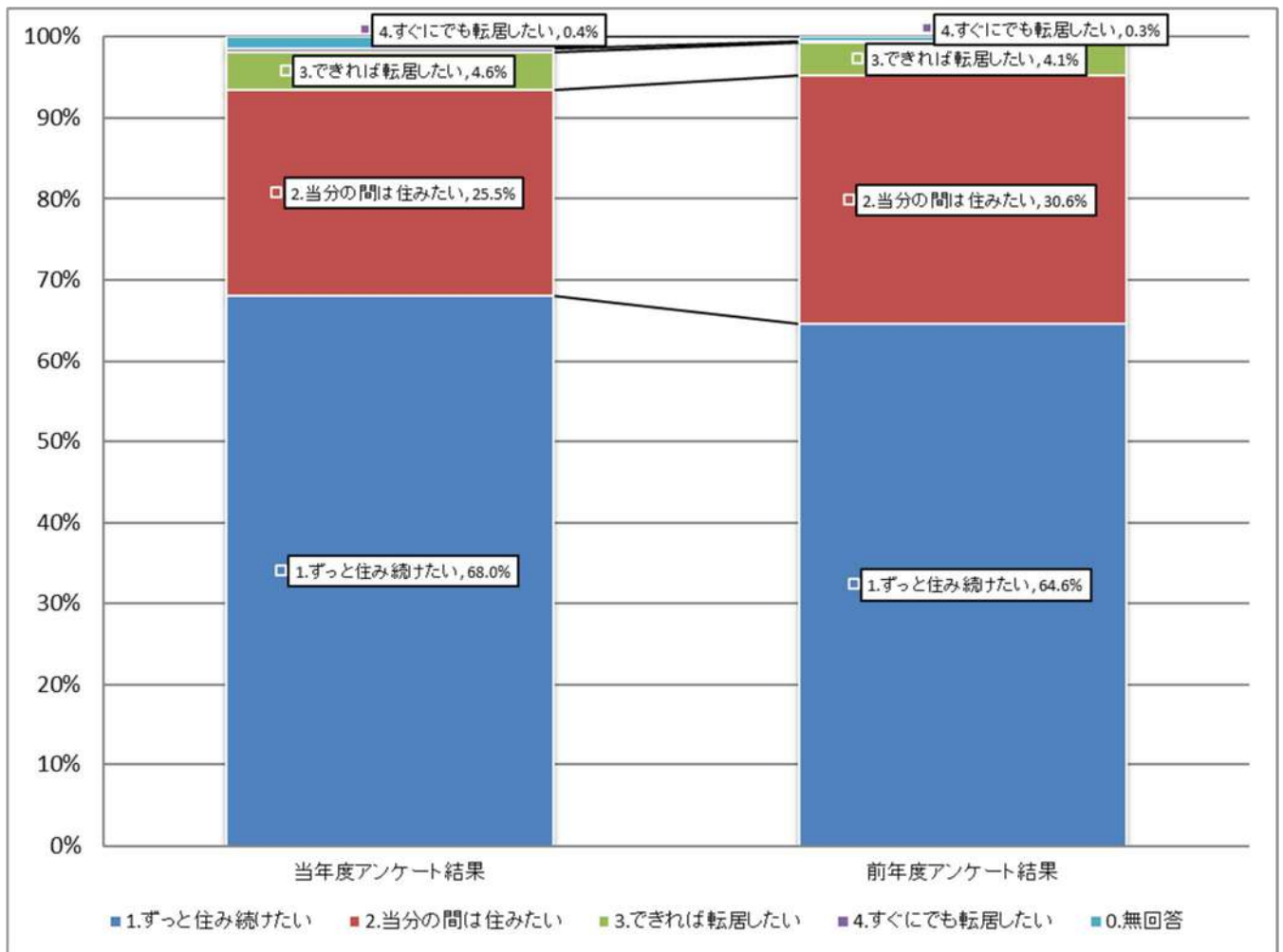
今回の調査では675票の有効回答が回収されたため、調査結果は統計的に信頼できるものと考えられます。

3. アンケート調査結果の概要

(1)「深谷市民まちづくりアンケート」について

後期基本計画に基づき、施策を推進するにあたり、市民の市の施策に対する重要度、満足度などを把握するために、令和5年5月8日から同年5月19日までの期間にアンケート調査を実施しました。アンケート調査の対象は無作為に抽出した深谷市在住の満18歳以上の男女2,000人であり、アンケート票の有効回答数は、675人（33.75%）でした。

(2) 深谷市への定住意識について

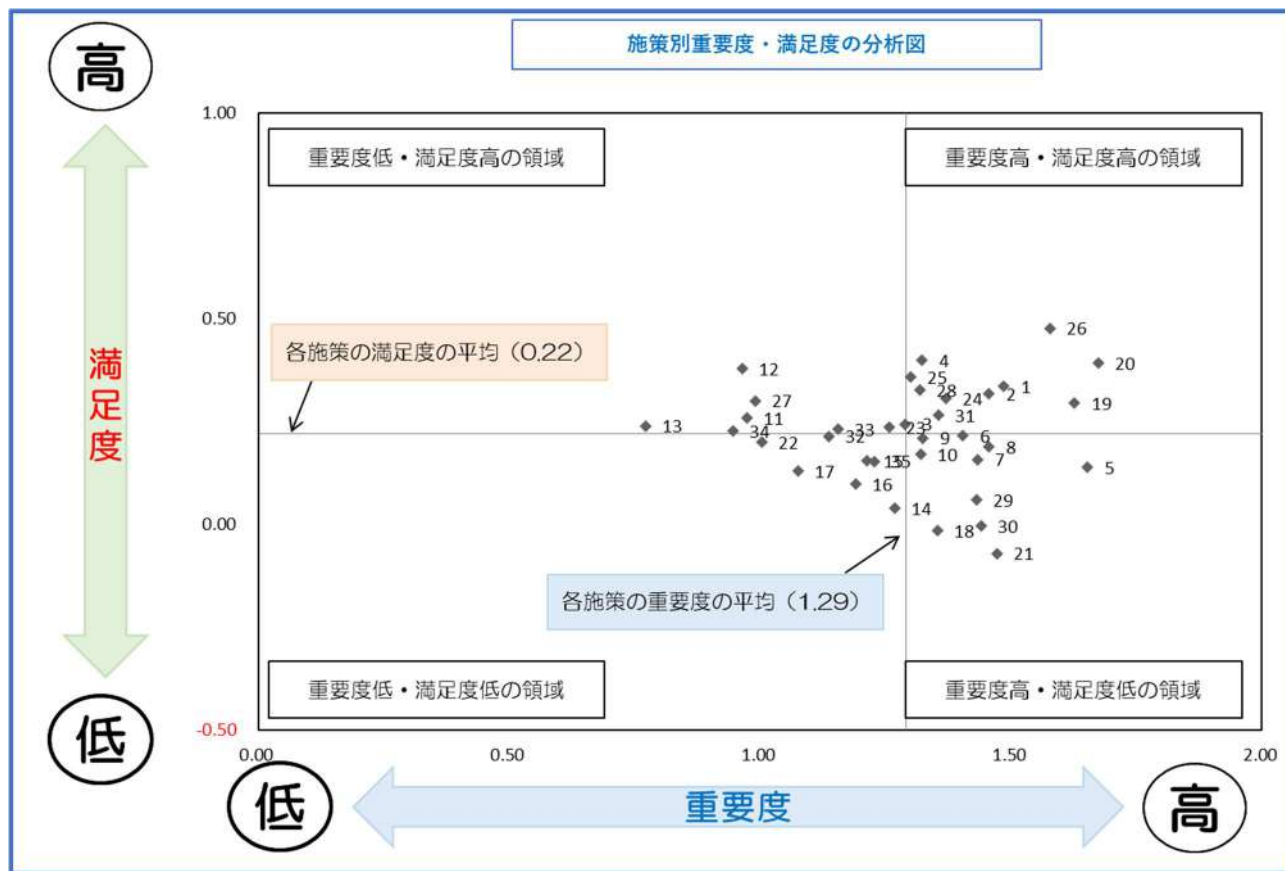


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が 68.0%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が 25.5%となっています。合計は 93.5%と 9 割を超えており、前年度に引き続き、深谷市民の定住意識が高いことがうかがえます。

(3) 深谷市の施策の重要度・満足度について

深谷市が実施している施策について、重要度・満足度に関する調査を行いました。

① 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	19	災害に強い防災体制の推進
23	自然・生活環境の保全	20	消防・救急体制の充実
27	自然・文化を生かした景観形成	24	環境衛生の推進
33	情報発信・共有の推進	25	良好な市街地・住環境形成の推進
34	市民との協働・交流の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
		28	治水対策の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
15	農畜産物の販売流通体制の充実	6	地域福祉の推進
16	商工業の振興	7	高齢者福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	8	障害者福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
32	男女共同参画の実現	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
35	行財政運営の推進	18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞

重要度が高く、満足度も高い領域には「子育て支援の充実」、「保育サービスの充実」、「健康づくりの推進」、「災害に強い防災体制の推進」、「消防・救急体制の充実」、「環境衛生の推進」、「良好な市街地・住環境形成の推進」、「水の安定供給と下水処理の適正化」、「治水対策の推進」、「人権・個性が尊重される社会の実現」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

＜重要度高・満足度低＞

重要度が高く、満足度が低い領域には、「地域医療体制の充実」、「地域福祉の推進」、「高齢者福祉の推進」、「障害者福祉の推進」、「「生きる力」を育む学校教育の推進」、「家庭・地域・学校の連携による教育力の向上」、「就労環境の整備」、「防犯・空き家対策の推進」、「道路・交通環境整備の推進」、「公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えられていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

＜重要度低・満足度高＞

重要度が低く、満足度が高い領域には、「青少年の健全育成の推進」、「生涯学習の推進」、「郷土の歴史・文化の継承と活用」、「スポーツ・レクリエーションの推進」、「自然・生活環境の保全」「自然・文化を生かした景観形成」「情報発信・共有の推進」「市民との協働・交流の推進」などの施策が該当します。

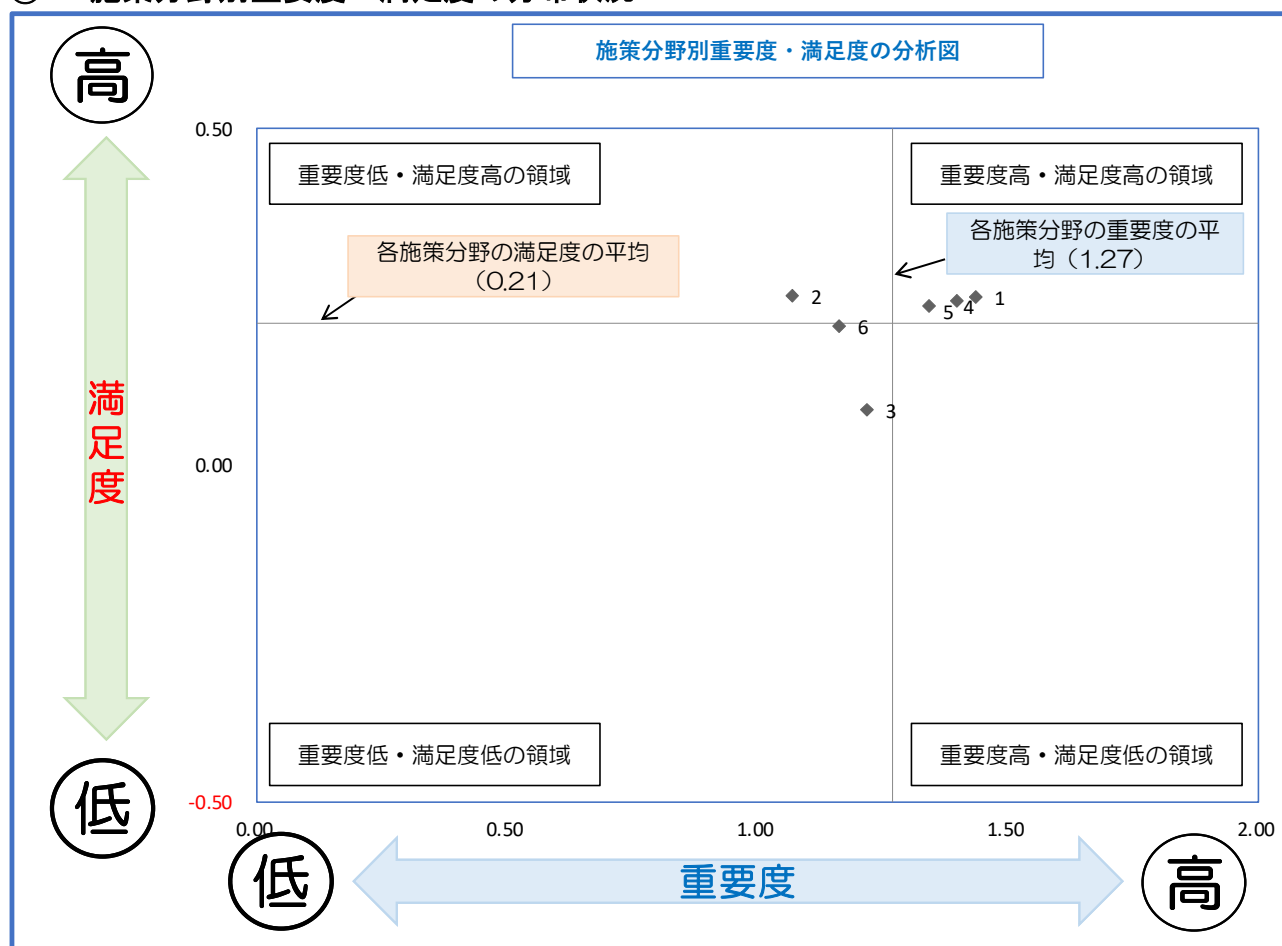
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないか確認する必要があります。

＜重要度低・満足度低＞

重要度が低く、満足度も低い領域には、「農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「農畜産物の販売流通体制の充実」、「商工業の振興」、「観光資源の整備と活用」、「地域コミュニティの推進」、「男女共同参画の実現」、「行財政運営の推進」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、住民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

② 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
		4	暮らし・環境
		5	都市・生活基礎
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
3	産業振興		
6	協働・行政経営		

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を<重要度高・満足度高>、<重要度高・満足度低>、<重要度低・満足度高>、<重要度低・満足度低>の4つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

<重要度高・満足度高>に分類される施策分野は、「1. 子育て・保健・福祉」、「4. 暮らし・環境」、「5. 都市・生活基礎」の3分野であり、<重要度高・満足度低>に分類される施策分野には該当はありませんでした。

また、<重要度低・満足度高>に分類される施策分野は、「2. 教育・文化」の1分野であり、<重要度低・満足度低>に分類される施策分野は、「3. 産業振興」、「6. 協働・行政経営」の2分野となっています。

今年度のアンケートで<重要度高・満足度高>に分類された施策が多かったことから、施策に対しての満足度が高いことがうかがえます。

4. 市全体、地区別の調査結果の分析

アンケート調査の結果を分析し、その分析結果を市全体、地区ごとに分類すると、以下のとおりです。

(1) 調査からわかったこと（市全体）

➤ 市への定住意識

- ・「令和 4 年度深谷市民まちづくりアンケート（以下、「前年度アンケート」）」の結果から大きな変化は見られず、高い割合を維持しています。
- ・「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は、ほとんどの地区で 9 割前後と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少数であることがうかがえます。

➤ 子育て・保健・福祉について

- ・地域で子どもを育む活動に「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 2 割以上となっています。
- ・小学生以下（小学校 6 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、仕事と子育てを「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は 6 割以上となっており、「前年度アンケート」の結果からは大きく減少していることがわかります。
- ・中学生以下（中学 3 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、子育てのしやすいまちと回答した人の割合は 8 割となっており、「前年度アンケート」の結果からは微増していることがわかります。
- ・普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は 6 割近くとなり、「前年度アンケート」の結果からは微減していることがわかります。
- ・定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていると回答した人の割合は 8 割近くとなっており、「前年度アンケート」の結果から大きな変化はありませんでした。
- ・7 割を超える市民に、かかりつけ医がいることがうかがえます。その割合は「前年度アンケート」の結果からは微減していることがわかります。
- ・健康的な食生活に「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は 8 割を超えており、「前年度アンケート」の結果

果から微減していることがわかります。

- ・ 悩みごとを相談できる人がいると回答した人の割合は 8 割以上となり、相談をしやすい環境ができていることがわかります。
- ・ 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる自治会や民生委員などがあると回答した人の割合は半数を切る結果となっており、「前年度アンケート」の結果から大きな変化はありませんでした。

➤ 教育・文化について

- ・ 生涯学習を「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は 3 割以上となり、「前年度アンケート」から増加していることがわかります。
- ・ 芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会が「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は 3 割近くとなっています。「前年度アンケート」の結果から増加していることがわかります。
- ・ スポーツやレクリエーションを「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は半数以上という結果となり、「前年度アンケート」の結果から大きな変化はありませんでした。

➤ 産業振興について

- ・ 市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は 6 割近くとなっており、「前年度アンケート」と比較すると微減しています。
- ・ 深谷産の農畜産物を購入することを「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計は 6 割以上であり、「前年度アンケート」の結果から大きな変化はありませんでした。
- ・ 自身または家族の仕事と生活のバランスが「とても取れている」または「やや取れている」と回答した人の割合の合計は 7 割近くとなり、「前年度アンケート」と比較すると微減しています。

➤ 暮らし・環境について

- ・ ハザードマップで災害の危険性を「確認した」と回答した人の割合は、7 割近くとはなっているものの、3 割以上の人「確認していない」という結果となり、「前年度アンケート」と比較すると増加しています。

- ・ 自宅に災害に対する備えが「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は5割近くとなっていますが、「前年度アンケート」と比較すると大きく減少しています。
- ・ 地震発生時の避難所・避難場所を、市民の約2割以上が「知らない」と回答しており、「前年度アンケート」と比較すると微増しています。
- ・ 1年間で消費者トラブルに巻きこまれた人の割合は、「前年度アンケート」と比較すると微増していることがうかがえます。
- ・ 6割近くの市民が、日ごろ防犯対策を「十分とっている」または「ある程度はとっている」と回答しているものの、「前年度アンケート」と比較すると減少していることがわかります。
- ・ 地域活動（自治会や町内会での活動など）へ「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は、4割以上となっており、「前年度アンケート」と比較すると増加していることがわかります。
- ・ 環境に配慮した取組（省エネ、自然や川の保全活動など）を、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、「前年度アンケート」の結果から大きな変化はありませんでした。また、環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は5割以上でしたが、「前年度アンケート」と比較すると微減しています。
- ・ 9割近くの市民が、普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていることがうかがえます。「前年度アンケート」の結果から大きな変化はありませんでした。

➤ 都市・生活基盤について

- ・ 市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると回答した人の割合は6割以上となっていますが、「前年度アンケート」と比較すると微減していることがわかります。
- ・ 住まい周辺の住環境に「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は7割以上となり、「前年度アンケート」と比較して大きな変化はありませんでした。
- ・ 8割の市民が身近に自然に親しむことができる環境があると回答していることがうかがえます。「前年度アンケート」と比較して大きな変化はありませんでした。

- ・市内に魅力的なまち並みや景観が「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は半数以上となっており、「前年度アンケート」と比較して大きな変化はありませんでした。
- ・ 8 割近くの市民が、水害に対して安心した生活を送ることができていると感じており、「前年度アンケート」と比較して大きな変化はありませんでした。
- ・ 約半数の市民が、市内の道路を利用する際に不便を感じると回答していることがわかります。不便を感じないと回答している方が「前年度アンケート」と比較すると微増しているものの、公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）についても、約半数が不便を感じると回答しており、道路と公共交通機関のどちらにおいても、半数近くの人が不便を感じていることがうかがえます。

➤ 協働・行政経営について

- ・ 深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると感じている人は 6 割以上で、「前年度アンケート」の結果から微増しています。
- ・ この 1 年間に自分の人権が侵害されたと思ったことがあると回答した人の割合は 1 割未満と少なく、「前年度アンケート」と比較して大きな変化はありませんでした。
- ・ お互いの人権について「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は 6 割を超えているものの、「前年度アンケート」と比較すると、微減しています。
- ・ 市内で、外国人とのトラブルなどを「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は 1 割未満と少なく、「前年度アンケート」と比較すると減少しています。
- ・ 性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思うと回答した人の割合の合計は、7 割近くとなり、「前年度アンケート」と比較すると大きく増加しています。
- ・ 男女共同参画について「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は、2 割以上となっており、「前年度アンケート」の結果から微増しています。
- ・ 8 割近くの市民が、配偶者などによる「電話、メール等の細かい監視」「生活費を渡さない」などの行為が暴力であると思っている反面、1 割未満の人が「暴力にあたるとは思わない」という結果となっています。

- ・ 7 割近くの市民が、市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っていると回答しており、「前年度アンケート」と比較すると微減しています。
- ・ 8 割以上の市民が、市役所における窓口対応に満足していると回答していますが、「前年度アンケート」と比較して微減しています。
- ・ 市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合の合計は 8 割近くとなり、「前年度アンケート」と比較して大きな変化は見られませんでした。
- ・ 6 割近くの市民が、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると回答しており、「前年度アンケート」と比較して大きな変化は見られませんでした。
- ・ 市民活動に興味は「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合の合計は、3 割近くとなり、「前年度アンケート」と比較して微減しています。
- ・ 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを「知っている」と回答した人の割合は 5 割未満となっており、「前年度アンケート」と微減しています。また、性別や年代によって差があることがうかがえます。
- ・ 7 割近くの市民が、花と緑をいかしたまちづくり活動について「興味がある」と回答しています。「参加したい」と回答した人の割合については「前年度アンケート」と比較して大きな変化は見られませんでした。
- ・ 市のオンラインサービスを「利用したことがある」と回答した人の割合は 3 割未満ではあるものの、「前年度アンケート」と比較して微増しています。
- ・ 「SDGs」という言葉を「よく理解している」と回答した人の割合は、3 割を超えていますが、「前年度アンケート」と比較して大きな変化は見られませんでした。

（２）調査からわかったこと（地区別）

➤ 深谷地区

- ・ 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）がいると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

- ・地域活動（自治会や町内会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市役所における窓口対応について満足していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 藤沢地区

- ・悩みごとを相談できる人（家族や友人など）がいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスが取れていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・日ごろ、防犯対策を行っているという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・水害に対して安心した生活を送ることができていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 幡羅地区

- ・生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）はあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・水害に対して安心した生活を送ることができていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・「SDGs」という言葉を知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 明戸地区

- ・かかりつけのお医者さんがいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

- ・市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことがあると回答した市民の割合が低いことがうかがえます。

➤ 大寄地区

- ・小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、仕事と子育てを両立できていると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があったと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内に魅力的なまち並みや景観があると思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市役所における窓口対応について満足していると思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 八基地区

- ・地域活動（自治会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っていると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内に魅力的なまち並みや景観があると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っていると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 豊里地区

- ・定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

- ・ 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）がいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 水害に対して安心した生活を送ることができると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市のオンラインサービスを利用したことがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 上柴地区

- ・ 生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ この 1 年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ お住まい周辺の住環境に満足していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはないとは回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 南地区

- ・ 地震発生時の避難所・避難場所を知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 身近に自然に親しむことができる環境があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 岡部地区

- ・ 健康的な食生活に気をつけていると回答した市民の割合が相対的に高いことが

うかがえます。

- ・この１年間で消費者トラブルに巻き込まれたことがあると回答した市民の割合が低いことがうかがえます。
- ・深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 川本地区

- ・地域で子どもを育む活動に参加していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・中学生以下（中学校３年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、深谷市が子育てのしやすいまちだと思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていないと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

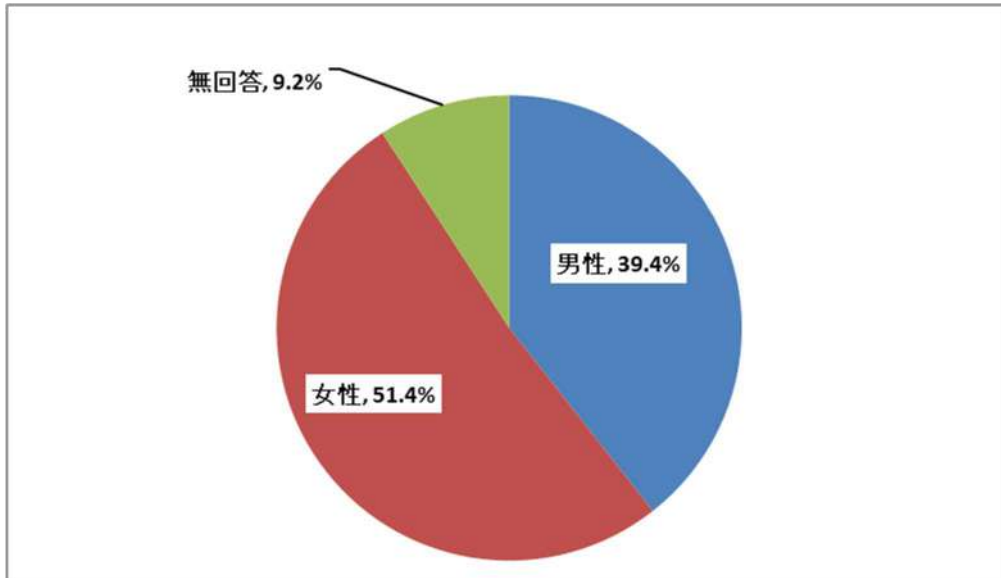
➤ 花園地区

- ・市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・性別に関係なく、家庭、地域、職場で均等な役割分担がされていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ハザードマップで自宅等の災害の危険性（自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど）について確認したと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

2. II. アンケート調査結果の詳細

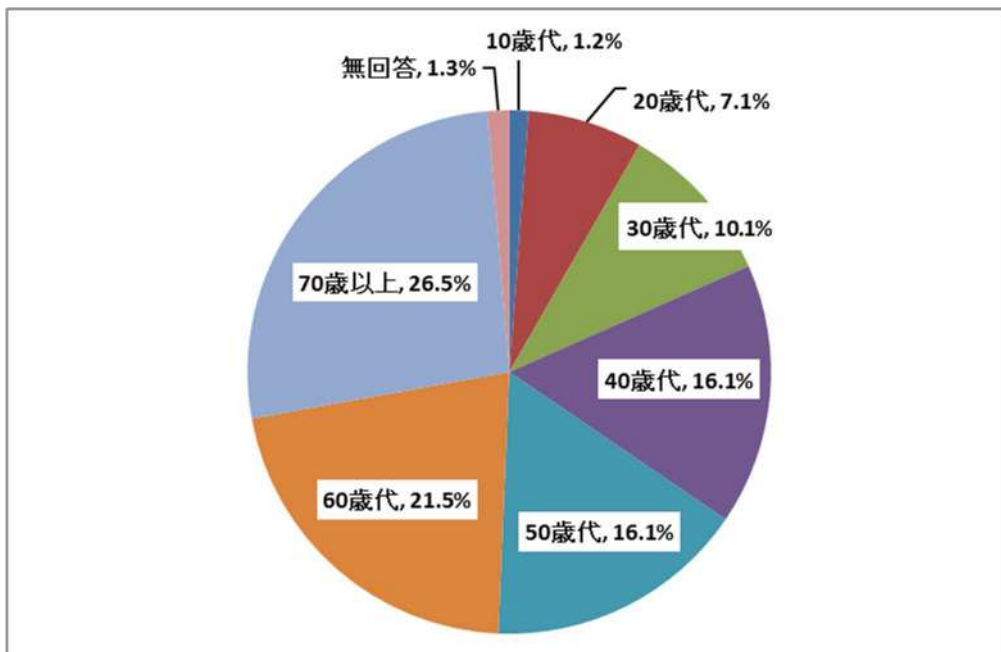
1. 回答者属性

(1) 性別



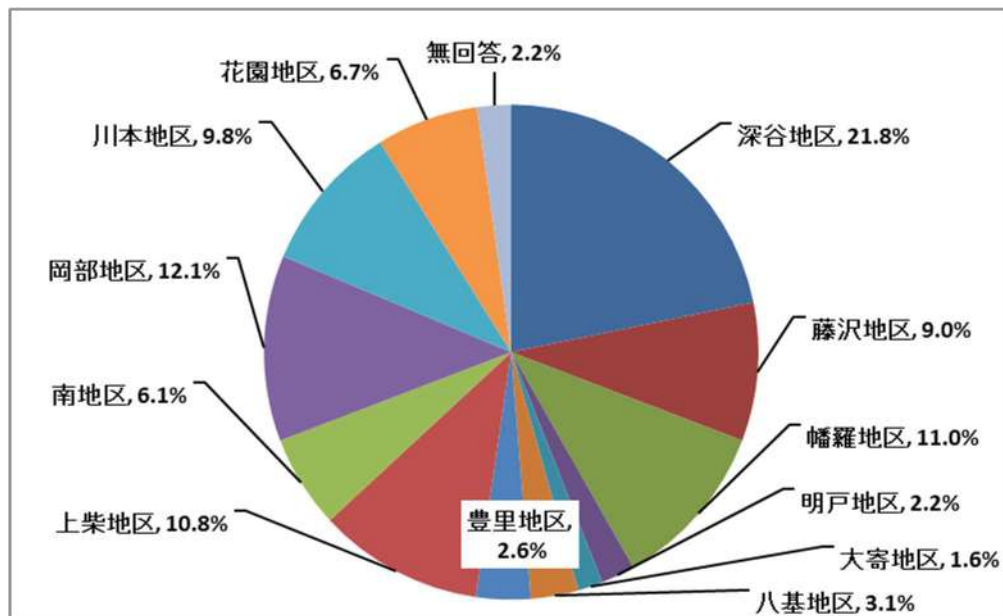
男性が 39.4%、女性が 51.4%と、回答者は女性の割合が多くなっています。

(2) 年齢



年齢では、70歳以上が最も多く、26.5%となっています。次いで、60歳代 21.5%、50歳代 16.1%、40歳代 16.1%となっており、最も少ないのは10歳代で1.2%となっています。

(3) 居住地区

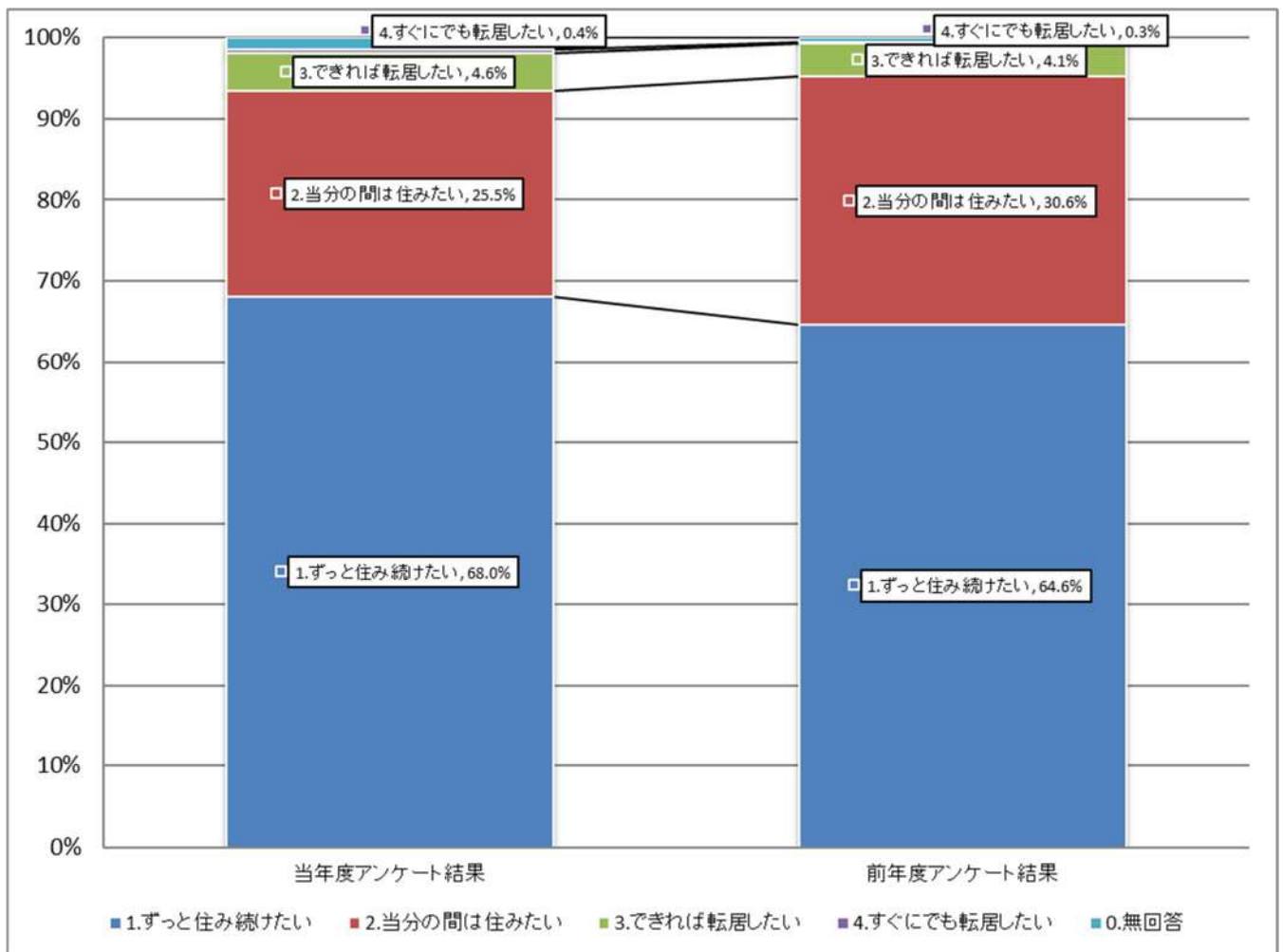


深谷地区が最も多く 21.8%となっています。次いで、岡部地区で 12.1%、幡羅地区で 11.0%となっています。最も少ないのは大寄地区であり、1.6%となっています。

2. 深谷市のまちづくりについて

(1) 深谷市のまち全体の印象について（1. 問1）

これからもずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。

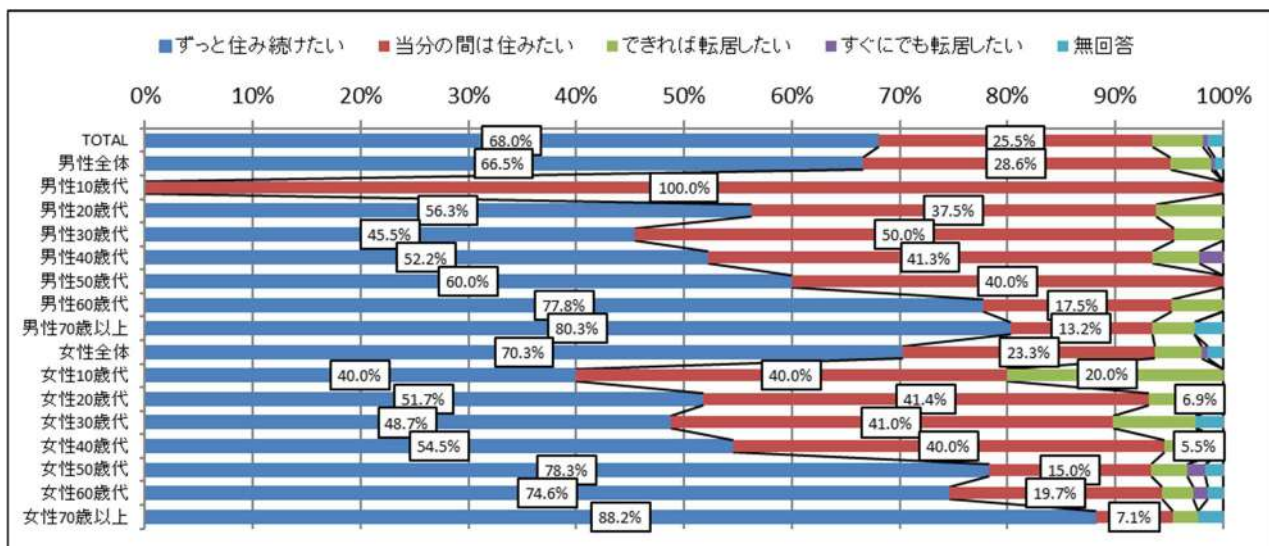


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が 68.0%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が 25.5%となっており、2 つの合計は 93.5%と 9 割を超えていることから、深谷市民は定住意識が高いことがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住みたい」と回答した人の割合は 95.2%であり、前年度アンケートと比較して、僅かに減少となっています。

母集団		ずっと住み続けたい	当分の間は住みたい	できれば転居したい	すぐにも転居したい	無回答	合計
TOTAL	675	68.0%	25.5%	4.6%	0.4%	1.5%	100.0%
男性全体	266	66.5%	28.6%	3.8%	0.4%	0.8%	100.0%
男性 10 歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	56.3%	37.5%	6.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	45.5%	50.0%	4.5%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	52.2%	41.3%	4.3%	2.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	77.8%	17.5%	4.8%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	80.3%	13.2%	3.9%	0.0%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	70.3%	23.3%	4.3%	0.6%	1.4%	100.0%
女性 10 歳代	5	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	51.7%	41.4%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	48.7%	41.0%	7.7%	0.0%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	54.5%	40.0%	5.5%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	78.3%	15.0%	3.3%	1.7%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	71	74.6%	19.7%	2.8%	1.4%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	88.2%	7.1%	2.4%	0.0%	2.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	68.0%	27.2%	4.8%	0.0%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	70.5%	23.0%	3.3%	3.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	64.9%	27.0%	8.1%	0.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	80.0%	6.7%	6.7%	0.0%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	45.5%	45.5%	0.0%	0.0%	9.1%	100.0%
八基地区	21	81.0%	9.5%	4.8%	0.0%	4.8%	100.0%
豊里地区	24	70.8%	25.0%	4.2%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	71.2%	26.0%	1.4%	0.0%	1.4%	100.0%
南地区	41	65.9%	26.8%	4.9%	2.4%	0.0%	100.0%
岡部地区	82	70.7%	26.8%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%
川本地区	66	65.2%	24.2%	4.5%	0.0%	6.1%	100.0%
花園地区	45	62.2%	28.9%	4.4%	0.0%	4.4%	100.0%
無回答	15	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%

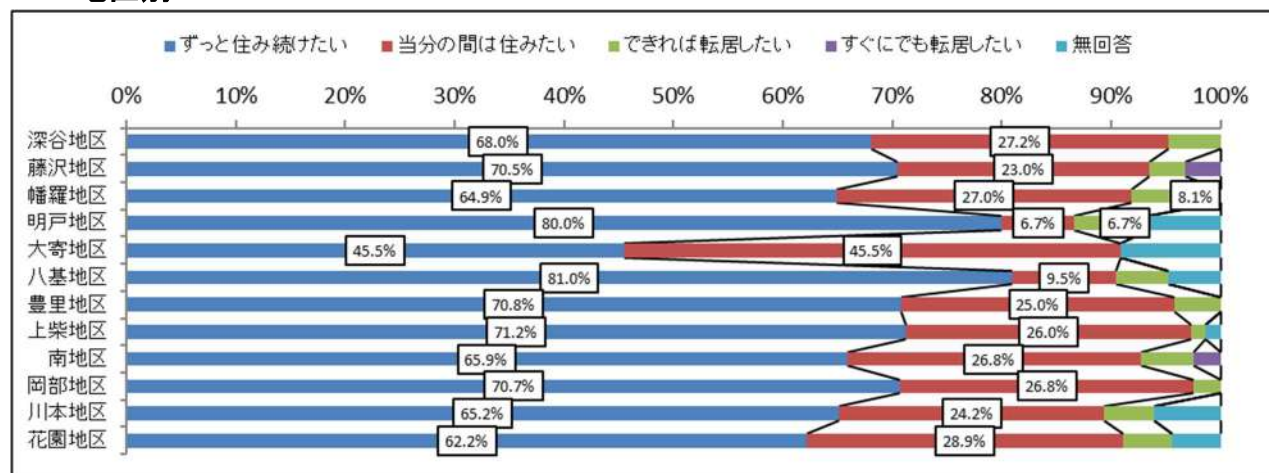
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合は、男性が 66.5% であるのに対し、女性は 70.3% となっています。男女ともに多くの市民が、住み続けたいと考えていることがうかがえます。

また、「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が最も少ない世代は男性、女性ともに 10 歳代（男性 0.0%、女性 40.0%）であり、一方で最も多い世代は、男性、女性ともに 70 歳以上（男性 80.3%、女性 88.2%）となっています。

➤ 地区別



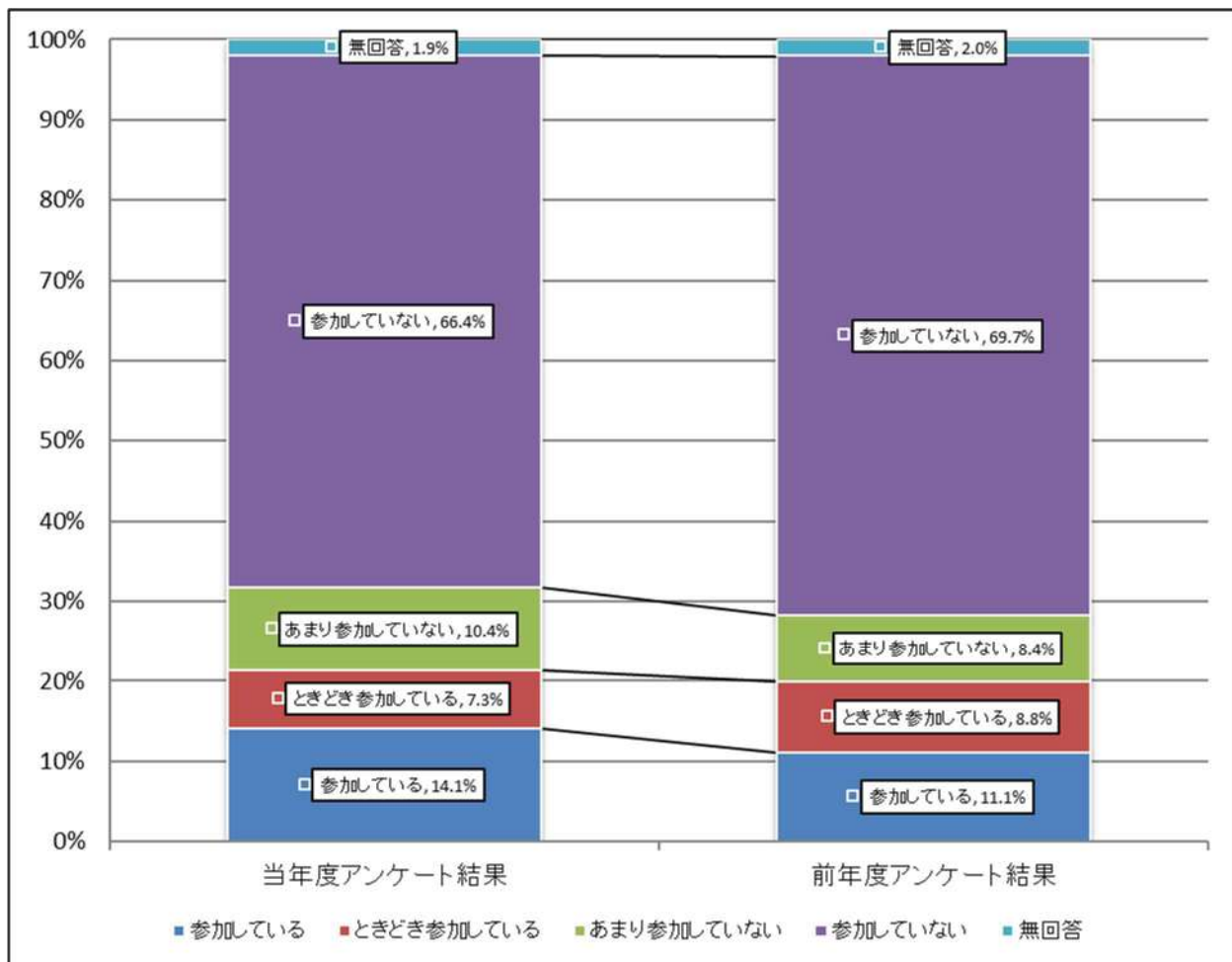
地区別にみると、「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合は、大寄地区においては 45.5% と低い数値になっている一方で、八基地区においては 81.0% と高い数値になっています。地域によって意識に差があることがわかります。

ただし、「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計はすべての地区で 8 割以上と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少ないことがうかがえます。

(2) 子育て・保健・福祉について

① 子育てについて（2. 問1～3）

地域で子どもを育む活動に参加していますか。（例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など）



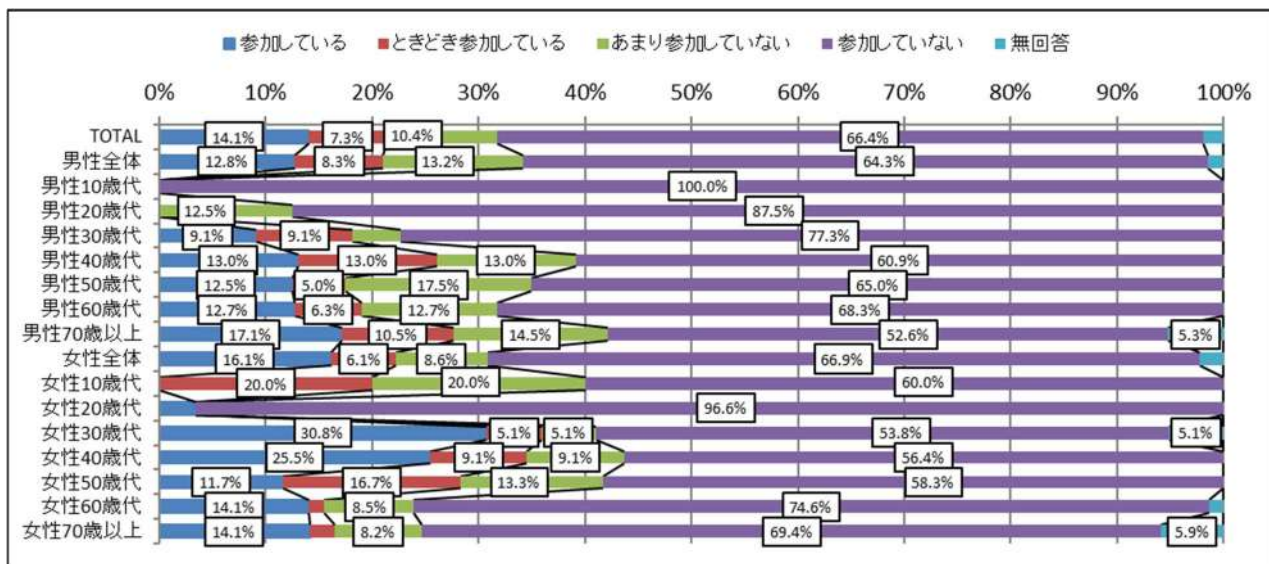
「参加していない」と回答した人の割合が 66.4%と最も多く、次いで、「参加している」と回答した人の割合が 14.1%、「あまり参加していない」と回答した人の割合が 10.4%、「ときどき参加している」と回答した人の割合は 7.3%となっています。

「参加している」「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 21.3%であり、活動に参加している市民は2割程度の状況です。

また、前年度アンケートの結果は、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は 19.9%であり、前年度アンケートと比較して、微増となりました。「参加していない」または「あまり参加していない」と回答した人の割合が前年度に比べ、1.3%減少という結果となっています。

母集団		参加している	参加している ときどき	参加していない あまり	参加していない	無回答	合計
TOTAL	675	14.1%	7.3%	10.4%	66.4%	1.9%	100.0%
男性全体	266	12.8%	8.3%	13.2%	64.3%	1.5%	100.0%
男性 10 歳代	3	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	0.0%	0.0%	12.5%	87.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	9.1%	9.1%	4.5%	77.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	13.0%	13.0%	13.0%	60.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	12.5%	5.0%	17.5%	65.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	12.7%	6.3%	12.7%	68.3%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	17.1%	10.5%	14.5%	52.6%	5.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	16.1%	6.1%	8.6%	66.9%	2.3%	100.0%
女性 10 歳代	5	0.0%	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	3.4%	0.0%	0.0%	96.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	30.8%	5.1%	5.1%	53.8%	5.1%	100.0%
女性 40 歳代	55	25.5%	9.1%	9.1%	56.4%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	11.7%	16.7%	13.3%	58.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	14.1%	1.4%	8.5%	74.6%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	14.1%	2.4%	8.2%	69.4%	5.9%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	11.6%	6.1%	8.8%	72.1%	1.4%	100.0%
藤沢地区	61	14.8%	6.6%	18.0%	59.0%	1.6%	100.0%
幡羅地区	74	14.9%	12.2%	9.5%	63.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	6.7%	6.7%	6.7%	73.3%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	9.1%	9.1%	9.1%	72.7%	0.0%	100.0%
八基地区	21	19.0%	0.0%	28.6%	47.6%	4.8%	100.0%
豊里地区	24	20.8%	8.3%	12.5%	58.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	9.6%	9.6%	8.2%	69.9%	2.7%	100.0%
南地区	41	4.9%	7.3%	9.8%	75.6%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	20.7%	6.1%	11.0%	58.5%	3.7%	100.0%
川本地区	66	22.7%	6.1%	6.1%	63.6%	1.5%	100.0%
花園地区	45	11.1%	2.2%	11.1%	73.3%	2.2%	100.0%
無回答	15	6.7%	20.0%	0.0%	73.3%	0.0%	100.0%

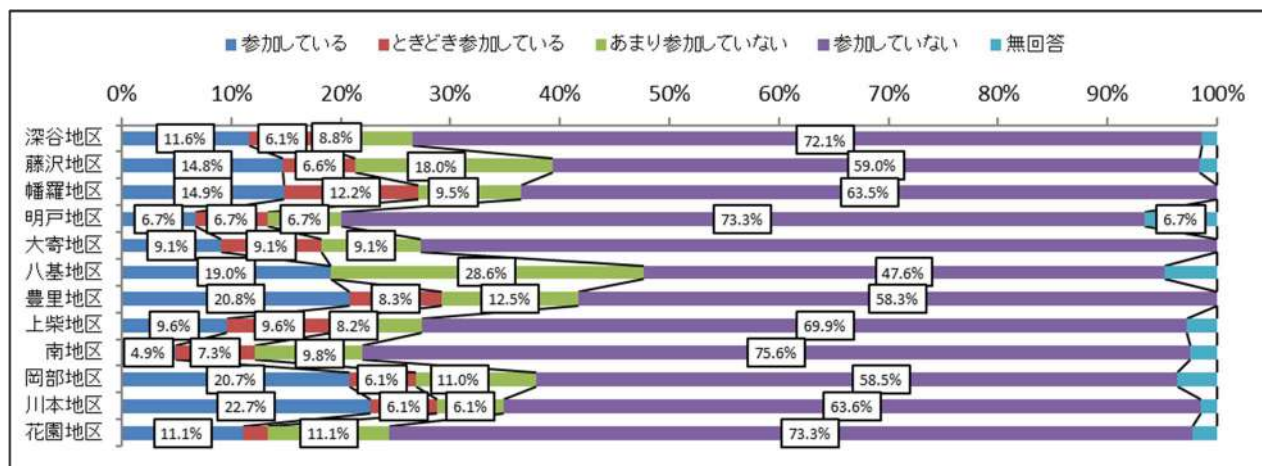
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は、男性が 21.1%、女性は 22.2%となっています。このことから、性別によっての活動への参加率は女性が高いことがわかります。

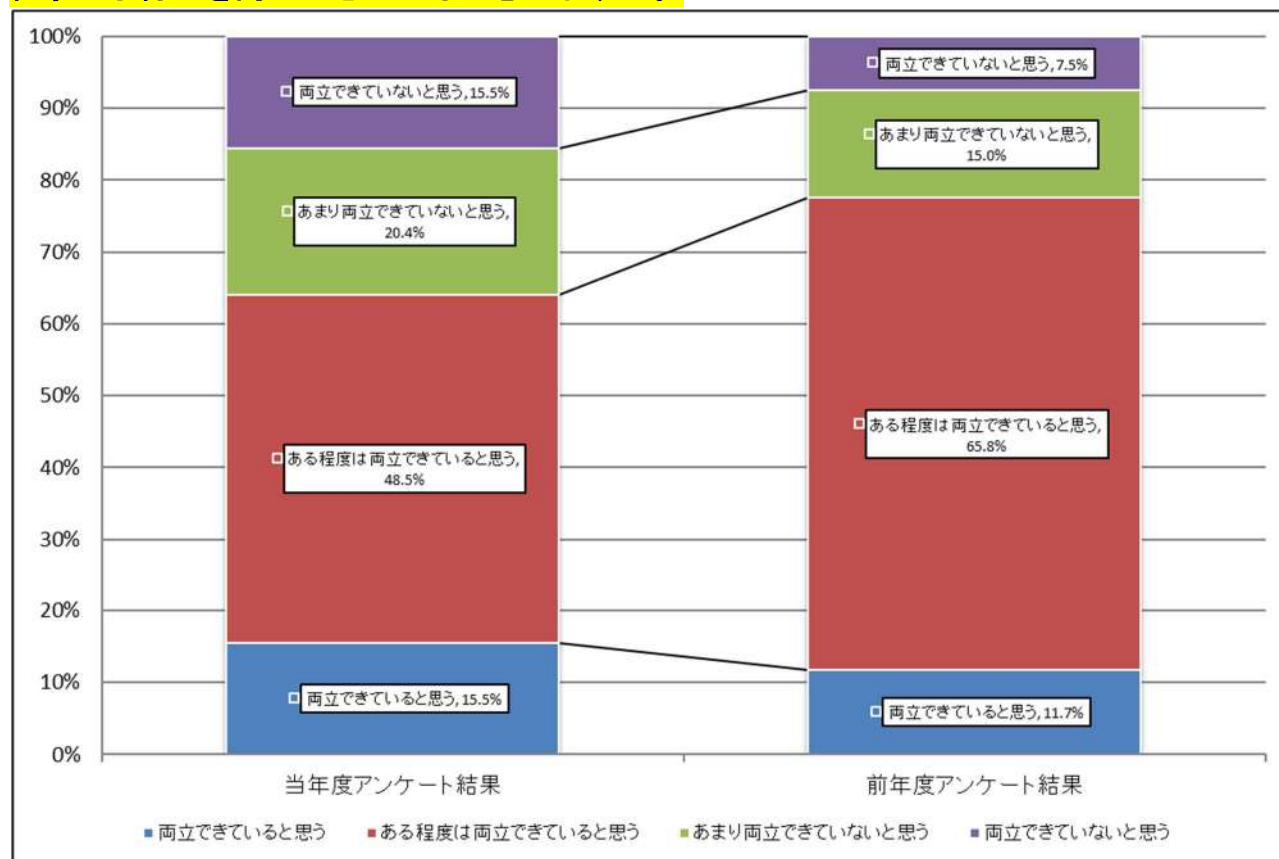
また、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は 10 歳代・20 歳代（男性 0.0%）女性は 20 歳代（女性 3.4%）でした。一方で、最も多い世代は、男性は 70 歳以上（男性 27.6%）女性は 30 歳代（女性 35.9%）となっています。世代によって、大きな差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ない地区は、南地区（12.2%）であり、次いで明戸地区・花園地区（13.3%）となっています。最も多い地区は、豊里地区（29.2%）であり、次いで川本地区（28.8%）となっています。地域によっても、比較的差があることがうかがえます。

小学生以下（小学校 6 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。
仕事と子育てを両立できていると思いますか。



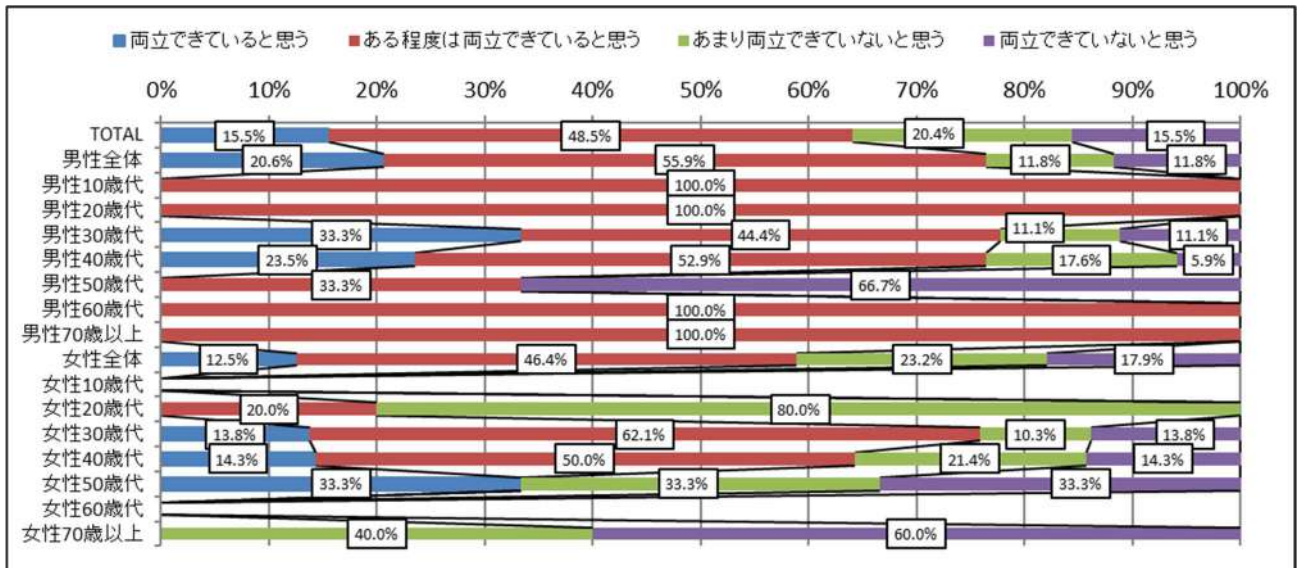
「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合が 48.5%と最も多く、次いで、「あまり両立できていないと思う」と回答した人の割合が 20.4%、「両立できていると思う」、「両立できていないと思う」と回答した人の割合が 15.5%となっています。

「両立できていると思う」「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は 64.1%であり、小学生以下（小学校 6 年生まで）のお子さんを持つ保護者のうち、6 割以上は、仕事と子育ての両立ができていると回答しています。

また、前年度アンケートの結果は、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は 77.5%であり、前年度アンケートと比較して減少となっています。

母集団		両立できていると思う	ある程度は両立できていると思う	あまり両立できていないと思う	両立できていないと思う	無回答	合計
TOTAL	103	15. 5%	48. 5%	20. 4%	15. 5%	0. 0%	100. 0%
男性全体	34	20. 6%	55. 9%	11. 8%	11. 8%	0. 0%	100. 0%
男性 10 歳代	1	0. 0%	100. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
男性 20 歳代	1	0. 0%	100. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
男性 30 歳代	9	33. 3%	44. 4%	11. 1%	11. 1%	0. 0%	100. 0%
男性 40 歳代	17	23. 5%	52. 9%	17. 6%	5. 9%	0. 0%	100. 0%
男性 50 歳代	3	0. 0%	33. 3%	0. 0%	66. 7%	0. 0%	100. 0%
男性 60 歳代	2	0. 0%	100. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
男性 70 歳以上	1	0. 0%	100. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	56	12. 5%	46. 4%	23. 2%	17. 9%	0. 0%	100. 0%
女性 10 歳代		—	—	—	—	—	—
女性 20 歳代	5	0. 0%	20. 0%	80. 0%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
女性 30 歳代	29	13. 8%	62. 1%	10. 3%	13. 8%	0. 0%	100. 0%
女性 40 歳代	14	14. 3%	50. 0%	21. 4%	14. 3%	0. 0%	100. 0%
女性 50 歳代	3	33. 3%	0. 0%	33. 3%	33. 3%	0. 0%	100. 0%
女性 60 歳代		—	—	—	—	—	—
女性 70 歳以上	5	0. 0%	0. 0%	40. 0%	60. 0%	0. 0%	100. 0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	26	11. 5%	50. 0%	26. 9%	11. 5%	0. 0%	100. 0%
藤沢地区	10	30. 0%	30. 0%	20. 0%	20. 0%	0. 0%	100. 0%
幡羅地区	17	11. 8%	58. 8%	17. 6%	11. 8%	0. 0%	100. 0%
明戸地区		—	—	—	—	—	—
大寄地区	2	50. 0%	50. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
八基地区	2	0. 0%	50. 0%	0. 0%	50. 0%	0. 0%	100. 0%
豊里地区	5	40. 0%	40. 0%	20. 0%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
上柴地区	7	14. 3%	28. 6%	42. 9%	14. 3%	0. 0%	100. 0%
南地区	4	0. 0%	75. 0%	25. 0%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
岡部地区	12	0. 0%	66. 7%	25. 0%	8. 3%	0. 0%	100. 0%
川本地区	13	30. 8%	30. 8%	0. 0%	38. 5%	0. 0%	100. 0%
花園地区	3	0. 0%	100. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
無回答	2	0. 0%	0. 0%	50. 0%	50. 0%	0. 0%	100. 0%

➤ 性別・世代別

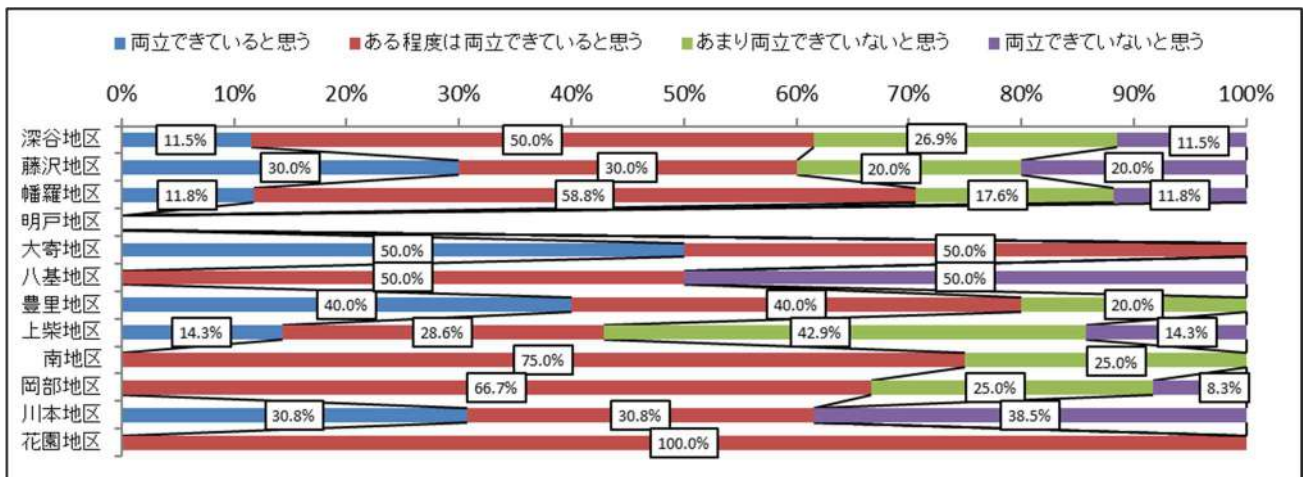


「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は男性は 76.5%、女性は 58.9%となっています。

30 歳代において、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は男性が 77.8%であるのに対し、女性は 75.9%と、女性よりも男性の方が両立できていると回答している人の割合が高くなっています。

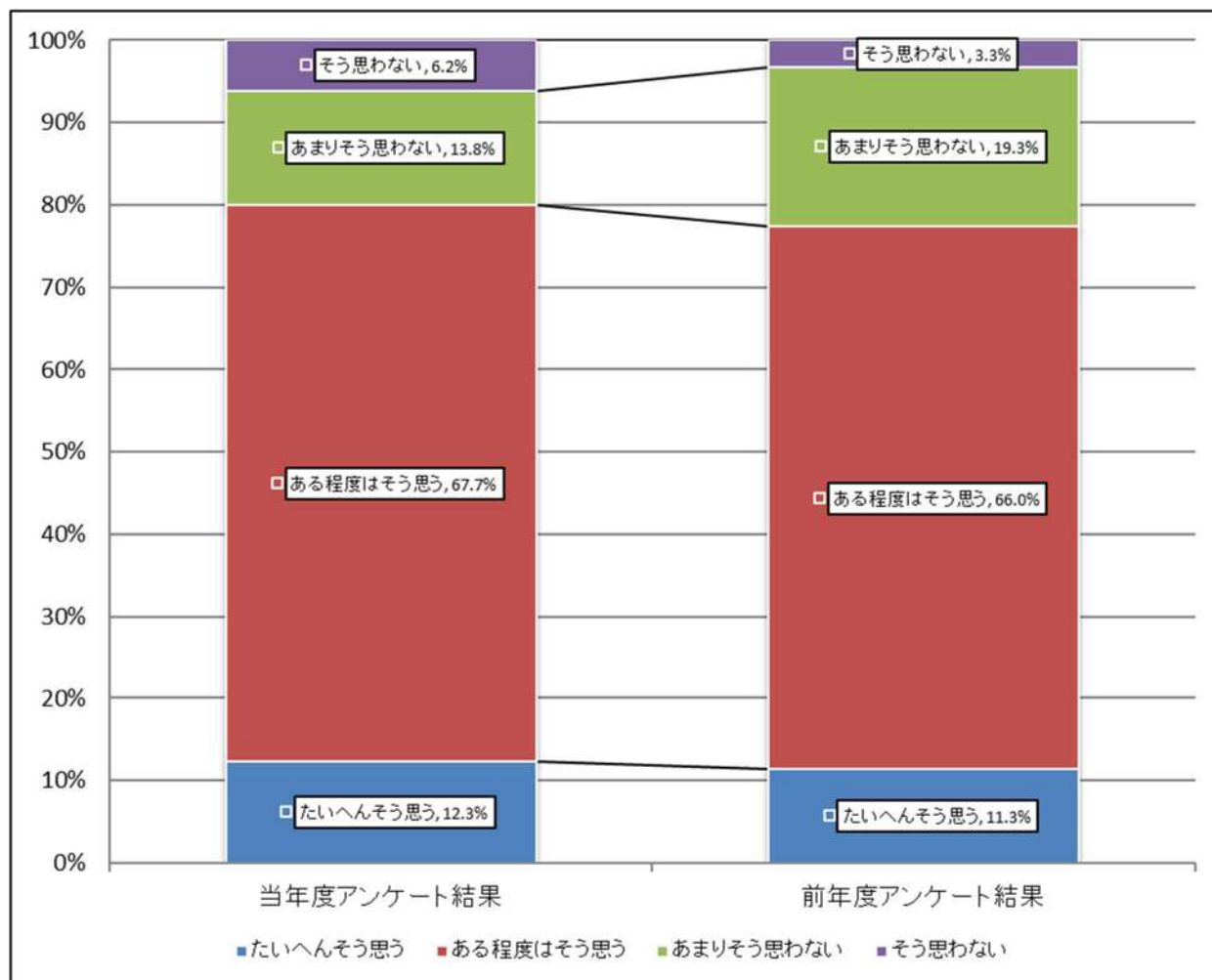
40 歳代において、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は男性が 76.5%であるのに対し、女性は 64.3%となっています。世代によって、結果に差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、10 人以上が回答し、かつ、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、藤沢地区（60.0%）であり、最も多い地区は、幡羅地区（70.6%）となっています。

中学生以下（中学校 3 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。
 深谷市が子育てのしやすいまちだと思いますか。



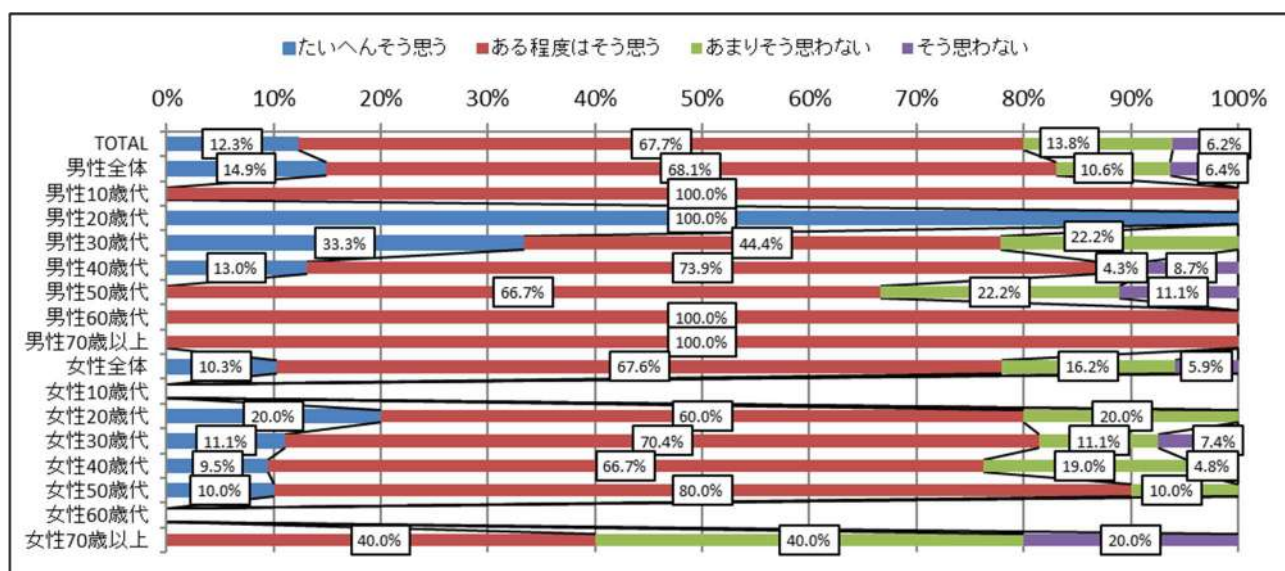
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 67.7%と最も多く、次いで、「あまりそう思わない」が 13.8%、「たいへんそう思う」が 12.3%、「そう思わない」と回答した人の割合は 6.2%となっています。

「たいへんそう思う」「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 80.0%であり、中学生以下（中学校 3 年生まで）のお子さんを持つ保護者のうち 8 割が子育てのしやすいまちだと回答しています。

また、前年度アンケートの結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 77.3%であり、前年度アンケートと比較して、増加となっています。

母集団		たいへん そう思う	ある程度は そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答	合計
TOTAL	130	12.3%	67.7%	13.8%	6.2%	0.0%	100.0%
男性全体	47	14.9%	68.1%	10.6%	6.4%	0.0%	100.0%
男性 10 歳代	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	9	33.3%	44.4%	22.2%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	23	13.0%	73.9%	4.3%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	9	0.0%	66.7%	22.2%	11.1%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	68	10.3%	67.6%	16.2%	5.9%	0.0%	100.0%
女性 10 歳代		—	—	—	—	—	—
女性 20 歳代	5	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	27	11.1%	70.4%	11.1%	7.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	21	9.5%	66.7%	19.0%	4.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	10	10.0%	80.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代		—	—	—	—	—	—
女性 70 歳以上	5	0.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	29	17.2%	58.6%	20.7%	3.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	12	16.7%	75.0%	0.0%	8.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	21	9.5%	81.0%	4.8%	4.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	6	0.0%	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	9	33.3%	55.6%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%
南地区	5	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	15	6.7%	73.3%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
川本地区	18	16.7%	50.0%	22.2%	11.1%	0.0%	100.0%
花園地区	7	0.0%	71.4%	14.3%	14.3%	0.0%	100.0%
無回答	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

➤ 性別・世代別

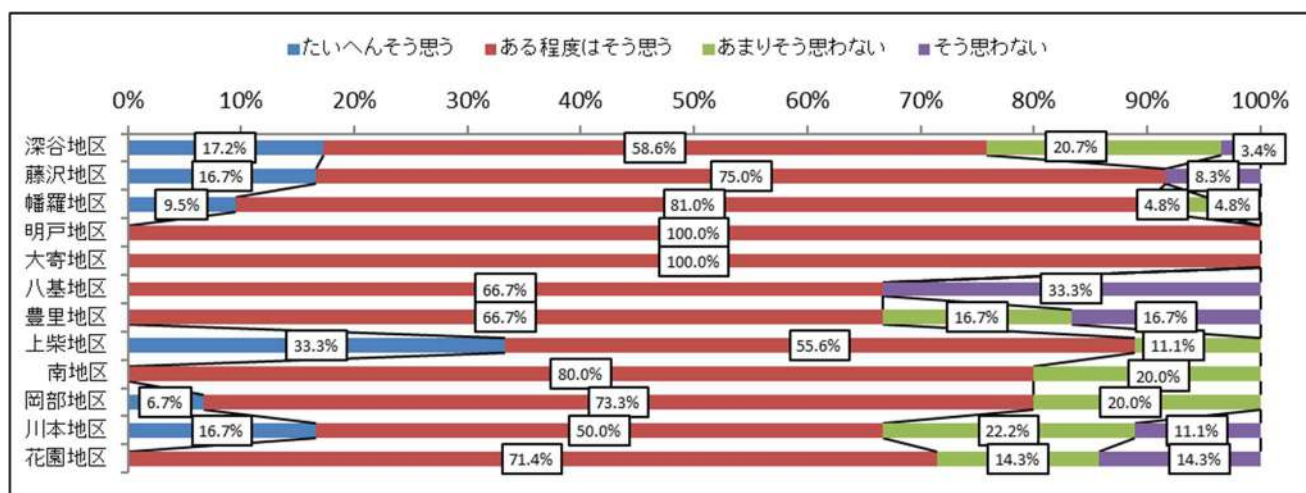


「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性は83.0%、女性は77.9%となっています。

30歳代において、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が77.7%であるのに対し、女性は81.5%となっています。

40歳代において、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が86.9%であるのに対し、女性は76.2%と男女によって意識に差がみられます。

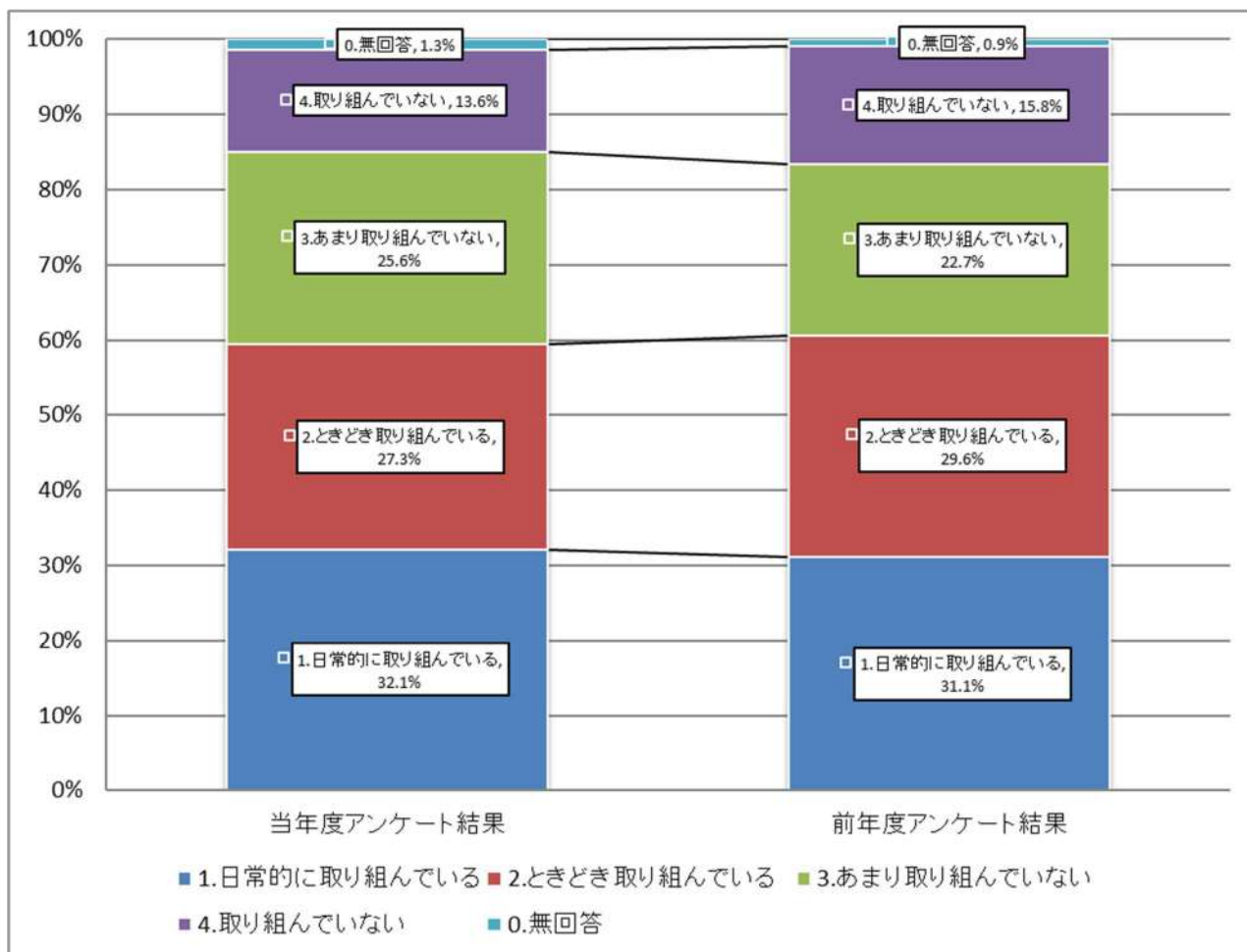
➤ 地区別



地区別にみると、10人以上が回答し、かつ、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、川本地区（66.7%）であり、最も多い地区は、藤沢地区（91.7%）となっています。

③ 保健について（2. 問4～7）

普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。



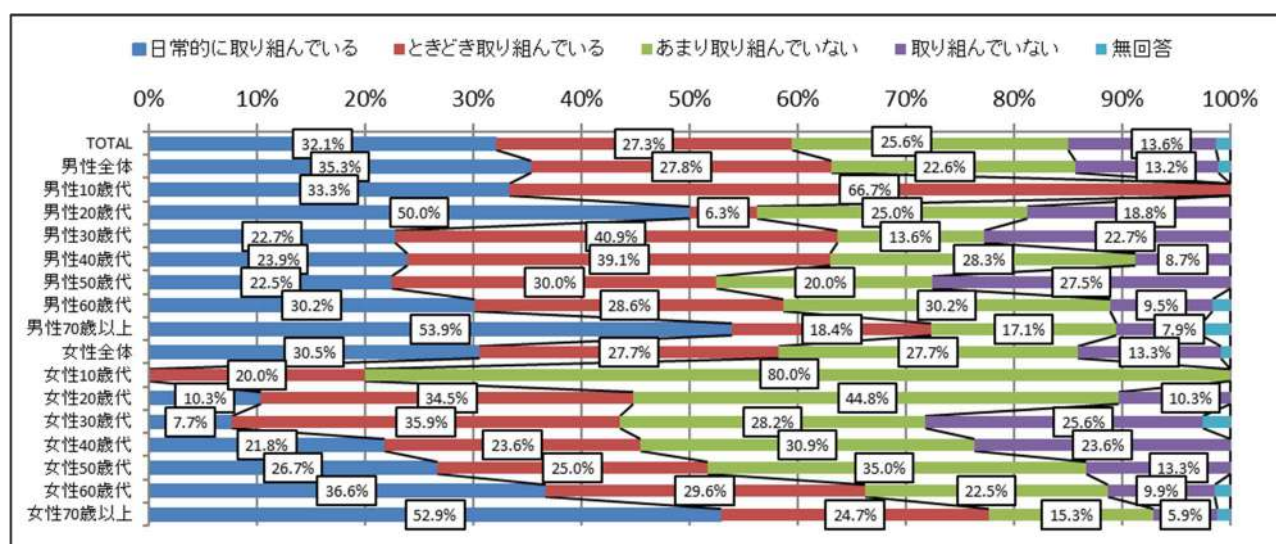
「日常的に取り組んでいる」と回答した人の割合が 32.1%と最も多く、次いで、「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は 27.3%、「あまり取り組んでいない」と回答した人の割合は 25.6%、「取り組んでいない」と回答した人の割合は 13.6%となっています。

「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は、59.4%であり、6割近くの市民が普段の生活で健康づくりに取り組んでいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果をみると「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は 60.7%であり、普段の生活で健康づくりに取り組んでいる人の割合は、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少していることがうかがえます。

母集団		日常的に取り組んでいる	ときどき取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	無回答	合計
TOTAL	675	32.1%	27.3%	25.6%	13.6%	1.3%	100.0%
男性全体	266	35.3%	27.8%	22.6%	13.2%	1.1%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	50.0%	6.3%	25.0%	18.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	22.7%	40.9%	13.6%	22.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	23.9%	39.1%	28.3%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	22.5%	30.0%	20.0%	27.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	30.2%	28.6%	30.2%	9.5%	1.6%	100.0%
男性 70 歳以上	76	53.9%	18.4%	17.1%	7.9%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	30.5%	27.7%	27.7%	13.3%	0.9%	100.0%
女性 10 歳代	5	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	10.3%	34.5%	44.8%	10.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	7.7%	35.9%	28.2%	25.6%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	21.8%	23.6%	30.9%	23.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	26.7%	25.0%	35.0%	13.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	36.6%	29.6%	22.5%	9.9%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	52.9%	24.7%	15.3%	5.9%	1.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	36.1%	25.9%	25.2%	11.6%	1.4%	100.0%
藤沢地区	61	34.4%	29.5%	26.2%	9.8%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	31.1%	29.7%	25.7%	13.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	40.0%	20.0%	20.0%	13.3%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	27.3%	36.4%	36.4%	0.0%	100.0%
八基地区	21	33.3%	38.1%	19.0%	9.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	16.7%	33.3%	37.5%	12.5%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	38.4%	24.7%	20.5%	15.1%	1.4%	100.0%
南地区	41	34.1%	14.6%	34.1%	14.6%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	31.7%	29.3%	23.2%	15.9%	0.0%	100.0%
川本地区	66	30.3%	28.8%	27.3%	10.6%	3.0%	100.0%
花園地区	45	26.7%	28.9%	26.7%	15.6%	2.2%	100.0%
無回答	15	20.0%	26.7%	20.0%	26.7%	6.7%	100.0%

➤ 性別・世代別

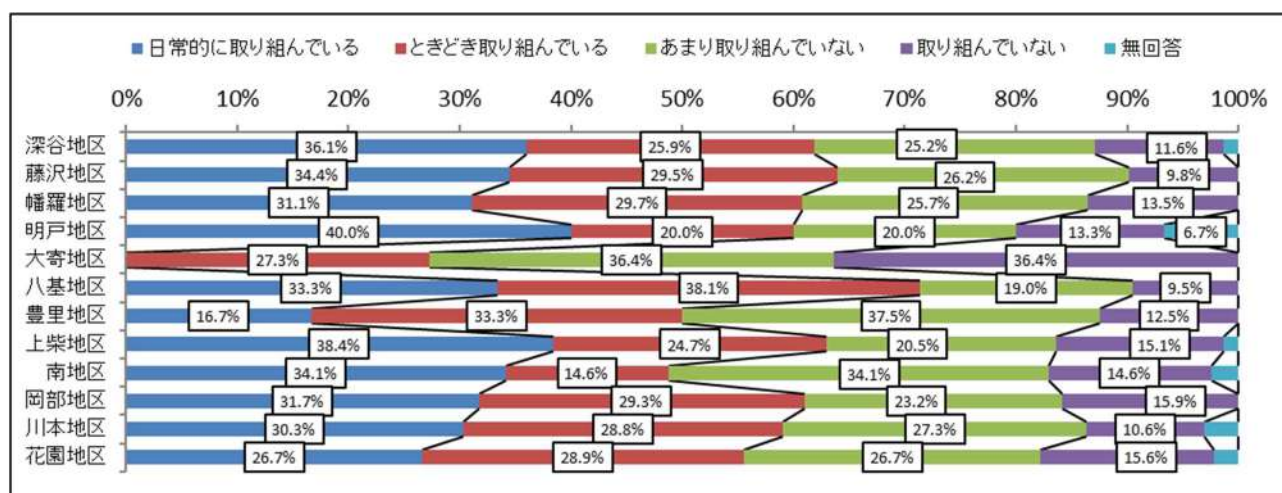


性別・世代別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は男性が63.1%であるのに対して、女性は58.2%となっています。

また、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が少ない世代は、男性50歳代52.5%であるのに対し、女性10歳代20.0%であることがわかります。一方で、最も多い世代は男性10歳代（男性100.0%）、女性70歳以上（女性77.6%）となっています。

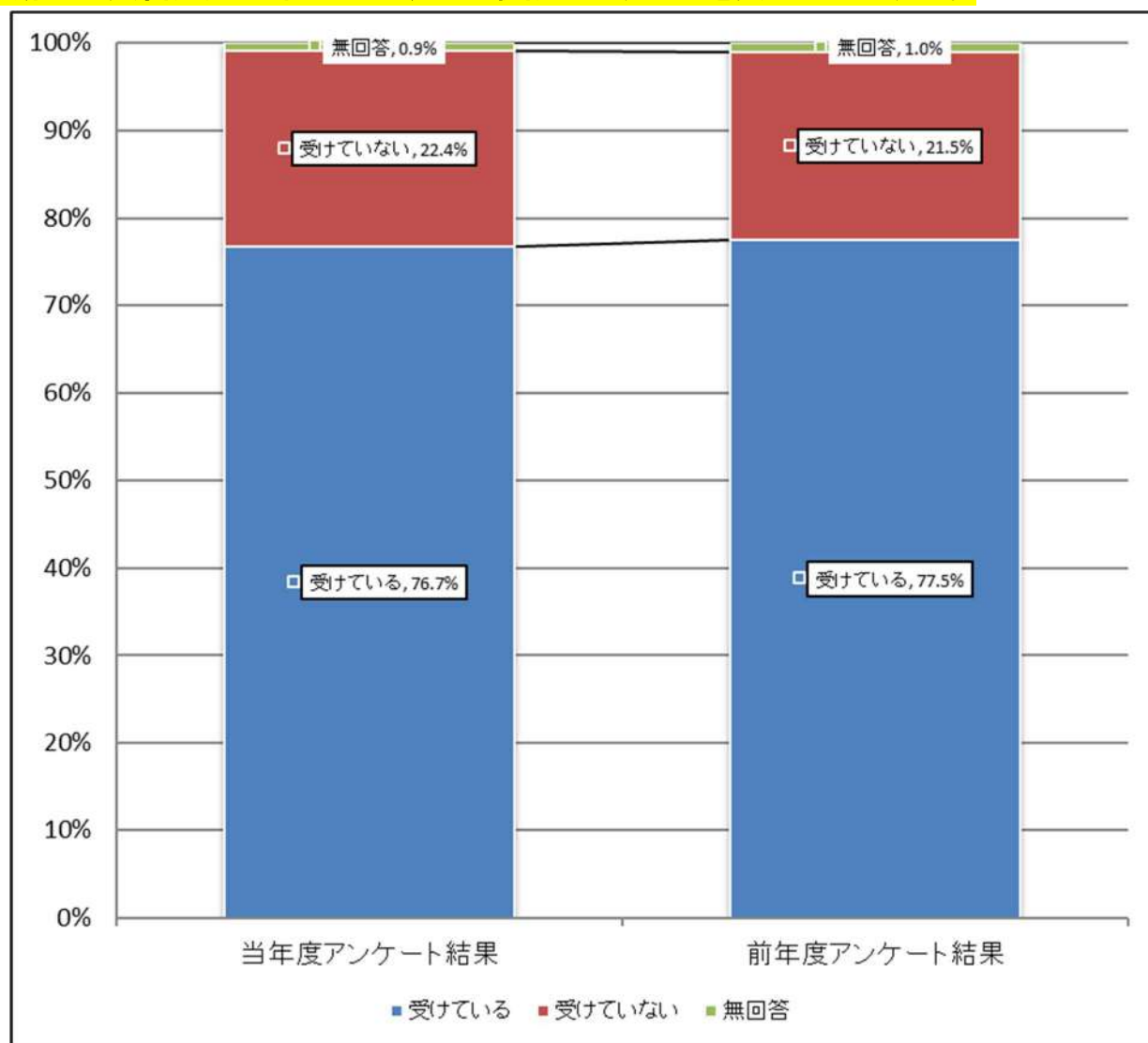
最も少ない世代の回答と最も多い世代の回答では、男女共に世代間での差が大きいことがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、大寄地区（27.3%）であり、次いで南地区（48.8%）となっています。最も多い地区は、八基地区（71.4%）であり、次いで藤沢地区（63.9%）となっています。

定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていますか。



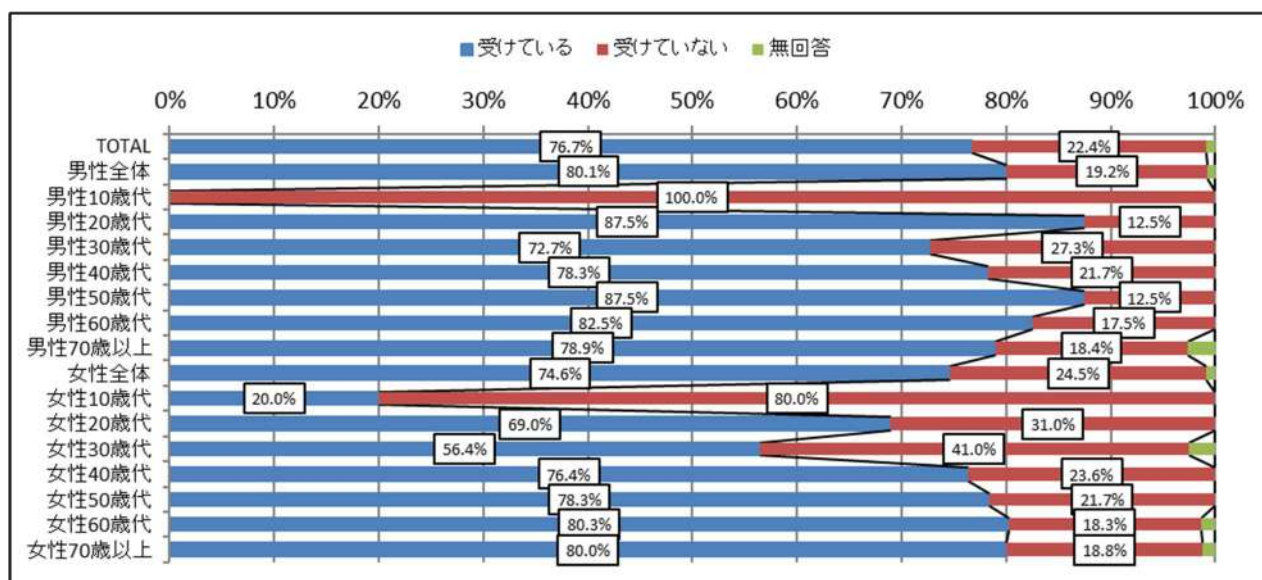
「受けている」と回答した人の割合は 76.7%、「受けていない」と回答した人の割合は 22.4%となっています。

市民の 8 割近くが、定期的に健康診断や人間ドック、がん検診を受けていることがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「受けている」と回答した人の割合は 77.5%であり、前年度アンケートと比較して、微減しております。

母集団		受けている	受けていない	無回答	合計
TOTAL	675	76.7%	22.4%	0.9%	100.0%
男性全体	266	80.1%	19.2%	0.8%	100.0%
男性 10 歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	87.5%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	72.7%	27.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	78.3%	21.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	87.5%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	82.5%	17.5%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	78.9%	18.4%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	347	74.6%	24.5%	0.9%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	69.0%	31.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	56.4%	41.0%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	76.4%	23.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	78.3%	21.7%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	80.3%	18.3%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	80.0%	18.8%	1.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	74.1%	25.2%	0.7%	100.0%
藤沢地区	61	82.0%	18.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	75.7%	24.3%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	73.3%	20.0%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	54.5%	45.5%	0.0%	100.0%
八基地区	21	81.0%	19.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	87.5%	12.5%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	69.9%	28.8%	1.4%	100.0%
南地区	41	80.5%	19.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	82	80.5%	19.5%	0.0%	100.0%
川本地区	66	78.8%	19.7%	1.5%	100.0%
花園地区	45	80.0%	15.6%	4.4%	100.0%
無回答	15	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%

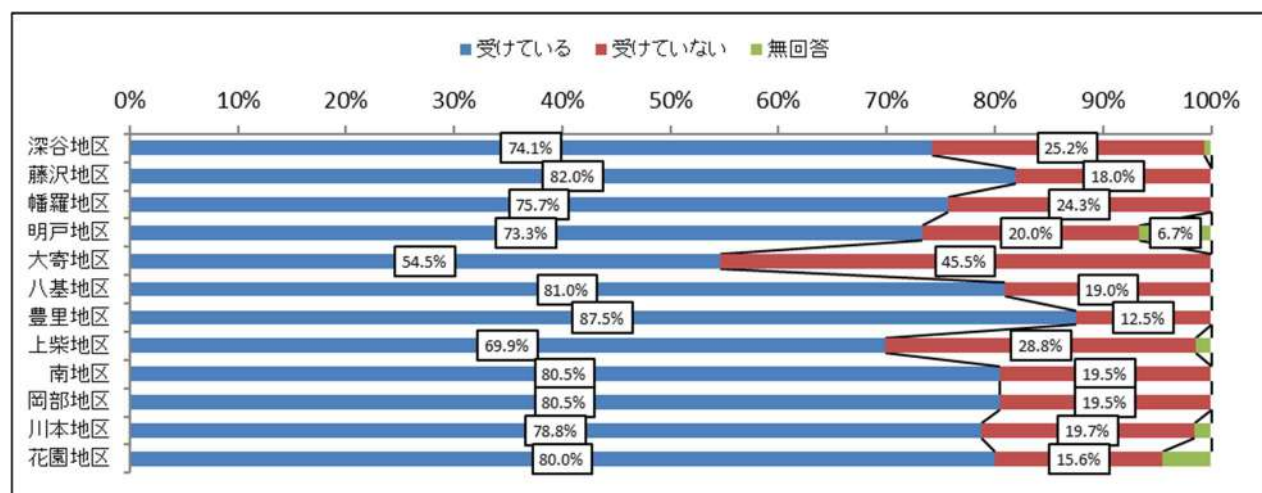
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「受けている」と回答した人の割合は男性が 80.1%、女性は 74.6%と 8 割近くの人々が定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていることがうかがえます。

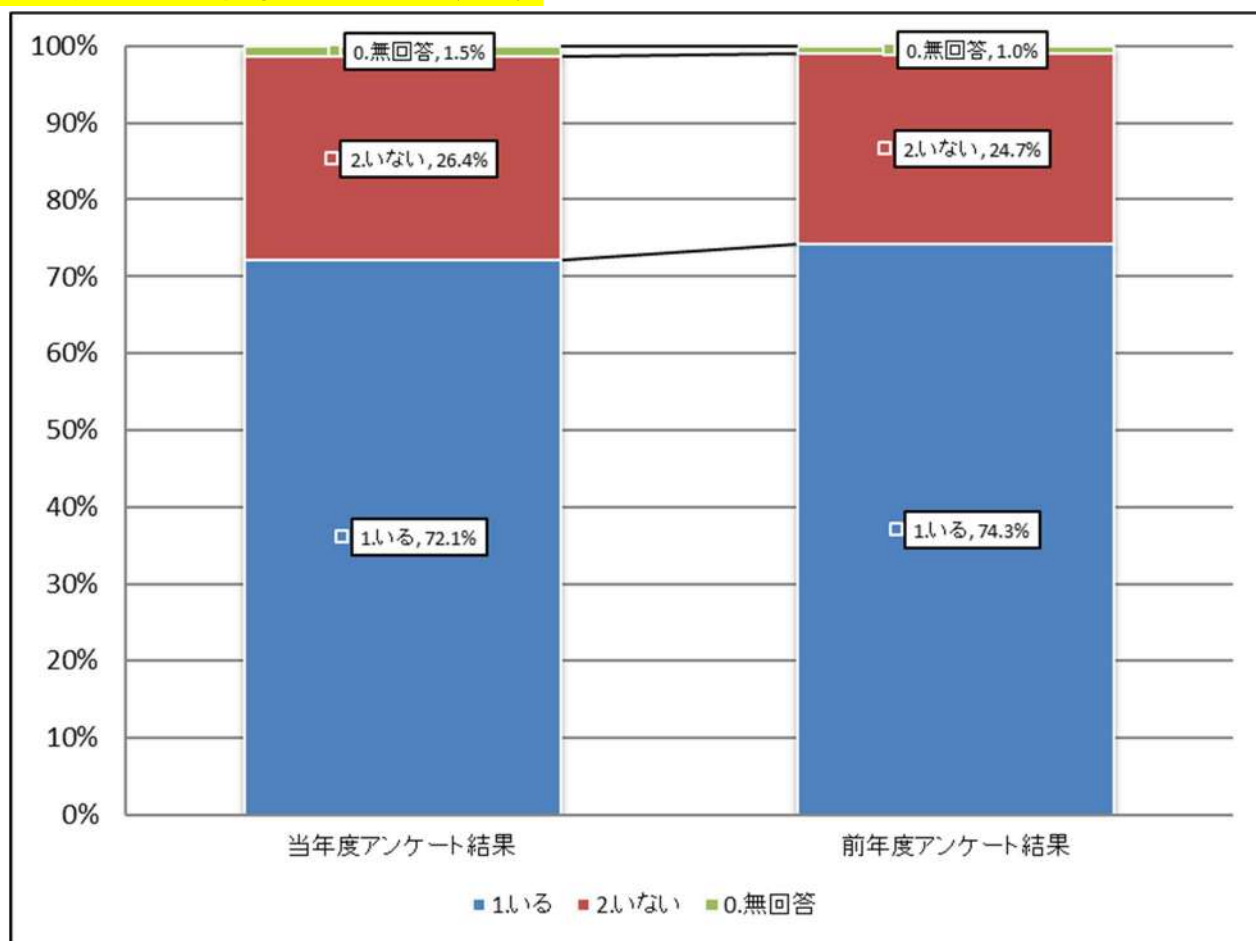
「受けている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は 10 歳代 (0.0%)、女性は 10 歳代 (20.0%) となっています。一方で、最も多い世代は、男性は 20 歳代・50 歳代 (87.5%) 女性は 60 歳代 (80.3%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「受けている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、大寄地区 (54.5%) であり、次いで上柴地区 (69.9%) となっています。最も多い地区は、豊里地区 (87.5%) であり、次いで藤沢地区 (82.0%) となっています。

かかりつけのお医者さんはいますか。

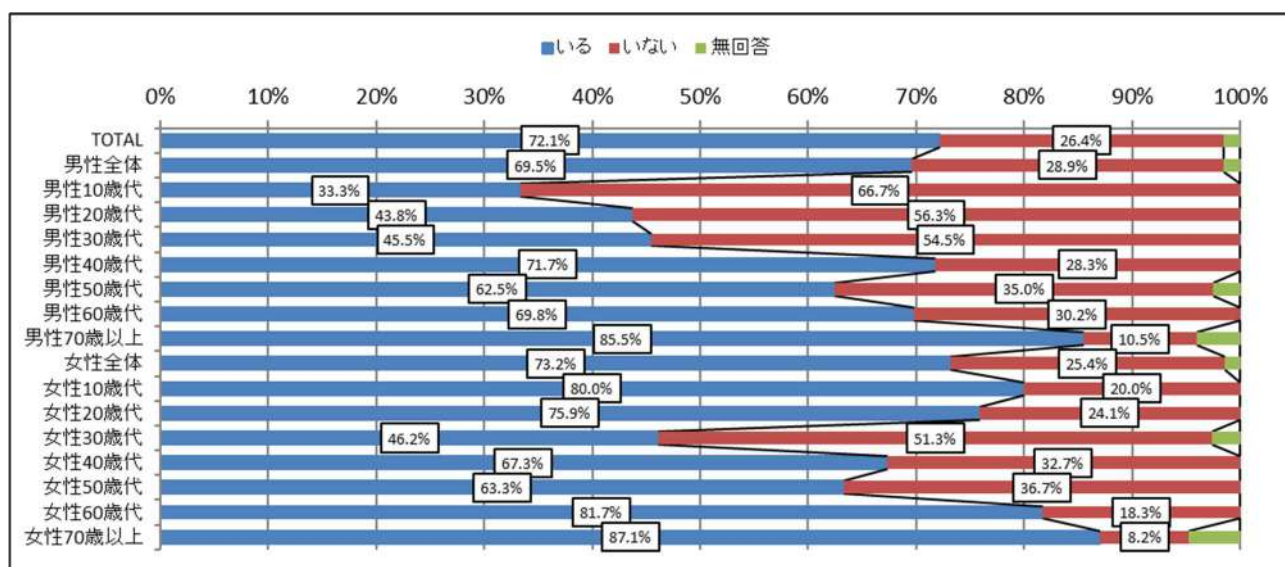


「いる」と回答した人の割合は72.1%、「いない」と回答した人の割合は26.4%であり、大多数の市民にかかりつけ医がいる一方、約4人に1人以上はかかりつけ医がいないという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合が74.3%、「いない」と回答した人の割合が24.7%であり、「前年度アンケート」と比較して、かかりつけ医がいると回答した人の割合が微減していることがうかがえます。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	675	72.1%	26.4%	1.5%	100.0%
男性全体	266	69.5%	28.9%	1.5%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	43.8%	56.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	45.5%	54.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	71.7%	28.3%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	62.5%	35.0%	2.5%	100.0%
男性 60 歳代	63	69.8%	30.2%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	85.5%	10.5%	3.9%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	347	73.2%	25.4%	1.4%	100.0%
女性 10 歳代	5	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	75.9%	24.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	46.2%	51.3%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	67.3%	32.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	63.3%	36.7%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	81.7%	18.3%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	87.1%	8.2%	4.7%	100.0%
女性年齢不詳	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	71.4%	27.2%	1.4%	100.0%
藤沢地区	61	73.8%	24.6%	1.6%	100.0%
幡羅地区	74	64.9%	35.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	86.7%	6.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	72.7%	27.3%	0.0%	100.0%
八基地区	21	85.7%	14.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	63.0%	32.9%	4.1%	100.0%
南地区	41	63.4%	36.6%	0.0%	100.0%
岡部地区	82	76.8%	23.2%	0.0%	100.0%
川本地区	66	81.8%	16.7%	1.5%	100.0%
花園地区	45	64.4%	31.1%	4.4%	100.0%
無回答	15	93.3%	6.7%	0.0%	100.0%

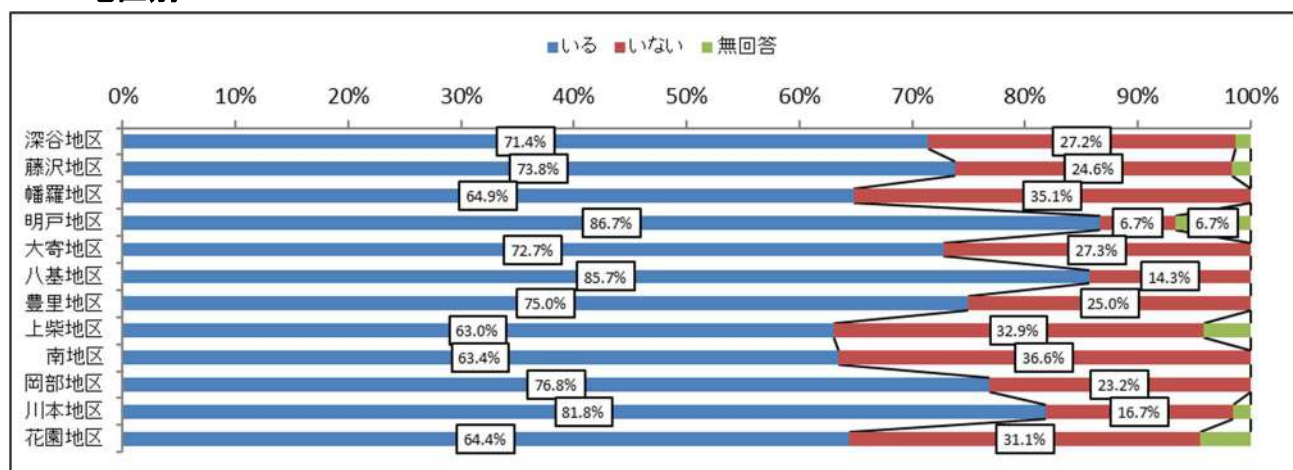
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は男性が 69.5%であるのに対して、女性は 73.2%でした。

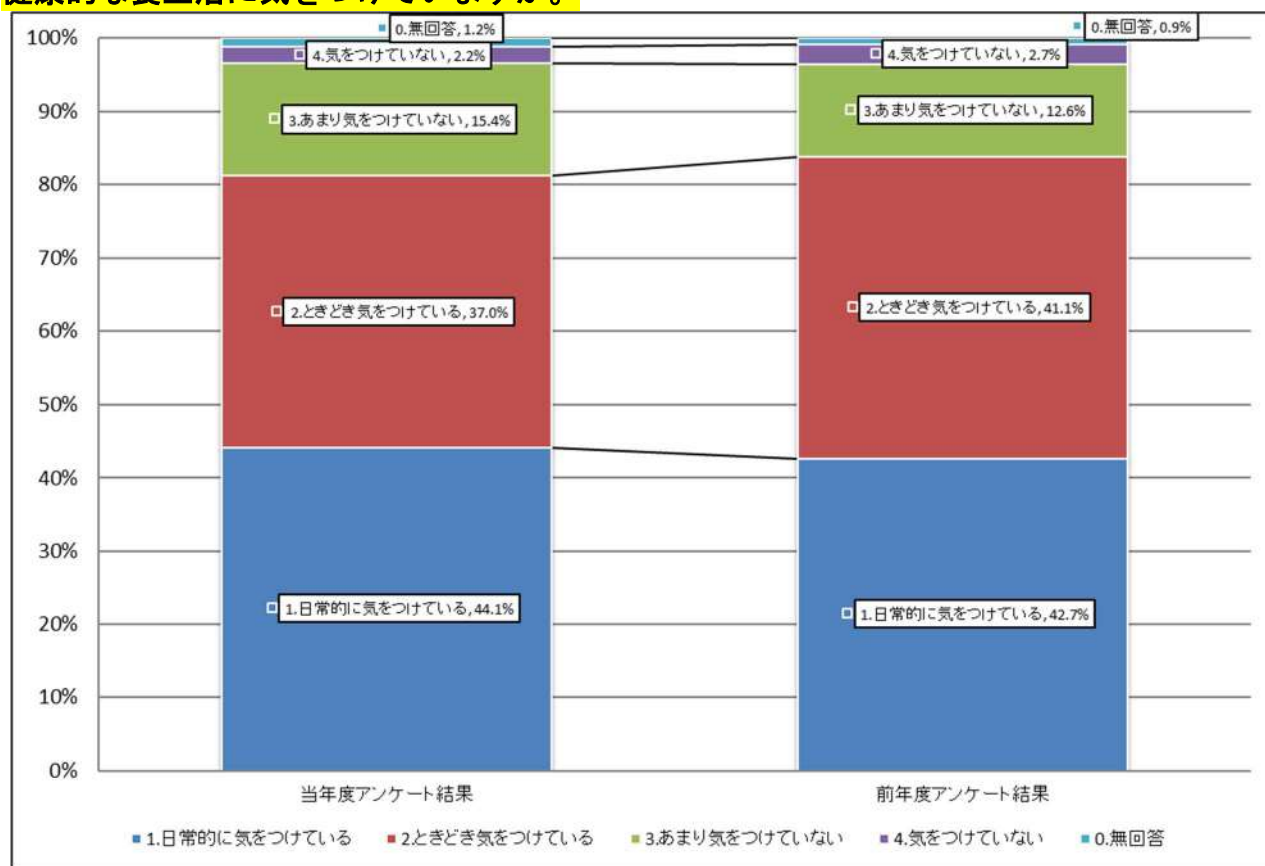
また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (33.3%)、次いで男性 20 歳代 (43.8%) となっています。一方で、最も多い世代は、男女ともに 70 歳以上 (男性 85.5%、女性 87.1%)、次いで女性 60 歳代 (81.7%) であり、60 歳以上の 8 割以上の人にかかりつけ医がいることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、上柴地区 (63.0%) であり、次いで南地区 (63.4%) となっています。最も多い地区は、明戸地区 (86.7 %) であり、次いで八基地区 (85.7%) となっています。

健康的な食生活に気をつけていますか。



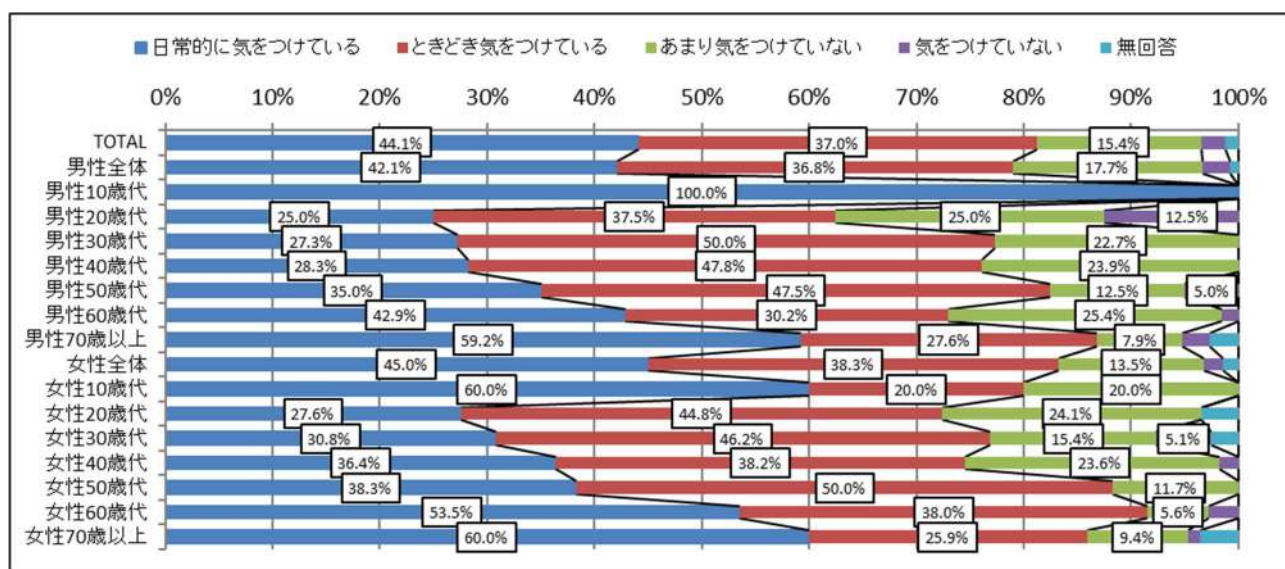
「日常的に気をつけている」と回答した人の割合が 44.1%と最も多く、次いで、「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は 37.0%、「あまり気をつけていない」と回答した人の割合は 15.4%、「気をつけていない」と回答した人の割合は 2.2%となっています。

「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は、81.1%であり、8 割以上の市民が、健康的な食生活に気をつけていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果では、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は 83.8%であることから、健康的な食生活に気をつけている人の割合は、前年度アンケート時から微減していることがうかがえます。

母集団		日常的に 気をつけている	ときどき 気をつけている	あまり 気をつけていない	気をつけていない	無回答	合計
TOTAL	675	44.1%	37.0%	15.4%	2.2%	1.2%	100.0%
男性全体	266	42.1%	36.8%	17.7%	2.6%	0.8%	100.0%
男性 10 歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	25.0%	37.5%	25.0%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	27.3%	50.0%	22.7%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	28.3%	47.8%	23.9%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	35.0%	47.5%	12.5%	5.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	42.9%	30.2%	25.4%	1.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	59.2%	27.6%	7.9%	2.6%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	45.0%	38.3%	13.5%	1.7%	1.4%	100.0%
女性 10 歳代	5	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	27.6%	44.8%	24.1%	0.0%	3.4%	100.0%
女性 30 歳代	39	30.8%	46.2%	15.4%	5.1%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	36.4%	38.2%	23.6%	1.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	38.3%	50.0%	11.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	53.5%	38.0%	5.6%	2.8%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	60.0%	25.9%	9.4%	1.2%	3.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	42.2%	41.5%	12.9%	2.7%	0.7%	100.0%
藤沢地区	61	45.9%	34.4%	16.4%	3.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	55.4%	29.7%	12.2%	2.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	26.7%	60.0%	6.7%	0.0%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	18.2%	45.5%	36.4%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	21	61.9%	19.0%	19.0%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	37.5%	37.5%	16.7%	4.2%	4.2%	100.0%
上柴地区	73	49.3%	28.8%	17.8%	1.4%	2.7%	100.0%
南地区	41	31.7%	36.6%	24.4%	4.9%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	45.1%	42.7%	12.2%	0.0%	0.0%	100.0%
川本地区	66	48.5%	34.8%	12.1%	3.0%	1.5%	100.0%
花園地区	45	33.3%	42.2%	20.0%	2.2%	2.2%	100.0%
無回答	15	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%

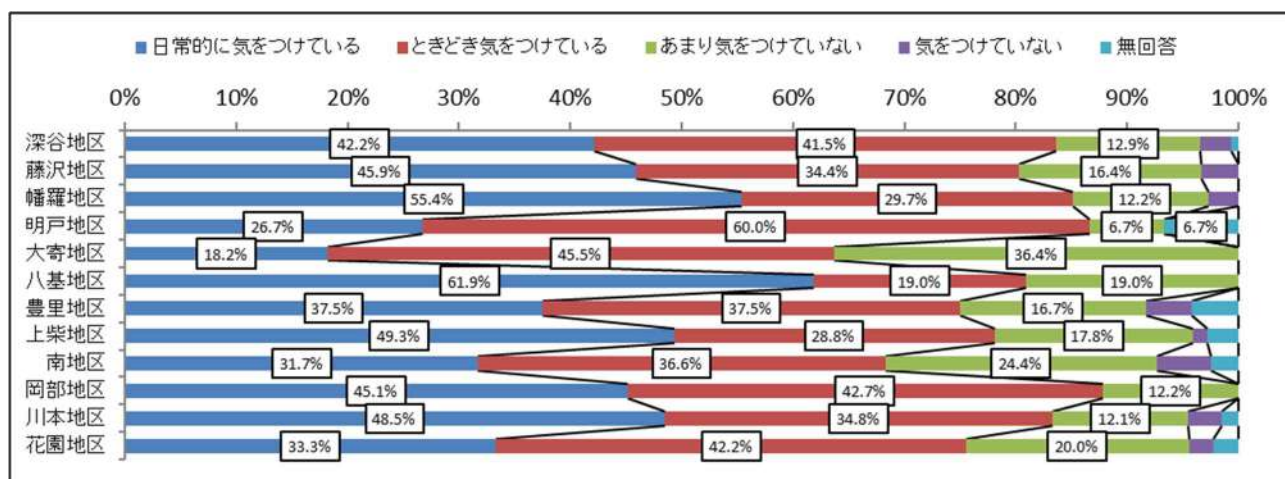
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は男性が 78.9%であるのに対して、女性は 83.3%と 4.4 ポイントもの差がみられます。

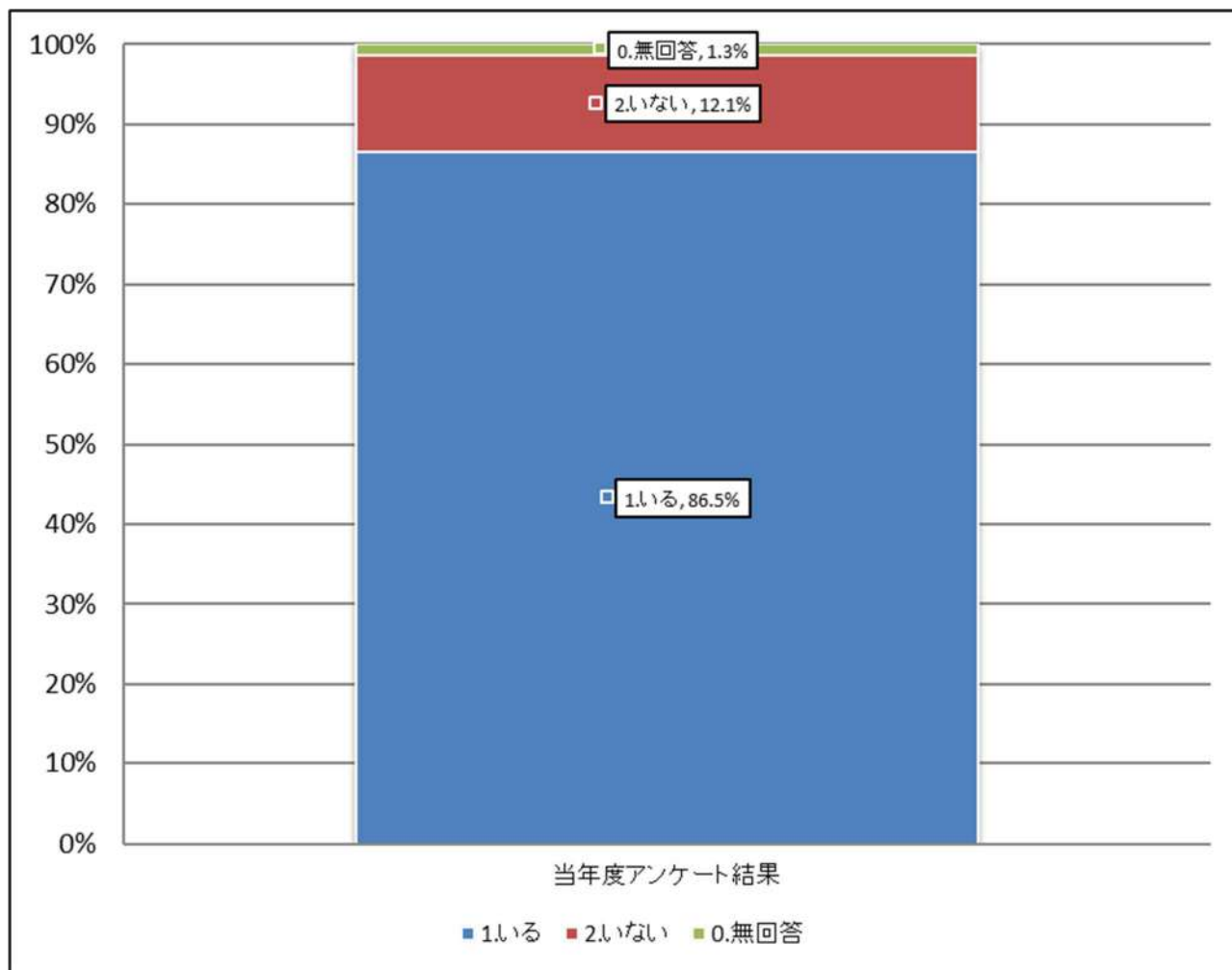
また、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合が最も少ない世代は男性 20 歳代 62.5%、女性 20 歳代 72.4%であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 100.0%、女性 60 歳代 91.5%となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、大寄地区（63.7%）であり、次いで南地区（68.3%）となっています。最も多い地区は、岡部地区（87.8%）であり、次いで明戸地区（86.7%）となっています。

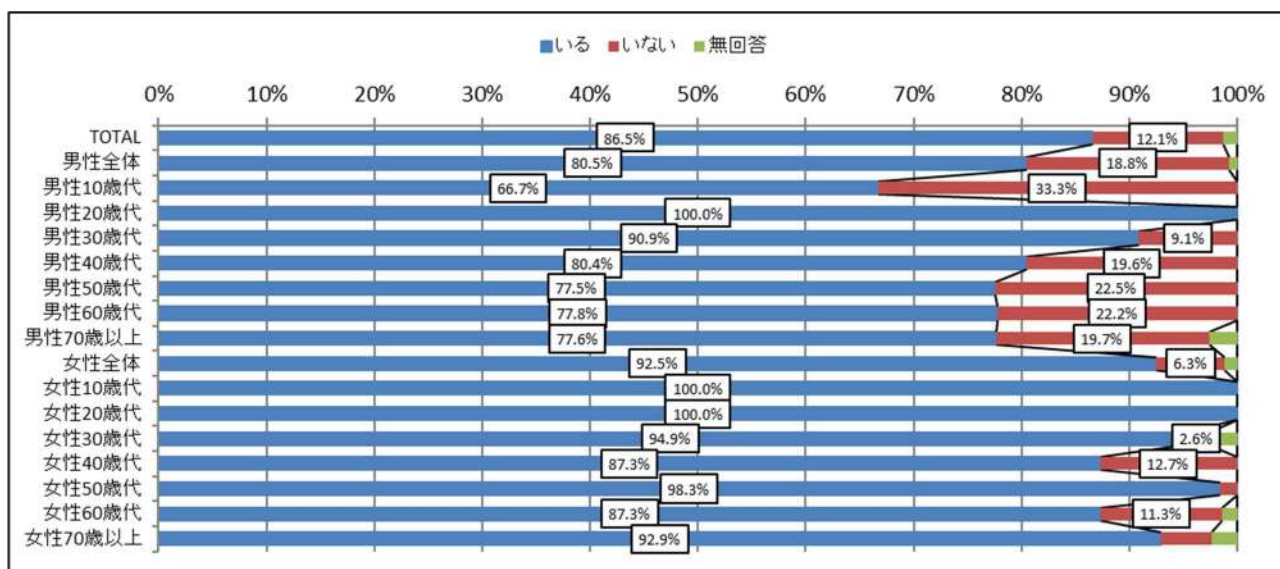
悩みごとを相談できる人（家族や友人など）はいますか。



「いる」と回答した人の割合は 86. 5%、「いない」と回答した人の割合は 12. 1%となっており、悩みごとがあった時に手助けしてくれる人がいると回答した人が 8 割以上いることがうかがえます。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	675	86.5%	12.1%	1.3%	100.0%
男性全体	266	80.5%	18.8%	0.8%	100.0%
男性 10 歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	90.9%	9.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	80.4%	19.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	77.5%	22.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	77.6%	19.7%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	347	92.5%	6.3%	1.2%	100.0%
女性 10 歳代	5	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	94.9%	2.6%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	87.3%	12.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	98.3%	1.7%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	87.3%	11.3%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	92.9%	4.7%	2.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	90.5%	8.8%	0.7%	100.0%
藤沢地区	61	91.8%	8.2%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	89.2%	10.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	66.7%	26.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	72.7%	27.3%	0.0%	100.0%
八基地区	21	85.7%	14.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	83.3%	16.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	83.6%	13.7%	2.7%	100.0%
南地区	41	82.9%	17.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	82	89.0%	11.0%	0.0%	100.0%
川本地区	66	86.4%	10.6%	3.0%	100.0%
花園地区	45	77.8%	17.8%	4.4%	100.0%
無回答	15	86.7%	6.7%	6.7%	100.0%

➤ 性別・世代別

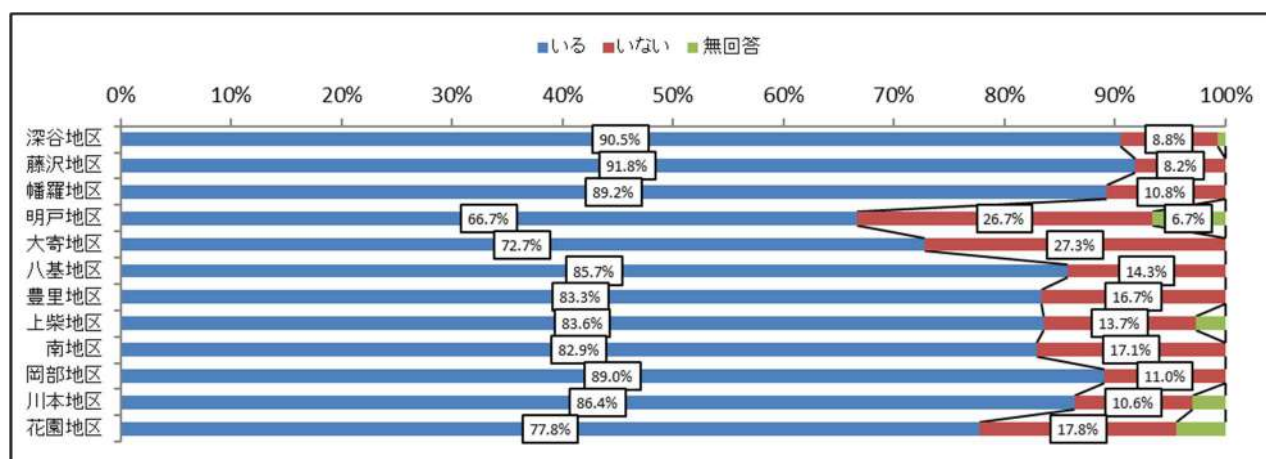


性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は男性が 86.5%であるのに対して、女性は 92.5%となっています。

また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (66.7%)、女性 40 歳代、60 歳代 (87.3%) となりました。一方で、最も割合の多い世代は、男性 20 歳代 (100.0%)、女性 10 歳代、20 歳代 (100.0%) となっています。

男女ともに若い世代から、手助けしてくれる人がいると回答する割合が高い傾向にあることがわかります。

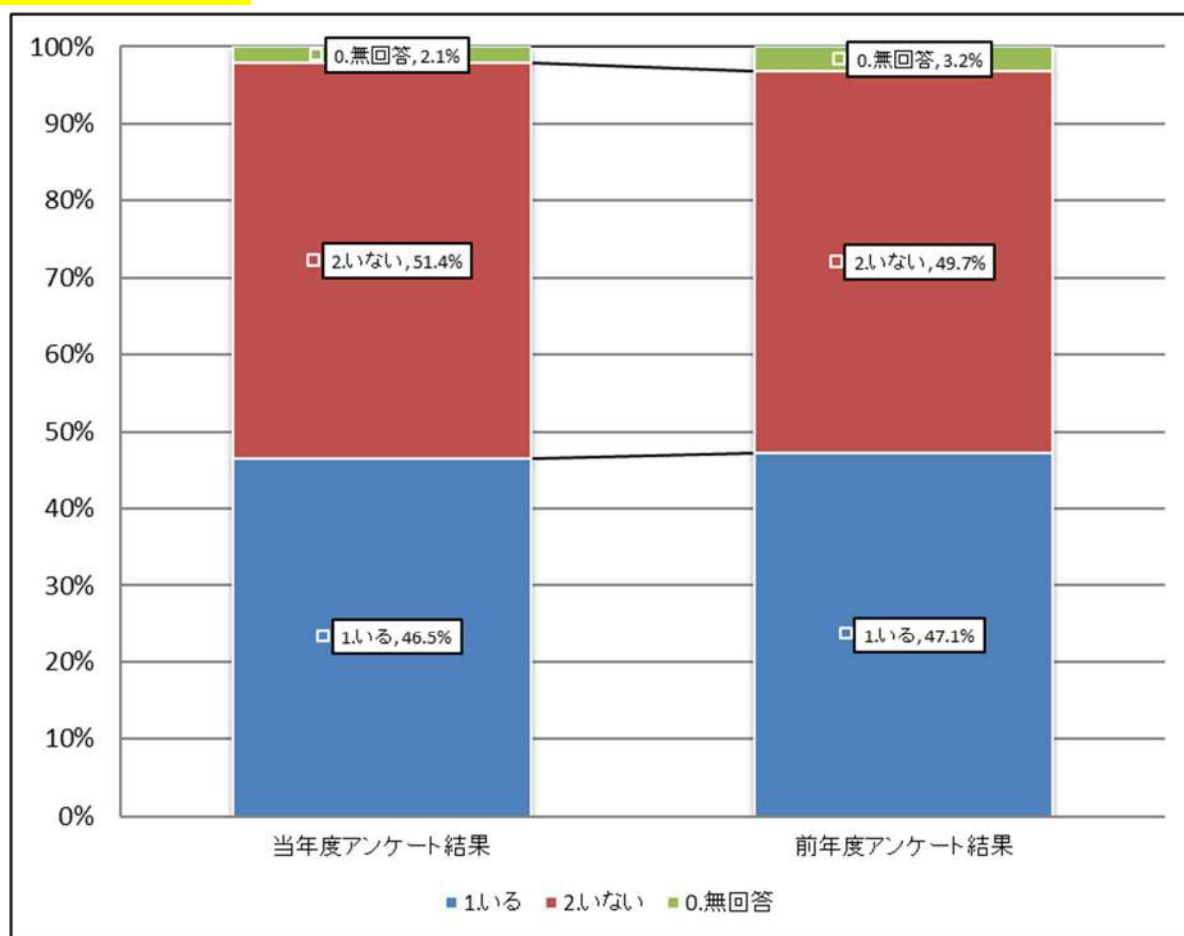
➤ 地区別



地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、明戸地区 (66.7%) であり、次いで大寄地区 (72.7%) となっています。最も多い地区は、藤沢地区 (91.8%) であり、次いで深谷地区 (90.5%) となっています。

④ 福祉について（2. 問9）

日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。

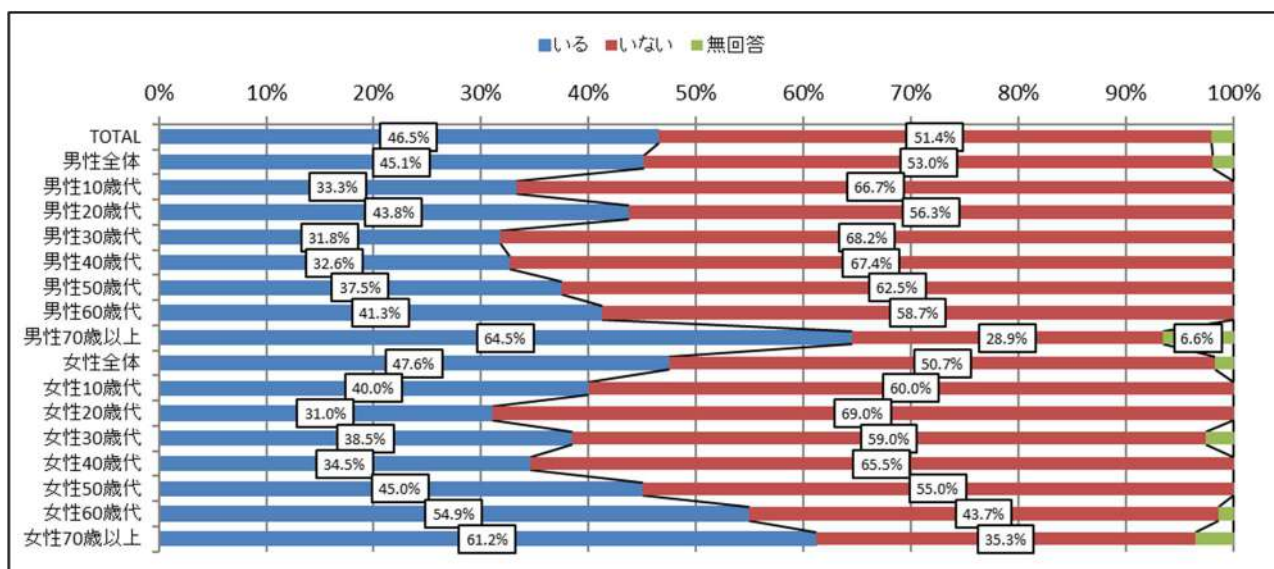


「いる」と回答した人の割合は46.5%、「いない」と回答した人の割合は51.4%となっており、日常生活に困ったことがあった時に、手助けしてくれる人がいないと回答した人が5割近くいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果では、「いる」と回答した人の割合は47.1%、「いない」と回答した人の割合が49.7%でした。手助けしてくれる人がいると回答した人は「前年度アンケート」と比較して、微減していることがうかがえます。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	675	46.5%	51.4%	2.1%	100.0%
男性全体	266	45.1%	53.0%	1.9%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	43.8%	56.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	31.8%	68.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	32.6%	67.4%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	37.5%	62.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	41.3%	58.7%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	64.5%	28.9%	6.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	347	47.6%	50.7%	1.7%	100.0%
女性 10 歳代	5	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	31.0%	69.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	38.5%	59.0%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	34.5%	65.5%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	45.0%	55.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	54.9%	43.7%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	61.2%	35.3%	3.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	66.7%	0.0%	33.3%	100.0%
深谷地区	147	39.5%	59.9%	0.7%	100.0%
藤沢地区	61	47.5%	50.8%	1.6%	100.0%
幡羅地区	74	40.5%	59.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	46.7%	46.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	54.5%	45.5%	0.0%	100.0%
八基地区	21	71.4%	23.8%	4.8%	100.0%
豊里地区	24	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	46.6%	49.3%	4.1%	100.0%
南地区	41	43.9%	56.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	82	47.6%	51.2%	1.2%	100.0%
川本地区	66	48.5%	47.0%	4.5%	100.0%
花園地区	45	44.4%	53.3%	2.2%	100.0%
無回答	15	53.3%	33.3%	13.3%	100.0%

➤ 性別・世代別

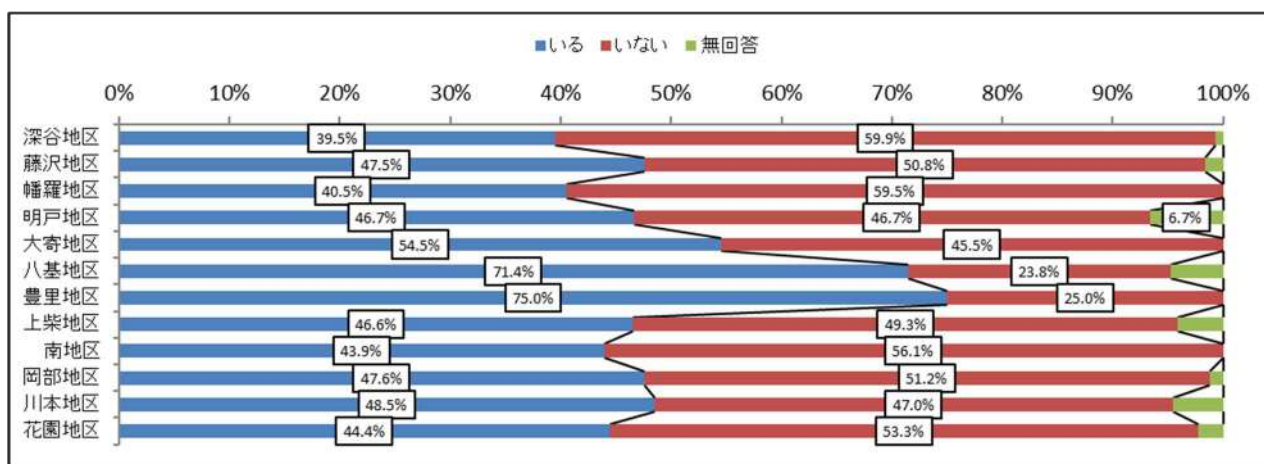


性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は男性が 45.1%であるのに対して、女性は 47.6%となっています。

また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 30 歳代 (31.8%)、女性 20 歳代 (31.0%) となりました。一方で、最も割合の多い世代は、男性 70 歳以上 (64.5%)、女性 70 歳以上 (61.2%) となっています。

男女ともに 70 歳代以上から、手助けしてくれる人がいると回答する割合が増加傾向にあることがわかります。

➤ 地区別

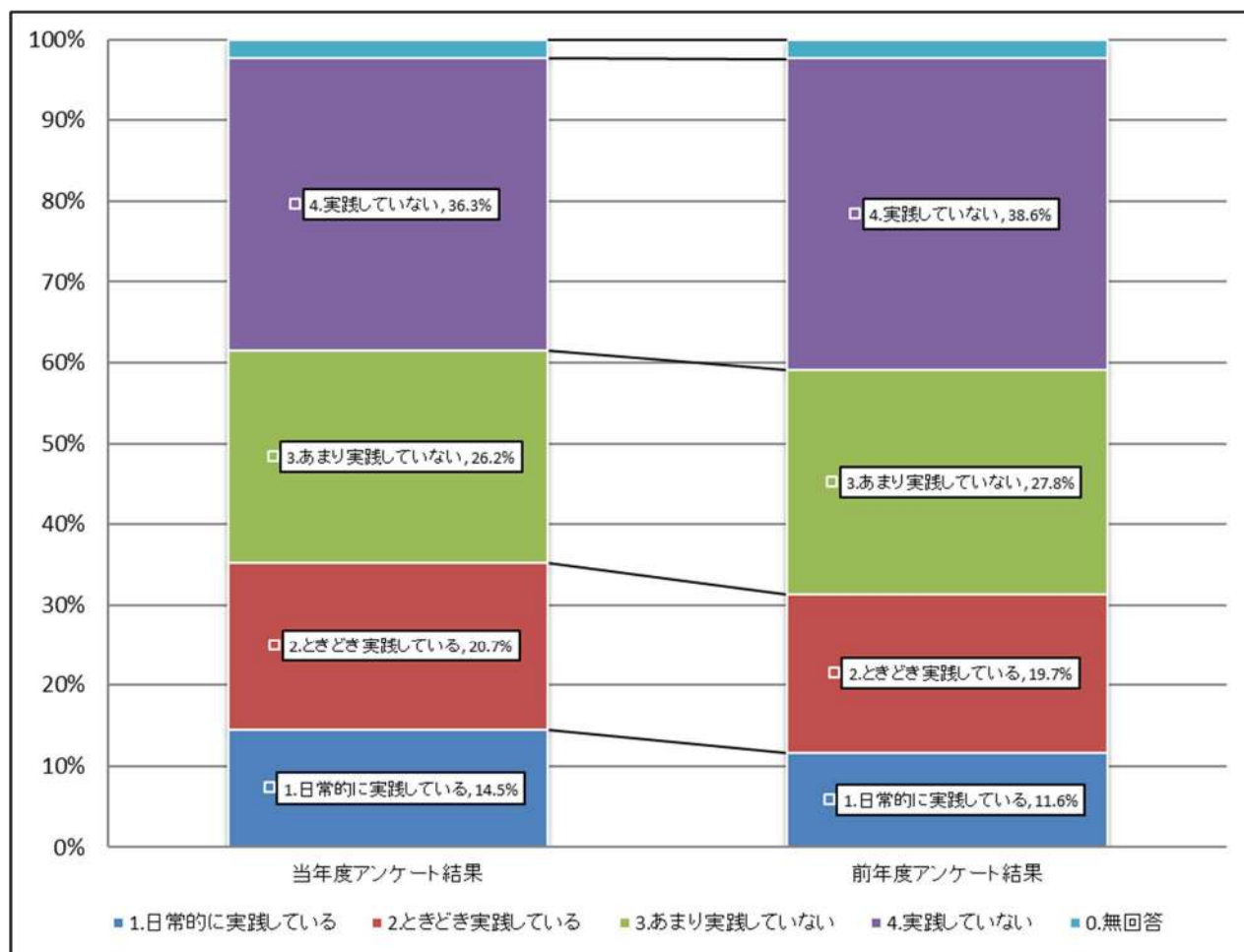


地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、深谷地区 (39.5%) であり、次いで幡羅地区 (40.5%) となっています。最も多い地区は、豊里地区 (75.0%) であり、次いで八基地区 (71.4%) となっています。

(3) 教育・文化について

① 生涯学習の振興（3. 問1）

生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。



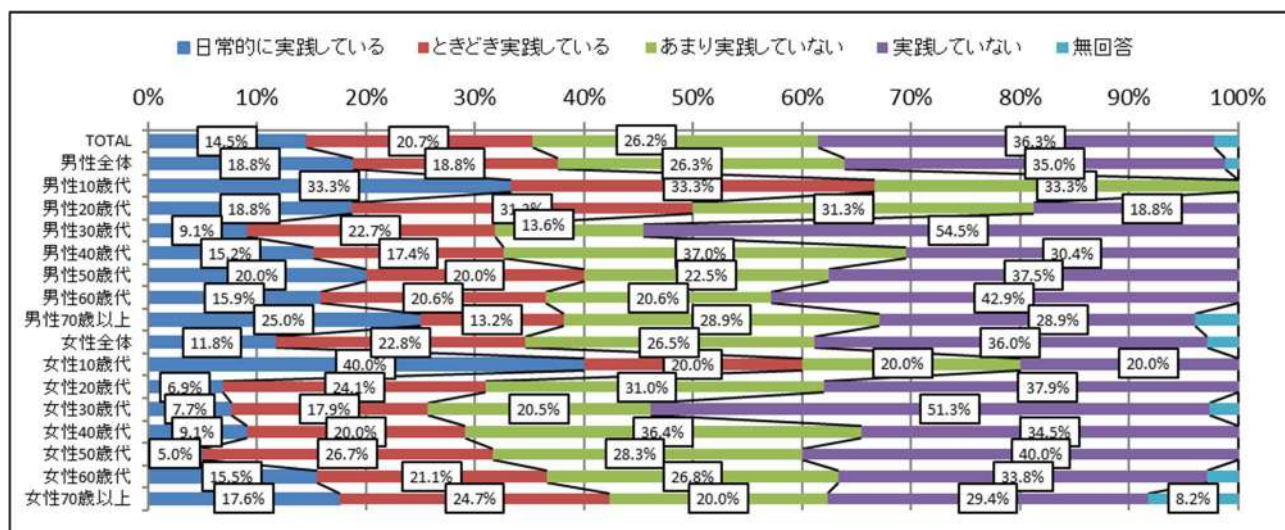
「実践していない」と回答した人の割合が 36.3%と最も多く、次いで「あまり実践していない」と回答した人の割合が 26.2%、「ときどき実践している」と回答した人の割合が 20.7%、「日常的に実践している」と回答した人の割合が最も少なく 14.5%となっています。

「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は、35.2%にとどまり、大多数の市民は生涯学習を実践していないということがうかがえます。

また、「前年度アンケート」では、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は 31.3%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		日常的に実践している	ときどき実践している	あまり実践していない	実践していない	無回答	合計
TOTAL	675	14.5%	20.7%	26.2%	36.3%	2.2%	100.0%
男性全体	266	18.8%	18.8%	26.3%	35.0%	1.1%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	18.8%	31.3%	31.3%	18.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	9.1%	22.7%	13.6%	54.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	15.2%	17.4%	37.0%	30.4%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	20.0%	20.0%	22.5%	37.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	15.9%	20.6%	20.6%	42.9%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	25.0%	13.2%	28.9%	28.9%	3.9%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	11.8%	22.8%	26.5%	36.0%	2.9%	100.0%
女性 10 歳代	5	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	6.9%	24.1%	31.0%	37.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	7.7%	17.9%	20.5%	51.3%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	9.1%	20.0%	36.4%	34.5%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	5.0%	26.7%	28.3%	40.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	15.5%	21.1%	26.8%	33.8%	2.8%	100.0%
女性 70 歳以上	85	17.6%	24.7%	20.0%	29.4%	8.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	12.9%	25.2%	25.2%	34.0%	2.7%	100.0%
藤沢地区	61	18.0%	19.7%	19.7%	41.0%	1.6%	100.0%
幡羅地区	74	21.6%	20.3%	25.7%	32.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	0.0%	20.0%	26.7%	46.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	18.2%	36.4%	45.5%	0.0%	100.0%
八基地区	21	19.0%	4.8%	33.3%	42.9%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	8.3%	8.3%	29.2%	50.0%	4.2%	100.0%
上柴地区	73	23.3%	20.5%	26.0%	27.4%	2.7%	100.0%
南地区	41	7.3%	26.8%	29.3%	34.1%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	13.4%	23.2%	28.0%	34.1%	1.2%	100.0%
川本地区	66	15.2%	16.7%	22.7%	42.4%	3.0%	100.0%
花園地区	45	6.7%	17.8%	31.1%	42.2%	2.2%	100.0%
無回答	15	13.3%	26.7%	26.7%	26.7%	6.7%	100.0%

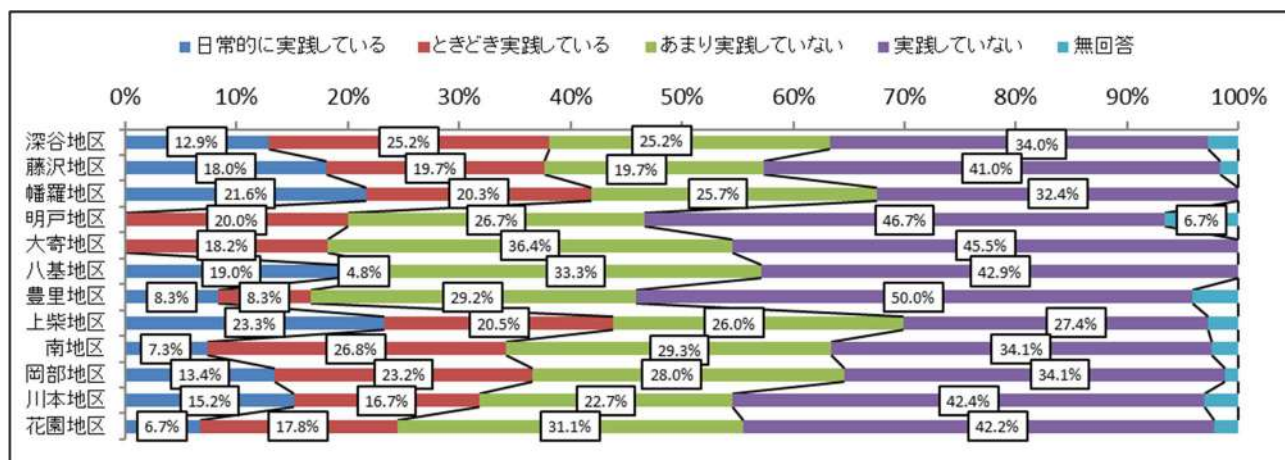
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は男性が37.6%であるのに対して、女性は34.6%となっています。

また、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性30歳代（31.8%）、女性30歳代（25.6%）であり、一方で最も割合の多い世代は、男性10歳代（66.6%）、女性10歳代（60.0%）となっています。

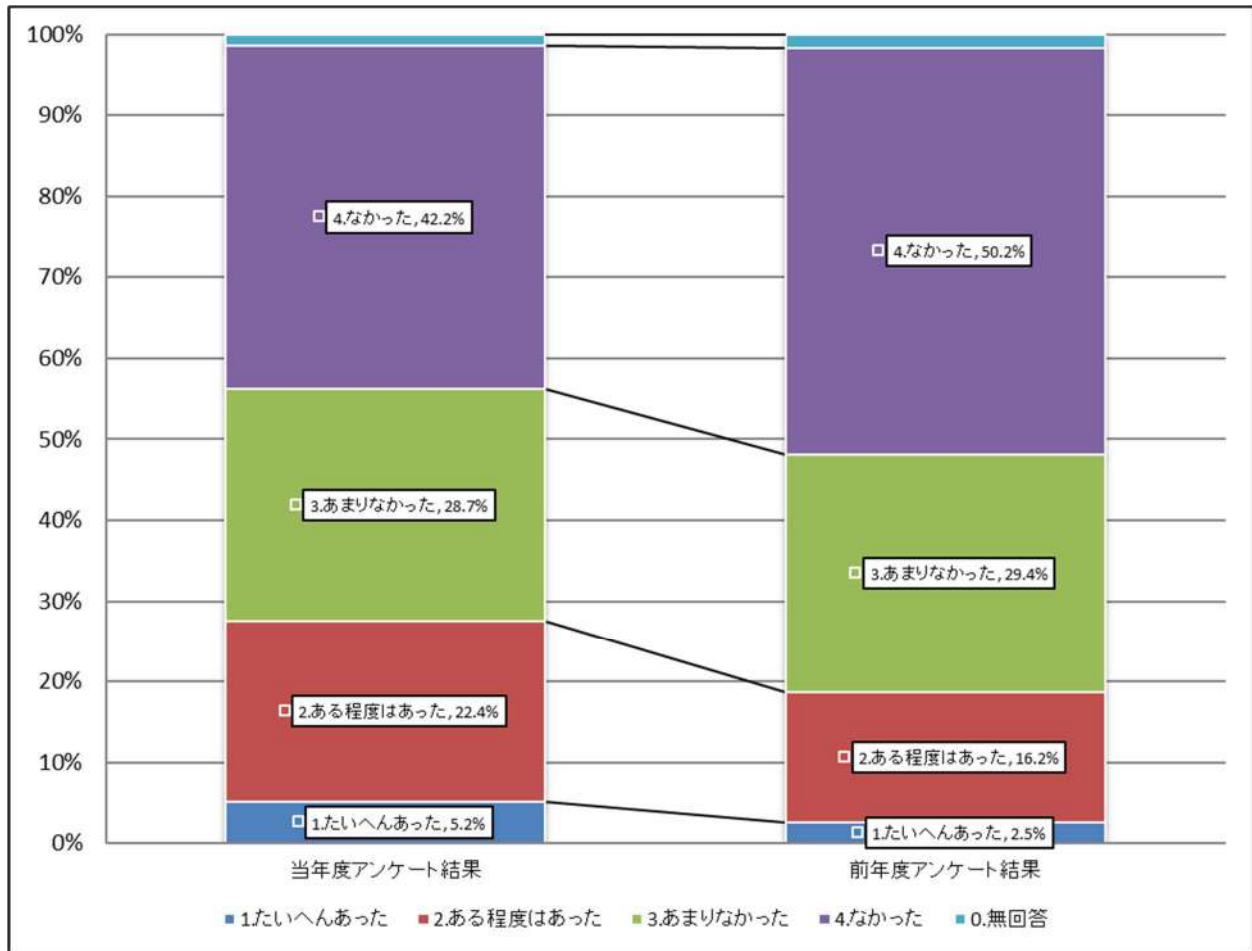
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区（16.6%）であり、次いで大寄地区（18.2%）となっています。最も多いのは、上柴地区（43.8%）であり、次いで幡羅地区（41.9%）となっています。

② 文化の振興（３．問２）

この１年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がありましたか。



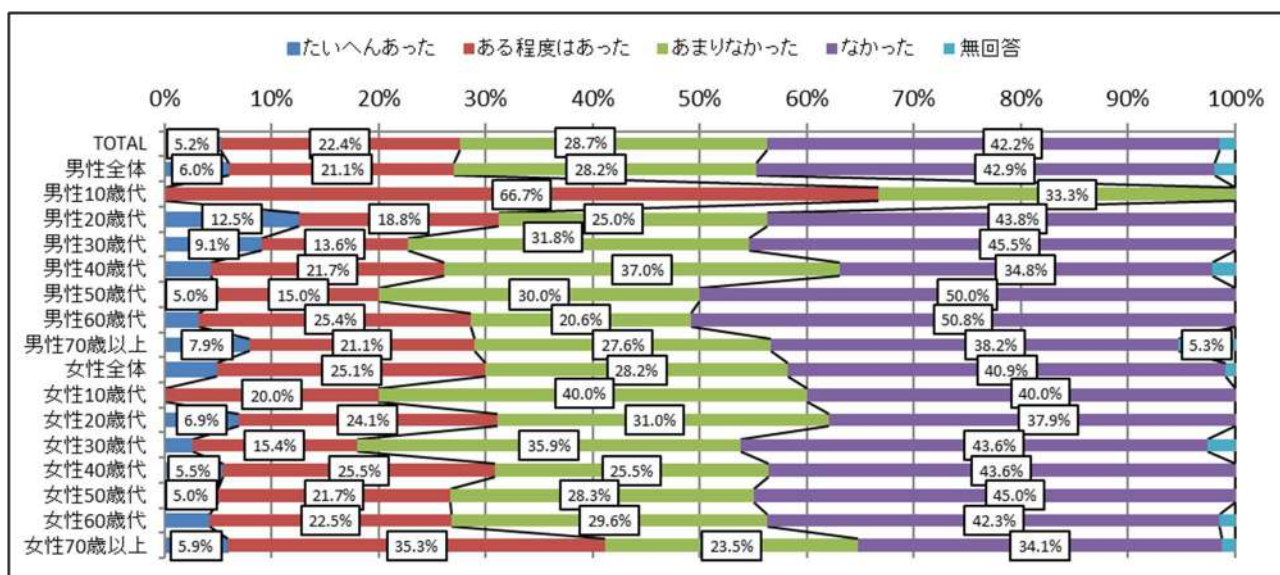
「なかった」と回答した人の割合が 42.2%と最も多く、次いで「あまりなかった」と回答した人の割合が 28.7%、「ある程度はあった」と回答した人の割合が 22.4%、「たいへんあった」と回答した人の割合が 5.2%となっています。

「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合は、27.6%であり、7 割以上の市民が芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がなかったことがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合は 18.7%であり、前年度アンケートと比較して、「なかった」と回答した人の割合が減少した結果となっています。

母集団		たいへんあった	ある程度はあった	あまりなかった	なかった	無回答	合計
TOTAL	675	5.2%	22.4%	28.7%	42.2%	1.5%	100.0%
男性全体	266	6.0%	21.1%	28.2%	42.9%	1.9%	100.0%
男性 10 歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	12.5%	18.8%	25.0%	43.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	9.1%	13.6%	31.8%	45.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	4.3%	21.7%	37.0%	34.8%	2.2%	100.0%
男性 50 歳代	40	5.0%	15.0%	30.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	3.2%	25.4%	20.6%	50.8%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	7.9%	21.1%	27.6%	38.2%	5.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	4.9%	25.1%	28.2%	40.9%	0.9%	100.0%
女性 10 歳代	5	0.0%	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	6.9%	24.1%	31.0%	37.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	2.6%	15.4%	35.9%	43.6%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	5.5%	25.5%	25.5%	43.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	5.0%	21.7%	28.3%	45.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	4.2%	22.5%	29.6%	42.3%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	5.9%	35.3%	23.5%	34.1%	1.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	5.4%	19.0%	32.7%	42.2%	0.7%	100.0%
藤沢地区	61	6.6%	21.3%	23.0%	49.2%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	4.1%	23.0%	36.5%	36.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	0.0%	13.3%	20.0%	60.0%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	9.1%	45.5%	36.4%	9.1%	100.0%
八基地区	21	4.8%	33.3%	9.5%	52.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	0.0%	12.5%	25.0%	62.5%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	13.7%	31.5%	31.5%	21.9%	1.4%	100.0%
南地区	41	4.9%	29.3%	29.3%	31.7%	4.9%	100.0%
岡部地区	82	6.1%	23.2%	26.8%	43.9%	0.0%	100.0%
川本地区	66	3.0%	24.2%	25.8%	45.5%	1.5%	100.0%
花園地区	45	0.0%	13.3%	28.9%	55.6%	2.2%	100.0%
無回答	15	0.0%	26.7%	13.3%	46.7%	13.3%	100.0%

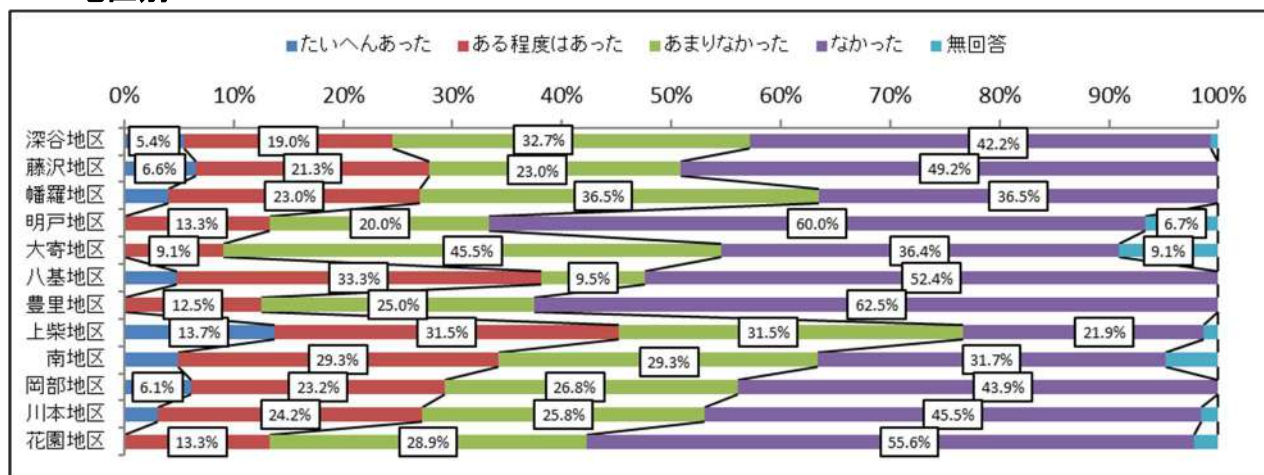
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合は男性が27.1%であるのに対して、女性は30.0%となっています。

また、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性50歳代（20.0%）、女性30歳代（18.0%）であり、一方で最も割合の多い世代は、男性が10歳以上（66.7%）であるのに対して、女性は70歳以上（41.2%）となっています。

➤ 地区別



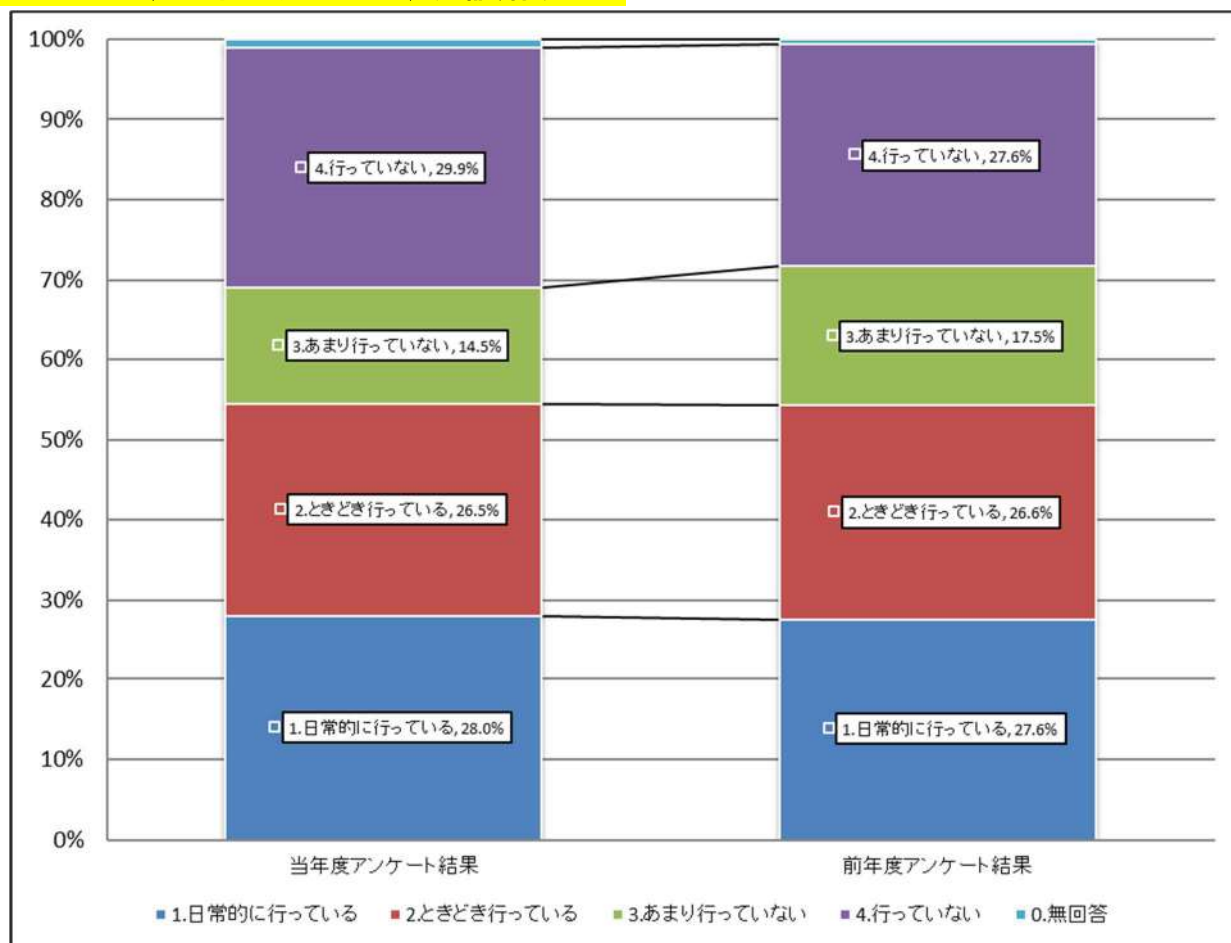
地区別にみると、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（9.1%）であり、次いで豊里地区（12.5%）となっています。最も多いのは、上柴地区（45.2%）であり、次いで八基地区（38.1%）となっています。

③ スポーツの振興（3. 問3）

スポーツやレクリエーションをどの程度行っていますか。

※スポーツ・レクリエーション活動は、以下のような活動も含まれます。

散歩・ウォーキング、ジョギング・ランニング、軽い体操、筋力トレーニング、ヨガ、ゲートボール、フォークダンス、民謡踊りなど

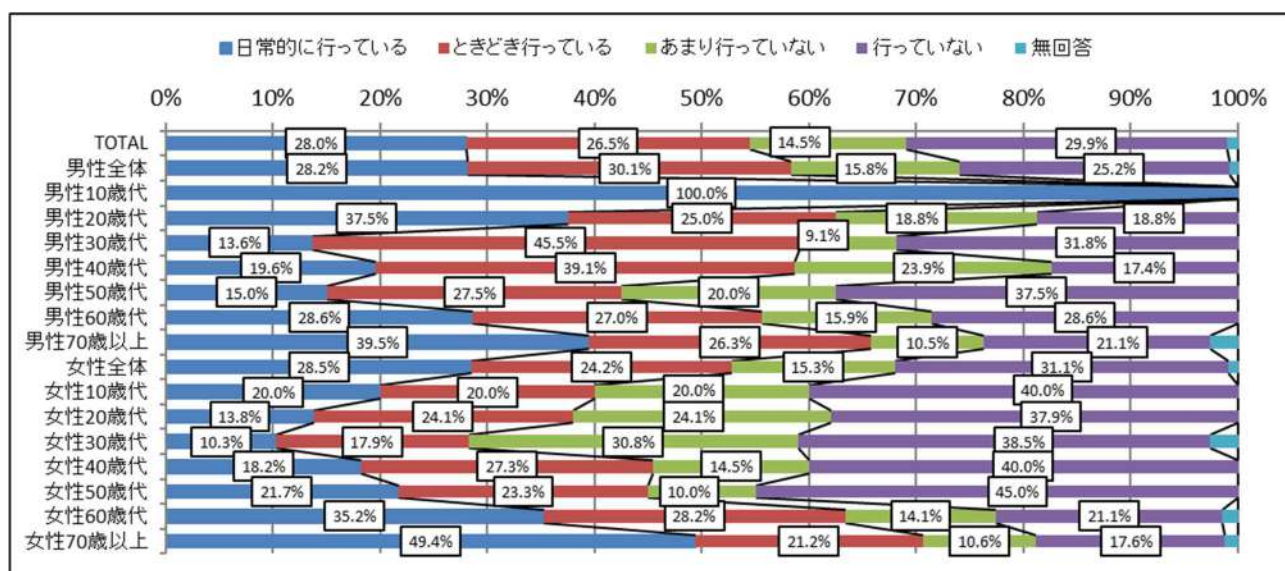


「行っていない」と回答した人の割合が 29.9%と最も多く、次いで、「日常的に行っている」と回答した人の割合は 28.0%、「ときどき行っている」と回答した人の割合は 26.5%、「あまり行っていない」と回答した人の割合は 14.5%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」とした人の割合は、54.5%と前年度アンケートと比較して微増し、日頃からスポーツやレクリエーション活動を行っている人が過半数を超えています。

母集団		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	675	28.0%	26.5%	14.5%	29.9%	1.0%	100.0%
男性全体	266	28.2%	30.1%	15.8%	25.2%	0.8%	100.0%
男性 10 歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	37.5%	25.0%	18.8%	18.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	13.6%	45.5%	9.1%	31.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	19.6%	39.1%	23.9%	17.4%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	15.0%	27.5%	20.0%	37.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	28.6%	27.0%	15.9%	28.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	39.5%	26.3%	10.5%	21.1%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	28.5%	24.2%	15.3%	31.1%	0.9%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	13.8%	24.1%	24.1%	37.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	10.3%	17.9%	30.8%	38.5%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	18.2%	27.3%	14.5%	40.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	21.7%	23.3%	10.0%	45.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	35.2%	28.2%	14.1%	21.1%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	49.4%	21.2%	10.6%	17.6%	1.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	26.5%	29.3%	10.2%	33.3%	0.7%	100.0%
藤沢地区	61	24.6%	29.5%	23.0%	23.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	32.4%	24.3%	17.6%	25.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	26.7%	13.3%	13.3%	40.0%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	36.4%	18.2%	45.5%	0.0%	100.0%
八基地区	21	28.6%	33.3%	9.5%	28.6%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	20.8%	16.7%	25.0%	37.5%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	41.1%	19.2%	11.0%	27.4%	1.4%	100.0%
南地区	41	31.7%	14.6%	24.4%	26.8%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	26.8%	32.9%	8.5%	31.7%	0.0%	100.0%
川本地区	66	28.8%	28.8%	12.1%	28.8%	1.5%	100.0%
花園地区	45	17.8%	28.9%	22.2%	28.9%	2.2%	100.0%
無回答	15	26.7%	26.7%	6.7%	33.3%	6.7%	100.0%

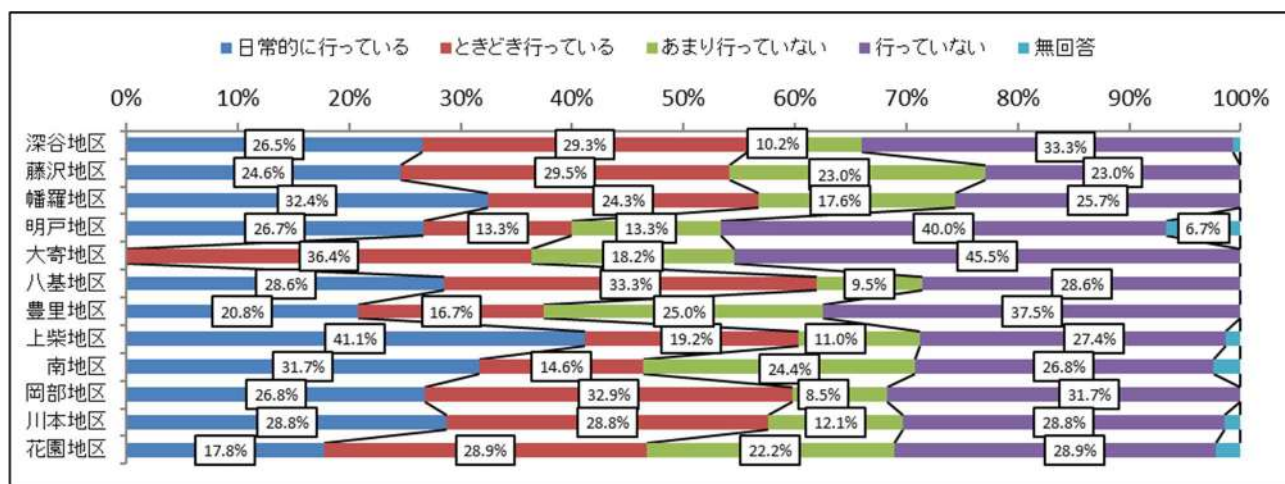
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は男性が 58.3%であるのに対して、女性は 52.7%となっています。男女間で 5.6 ポイントの差があることから、男性の方がスポーツやレクリエーションに対する意識が高いことがうかがえます。

また、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は 50 歳代 (42.5%)、女性は 30 歳代 (28.2%) であり、一方で最も割合の多い世代は、男性は 10 歳代 (100.0%)、女性は 70 歳以上 (70.6%) となっています。

➤ 地区別

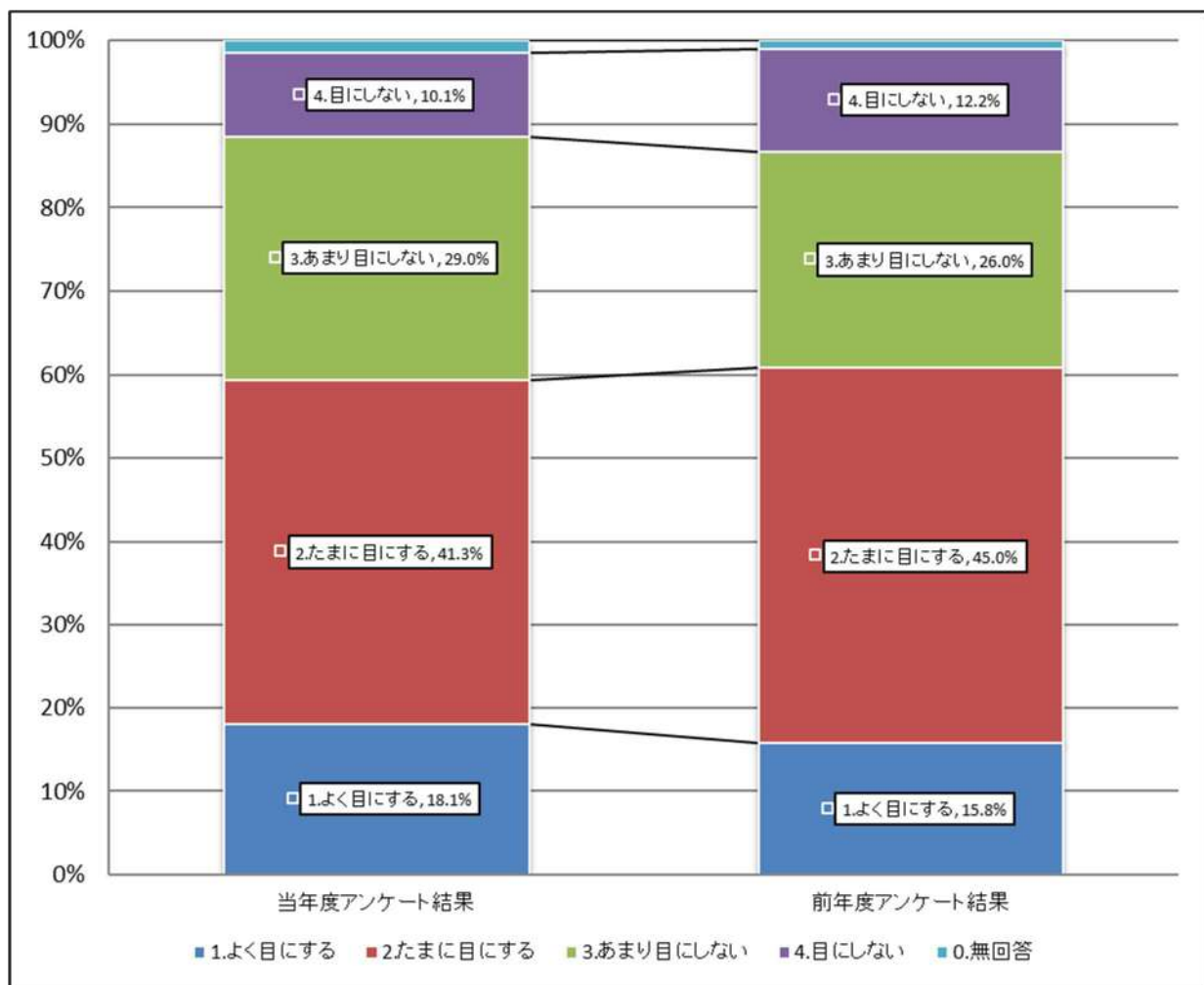


地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、大寄地区 (36.4%) であり、次いで豊里地区 (37.5%) となっています。最も多い地区は、八基地区 (61.9%) であり、次いで上柴地区 (60.3%) となっています。

(4) 産業振興について

全国に誇る農業の振興（4. 問1～2）

市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。



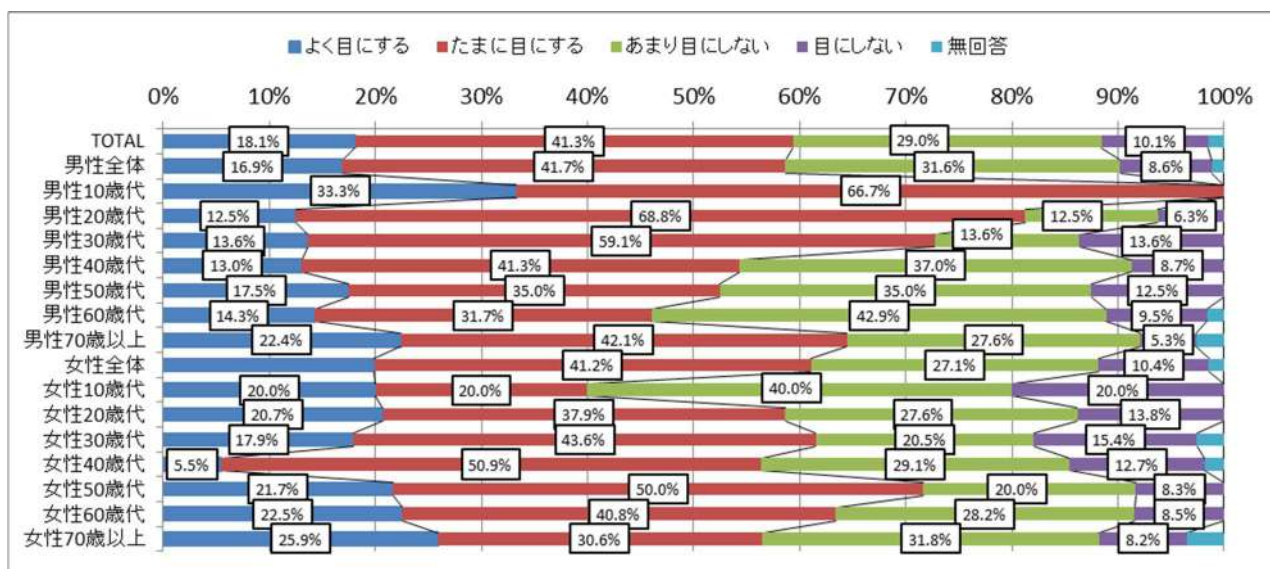
「たまに目にする」と回答した人の割合が 41.3%と最も多く、次いで「あまり目に見えない」と回答した人の割合が 29.0%、「よく目にする」と回答した人の割合が 18.1%、「目に見えない」と回答した人の割合は 10.1%となっています。

「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は 59.4%であり、6 割近くの市民が市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にしていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は 60.8%であり、前年度アンケートと比較して微減していることがうかがえます。

母集団		よく目にする	たまに目にする	あまり目に見えない	目にしない	無回答	合計
TOTAL	675	18.1%	41.3%	29.0%	10.1%	1.5%	100.0%
男性全体	266	16.9%	41.7%	31.6%	8.6%	1.1%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	12.5%	68.8%	12.5%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	13.6%	59.1%	13.6%	13.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	13.0%	41.3%	37.0%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	17.5%	35.0%	35.0%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	14.3%	31.7%	42.9%	9.5%	1.6%	100.0%
男性 70 歳以上	76	22.4%	42.1%	27.6%	5.3%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	19.9%	41.2%	27.1%	10.4%	1.4%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	20.7%	37.9%	27.6%	13.8%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	17.9%	43.6%	20.5%	15.4%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	5.5%	50.9%	29.1%	12.7%	1.8%	100.0%
女性 50 歳代	60	21.7%	50.0%	20.0%	8.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	22.5%	40.8%	28.2%	8.5%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	25.9%	30.6%	31.8%	8.2%	3.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	20.4%	41.5%	27.2%	10.2%	0.7%	100.0%
藤沢地区	61	21.3%	42.6%	29.5%	6.6%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	14.9%	40.5%	33.8%	10.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	0.0%	53.3%	33.3%	6.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	27.3%	54.5%	18.2%	0.0%	100.0%
八基地区	21	33.3%	38.1%	19.0%	9.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	29.2%	41.7%	20.8%	8.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	11.0%	49.3%	32.9%	5.5%	1.4%	100.0%
南地区	41	24.4%	51.2%	9.8%	12.2%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	19.5%	37.8%	29.3%	12.2%	1.2%	100.0%
川本地区	66	19.7%	39.4%	28.8%	10.6%	1.5%	100.0%
花園地区	45	13.3%	33.3%	37.8%	11.1%	4.4%	100.0%
無回答	15	6.7%	26.7%	33.3%	20.0%	13.3%	100.0%

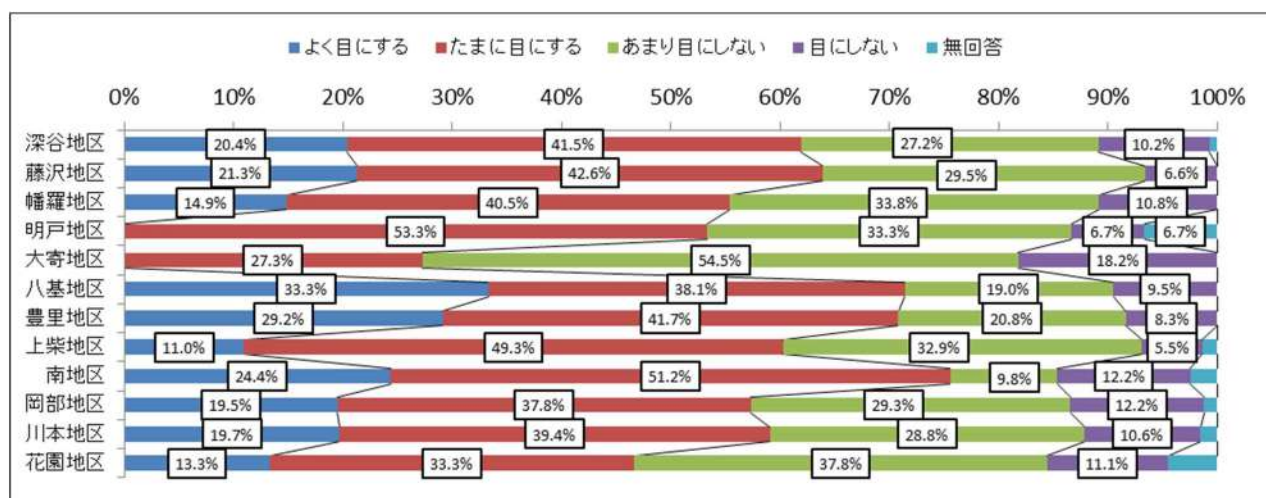
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は男性が58.6%、女性は61.1%と男女間での差は少なくなっています。

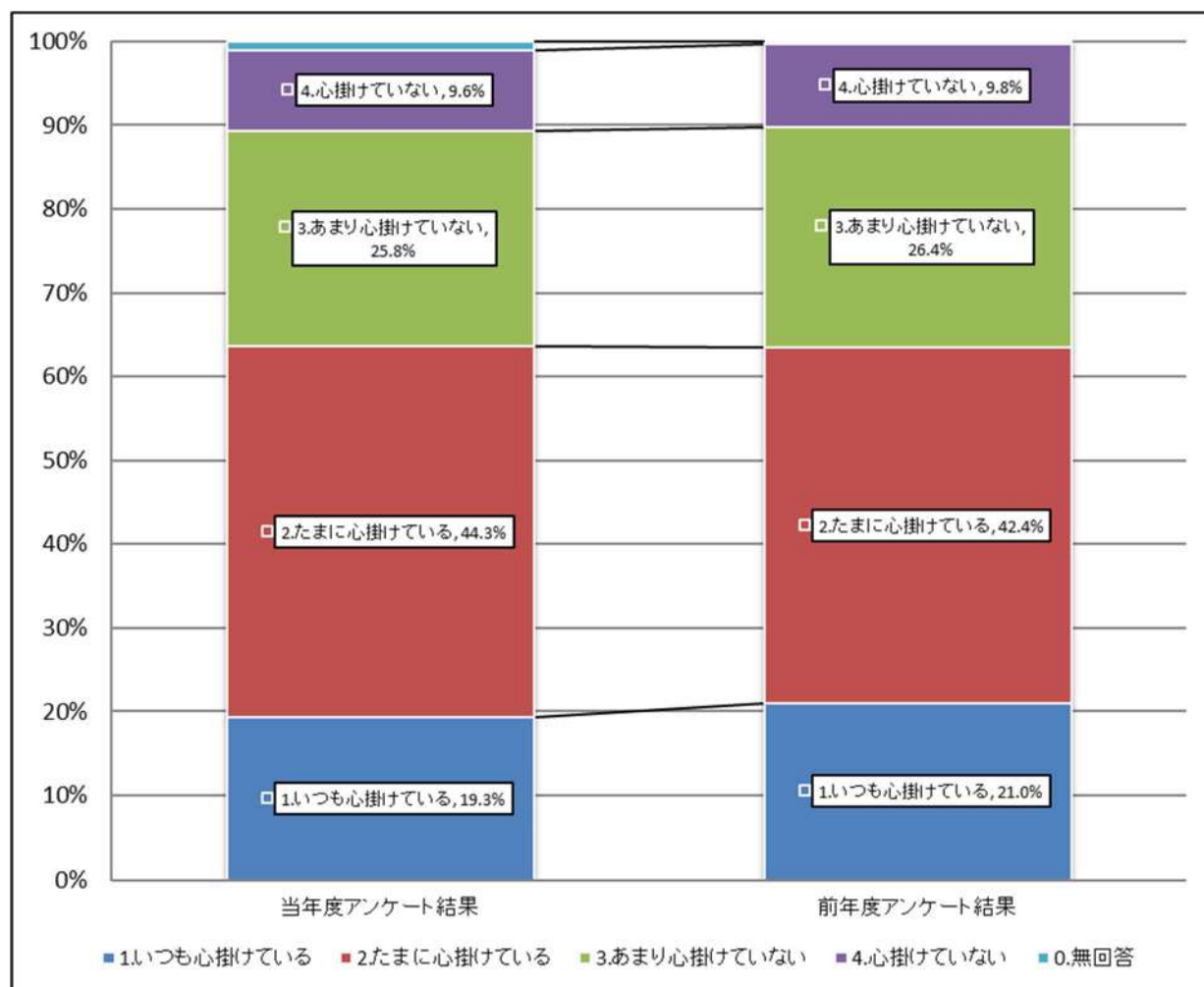
また、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性60歳代（男性46.0%）女性10歳代（女性40.0%）であり、一方で最も多い世代は、男性が10歳代（100.0%）女性が50歳代（71.7%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（27.3%）であり、次いで花園地区（46.6%）となっています。最も多いのは南地区（75.6%）であり、次いで八基地区（71.4%）となっています。

食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていますか。



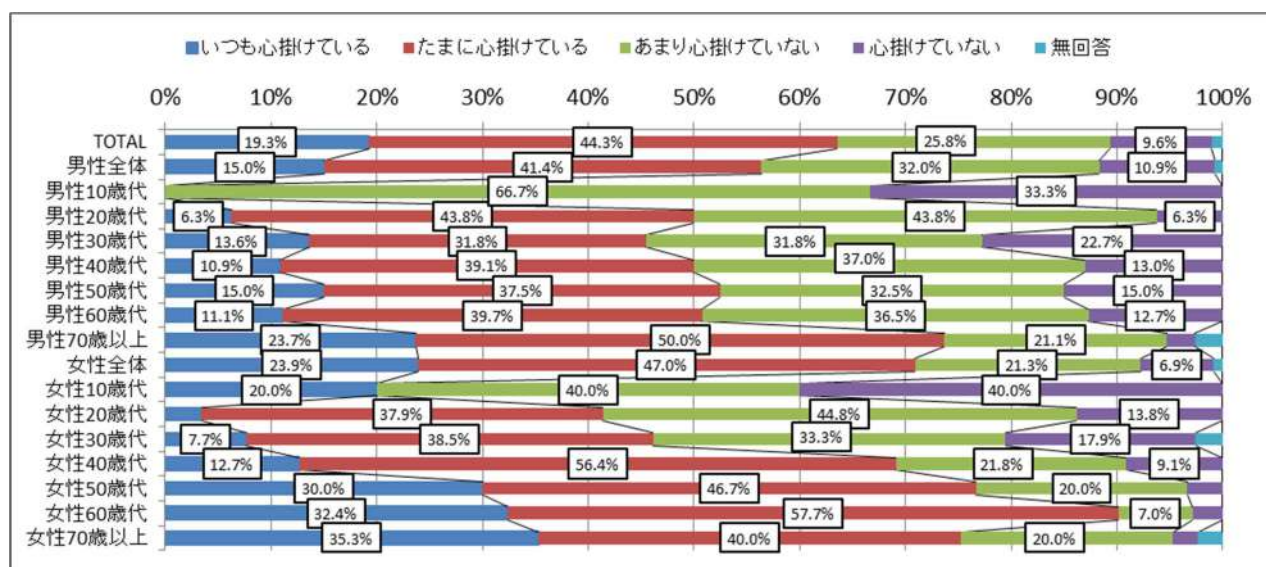
「たまに心掛けています」と回答した人の割合が 44.3%と最も多く、次いで「あまり心掛けていません」と回答した人の割合が 25.8%、「いつも心掛けています」と回答した人の割合が 19.3%、「心掛けていません」と回答した人の割合は最も少なく 9.6%となっています。

「いつも心掛けています」または「たまに心掛けています」と回答した人の割合は 63.6%であり、6 割以上の市民が食材等の購入時に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いつも心掛けています」または「たまに心掛けています」と回答した人の割合は 63.4%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		いつも心掛けている	たまに心掛けている	あまり心掛けていない	心掛けていない	無回答	合計
TOTAL	675	19.3%	44.3%	25.8%	9.6%	1.0%	100.0%
男性全体	266	15.0%	41.4%	32.0%	10.9%	0.8%	100.0%
男性 10 歳代	3	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	6.3%	43.8%	43.8%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	13.6%	31.8%	31.8%	22.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	10.9%	39.1%	37.0%	13.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	15.0%	37.5%	32.5%	15.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	11.1%	39.7%	36.5%	12.7%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	23.7%	50.0%	21.1%	2.6%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	23.9%	47.0%	21.3%	6.9%	0.9%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	0.0%	40.0%	40.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	3.4%	37.9%	44.8%	13.8%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	7.7%	38.5%	33.3%	17.9%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	12.7%	56.4%	21.8%	9.1%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	30.0%	46.7%	20.0%	3.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	32.4%	57.7%	7.0%	2.8%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	35.3%	40.0%	20.0%	2.4%	2.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	21.8%	47.6%	20.4%	10.2%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	18.0%	42.6%	24.6%	14.8%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	21.6%	39.2%	28.4%	10.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	20.0%	33.3%	33.3%	6.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	9.1%	36.4%	36.4%	18.2%	0.0%	100.0%
八基地区	21	28.6%	47.6%	23.8%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	25.0%	41.7%	20.8%	12.5%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	21.9%	42.5%	28.8%	5.5%	1.4%	100.0%
南地区	41	34.1%	34.1%	24.4%	2.4%	4.9%	100.0%
岡部地区	82	9.8%	51.2%	28.0%	11.0%	0.0%	100.0%
川本地区	66	21.2%	40.9%	24.2%	12.1%	1.5%	100.0%
花園地区	45	6.7%	46.7%	35.6%	8.9%	2.2%	100.0%
無回答	15	0.0%	66.7%	20.0%	6.7%	6.7%	100.0%

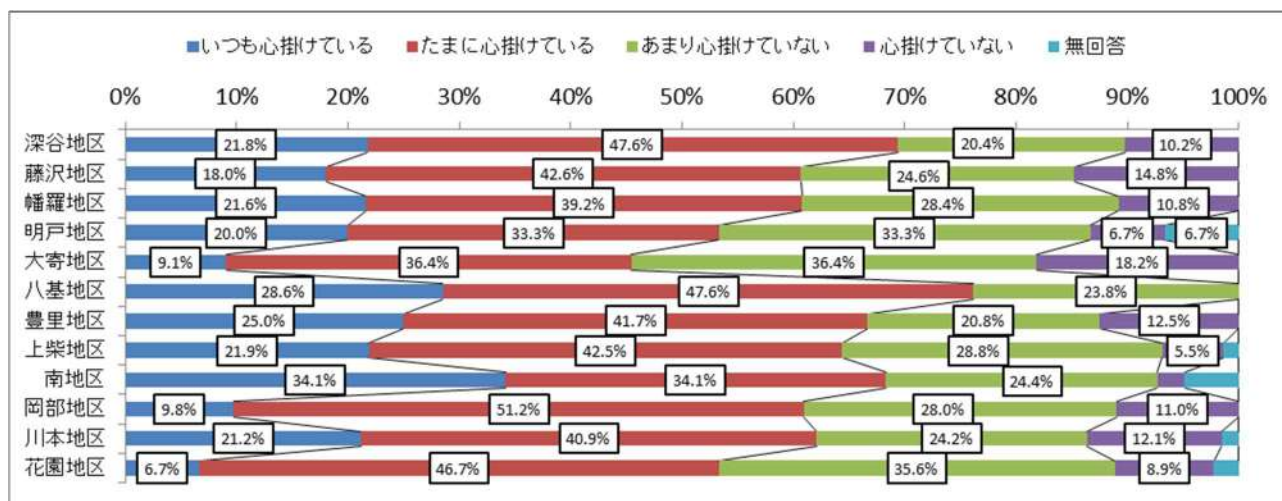
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合は男性が 56.4%であるのに対して、女性は 70.9%となっています。このことから、男性よりも女性の方が意識が高いことがうかがえます。

また、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに 10 歳代（男性 0.0%、女性 20.0%）であり、一方で最も多い世代は、男性 70 歳代（73.7%）、女性 60 歳代（90.1%）となっています。

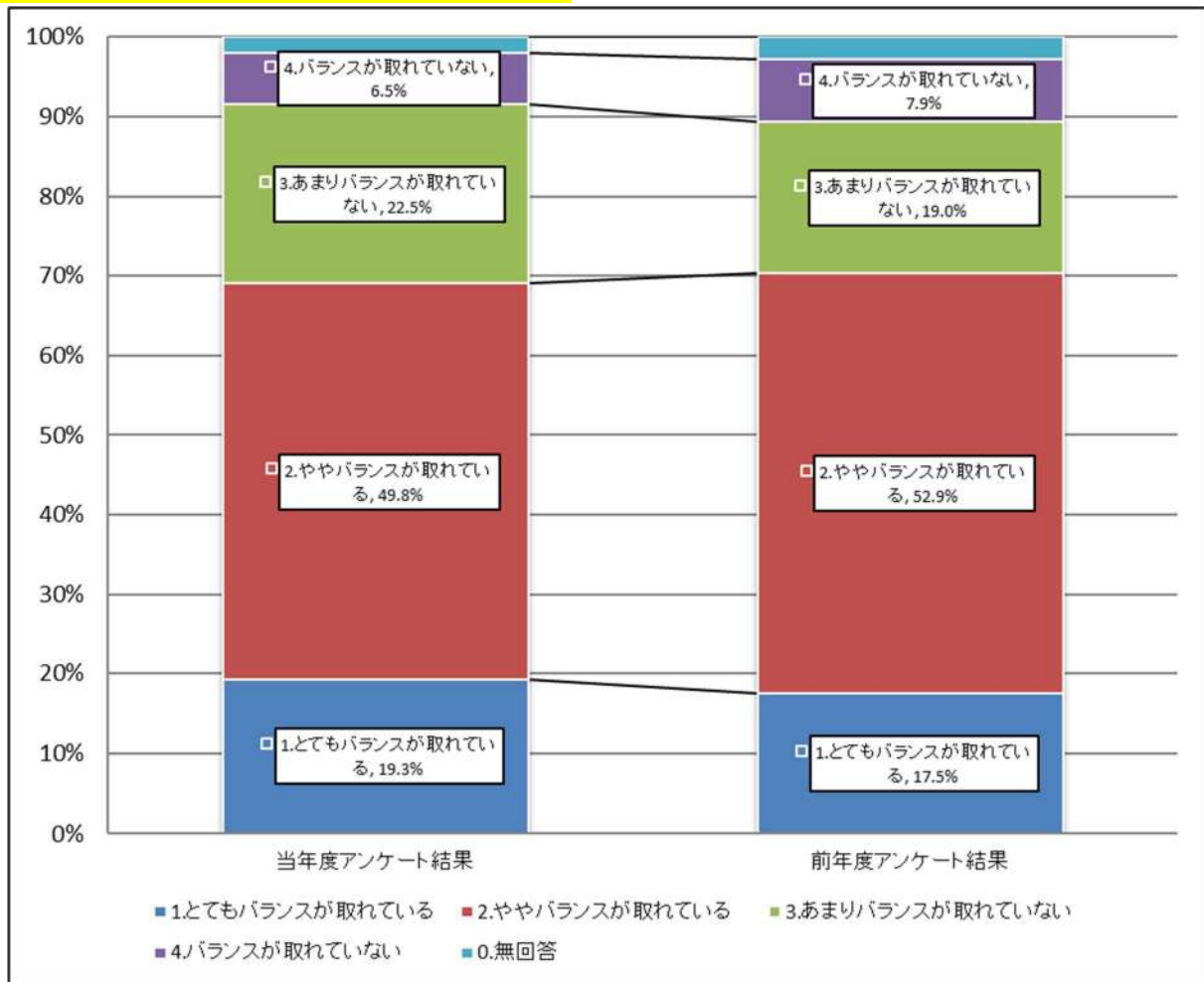
➤ 地区別



地区別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（45.5%）であり、次いで明戸地区（53.3%）となっています。最も多いのは八基地区（76.2%）であり、次いで深谷地区で（69.4%）となっています。

②雇用の創出・安定と勤労者への支援（3. 問3）

ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか）。



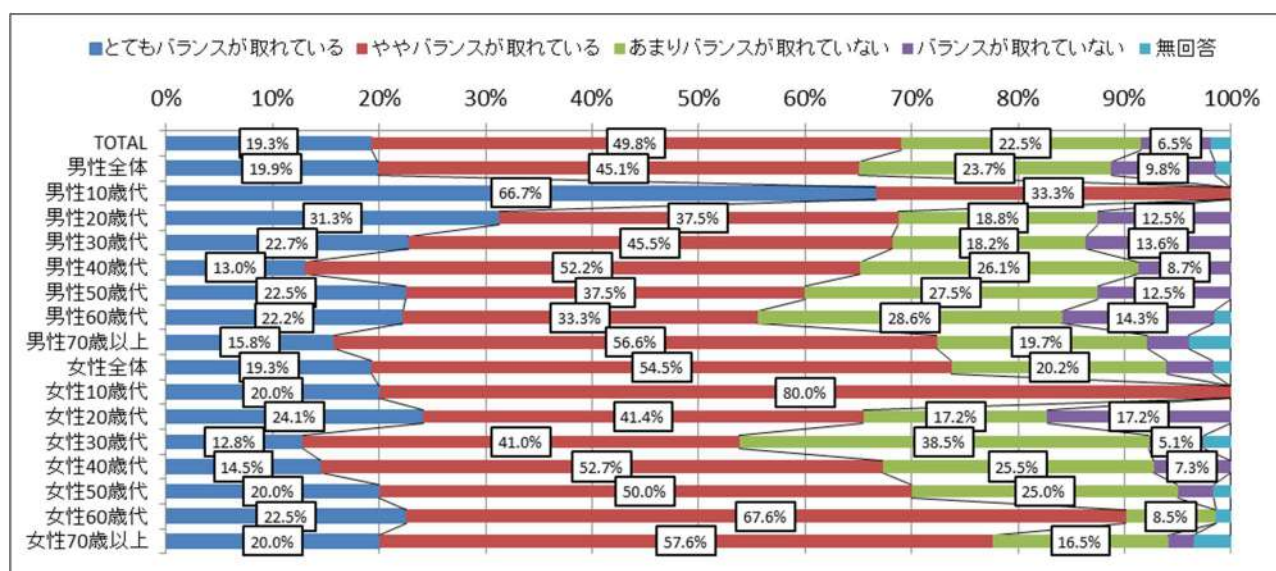
「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が 49.8%と最も多く、次いで「あまりバランスが取れていない」と回答した人の割合が 22.5%、「とてもバランスが取れている」と回答した人の割合が 19.3%、「バランスが取れていない」と回答した人の割合は最も少なく 6.5%となっています。

「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は 69.1%であり、市民の 7 割近くが、仕事と生活のバランスが取れていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は 70.4%であり、前年度アンケートと比較して、微減となっています。

母集団		とてもバランスが 取れている	ややバランスが取れている	あまりバランスが 取れていない	バランスが取れていない	無回答	合計
TOTAL	675	19.3%	49.8%	22.5%	6.5%	1.9%	100.0%
男性全体	266	19.9%	45.1%	23.7%	9.8%	1.5%	100.0%
男性 10 歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	31.3%	37.5%	18.8%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	22.7%	45.5%	18.2%	13.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	13.0%	52.2%	26.1%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	22.5%	37.5%	27.5%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	22.2%	33.3%	28.6%	14.3%	1.6%	100.0%
男性 70 歳以上	76	15.8%	56.6%	19.7%	3.9%	3.9%	100.0%
男性年齢不詳	—	—	—	—	—	—	—
女性全体	347	19.3%	54.5%	20.2%	4.3%	1.7%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	24.1%	41.4%	17.2%	17.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	12.8%	41.0%	38.5%	5.1%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	14.5%	52.7%	25.5%	7.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	20.0%	50.0%	25.0%	3.3%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	71	22.5%	67.6%	8.5%	0.0%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	20.0%	57.6%	16.5%	2.4%	3.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	18.4%	52.4%	17.7%	9.5%	2.0%	100.0%
藤沢地区	61	23.0%	55.7%	13.1%	8.2%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	17.6%	51.4%	25.7%	4.1%	1.4%	100.0%
明戸地区	15	0.0%	66.7%	26.7%	0.0%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	9.1%	45.5%	36.4%	0.0%	9.1%	100.0%
八基地区	21	19.0%	38.1%	42.9%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	25.0%	62.5%	12.5%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	23.3%	50.7%	17.8%	5.5%	2.7%	100.0%
南地区	41	29.3%	39.0%	22.0%	7.3%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	11.0%	56.1%	28.0%	4.9%	0.0%	100.0%
川本地区	66	22.7%	42.4%	24.2%	9.1%	1.5%	100.0%
花園地区	45	13.3%	44.4%	26.7%	11.1%	4.4%	100.0%
無回答	15	40.0%	13.3%	40.0%	0.0%	6.7%	100.0%

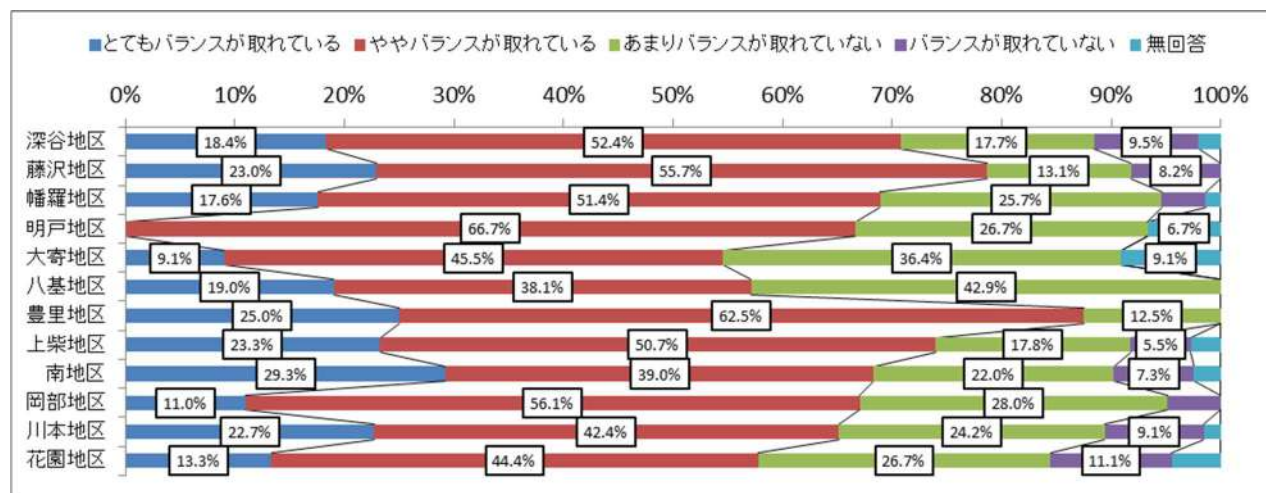
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は男性が 65.0%であるのに対して、女性は 73.8%となっています。

また、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 60 歳代 (55.5%) であり、女性は 30 歳代 (53.8%) となっています。最も多い世代は、男女ともに 10 歳代 (100.0%) となっています。

➤ 地区別

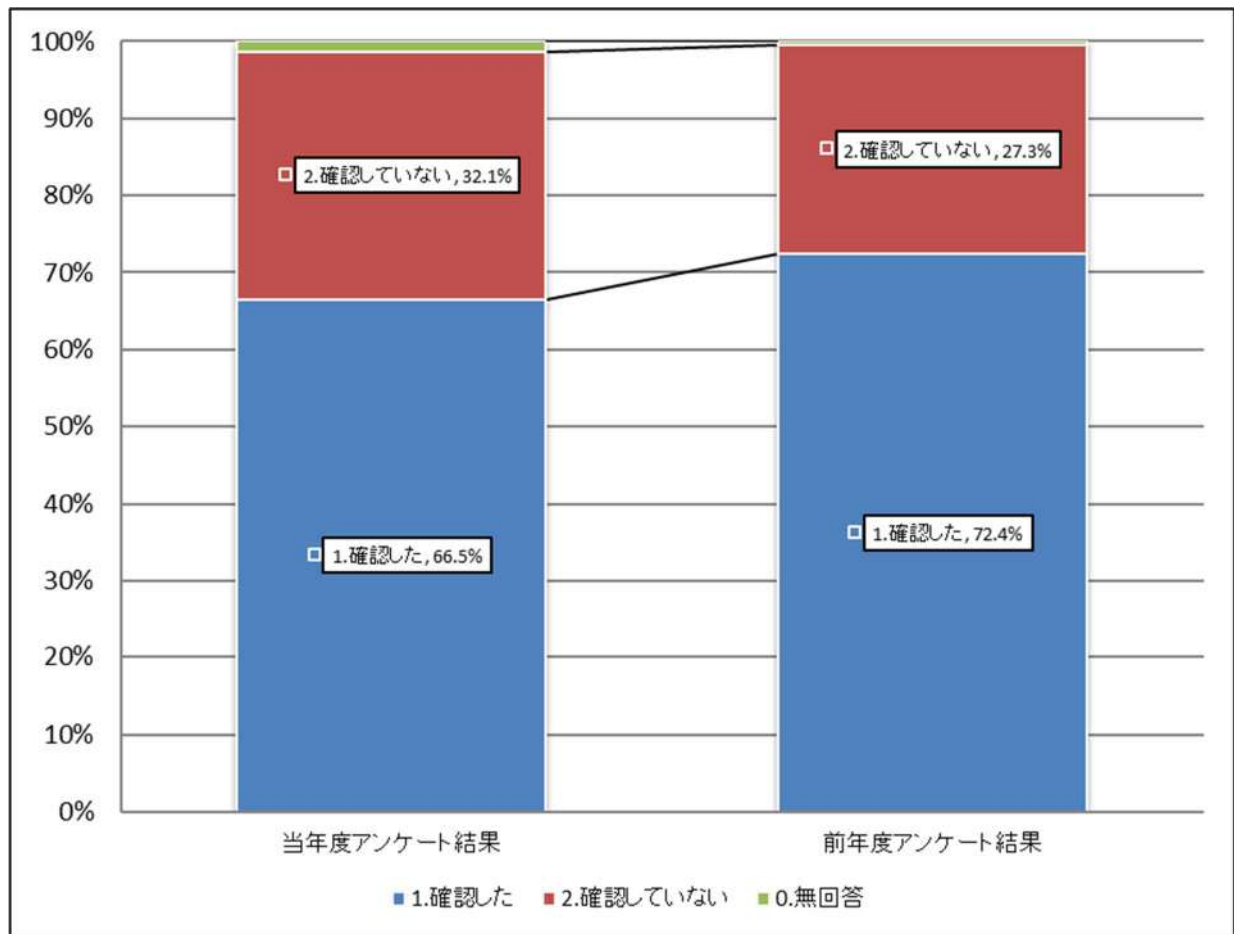


地区別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区 (54.6%) であり、次いで八基地区 (57.1%) となっています。最も多いのは豊里地区 (87.5%) であり、次いで藤沢地区 (78.7%) となっています。

(5) 暮らし・環境について

①防災対策の推進（5. 問1～3）

ハザードマップで自宅等の災害の危険性（自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど）について確認しましたか。



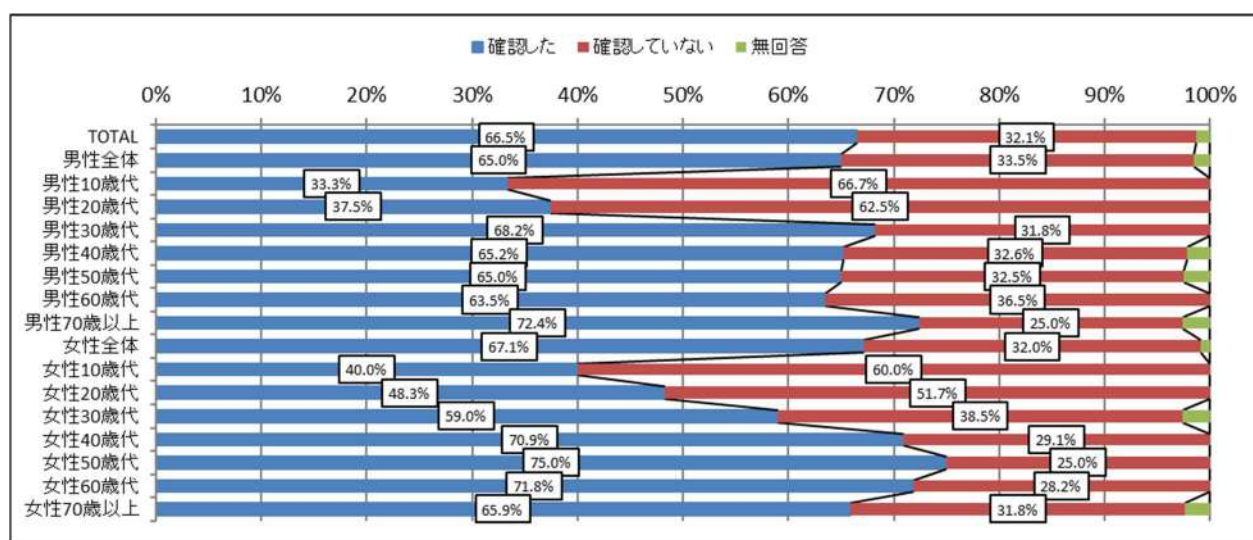
「確認した」と回答した人の割合が 66.5%、「確認していない」と回答した人の割合が 32.1%となっています。

市民の 6 割以上が、ハザードマップで自宅等の災害の危険性を確認していることがうかがえます。

一方、約 3 割の市民が確認していないこともうかがえ、前年度アンケートと比較して、微増となっています。

母集団		確認した	確認していない	無回答	合計
TOTAL	675	66.5%	32.1%	1.3%	100.0%
男性全体	266	65.0%	33.5%	1.5%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	37.5%	62.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	68.2%	31.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	65.2%	32.6%	2.2%	100.0%
男性 50 歳代	40	65.0%	32.5%	2.5%	100.0%
男性 60 歳代	63	63.5%	36.5%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	72.4%	25.0%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	—	—	—	—	—
女性全体	347	67.1%	32.0%	0.9%	100.0%
女性 10 歳代	5	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	48.3%	51.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	59.0%	38.5%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	70.9%	29.1%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	71.8%	28.2%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	65.9%	31.8%	2.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	61.2%	38.1%	0.7%	100.0%
藤沢地区	61	72.1%	27.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	77.0%	21.6%	1.4%	100.0%
明戸地区	15	46.7%	46.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	63.6%	27.3%	9.1%	100.0%
八基地区	21	81.0%	19.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	70.8%	29.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	71.2%	27.4%	1.4%	100.0%
南地区	41	65.9%	31.7%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	57.3%	42.7%	0.0%	100.0%
川本地区	66	71.2%	27.3%	1.5%	100.0%
花園地区	45	55.6%	42.2%	2.2%	100.0%
無回答	15	80.0%	13.3%	6.7%	100.0%

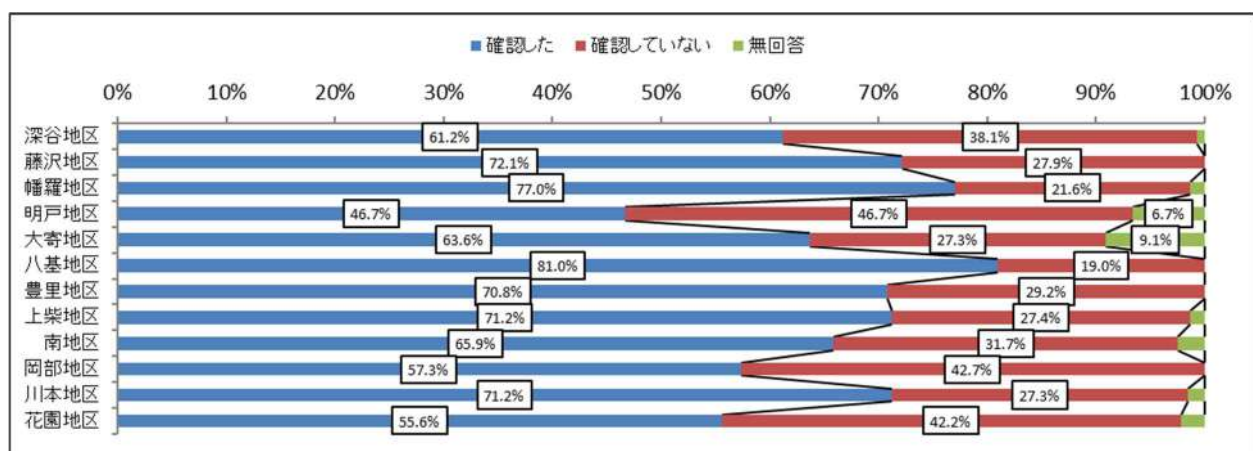
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「確認した」と回答した人の割合は男性が 65.0%であるのに対して、女性は 67.1%となっています。

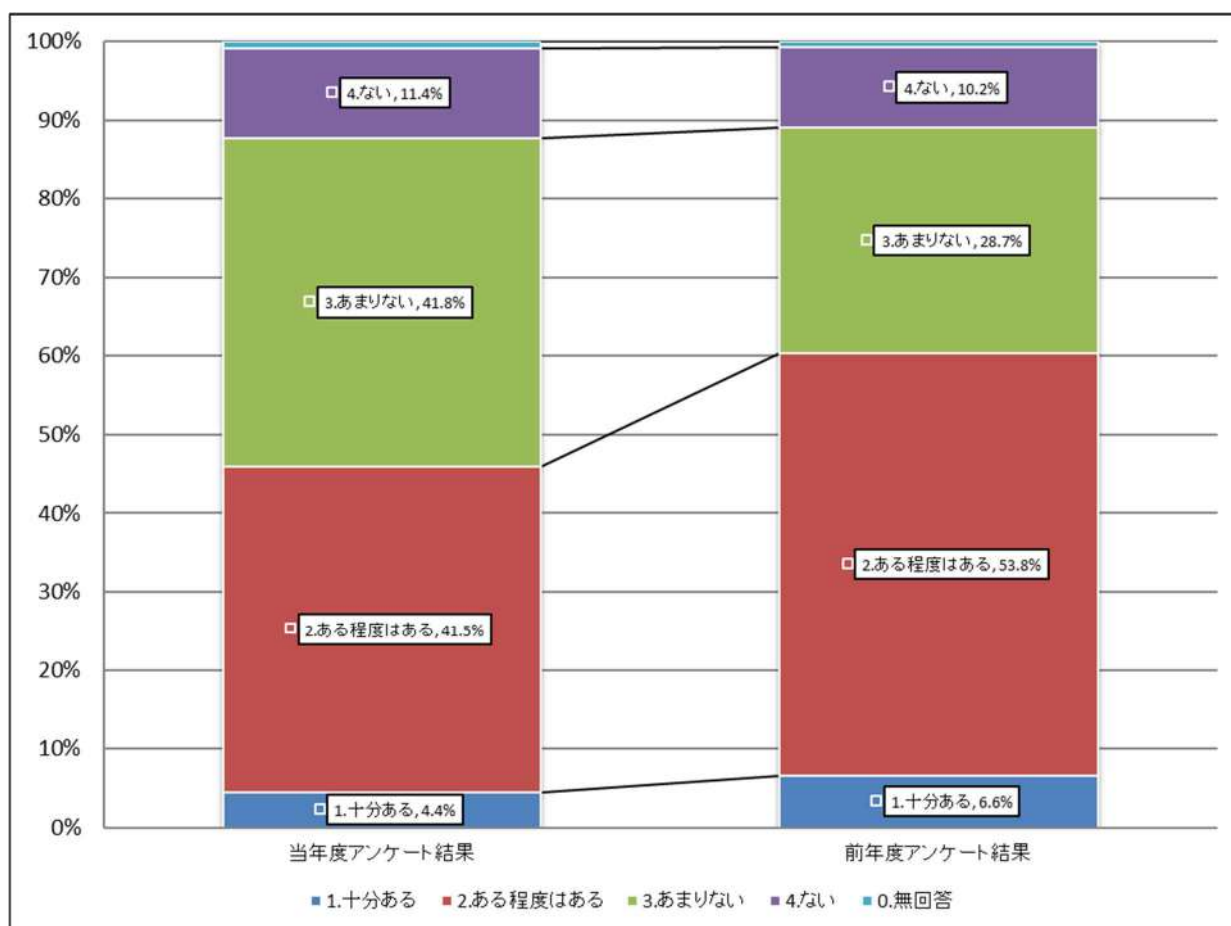
また、「確認した」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに 10 歳代（男性 33.3%、女性 40.0%）となっています。最も多い世代は、男性は 70 歳代（男性 72.4%）女性は 50 歳代（女性 75.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「確認した」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区（46.7%）であり、次いで花園地区（55.6%）となっています。最も多いのは八基地区（81.0%）であり、次いで幡羅地区（77.0%）となっています。

ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）はありますか。



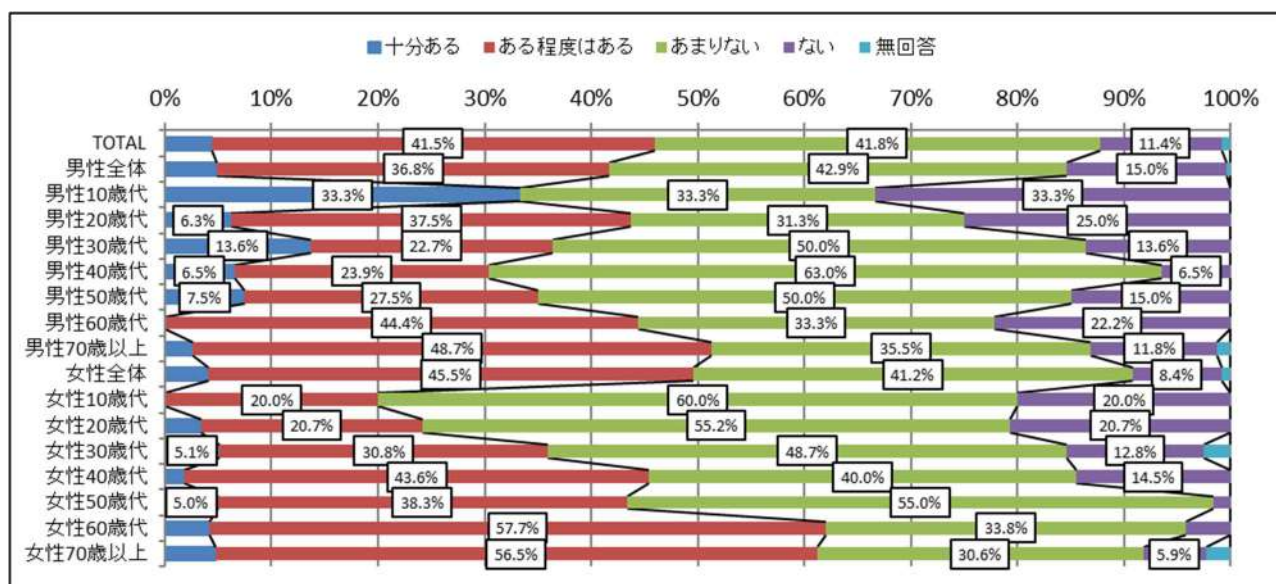
「あまりない」と回答した人の割合が 41.8%と最も多く、次いで「ある程度はある」と回答した人の割合が 41.5%、「ない」と回答した人の割合が 11.4%、「十分ある」と回答した人の割合が最も少なく 4.4%となっています。

「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 45.9%であり、市民の4割以上は、災害時の備え（備蓄品など）が十分であることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 60.4%であり、前年度アンケートと比較して、大きく減少していることがうかがえます。

母集団		十分ある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	675	4.4%	41.5%	41.8%	11.4%	0.9%	100.0%
男性全体	266	4.9%	36.8%	42.9%	15.0%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	6.3%	37.5%	31.3%	25.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	13.6%	22.7%	50.0%	13.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	6.5%	23.9%	63.0%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	7.5%	27.5%	50.0%	15.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	0.0%	44.4%	33.3%	22.2%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	2.6%	48.7%	35.5%	11.8%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	4.0%	45.5%	41.2%	8.4%	0.9%	100.0%
女性 10 歳代	5	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	3.4%	20.7%	55.2%	20.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	5.1%	30.8%	48.7%	12.8%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	1.8%	43.6%	40.0%	14.5%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	5.0%	38.3%	55.0%	1.7%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	4.2%	57.7%	33.8%	4.2%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	4.7%	56.5%	30.6%	5.9%	2.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	4.1%	39.5%	44.2%	12.2%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	3.3%	42.6%	44.3%	9.8%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	6.8%	54.1%	29.7%	9.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	0.0%	26.7%	60.0%	6.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	27.3%	45.5%	27.3%	0.0%	100.0%
八基地区	21	4.8%	52.4%	33.3%	9.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	8.3%	37.5%	29.2%	25.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	2.7%	39.7%	47.9%	8.2%	1.4%	100.0%
南地区	41	9.8%	43.9%	39.0%	4.9%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	4.9%	40.2%	46.3%	8.5%	0.0%	100.0%
川本地区	66	4.5%	34.8%	40.9%	18.2%	1.5%	100.0%
花園地区	45	2.2%	42.2%	40.0%	13.3%	2.2%	100.0%
無回答	15	0.0%	46.7%	40.0%	6.7%	6.7%	100.0%

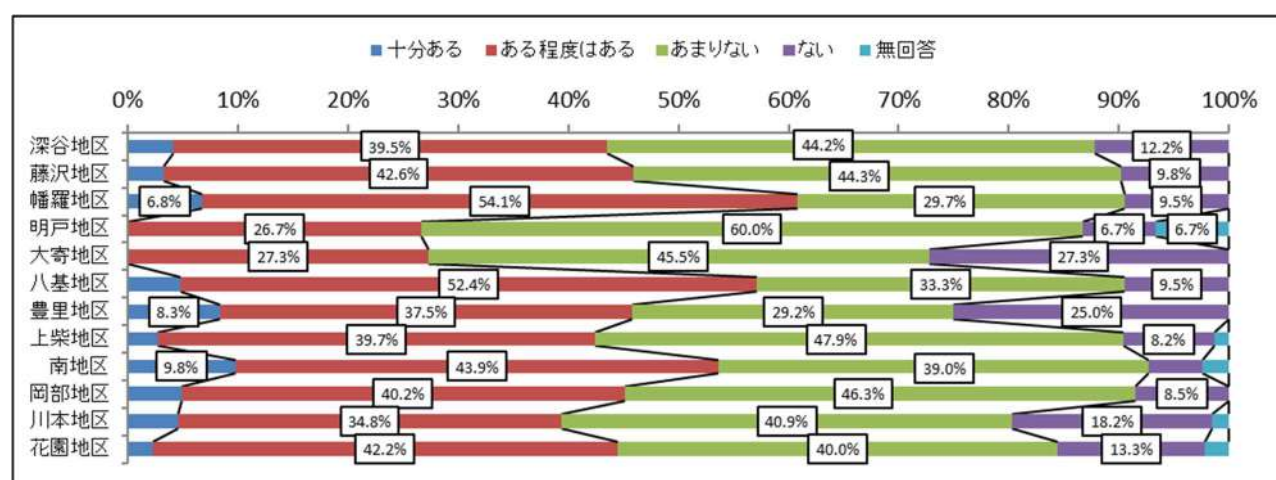
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は男性が41.7%であるのに対して、女性は49.5%となっています。

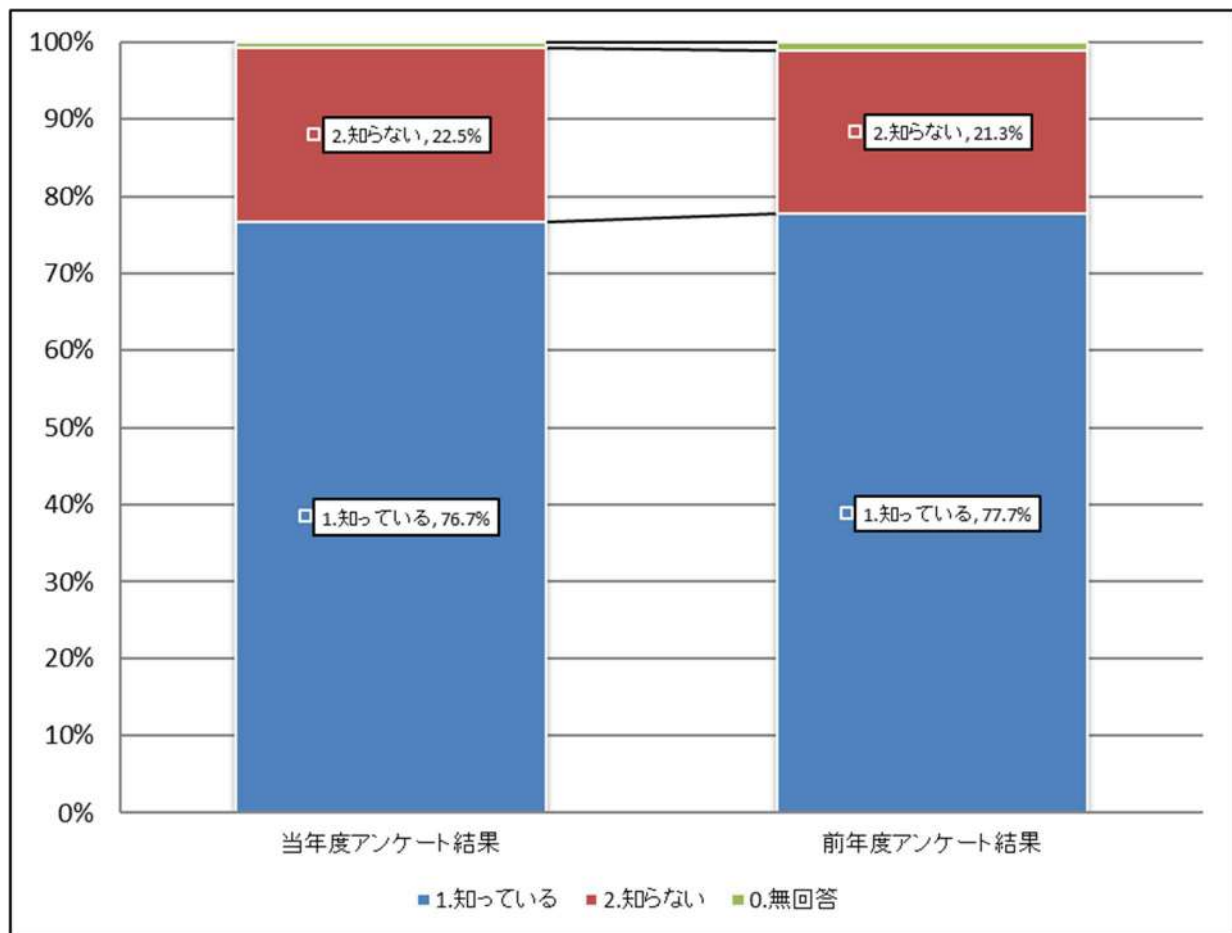
また、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が40歳代（30.4%）、女性が10歳代（20.0%）であり、一方で最も多い世代は、男性70歳代（51.3%）、女性60歳以上（61.9%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区（26.7%）であり、次いで大寄地区（27.3%）となっています。最も多いのは、幡羅地区（60.9%）、次いで八基地区（57.2%）となっています。

地震発生時の避難所・避難場所を知っていますか。



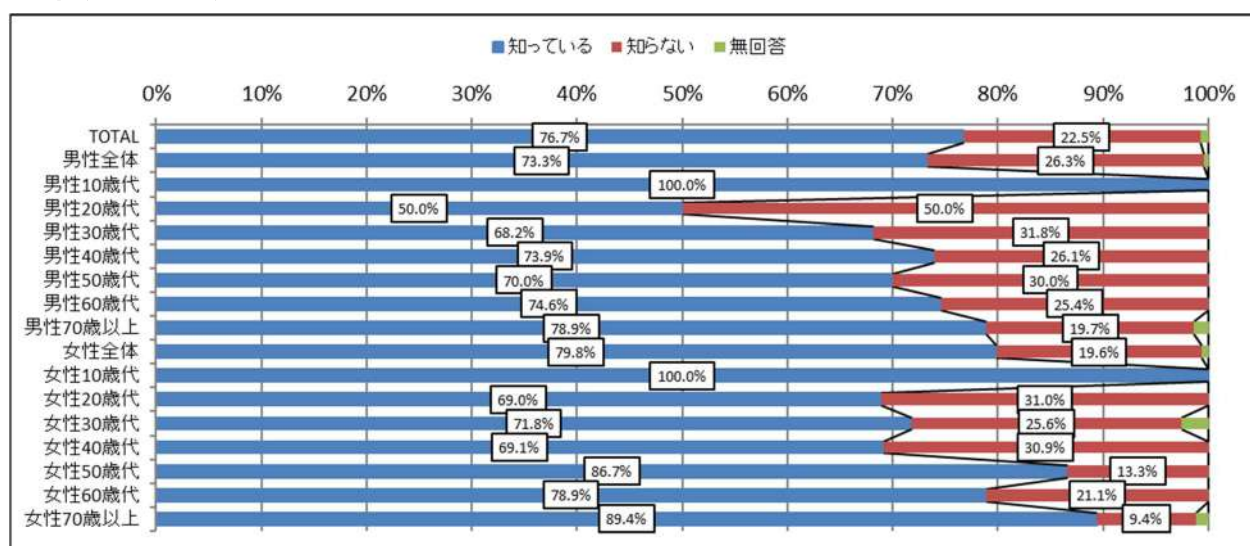
「知っている」と回答した人の割合は 76.7%、「知らない」と回答した人の割合は 22.5% となっています。

また、地震発生時の避難所・避難場所を知っているという人が大多数を占めているものの、まだ 22.5%の人が知らない状況であることから、引き続き避難所・避難場所の周知徹底が求められます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は 77.7%であり、前年度アンケートと比較して、微減したことがうかがえます。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	675	76.7%	22.5%	0.7%	100.0%
男性全体	266	73.3%	26.3%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	68.2%	31.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	73.9%	26.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	70.0%	30.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	74.6%	25.4%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	78.9%	19.7%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	—	—	—	—	—
女性全体	347	79.8%	19.6%	0.6%	100.0%
女性 10 歳代	5	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	69.0%	31.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	71.8%	25.6%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	69.1%	30.9%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	86.7%	13.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	78.9%	21.1%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	89.4%	9.4%	1.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	68.7%	31.3%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	86.9%	13.1%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	79.7%	20.3%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	66.7%	26.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	81.8%	18.2%	0.0%	100.0%
八基地区	21	85.7%	14.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	87.5%	12.5%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	78.1%	20.5%	1.4%	100.0%
南地区	41	92.7%	7.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	82	76.8%	23.2%	0.0%	100.0%
川本地区	66	72.7%	25.8%	1.5%	100.0%
花園地区	45	68.9%	28.9%	2.2%	100.0%
無回答	15	66.7%	26.7%	6.7%	100.0%

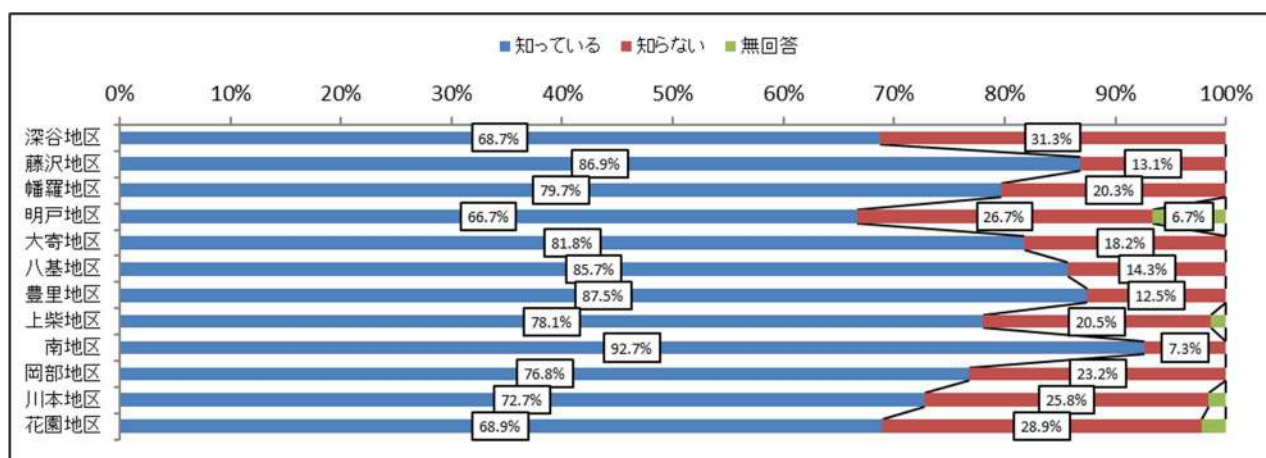
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は男性が 73.3%であるのに対して、女性は 79.8%となっています。

また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに 20 歳代（男性 50.0%、女性 69.0%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに 10 歳代（男性 100.0%、女性 100.0%）となっています。

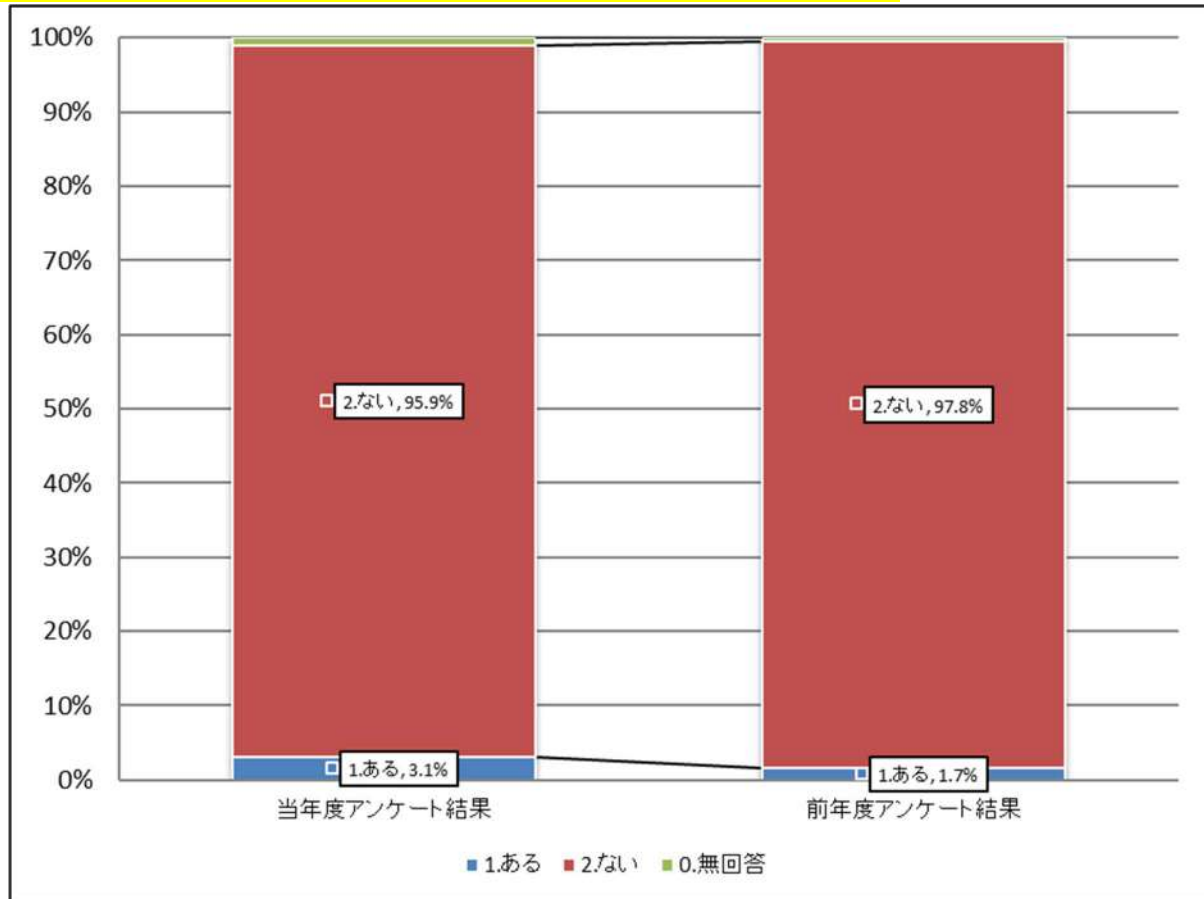
➤ 地区別



地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区（66.7%）であり、次いで深谷地区（68.7%）となっています。最も多いのは、南地区（92.7%）であり、次いで豊里地区（87.5%）となっています。

②くらしの安全対策の推進（５．問４～５）

この１年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。



「ある」と回答した人の割合は 3.1%、「ない」と回答した人の割合は 95.9%となっており、この１年間で消費者トラブルに巻き込まれた人はほとんどいないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある」と回答した人の割合は 1.7%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	675	3.1%	95.9%	1.0%	100.0%
男性全体	266	4.1%	95.5%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	6.3%	93.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	4.5%	95.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	6.5%	93.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	5.0%	95.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	4.8%	95.2%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	1.3%	97.4%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	347	2.6%	96.5%	0.9%	100.0%
女性 10 歳代	5	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	3.4%	96.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	5.1%	92.3%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	1.8%	98.2%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	3.3%	96.7%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	2.8%	97.2%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	1.2%	96.5%	2.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	6.1%	93.9%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	1.6%	98.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	2.7%	95.9%	1.4%	100.0%
明戸地区	15	6.7%	86.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
八基地区	21	4.8%	95.2%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	2.7%	95.9%	1.4%	100.0%
南地区	41	2.4%	95.1%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
川本地区	66	3.0%	95.5%	1.5%	100.0%
花園地区	45	4.4%	93.3%	2.2%	100.0%
無回答	15	0.0%	93.3%	6.7%	100.0%

➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ある」と回答した人の割合は男性が 4.1%であるのに対して、女性は 2.6%となっています。

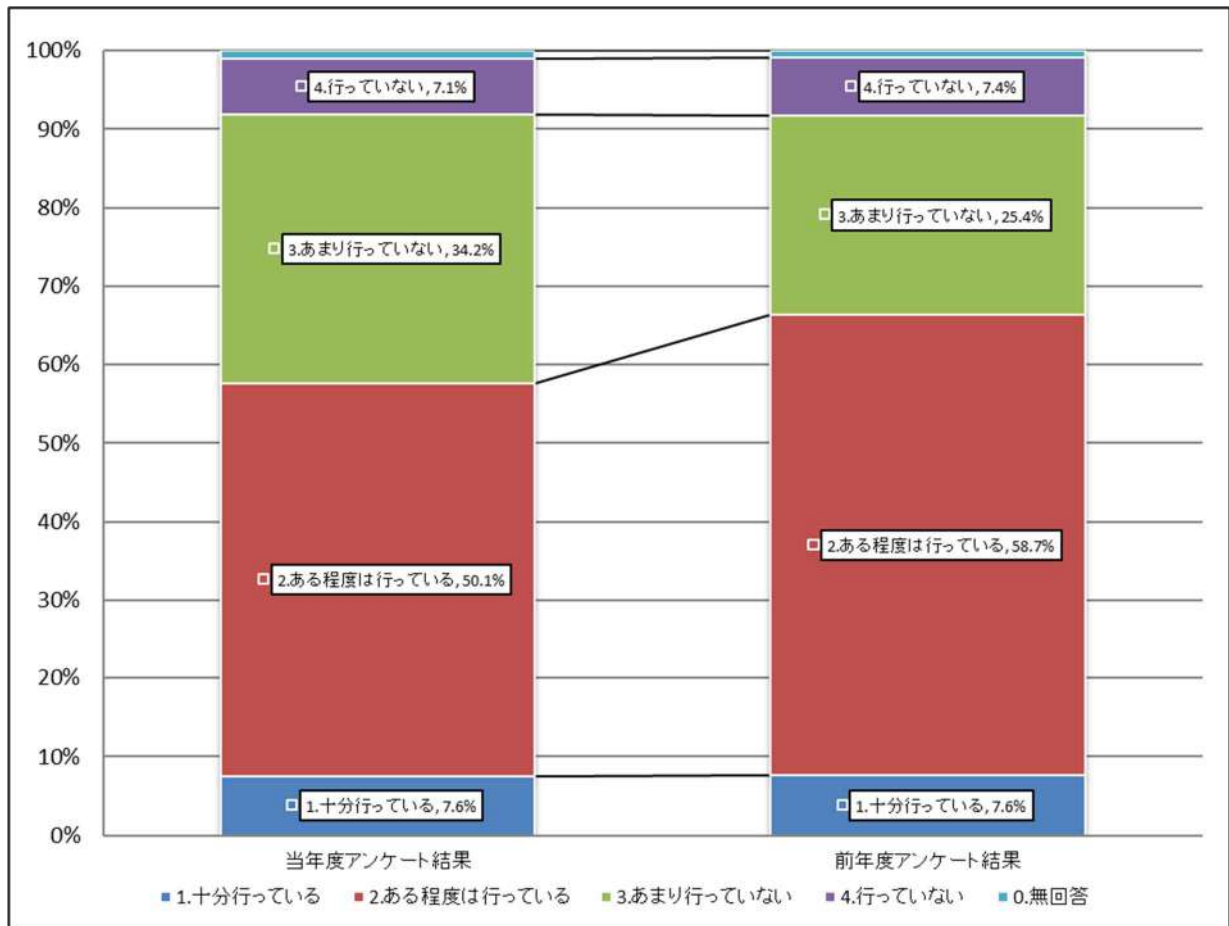
また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに 10 歳代で (0.0%)、となっています。一方でこの割合が最も多い世代は、男性が 40 歳代 (6.5%) であり、女性が 30 歳代 (5.1%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区、豊里地区、岡部地区 (0.0%) の 3 地区であり、次いで藤沢地区 (1.6%) となっています。最も多いのは、明戸地区 (6.7%) であり、次いで深谷地区 (6.1%) となっています。

日ごろ、防犯対策を行っていますか。



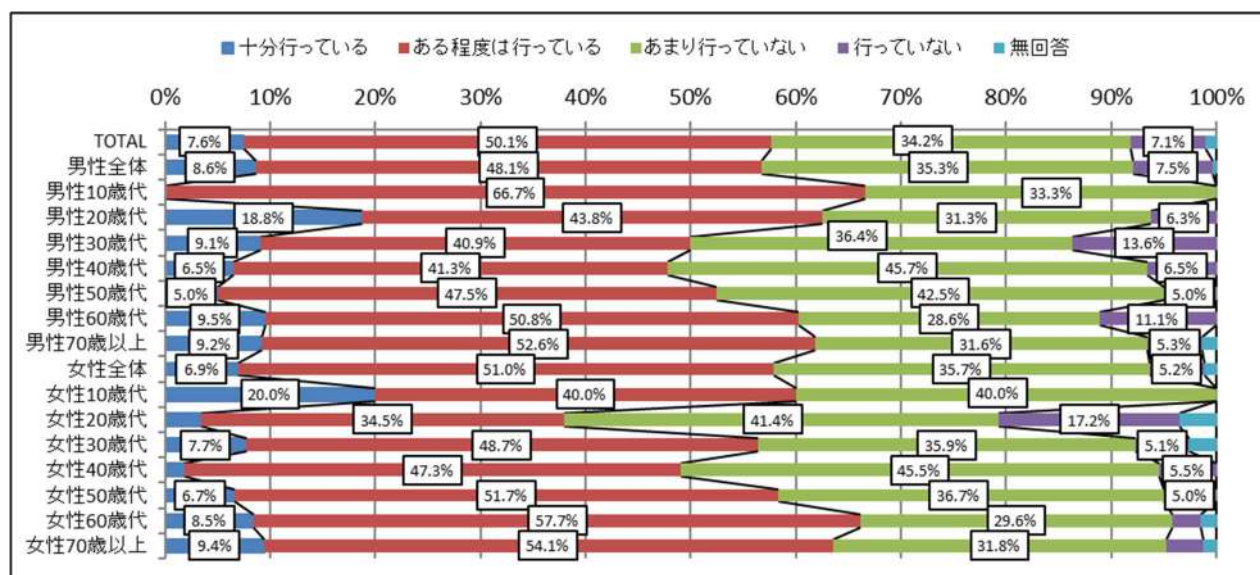
「ある程度は行っている」と回答した人の割合が 50.1%と最も多く、次いで「あまり行っていない」と回答した人の割合が 34.2%、「十分行っている」と回答した人の割合が 7.6%、「行っていない」と回答した人の割合が最も少なく 7.1%となっています。

「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合は 57.7%であり、市民の約 6 割は、日ごろから防犯対策を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合は 66.3%であり、前年度アンケートと比較して、大きく減少していることがうかがえます。

母集団		十分行っている	ある程度は 行っている	行っていない あまり	行っていない	無回答	合計
TOTAL	675	7.6%	50.1%	34.2%	7.1%	1.0%	100.0%
男性全体	266	8.6%	48.1%	35.3%	7.5%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	18.8%	43.8%	31.3%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	9.1%	40.9%	36.4%	13.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	6.5%	41.3%	45.7%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	5.0%	47.5%	42.5%	5.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	9.5%	50.8%	28.6%	11.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	9.2%	52.6%	31.6%	5.3%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	6.9%	51.0%	35.7%	5.2%	1.2%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	3.4%	34.5%	41.4%	17.2%	3.4%	100.0%
女性 30 歳代	39	7.7%	48.7%	35.9%	5.1%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	1.8%	47.3%	45.5%	5.5%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	6.7%	51.7%	36.7%	5.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	8.5%	57.7%	29.6%	2.8%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	9.4%	54.1%	31.8%	3.5%	1.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	4.1%	51.0%	34.7%	10.2%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	8.2%	37.7%	47.5%	6.6%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	13.5%	60.8%	20.3%	5.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	6.7%	46.7%	26.7%	13.3%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	9.1%	36.4%	36.4%	18.2%	0.0%	100.0%
八基地区	21	9.5%	57.1%	28.6%	4.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	8.3%	58.3%	25.0%	8.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	9.6%	42.5%	38.4%	8.2%	1.4%	100.0%
南地区	41	4.9%	56.1%	34.1%	0.0%	4.9%	100.0%
岡部地区	82	7.3%	48.8%	37.8%	6.1%	0.0%	100.0%
川本地区	66	9.1%	53.0%	30.3%	6.1%	1.5%	100.0%
花園地区	45	4.4%	46.7%	42.2%	4.4%	2.2%	100.0%
無回答	15	6.7%	53.3%	26.7%	6.7%	6.7%	100.0%

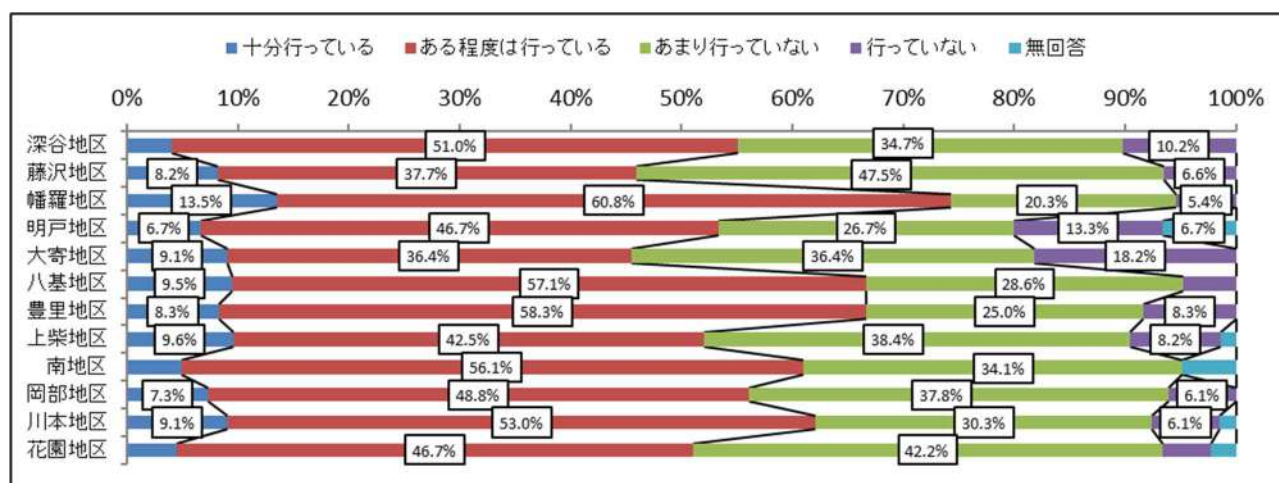
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合は男性が56.7%であるのに対して、女性は57.9%となっています。

また、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性40歳代（47.8%）、女性20歳代（37.9%）であり、一方で最も多い世代は、男性10歳代（66.7%）、女性60歳代（66.2%）となっています。

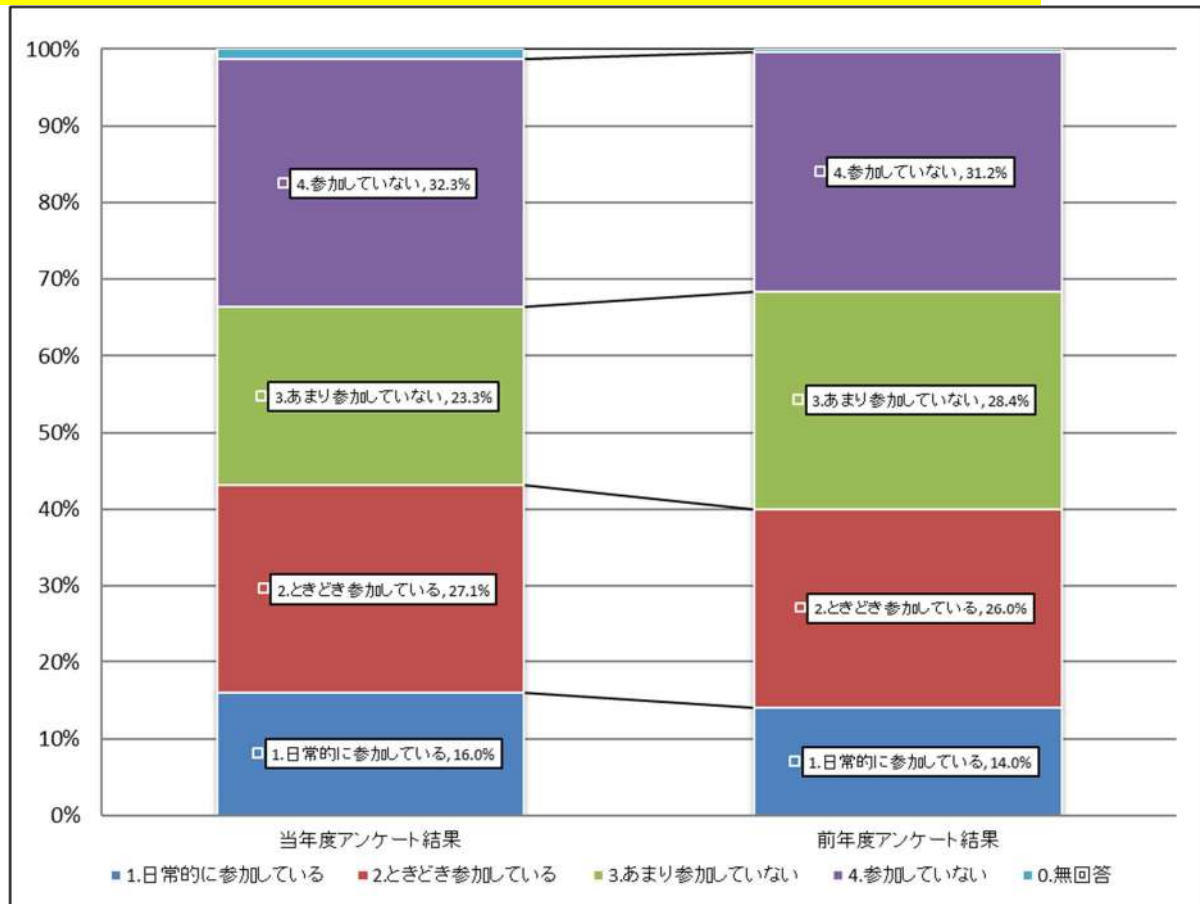
➤ 地区別



地区別にみると、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（45.5%）であり、次いで藤沢地区（45.9%）となっています。最も多いのは、幡羅地区（74.3%）であり、次いで八基地区・豊里地区（66.6%）となっています。

③絆でつながるひとづくり（5. 問6）

地域活動（自治会や町内会での活動など）への程度参加していますか。



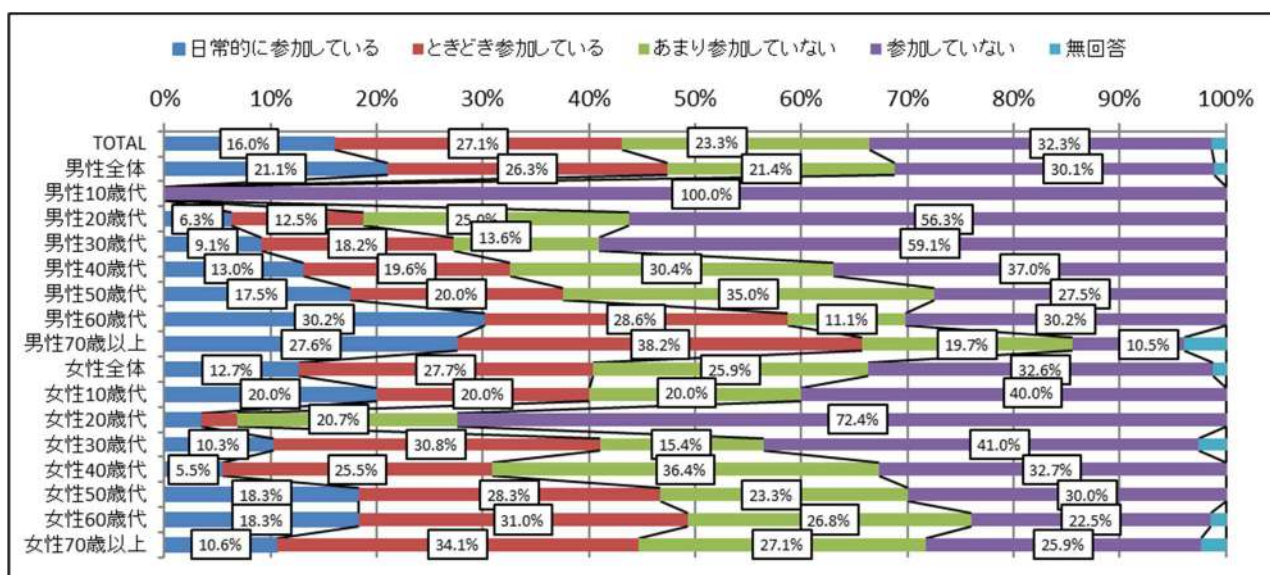
「参加していない」と回答した人の割合が 32.3%と最も多く、次いで「ときどき参加している」と回答した人の割合が 27.1%、「あまり参加していない」と回答した人の割合が 23.3%、「日常的に参加している」と回答した人の割合は最も少なく 16.0%となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は 43.1%であり、自治会や町内会での活動などの地域活動に参加している市民は 4 割以上いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は 40.0%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		日常的に参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	参加していない	無回答	合計
TOTAL	675	16.0%	27.1%	23.3%	32.3%	1.3%	100.0%
男性全体	266	21.1%	26.3%	21.4%	30.1%	1.1%	100.0%
男性 10 歳代	3	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	6.3%	12.5%	25.0%	56.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	9.1%	18.2%	13.6%	59.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	13.0%	19.6%	30.4%	37.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	17.5%	20.0%	35.0%	27.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	30.2%	28.6%	11.1%	30.2%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	27.6%	38.2%	19.7%	10.5%	3.9%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	12.7%	27.7%	25.9%	32.6%	1.2%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	3.4%	3.4%	20.7%	72.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	10.3%	30.8%	15.4%	41.0%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	5.5%	25.5%	36.4%	32.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	18.3%	28.3%	23.3%	30.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	18.3%	31.0%	26.8%	22.5%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	10.6%	34.1%	27.1%	25.9%	2.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	8.8%	17.0%	24.5%	49.0%	0.7%	100.0%
藤沢地区	61	24.6%	36.1%	18.0%	21.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	9.5%	28.4%	27.0%	33.8%	1.4%	100.0%
明戸地区	15	13.3%	46.7%	6.7%	26.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	9.1%	36.4%	18.2%	36.4%	0.0%	100.0%
八基地区	21	52.4%	23.8%	23.8%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	20.8%	45.8%	12.5%	16.7%	4.2%	100.0%
上柴地区	73	12.3%	27.4%	23.3%	35.6%	1.4%	100.0%
南地区	41	4.9%	24.4%	41.5%	29.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	82	13.4%	28.0%	23.2%	35.4%	0.0%	100.0%
川本地区	66	27.3%	30.3%	19.7%	21.2%	1.5%	100.0%
花園地区	45	26.7%	26.7%	24.4%	20.0%	2.2%	100.0%
無回答	15	13.3%	20.0%	13.3%	40.0%	13.3%	100.0%

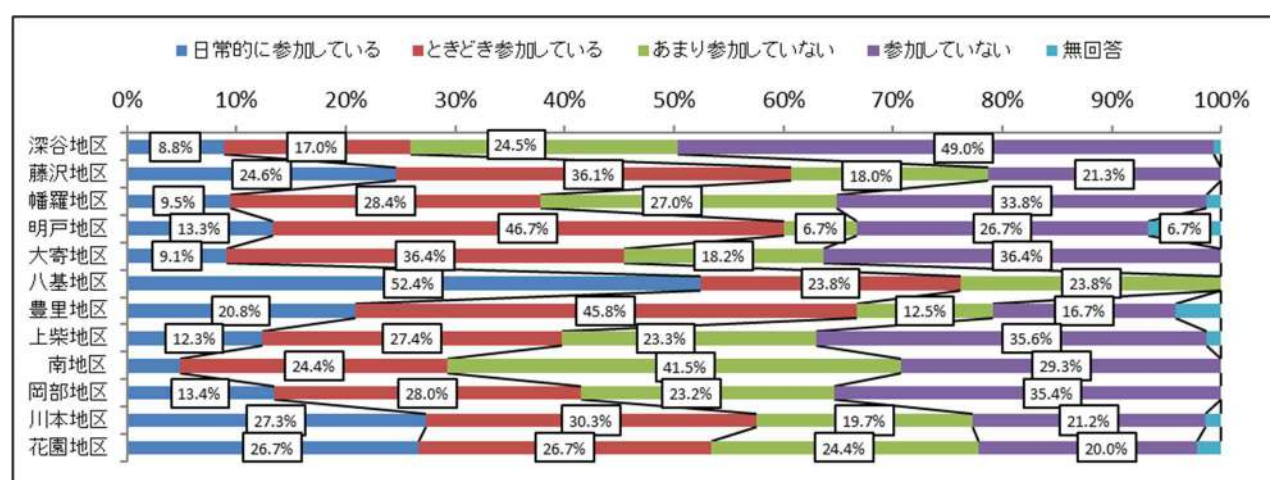
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は男性が47.4%であるのに対して、女性は40.4%となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性10歳代（0.0%）、女性20歳代（6.8%）であり、一方で最も多い世代は、男性70歳以上（65.8%）、女性60歳代（49.3%）となっています。

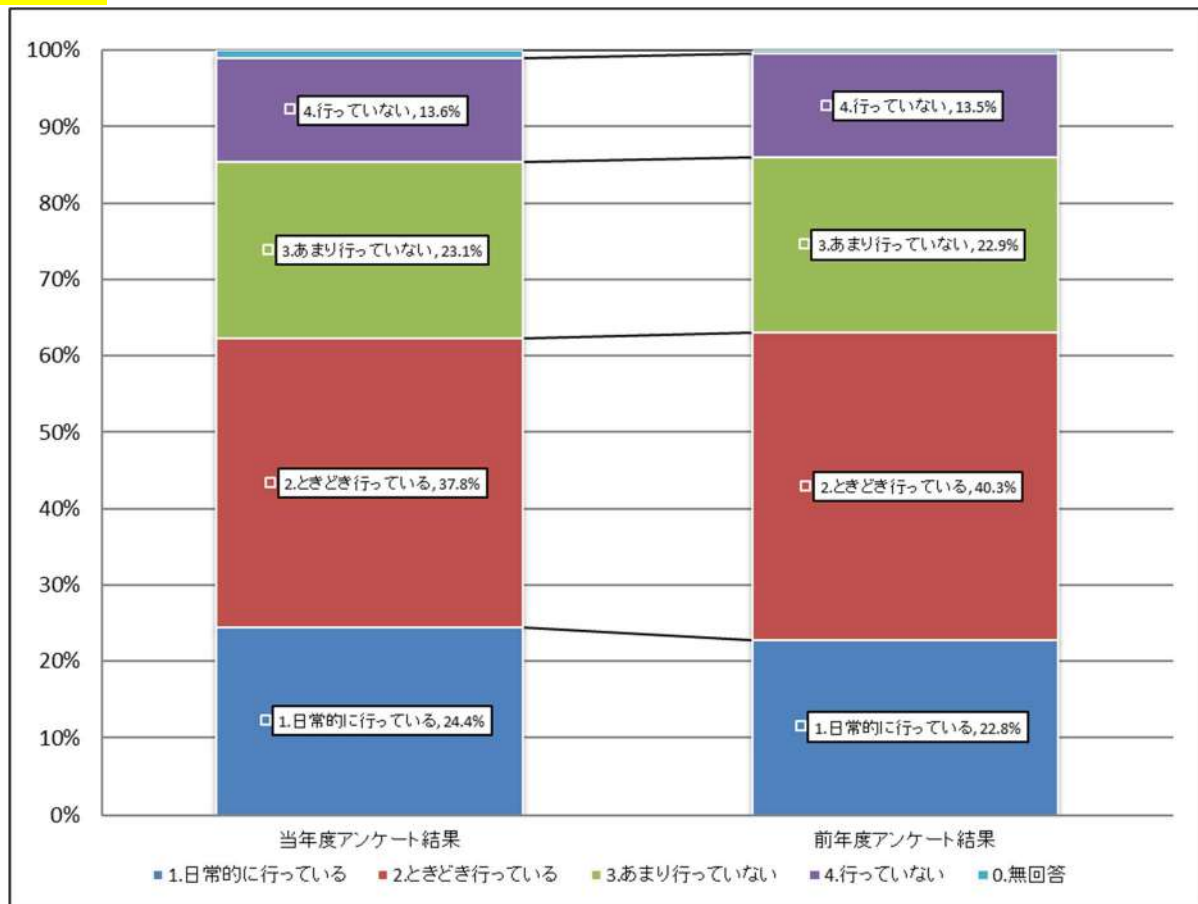
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ないのは、深谷地区（25.8%）であり、次いで南地区（29.3%）となっています。最も多いのは、八基地区（76.2%）であり、次いで豊里地区（66.6%）となっています。

④生活環境の保全と配慮（５．問７～９）

環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っていますか。



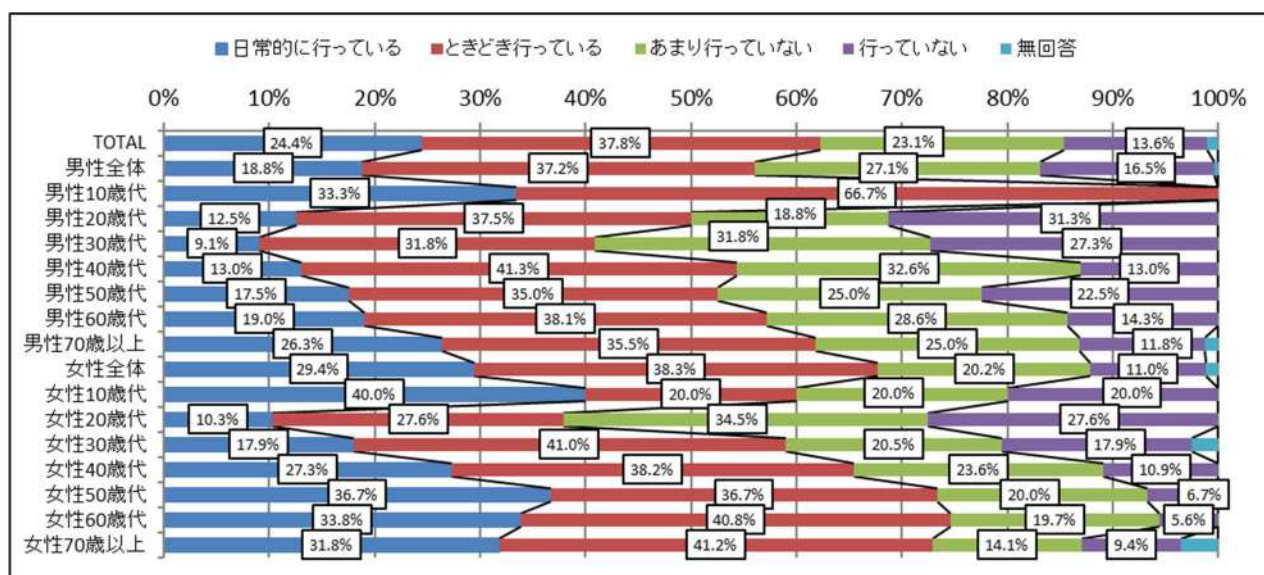
「ときどき行っている」と回答した人の割合が 37.8%と最も多く、次いで「日常的に行っている」と回答した人の割合が 24.4%、「あまり行っていない」と回答した人の割合は 23.1%、「行っていない」と回答した人の割合が最も少なく 13.6%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は、62.2%であり、6割以上の方が、環境に配慮した取組を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は、63.1%であり、前年度アンケートと比較して、微減していることがうかがえます。

母集団		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	675	24.4%	37.8%	23.1%	13.6%	1.0%	100.0%
男性全体	266	18.8%	37.2%	27.1%	16.5%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	12.5%	37.5%	18.8%	31.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	9.1%	31.8%	31.8%	27.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	13.0%	41.3%	32.6%	13.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	17.5%	35.0%	25.0%	22.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	19.0%	38.1%	28.6%	14.3%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	26.3%	35.5%	25.0%	11.8%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	29.4%	38.3%	20.2%	11.0%	1.2%	100.0%
女性 10 歳代	5	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	10.3%	27.6%	34.5%	27.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	17.9%	41.0%	20.5%	17.9%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	27.3%	38.2%	23.6%	10.9%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	36.7%	36.7%	20.0%	6.7%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	33.8%	40.8%	19.7%	5.6%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	31.8%	41.2%	14.1%	9.4%	3.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	19.7%	40.8%	21.8%	17.7%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	24.6%	47.5%	16.4%	11.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	32.4%	40.5%	13.5%	13.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	20.0%	26.7%	40.0%	6.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	18.2%	27.3%	18.2%	36.4%	0.0%	100.0%
八基地区	21	38.1%	38.1%	23.8%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	37.5%	20.8%	25.0%	16.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	21.9%	31.5%	30.1%	15.1%	1.4%	100.0%
南地区	41	24.4%	36.6%	34.1%	4.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	82	28.0%	31.7%	28.0%	11.0%	1.2%	100.0%
川本地区	66	21.2%	42.4%	16.7%	16.7%	3.0%	100.0%
花園地区	45	17.8%	42.2%	22.2%	15.6%	2.2%	100.0%
無回答	15	26.7%	33.3%	33.3%	0.0%	6.7%	100.0%

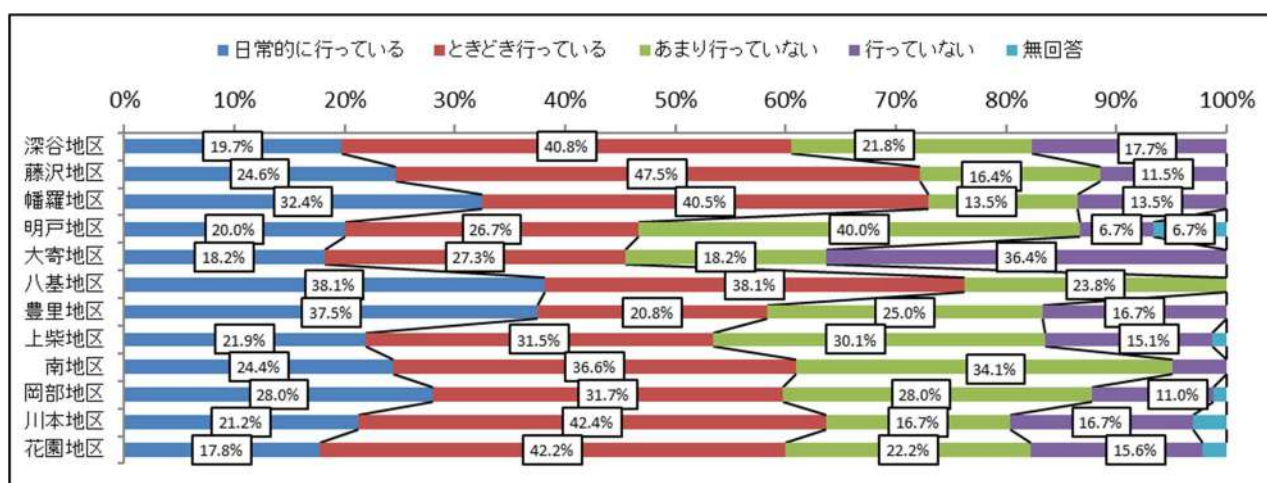
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は男性が56.0%であるのに対して、女性は67.7%となっています。

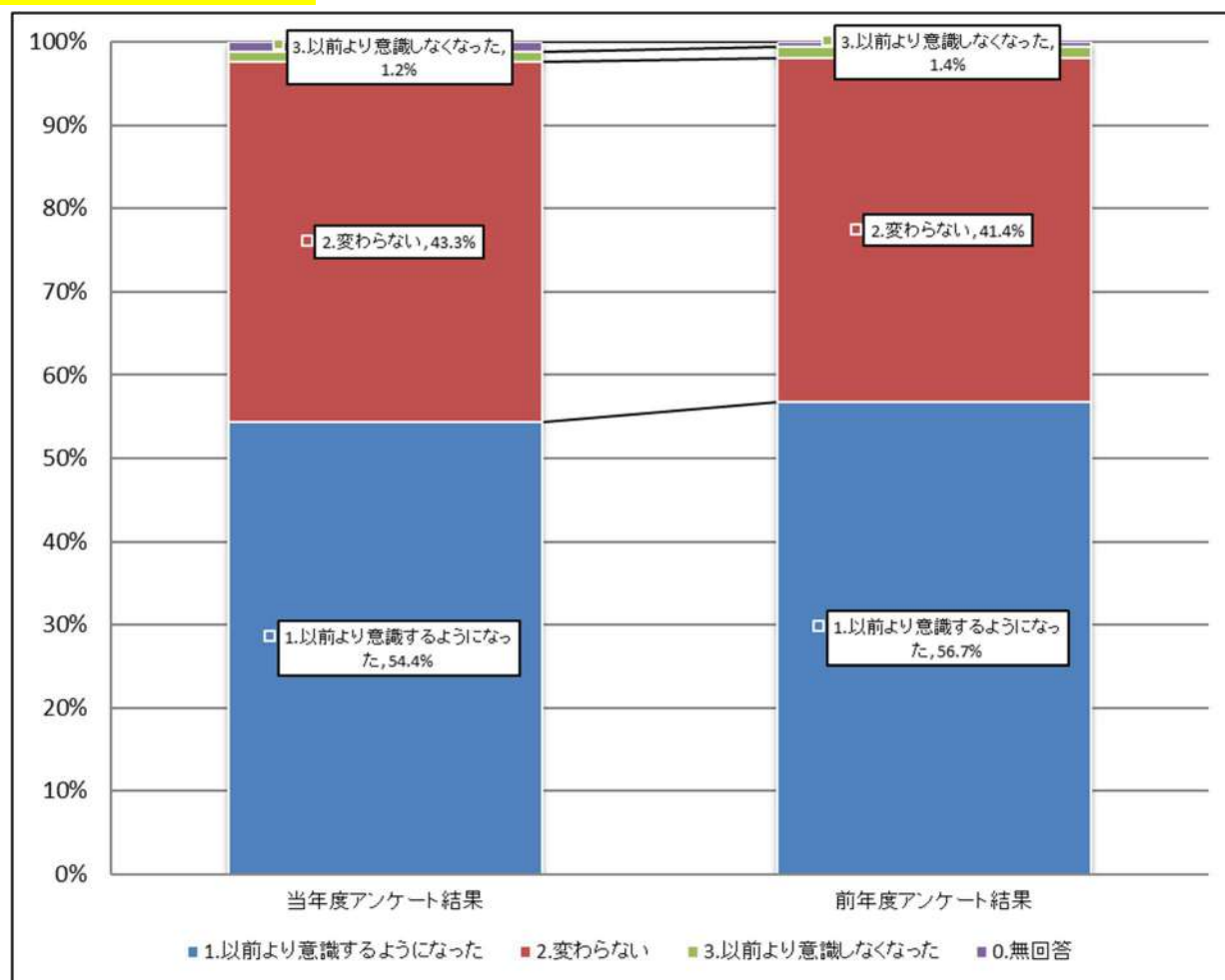
「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性30歳代（40.9%）、女性20歳代（37.9%）となっています。一方で、最も多い世代は、男性10歳代（100.0%）、女性60歳代（74.6%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、大寄地区（45.5%）であり、次いで明戸地区（46.7%）となっています。最も多い地区は、八基地区（76.2%）であり、次いで幡羅地区（72.9%）となっています。

環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになりましたか。



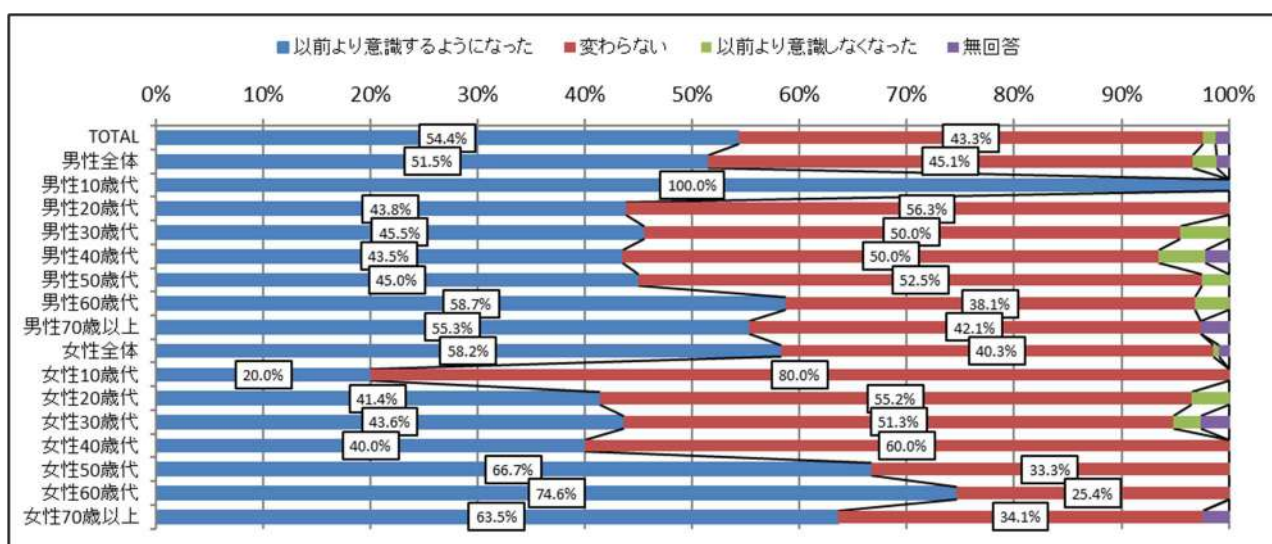
「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 54.4%と最も多く、次いで、「変わらない」と回答した人の割合が 43.3%となっています。

「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合は 1.2%とごくわずかであり、多くの市民が環境問題について、関心を持っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 56.7%であり、前年度アンケートと比較して、減少していることがうかがえます。

母集団		意識するようになった 以前より	変わらない	意識しなくなった 以前より	無回答	合計
TOTAL	675	54.4%	43.3%	1.2%	1.2%	100.0%
男性全体	266	51.5%	45.1%	2.3%	1.1%	100.0%
男性 10 歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	43.8%	56.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	45.5%	50.0%	4.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	43.5%	50.0%	4.3%	2.2%	100.0%
男性 50 歳代	40	45.0%	52.5%	2.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	58.7%	38.1%	3.2%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	55.3%	42.1%	0.0%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—
女性全体	347	58.2%	40.3%	0.6%	0.9%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	41.4%	55.2%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	43.6%	51.3%	2.6%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	74.6%	25.4%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	63.5%	34.1%	0.0%	2.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	52.4%	46.3%	1.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	57.4%	37.7%	4.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	58.1%	40.5%	1.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	53.3%	33.3%	6.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	18.2%	72.7%	0.0%	9.1%	100.0%
八基地区	21	76.2%	23.8%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	54.2%	41.7%	4.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	47.9%	49.3%	0.0%	2.7%	100.0%
南地区	41	58.5%	39.0%	0.0%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	54.9%	45.1%	0.0%	0.0%	100.0%
川本地区	66	57.6%	40.9%	0.0%	1.5%	100.0%
花園地区	45	51.1%	46.7%	0.0%	2.2%	100.0%
無回答	15	53.3%	40.0%	0.0%	6.7%	100.0%

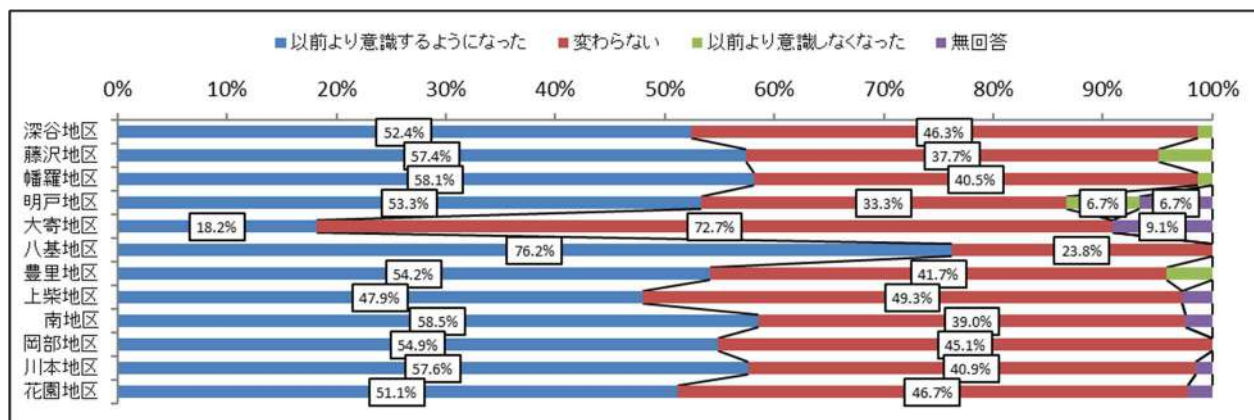
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は男性が51.5%であるのに対して、女性は58.2%となっています。

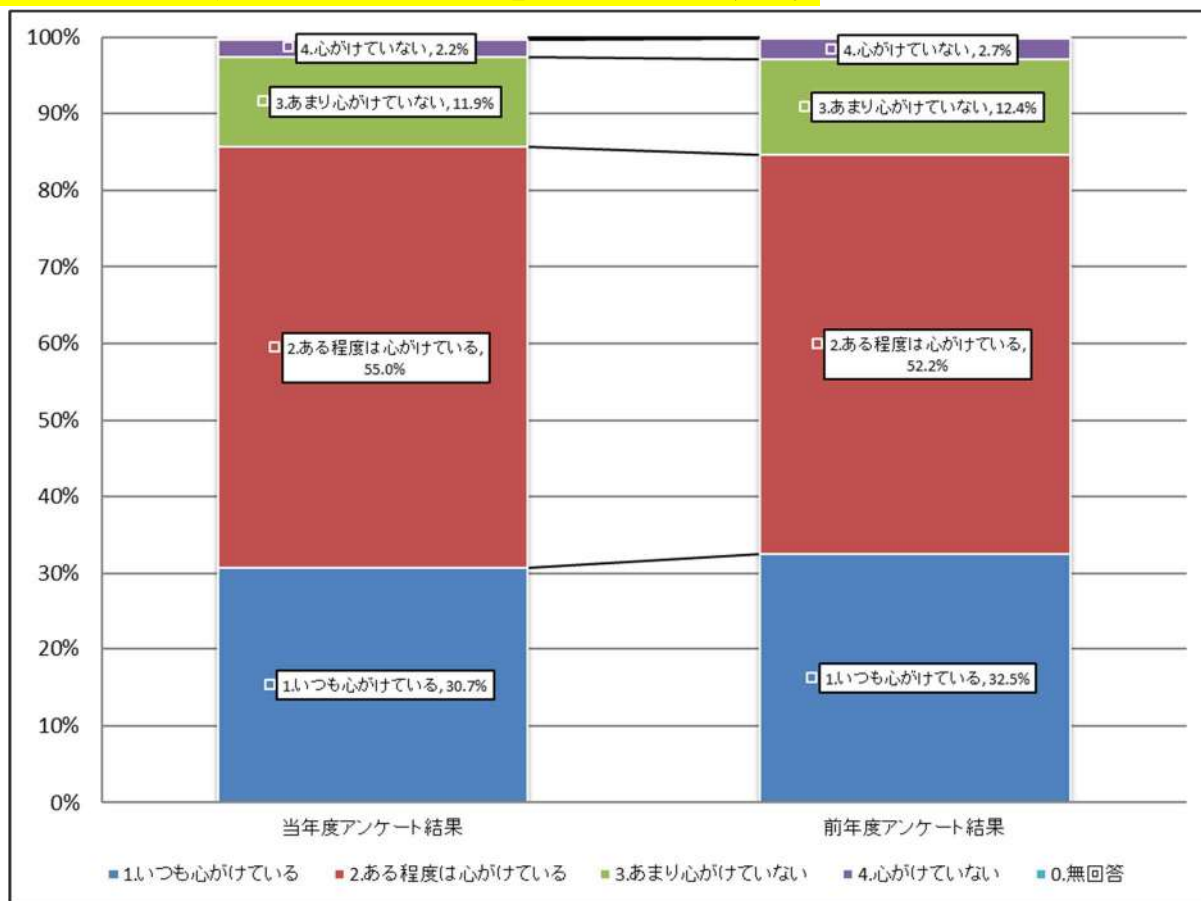
また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性40歳代（43.5%）、女性10歳代（20.0%）となっています。一方で、最も多い世代は、男性10歳代（100.0%）、女性60歳代（74.6%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない地区は、大寄地区（18.2%）であり、次いで上柴地区（47.9%）となっています。最も多い地区は、八基地区（76.2%）であり、次いで南地区（58.5%）となっています。

普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていますか。



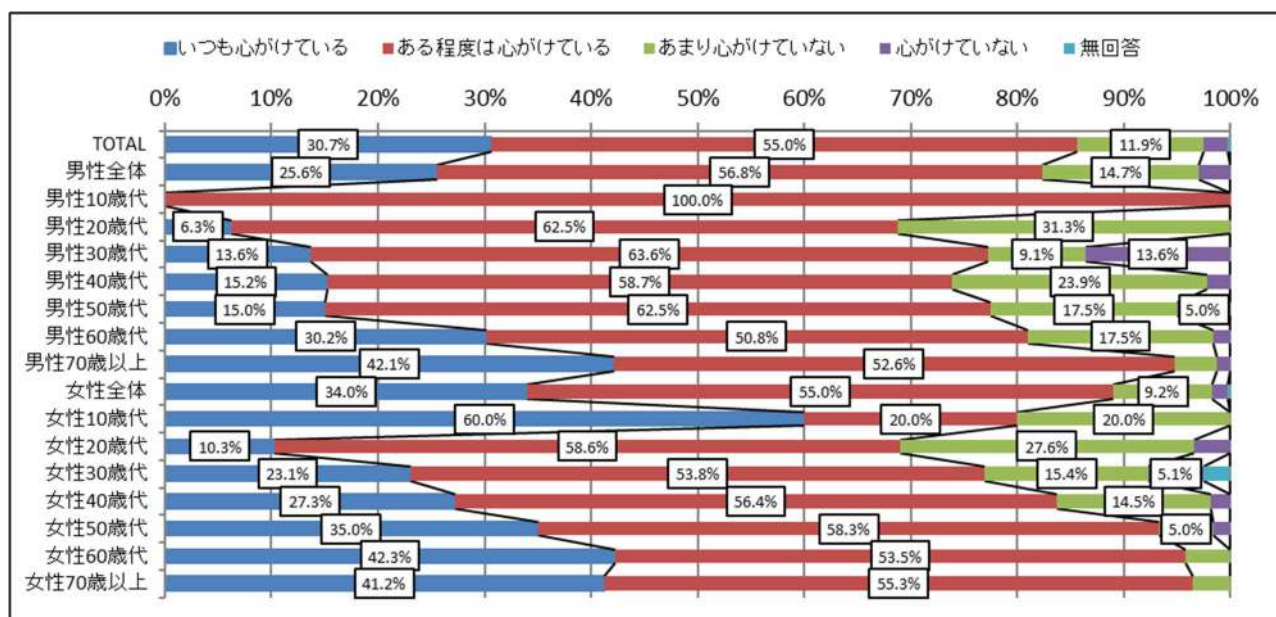
「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が 55.0%と最も多く、次いで、「いつも心がけている」と回答した人の割合が 30.7%、「あまり心がけていない」と回答した人の割合が 11.9%、「心がけていない」と回答した人の割合が最も少なく 2.2%となっています。

「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合は 85.7%であり、大多数の市民がごみの減量化やリサイクルを心がけていることがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合は 84.7%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		いつも心がけている	ある程度は心がけている	あまり心がけていない	心がけていない	無回答	合計
TOTAL	675	30.7%	55.0%	11.9%	2.2%	0.3%	100.0%
男性全体	266	25.6%	56.8%	14.7%	3.0%	0.0%	100.0%
男性 10 歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	6.3%	62.5%	31.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	13.6%	63.6%	9.1%	13.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	15.2%	58.7%	23.9%	2.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	15.0%	62.5%	17.5%	5.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	30.2%	50.8%	17.5%	1.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	42.1%	52.6%	3.9%	1.3%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	34.0%	55.0%	9.2%	1.4%	0.3%	100.0%
女性 10 歳代	5	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	10.3%	58.6%	27.6%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	23.1%	53.8%	15.4%	5.1%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	27.3%	56.4%	14.5%	1.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	35.0%	58.3%	5.0%	1.7%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	42.3%	53.5%	4.2%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	41.2%	55.3%	3.5%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	29.3%	58.5%	9.5%	2.7%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	32.8%	52.5%	13.1%	1.6%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	39.2%	48.6%	9.5%	2.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	13.3%	73.3%	0.0%	6.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	18.2%	27.3%	54.5%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	21	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	37.5%	45.8%	12.5%	4.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	26.0%	49.3%	20.5%	4.1%	0.0%	100.0%
南地区	41	26.8%	63.4%	9.8%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	82	30.5%	54.9%	13.4%	1.2%	0.0%	100.0%
川本地区	66	30.3%	53.0%	15.2%	1.5%	0.0%	100.0%
花園地区	45	24.4%	68.9%	4.4%	2.2%	0.0%	100.0%
無回答	15	46.7%	46.7%	0.0%	0.0%	6.7%	100.0%

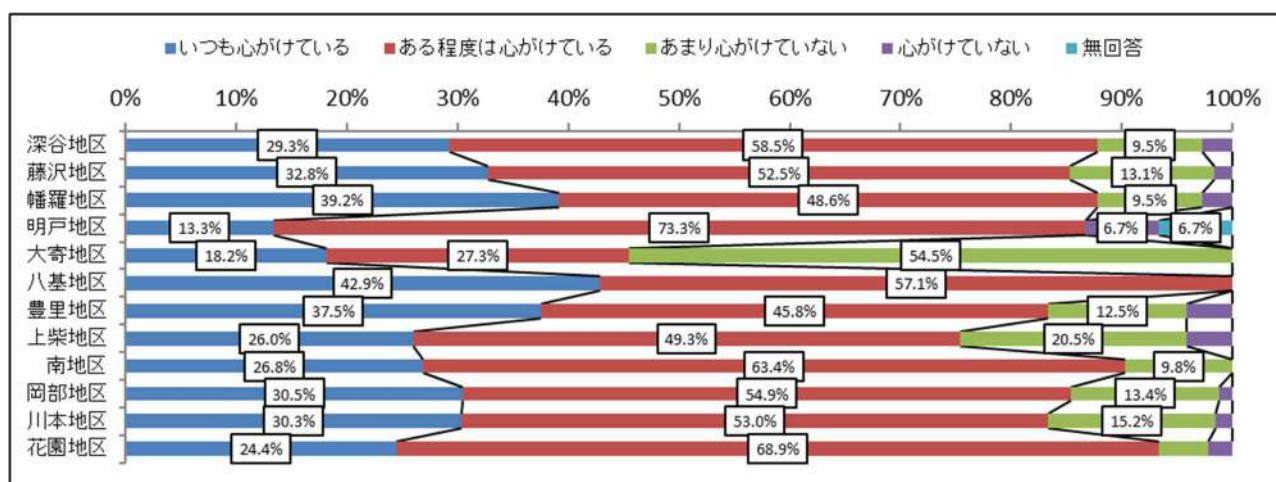
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合は男性が82.4%であるのに対して、女性は89.0%となっています。

また、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに20歳代（男性68.8%、女性68.9%）となっています。一方で、最も多い世代は、男性10歳代（100.0%）、女性70歳以上（96.5%）となっています。

➤ 地区別

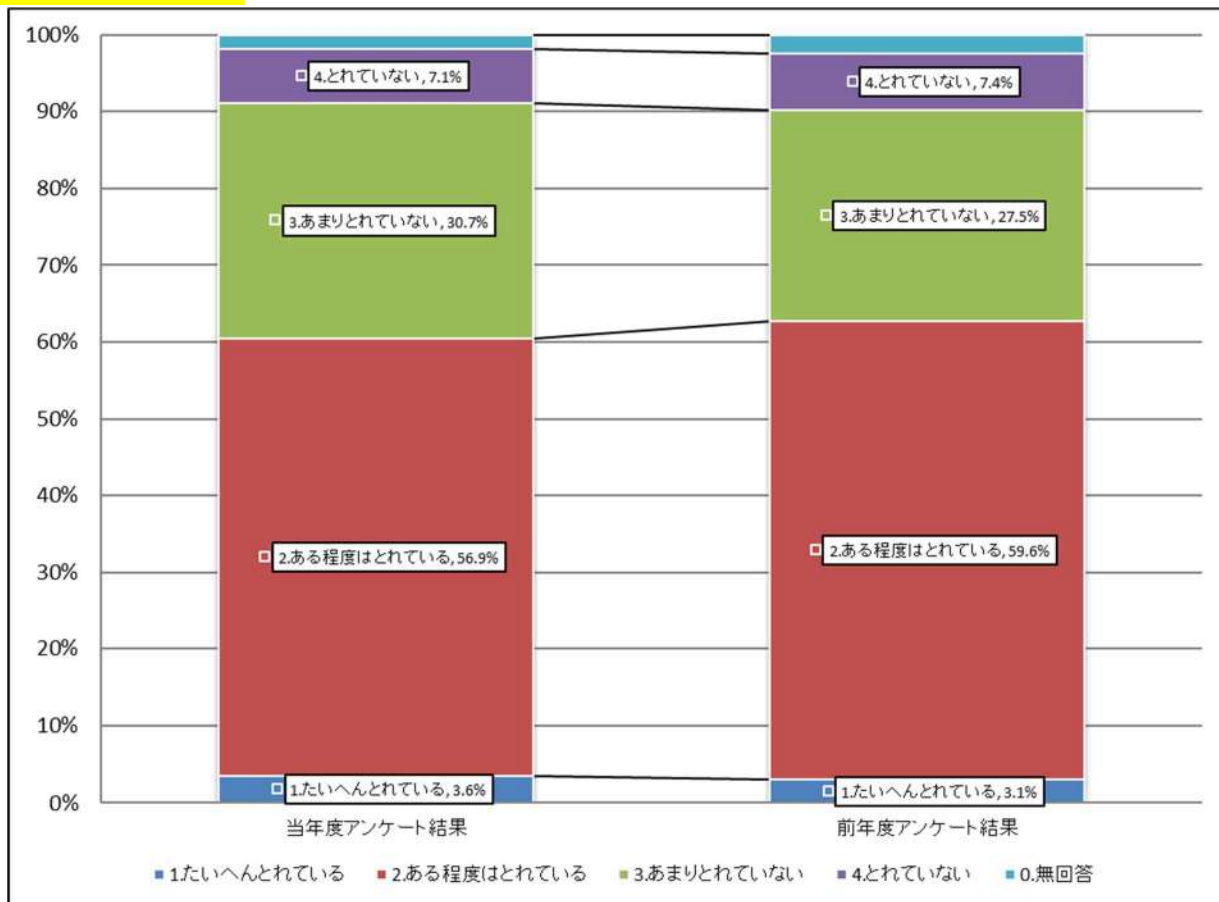


地区別にみると、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、大寄地区（45.5%）であり、次いで上柴地区（75.3%）となっています。最も多い地区は、八基地区（100.0%）であり、次いで花園地区（93.3%）となっています。

(6) 都市・生活基盤について

①快適な空間と景観づくり（6. 問1～4）

市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思いますか。



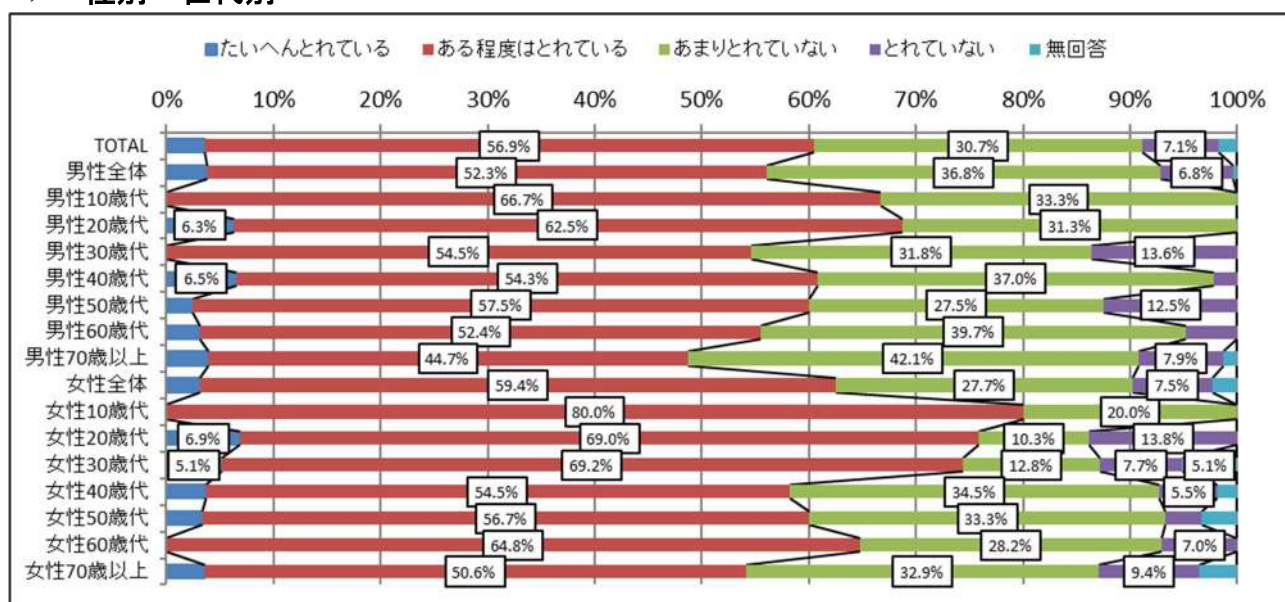
「ある程度はとれている」と回答した人の割合が 56.9%と最も多く、次いで「あまりとれていない」と回答した人の割合が 30.7%、「とれていない」と回答した人の割合が 7.1%、「たいへんとれている」と回答した人の割合が最も少なく 3.6%となっています。

「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合は 60.5%であり、約 6 割の人が、土地利用について調和がとれていると考えていることがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「ある程度はとれている」と回答した人の割合は 62.7%であり、前年度アンケートと比較して減少していることがうかがえます。

母集団		たいへんとれている	ある程度はとれている	あまりとれていない	とれていない	無回答	合計
TOTAL	675	3.6%	56.9%	30.7%	7.1%	1.8%	100.0%
男性全体	266	3.8%	52.3%	36.8%	6.8%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	6.3%	62.5%	31.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	0.0%	54.5%	31.8%	13.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	6.5%	54.3%	37.0%	2.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	2.5%	57.5%	27.5%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	3.2%	52.4%	39.7%	4.8%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	3.9%	44.7%	42.1%	7.9%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	3.2%	59.4%	27.7%	7.5%	2.3%	100.0%
女性 10 歳代	5	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	6.9%	69.0%	10.3%	13.8%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	5.1%	69.2%	12.8%	7.7%	5.1%	100.0%
女性 40 歳代	55	3.6%	54.5%	34.5%	5.5%	1.8%	100.0%
女性 50 歳代	60	3.3%	56.7%	33.3%	3.3%	3.3%	100.0%
女性 60 歳代	71	0.0%	64.8%	28.2%	7.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	3.5%	50.6%	32.9%	9.4%	3.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	6.1%	57.8%	26.5%	6.8%	2.7%	100.0%
藤沢地区	61	3.3%	54.1%	32.8%	9.8%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	5.4%	60.8%	31.1%	2.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	0.0%	46.7%	40.0%	6.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	45.5%	36.4%	18.2%	0.0%	100.0%
八基地区	21	4.8%	38.1%	52.4%	4.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	8.3%	41.7%	41.7%	8.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	1.4%	65.8%	23.3%	6.8%	2.7%	100.0%
南地区	41	0.0%	70.7%	24.4%	2.4%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	0.0%	53.7%	35.4%	9.8%	1.2%	100.0%
川本地区	66	7.6%	42.4%	33.3%	13.6%	3.0%	100.0%
花園地区	45	0.0%	73.3%	24.4%	2.2%	0.0%	100.0%
無回答	15	0.0%	60.0%	33.3%	0.0%	6.7%	100.0%

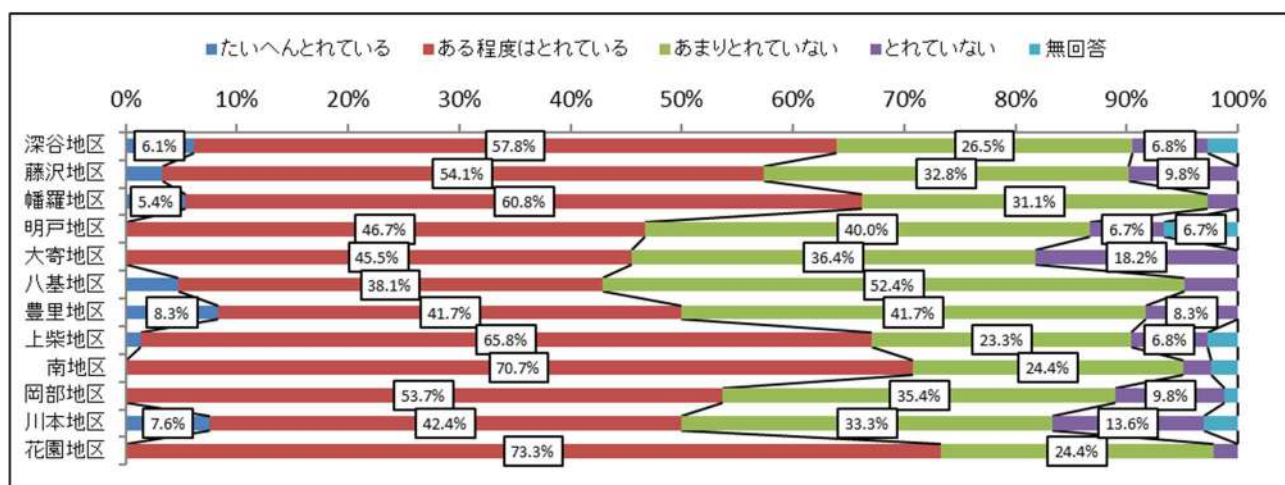
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんとれていてる」または「ある程度はとれていてる」と回答した人の割合は男性が56.1%であるのに対して、女性は62.6%となっています。

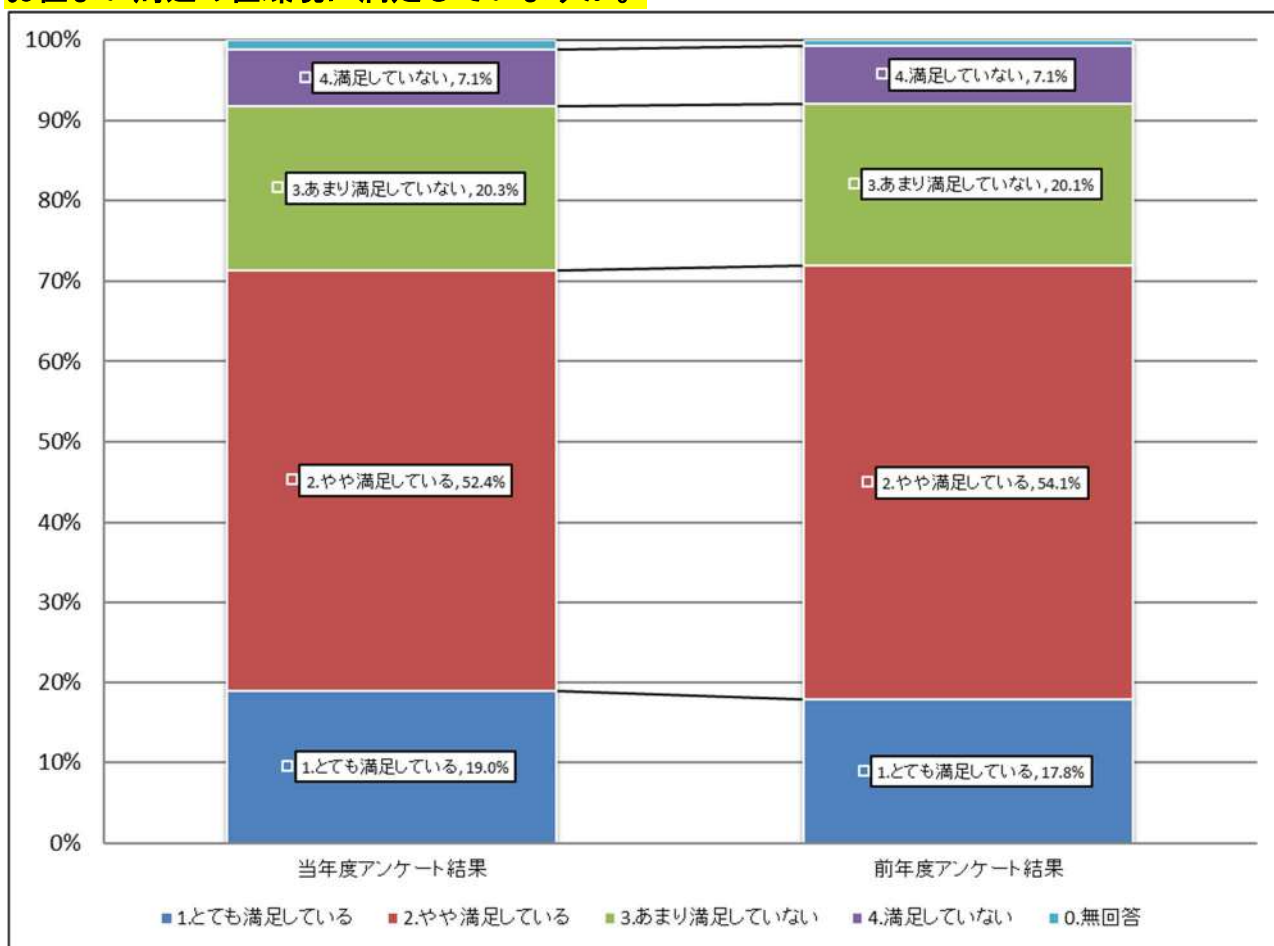
また、「たいへんとれていてる」または「ある程度はとれていてる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに70歳以上（男性48.6%、女性54.1%）であり、一方で最も多い世代は、男性が20歳代（68.8%）、女性が10歳代（80.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんとれていてる」または「ある程度はとれていてる」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区（42.9%）であり、次いで大寄地区（45.5%）となっています。最も多いのは、花園地区（73.3%）であり、次いで南地区（70.7%）となっています。

お住まい周辺の住環境に満足していますか。



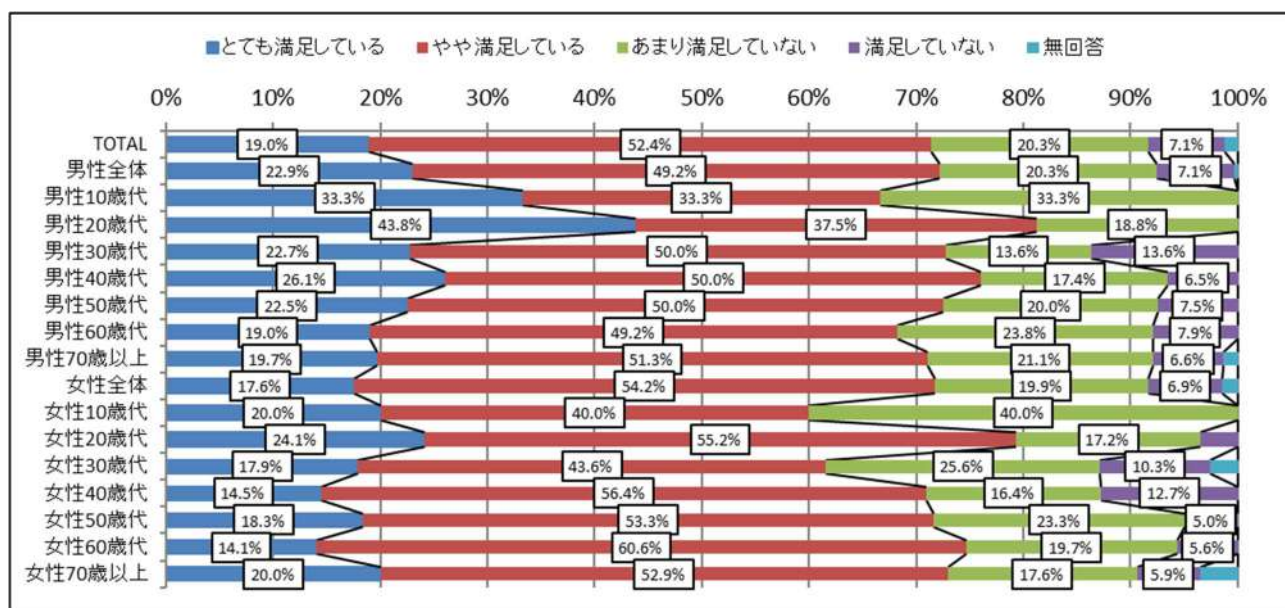
「やや満足している」と回答した人の割合が 52.4%と最も多く、次いで「あまり満足していない」と回答した人の割合が 20.3%、「とても満足している」と回答した人の割合が 19.0%、「満足していない」と回答した人の割合が最も少なく 7.1%となっています。

「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は 71.4%であり、約 7 割の市民が、住まい周辺の住環境について満足していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は 71.9%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変化はありませんでした。

母集団		とても満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答	合計
TOTAL	675	19.0%	52.4%	20.3%	7.1%	1.2%	100.0%
男性全体	266	22.9%	49.2%	20.3%	7.1%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	43.8%	37.5%	18.8%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	22.7%	50.0%	13.6%	13.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	26.1%	50.0%	17.4%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	22.5%	50.0%	20.0%	7.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	19.0%	49.2%	23.8%	7.9%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	19.7%	51.3%	21.1%	6.6%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	17.6%	54.2%	19.9%	6.9%	1.4%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	24.1%	55.2%	17.2%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	17.9%	43.6%	25.6%	10.3%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	14.5%	56.4%	16.4%	12.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	18.3%	53.3%	23.3%	5.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	14.1%	60.6%	19.7%	5.6%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	20.0%	52.9%	17.6%	5.9%	3.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
深谷地区	147	24.5%	53.7%	15.6%	6.1%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	13.1%	52.5%	26.2%	8.2%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	18.9%	59.5%	17.6%	4.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	20.0%	46.7%	20.0%	6.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	9.1%	27.3%	45.5%	18.2%	0.0%	100.0%
八基地区	21	4.8%	42.9%	33.3%	14.3%	4.8%	100.0%
豊里地区	24	12.5%	45.8%	29.2%	8.3%	4.2%	100.0%
上柴地区	73	34.2%	50.7%	9.6%	2.7%	2.7%	100.0%
南地区	41	14.6%	68.3%	7.3%	7.3%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	11.0%	53.7%	26.8%	8.5%	0.0%	100.0%
川本地区	66	15.2%	40.9%	34.8%	7.6%	1.5%	100.0%
花園地区	45	24.4%	53.3%	13.3%	8.9%	0.0%	100.0%
無回答	15	6.7%	60.0%	13.3%	13.3%	6.7%	100.0%

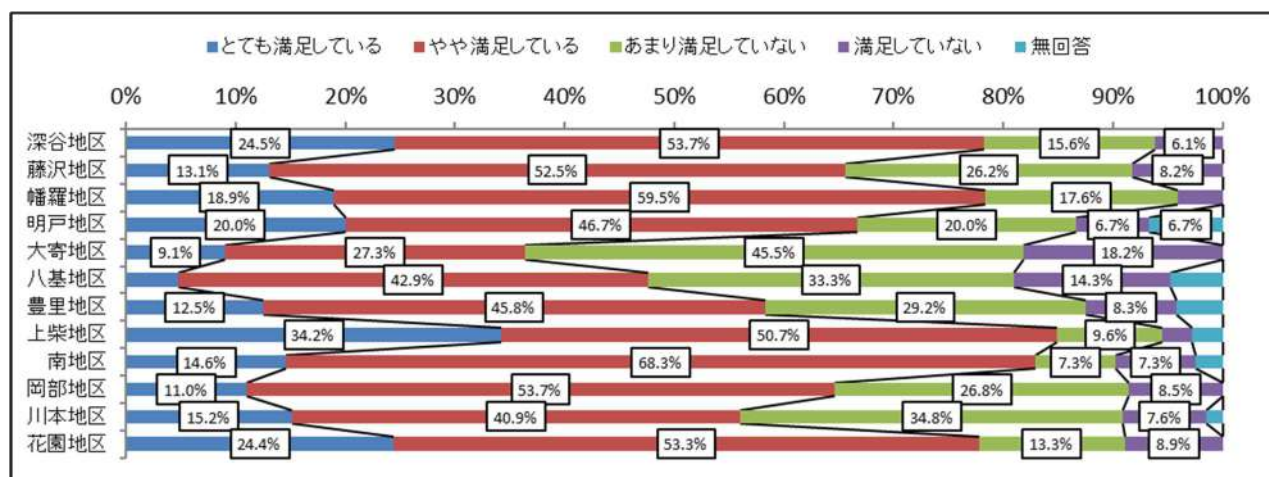
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は男性が72.1%であるのに対して、女性は71.8%となっています。

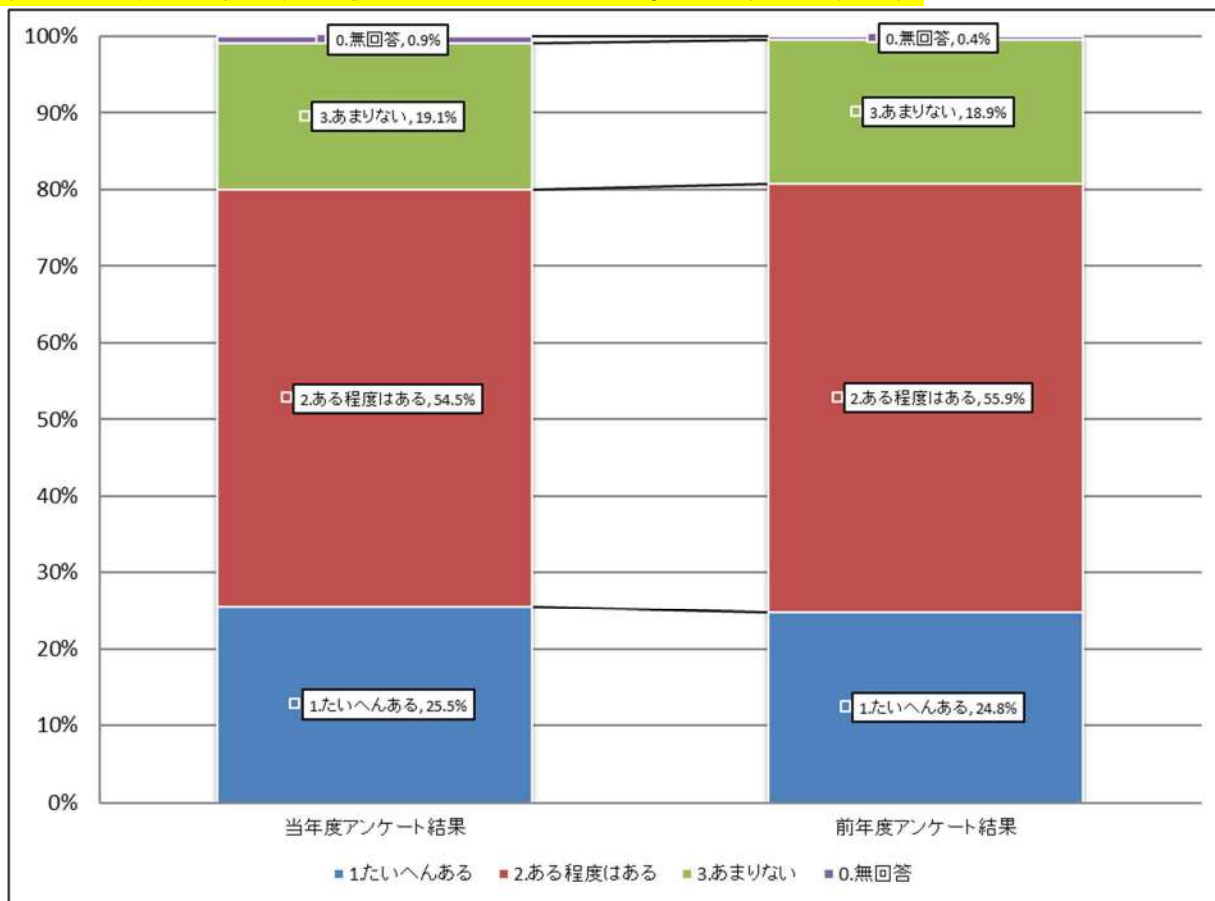
また、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに10歳代（男性66.6%、女性60.0%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに20歳代（男性81.3%、女性79.3%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（36.4%）であり、次いで八基地区（47.7%）となっています。最も多いのは、上柴地区（84.9%）であり、次いで南地区（82.9%）となっています。

あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありますか。



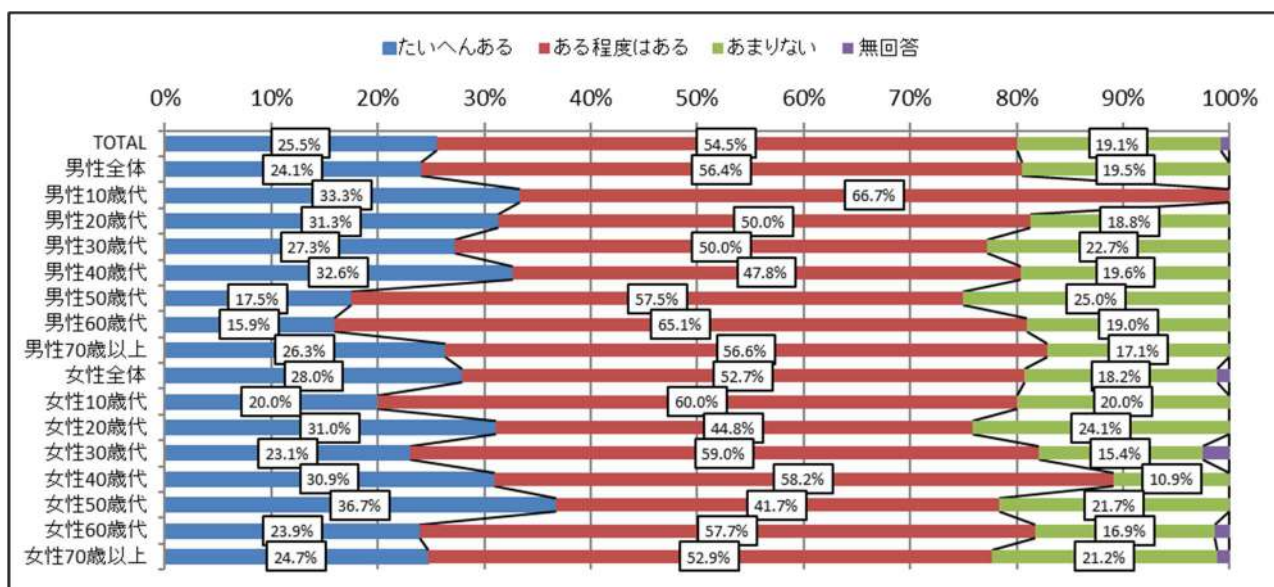
「たいへんある」と回答した人の割合が 25.5%、「ある程度はある」が 54.5%、「あまりない」と回答した人の割合が最も少なく 19.1% となっています。

2 割以上の市民が、身近に自然に親しむことができる環境があると回答していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんある」と回答した人の割合は 24.8%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変化はありませんでした。

母集団	たいへんある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	675	25.5%	54.5%	19.1%	0.9%	100.0%
男性全体	266	24.1%	56.4%	19.5%	0.0%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	31.3%	50.0%	18.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	27.3%	50.0%	22.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	32.6%	47.8%	19.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	17.5%	57.5%	25.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	15.9%	65.1%	19.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	26.3%	56.6%	17.1%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—
女性全体	347	28.0%	52.7%	18.2%	1.2%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	31.0%	44.8%	24.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	23.1%	59.0%	15.4%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	30.9%	58.2%	10.9%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	36.7%	41.7%	21.7%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	23.9%	57.7%	16.9%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	24.7%	52.9%	21.2%	1.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%
深谷地区	147	20.4%	56.5%	23.1%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	32.8%	54.1%	13.1%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	13.5%	66.2%	20.3%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	26.7%	33.3%	33.3%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	27.3%	36.4%	36.4%	0.0%	100.0%
八基地区	21	52.4%	42.9%	0.0%	4.8%	100.0%
豊里地区	24	37.5%	29.2%	29.2%	4.2%	100.0%
上柴地区	73	13.7%	63.0%	23.3%	0.0%	100.0%
南地区	41	24.4%	65.9%	9.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	82	28.0%	50.0%	22.0%	0.0%	100.0%
川本地区	66	33.3%	50.0%	13.6%	3.0%	100.0%
花園地区	45	33.3%	53.3%	13.3%	0.0%	100.0%
無回答	15	33.3%	46.7%	13.3%	6.7%	100.0%

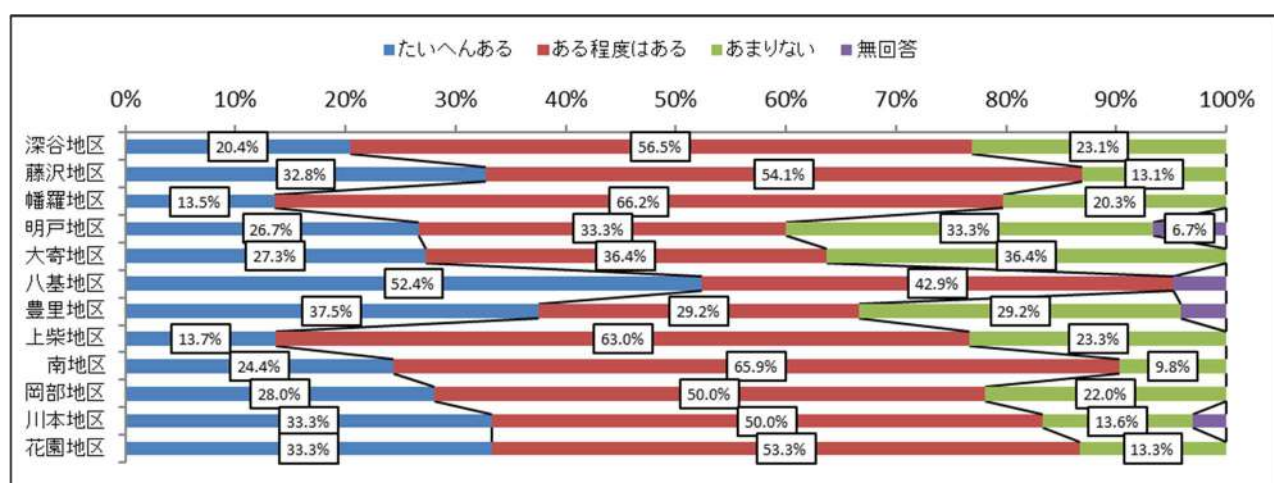
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんある」と回答した人の割合は男性が 24.1%であるのに対して、女性は 28.0%となっています。

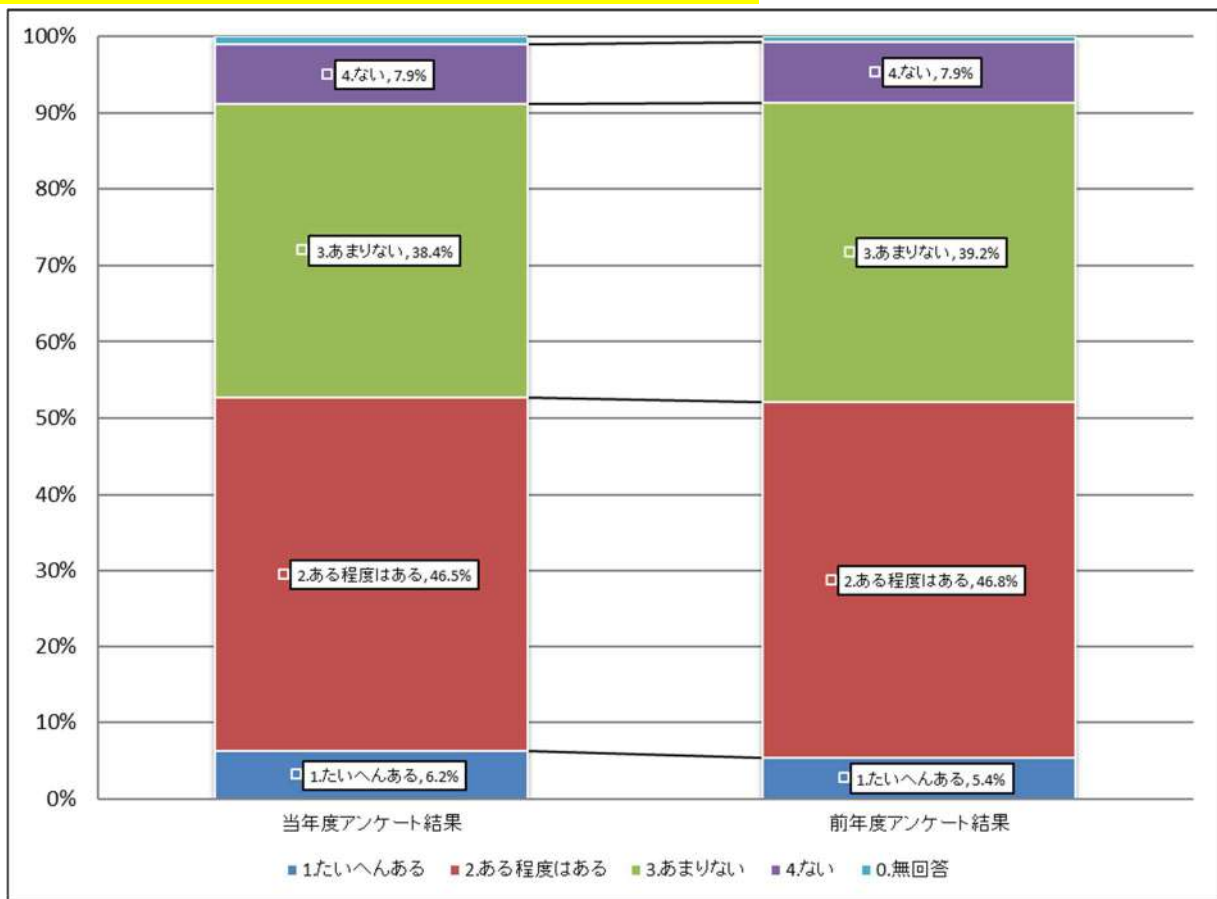
また、「たいへんある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は 60 歳代 (15.9%)、女性は 10 歳代 (20.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (33.3%)、女性 50 歳代 (36.7%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんある」と回答した人の割合が最も少ないのは、幡羅地区 (13.5%) であり、次いで上柴地区 (13.7%) となっています。最も多いのは、八基地区 (52.4%) であり、次いで豊里地区 (37.5%) となっています。

市内に魅力的なまち並みや景観があると思いますか。



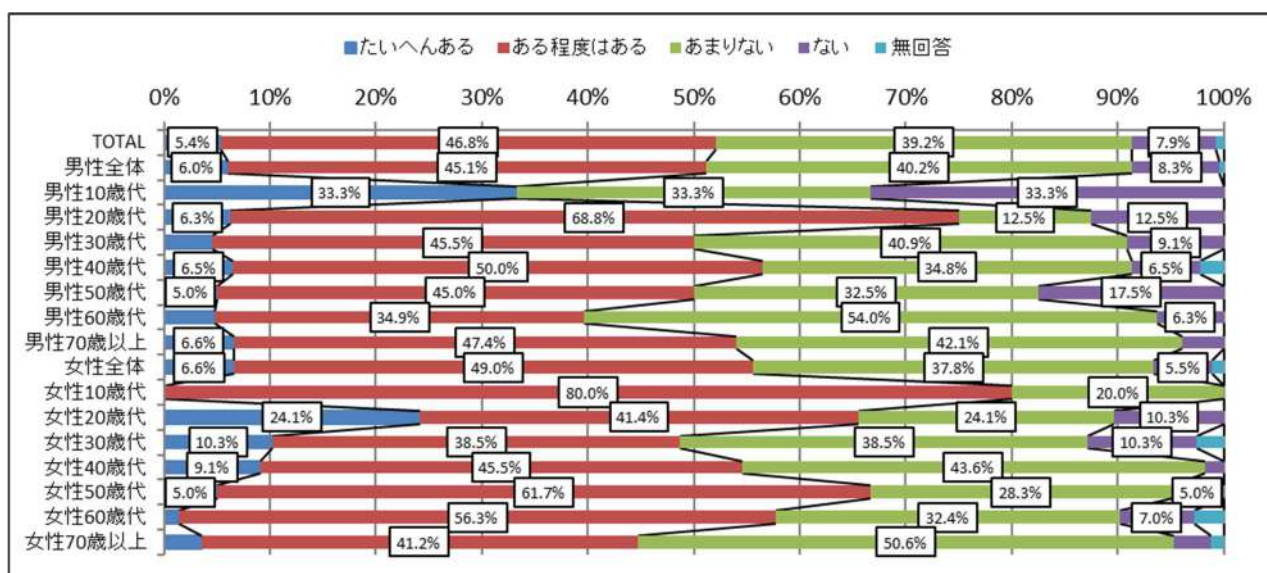
「ある程度はある」と回答した人の割合が 46.5%と最も多く、次いで「あまりない」と回答した人の割合が 38.4%、「ない」と回答した人の割合が 7.9%、「たいへんある」と回答した人の割合が最も少なく 6.2%となっています。

「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 52.7%であり、市内に魅力的なまち並みや景観があると答えた人が、過半数以上いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 52.2%であり、前年度アンケートと比較して、微増した結果となっています。

母集団		たいへんある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	675	5.4%	46.8%	39.2%	7.9%	0.8%	100.0%
男性全体	266	6.0%	45.1%	40.2%	8.3%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	6.3%	68.8%	12.5%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	4.5%	45.5%	40.9%	9.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	6.5%	50.0%	34.8%	6.5%	2.2%	100.0%
男性 50 歳代	40	5.0%	45.0%	32.5%	17.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	4.8%	34.9%	54.0%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	6.6%	47.4%	42.1%	3.9%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	6.6%	49.0%	37.8%	5.5%	1.2%	100.0%
女性 10 歳代	5	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	24.1%	41.4%	24.1%	10.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	10.3%	38.5%	38.5%	10.3%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	9.1%	45.5%	43.6%	1.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	5.0%	61.7%	28.3%	5.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	1.4%	56.3%	32.4%	7.0%	2.8%	100.0%
女性 70 歳以上	85	3.5%	41.2%	50.6%	3.5%	1.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	10.2%	49.0%	29.9%	10.9%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	3.3%	41.0%	39.3%	16.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	5.4%	44.6%	43.2%	6.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	0.0%	33.3%	53.3%	6.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	27.3%	54.5%	9.1%	9.1%	100.0%
八基地区	21	9.5%	57.1%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	8.3%	37.5%	50.0%	4.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	5.5%	50.7%	39.7%	2.7%	1.4%	100.0%
南地区	41	4.9%	58.5%	31.7%	2.4%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	6.1%	42.7%	45.1%	6.1%	0.0%	100.0%
川本地区	66	6.1%	45.5%	34.8%	10.6%	3.0%	100.0%
花園地区	45	2.2%	51.1%	40.0%	6.7%	0.0%	100.0%
無回答	15	6.7%	40.0%	40.0%	6.7%	6.7%	100.0%

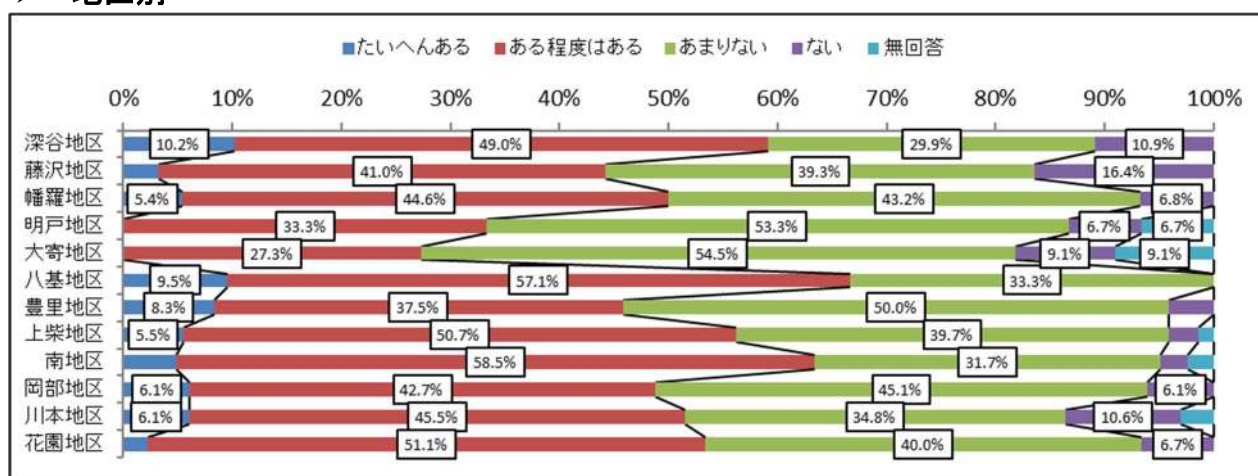
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は男性が51.1%であるのに対して、女性は55.6%となっています。

また、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が10歳代（33.3%）、女性が70歳以上（44.7%）であり、一方で最も多い世代は、男性が20歳代（75.1%）、女性が10歳代（80.0%）となっています。

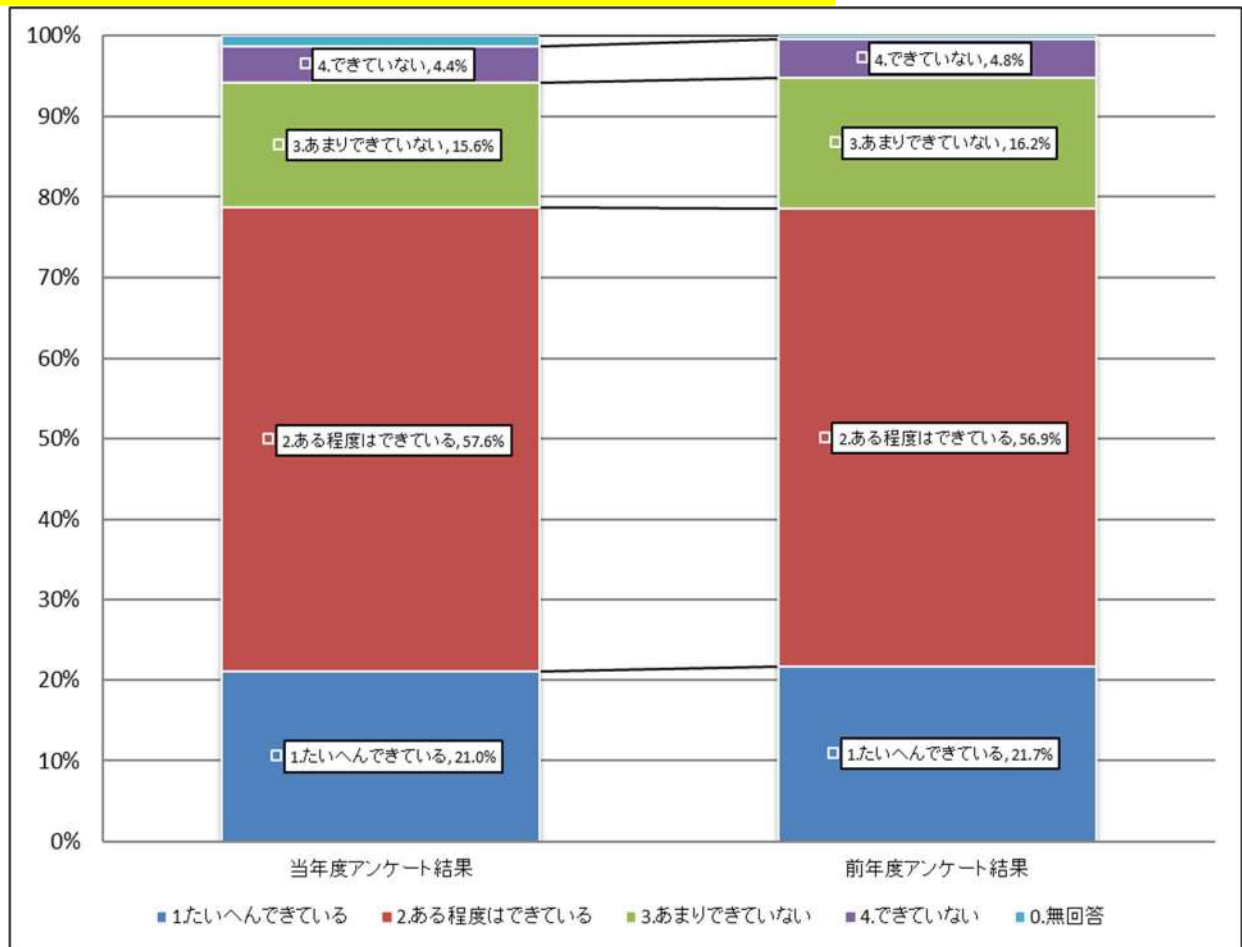
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（27.3%）であり、次いで明戸地区（33.3%）となっています。最も多いのは、八基地区（66.6%）であり、次いで南地区（63.4%）となっています。

②良好で快適な都市環境の形成（6. 問5～7）

水害に対して安心した生活を送ることができていますか。



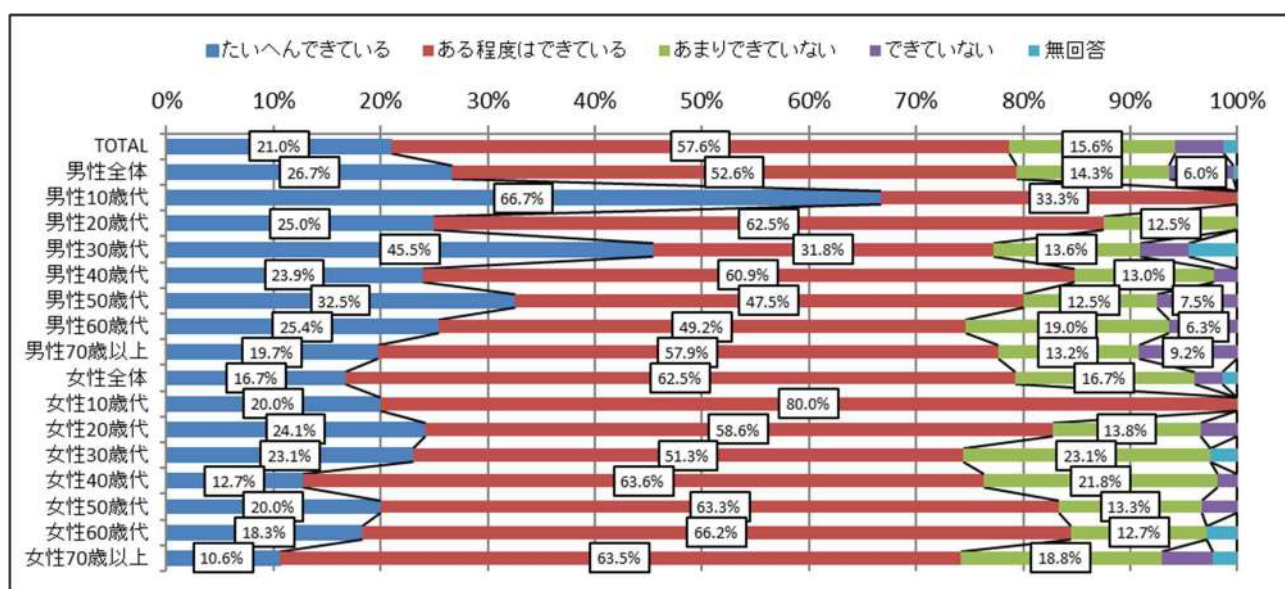
「ある程度はできている」と回答した人の割合が 57.6%と最も多く、次いで「たいへんできている」と回答した人の割合が 21.0%、「あまりできていない」と回答した人の割合が 15.6%、「できていない」と回答した人の割合が最も少なく 4.4%となっています。

「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合は 78.6%であり、8 割近くの市民が、水害に対して安心した生活ができていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合は 78.6%であり、前年度アンケートと比較して、変化はありませんでした。

母集団		たいへんできている	ある程度はできている	あまりできていない	できていない	無回答	合計
TOTAL	675	21.0%	57.6%	15.6%	4.4%	1.3%	100.0%
男性全体	266	26.7%	52.6%	14.3%	6.0%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	25.0%	62.5%	12.5%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	45.5%	31.8%	13.6%	4.5%	4.5%	100.0%
男性 40 歳代	46	23.9%	60.9%	13.0%	2.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	32.5%	47.5%	12.5%	7.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	25.4%	49.2%	19.0%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	19.7%	57.9%	13.2%	9.2%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	16.7%	62.5%	16.7%	2.6%	1.4%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	24.1%	58.6%	13.8%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	23.1%	51.3%	23.1%	0.0%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	12.7%	63.6%	21.8%	1.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	20.0%	63.3%	13.3%	3.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	18.3%	66.2%	12.7%	0.0%	2.8%	100.0%
女性 70 歳以上	85	10.6%	63.5%	18.8%	4.7%	2.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	21.1%	55.8%	16.3%	6.8%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	27.9%	63.9%	3.3%	4.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	17.6%	68.9%	12.2%	1.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	13.3%	46.7%	13.3%	20.0%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	63.6%	27.3%	9.1%	0.0%	100.0%
八基地区	21	4.8%	57.1%	19.0%	19.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	8.3%	41.7%	41.7%	8.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	26.0%	58.9%	12.3%	1.4%	1.4%	100.0%
南地区	41	31.7%	53.7%	12.2%	0.0%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	15.9%	59.8%	19.5%	2.4%	2.4%	100.0%
川本地区	66	18.2%	60.6%	13.6%	4.5%	3.0%	100.0%
花園地区	45	40.0%	44.4%	15.6%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	15	6.7%	46.7%	33.3%	0.0%	13.3%	100.0%

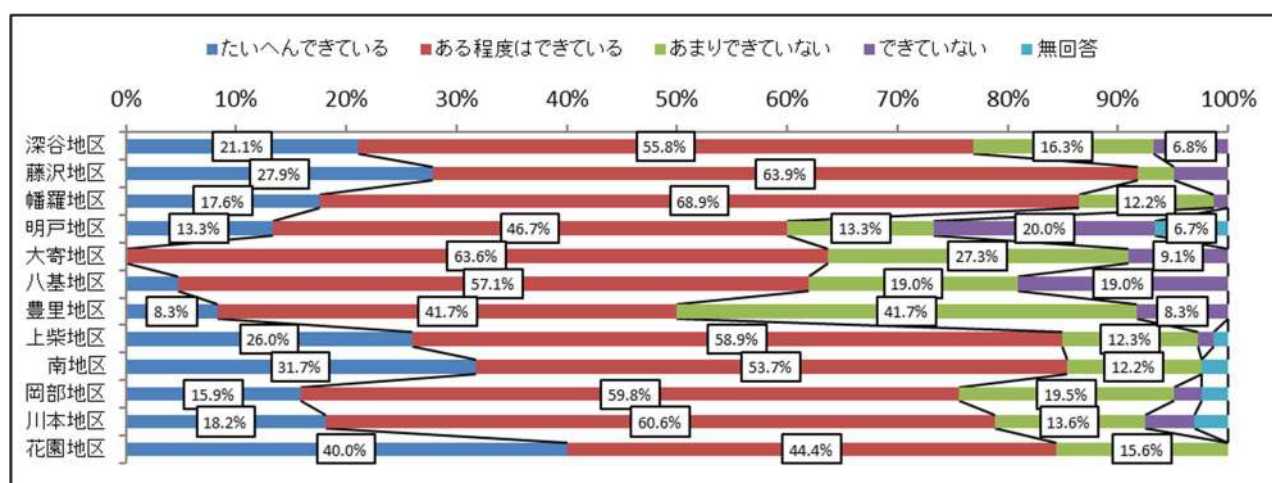
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合は男性が79.3%であるのに対して、女性は79.2%となっています。

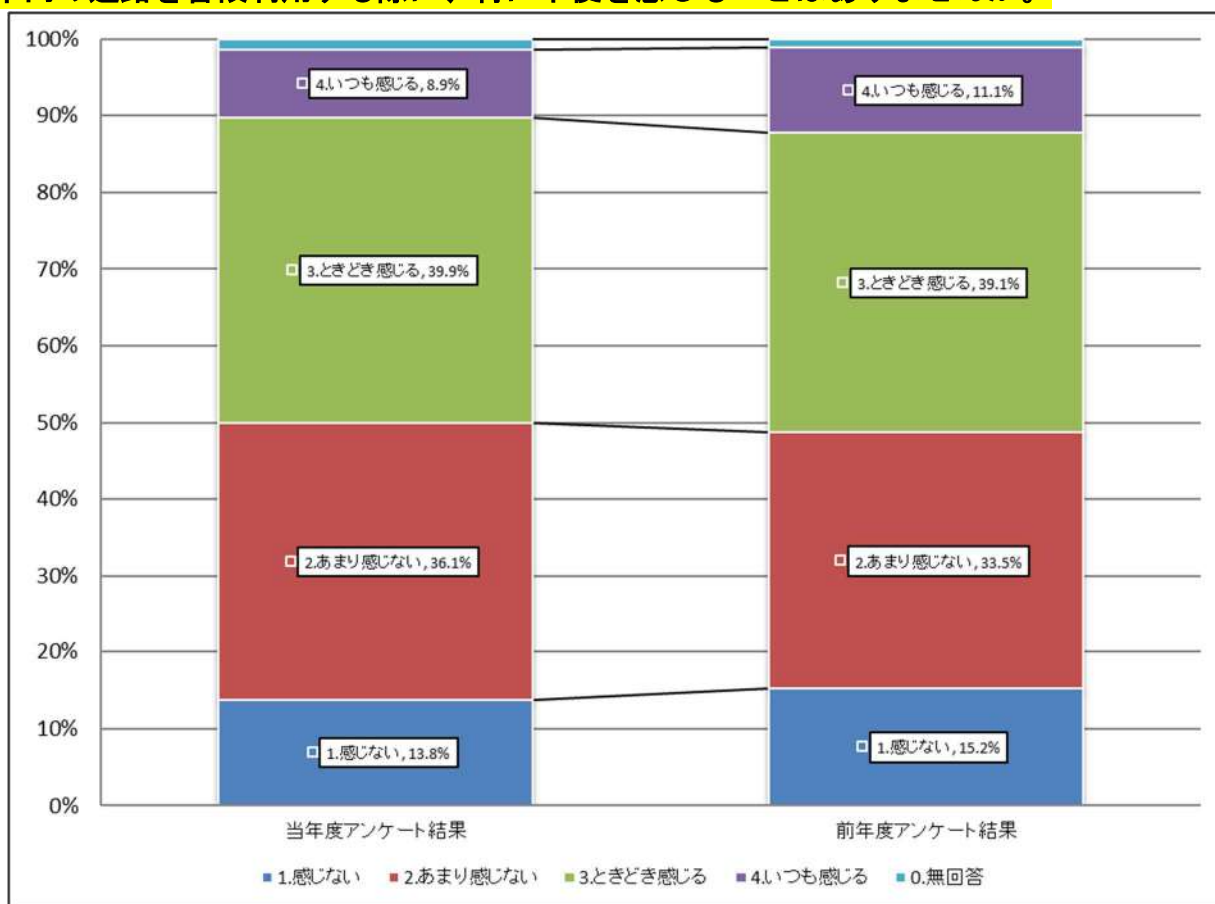
また、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が60歳代（74.6%）、女性が70歳以上（74.1%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに10歳代（100.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区（50.0%）であり、次いで明戸地区（60.0%）となっています。最も多いのは、藤沢地区（91.8%）であり、次いで幡羅地区（86.5%）となっています。

市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはありませんか。

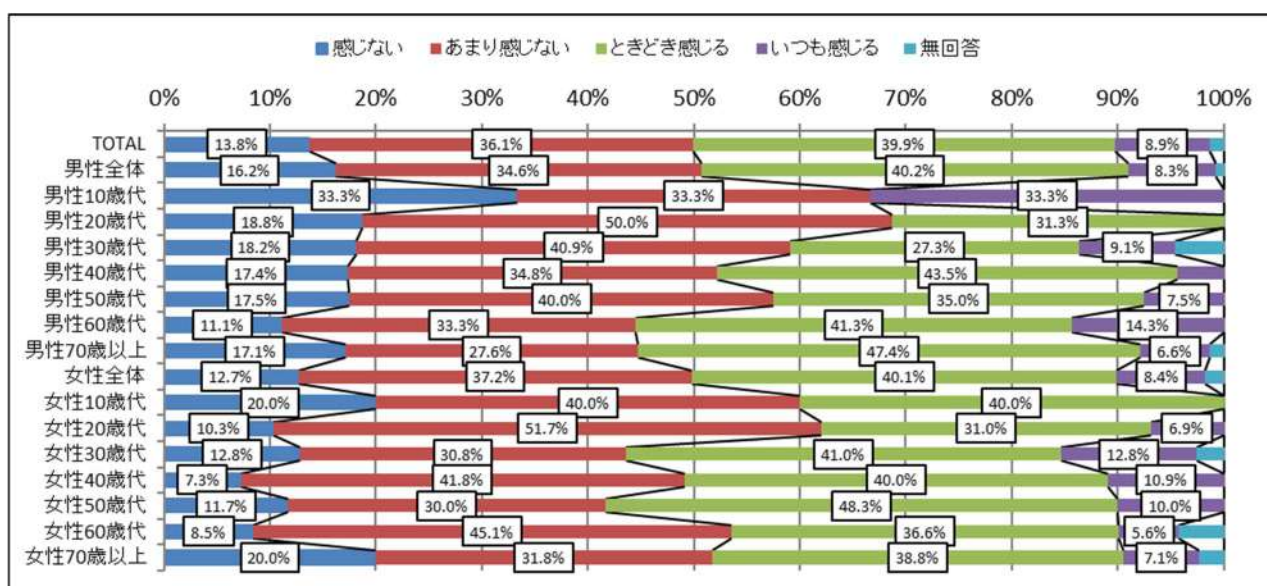


「ときどき感じる」と回答した人の割合が 39.9%と最も多く、次いで「あまり感じない」と回答した人の割合が 36.1%、「感じない」と回答した人の割合が 13.8%、「いつも感じる」と回答した人の割合が最も少なく 8.9%となっています。

「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は 49.9%にとどまり、半数近くの市民が、市内の道路を利用する際に不便を感じていることがうかがえます。「前年度アンケート」の結果、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は 48.7%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		感じない	あまり感じない	ときどき感じる	いつも感じる	無回答	合計
TOTAL	675	13. 8%	36. 1%	39. 9%	8. 9%	1. 3%	100. 0%
男性全体	266	16. 2%	34. 6%	40. 2%	8. 3%	0. 8%	100. 0%
男性 10 歳代	3	33. 3%	33. 3%	0. 0%	33. 3%	0. 0%	100. 0%
男性 20 歳代	16	18. 8%	50. 0%	31. 3%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
男性 30 歳代	22	18. 2%	40. 9%	27. 3%	9. 1%	4. 5%	100. 0%
男性 40 歳代	46	17. 4%	34. 8%	43. 5%	4. 3%	0. 0%	100. 0%
男性 50 歳代	40	17. 5%	40. 0%	35. 0%	7. 5%	0. 0%	100. 0%
男性 60 歳代	63	11. 1%	33. 3%	41. 3%	14. 3%	0. 0%	100. 0%
男性 70 歳以上	76	17. 1%	27. 6%	47. 4%	6. 6%	1. 3%	100. 0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	12. 7%	37. 2%	40. 1%	8. 4%	1. 7%	100. 0%
女性 10 歳代	5	20. 0%	40. 0%	40. 0%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
女性 20 歳代	29	10. 3%	51. 7%	31. 0%	6. 9%	0. 0%	100. 0%
女性 30 歳代	39	12. 8%	30. 8%	41. 0%	12. 8%	2. 6%	100. 0%
女性 40 歳代	55	7. 3%	41. 8%	40. 0%	10. 9%	0. 0%	100. 0%
女性 50 歳代	60	11. 7%	30. 0%	48. 3%	10. 0%	0. 0%	100. 0%
女性 60 歳代	71	8. 5%	45. 1%	36. 6%	5. 6%	4. 2%	100. 0%
女性 70 歳以上	85	20. 0%	31. 8%	38. 8%	7. 1%	2. 4%	100. 0%
女性年齢不詳	3	33. 3%	0. 0%	66. 7%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
深谷地区	147	15. 0%	37. 4%	42. 2%	5. 4%	0. 0%	100. 0%
藤沢地区	61	9. 8%	39. 3%	36. 1%	14. 8%	0. 0%	100. 0%
幡羅地区	74	13. 5%	40. 5%	35. 1%	9. 5%	1. 4%	100. 0%
明戸地区	15	13. 3%	20. 0%	60. 0%	0. 0%	6. 7%	100. 0%
大寄地区	11	0. 0%	36. 4%	36. 4%	18. 2%	9. 1%	100. 0%
八基地区	21	14. 3%	23. 8%	52. 4%	9. 5%	0. 0%	100. 0%
豊里地区	24	4. 2%	45. 8%	37. 5%	12. 5%	0. 0%	100. 0%
上柴地区	73	13. 7%	41. 1%	38. 4%	6. 8%	0. 0%	100. 0%
南地区	41	12. 2%	34. 1%	43. 9%	4. 9%	4. 9%	100. 0%
岡部地区	82	19. 5%	32. 9%	37. 8%	8. 5%	1. 2%	100. 0%
川本地区	66	15. 2%	28. 8%	42. 4%	13. 6%	0. 0%	100. 0%
花園地区	45	17. 8%	35. 6%	35. 6%	8. 9%	2. 2%	100. 0%
無回答	15	0. 0%	40. 0%	33. 3%	13. 3%	13. 3%	100. 0%

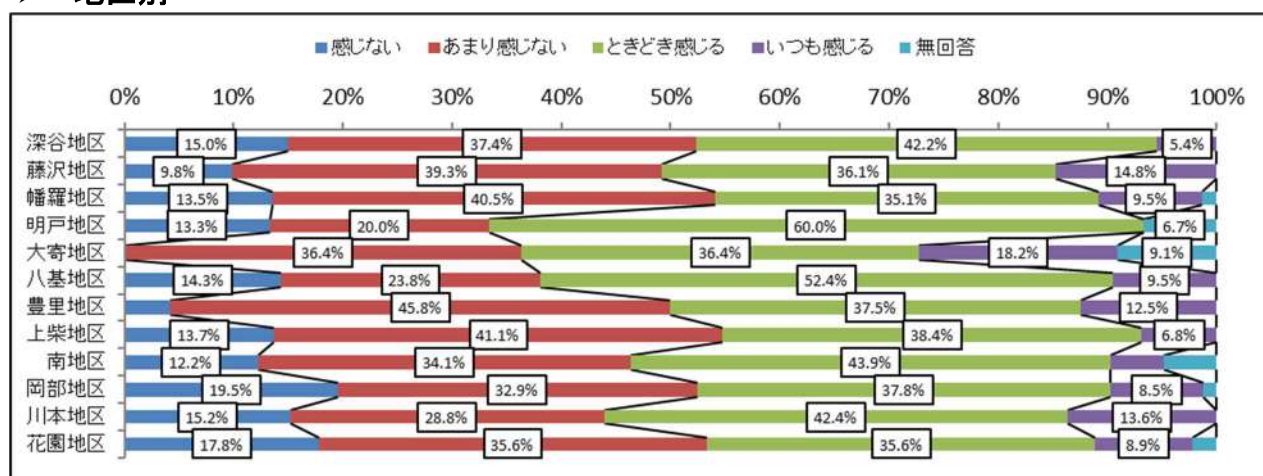
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は男性が50.8%であるのに対して、女性は49.9%となっています。

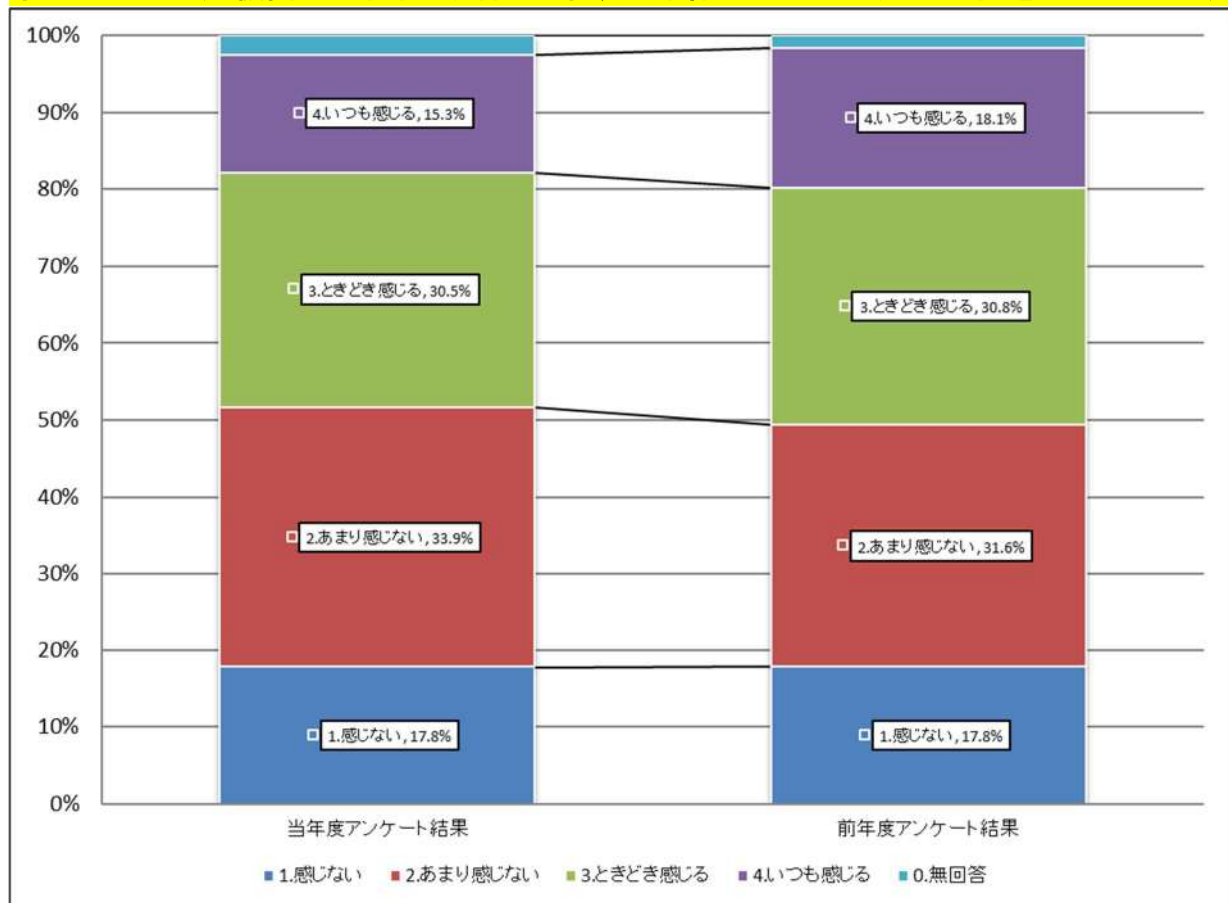
また、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が60歳代（44.4%）、女性が50歳代（41.7%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに20歳代（男性68.8%、女性62.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区（33.3%）であり、次いで大寄地区（36.4%）となっています。最も多いのは、上柴地区（54.8%）であり、次いで幡羅地区（54.0%）となっています。

市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていますか。



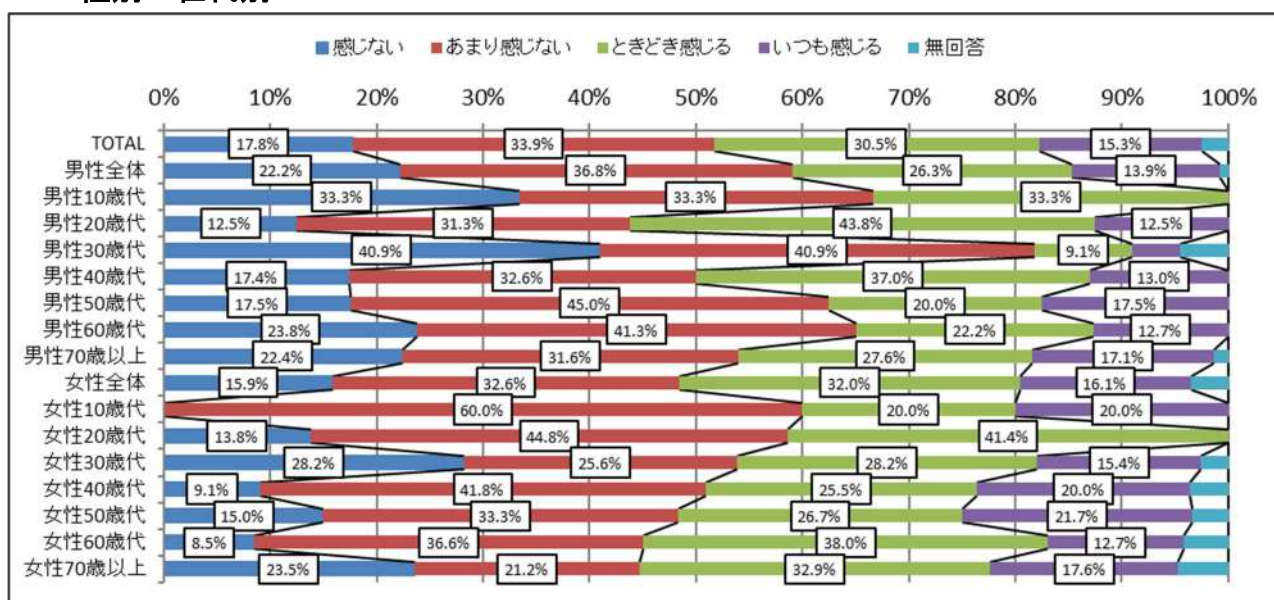
「あまり感じない」と回答した人の割合が 33.9%と最も多く、次いで「ときどき感じる」と回答した人の割合が 30.5%、「感じない」と回答した人の割合が 17.8%、「いつも感じる」と回答した人の割合が最も少なく 15.3%となっています。

「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は 51.7%となっており、半数近くの市民が、市内の公共交通機関の利便性に不便を感じていることがうかがえます。

「前年度アンケート」の結果は、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は 49.4%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		感じない	あまり感じない	ときどき感じる	いつも感じる	無回答	合計
TOTAL	675	17. 8%	33. 9%	30. 5%	15. 3%	2. 5%	100. 0%
男性全体	266	22. 2%	36. 8%	26. 3%	13. 9%	0. 8%	100. 0%
男性 10 歳代	3	33. 3%	33. 3%	33. 3%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
男性 20 歳代	16	12. 5%	31. 3%	43. 8%	12. 5%	0. 0%	100. 0%
男性 30 歳代	22	40. 9%	40. 9%	9. 1%	4. 5%	4. 5%	100. 0%
男性 40 歳代	46	17. 4%	32. 6%	37. 0%	13. 0%	0. 0%	100. 0%
男性 50 歳代	40	17. 5%	45. 0%	20. 0%	17. 5%	0. 0%	100. 0%
男性 60 歳代	63	23. 8%	41. 3%	22. 2%	12. 7%	0. 0%	100. 0%
男性 70 歳以上	76	22. 4%	31. 6%	27. 6%	17. 1%	1. 3%	100. 0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	15. 9%	32. 6%	32. 0%	16. 1%	3. 5%	100. 0%
女性 10 歳代	5	0. 0%	60. 0%	20. 0%	20. 0%	0. 0%	100. 0%
女性 20 歳代	29	13. 8%	44. 8%	41. 4%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
女性 30 歳代	39	28. 2%	25. 6%	28. 2%	15. 4%	2. 6%	100. 0%
女性 40 歳代	55	9. 1%	41. 8%	25. 5%	20. 0%	3. 6%	100. 0%
女性 50 歳代	60	15. 0%	33. 3%	26. 7%	21. 7%	3. 3%	100. 0%
女性 60 歳代	71	8. 5%	36. 6%	38. 0%	12. 7%	4. 2%	100. 0%
女性 70 歳以上	85	23. 5%	21. 2%	32. 9%	17. 6%	4. 7%	100. 0%
女性年齢不詳	3	0. 0%	0. 0%	66. 7%	33. 3%	0. 0%	100. 0%
深谷地区	147	20. 4%	45. 6%	25. 2%	8. 8%	0. 0%	100. 0%
藤沢地区	61	14. 8%	39. 3%	34. 4%	11. 5%	0. 0%	100. 0%
幡羅地区	74	16. 2%	27. 0%	33. 8%	20. 3%	2. 7%	100. 0%
明戸地区	15	20. 0%	53. 3%	13. 3%	6. 7%	6. 7%	100. 0%
大寄地区	11	0. 0%	18. 2%	45. 5%	27. 3%	9. 1%	100. 0%
八基地区	21	14. 3%	23. 8%	42. 9%	19. 0%	0. 0%	100. 0%
豊里地区	24	25. 0%	20. 8%	33. 3%	16. 7%	4. 2%	100. 0%
上柴地区	73	15. 1%	34. 2%	24. 7%	21. 9%	4. 1%	100. 0%
南地区	41	14. 6%	34. 1%	36. 6%	9. 8%	4. 9%	100. 0%
岡部地区	82	22. 0%	28. 0%	29. 3%	17. 1%	3. 7%	100. 0%
川本地区	66	12. 1%	21. 2%	34. 8%	28. 8%	3. 0%	100. 0%
花園地区	45	24. 4%	35. 6%	31. 1%	6. 7%	2. 2%	100. 0%
無回答	15	20. 0%	40. 0%	33. 3%	0. 0%	6. 7%	100. 0%

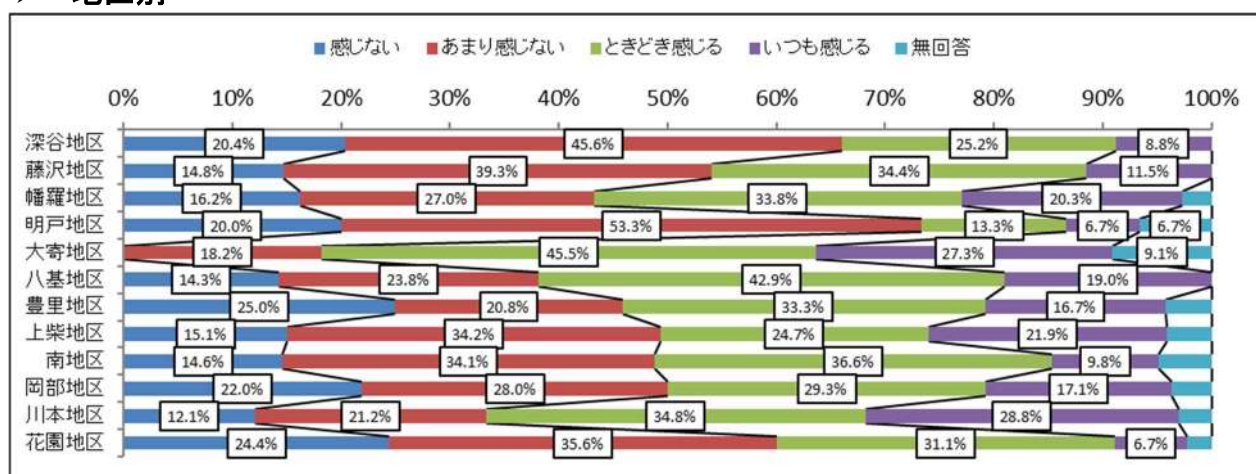
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は男性が59.0%であるのに対して、女性は48.5%となっています。

また、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性20歳代（43.8%）、女性70歳以上（44.7%）であり、一方で最も多い世代は、男性30歳代（81.8%）女性10歳代（60.0%）となっています。

➤ 地区別

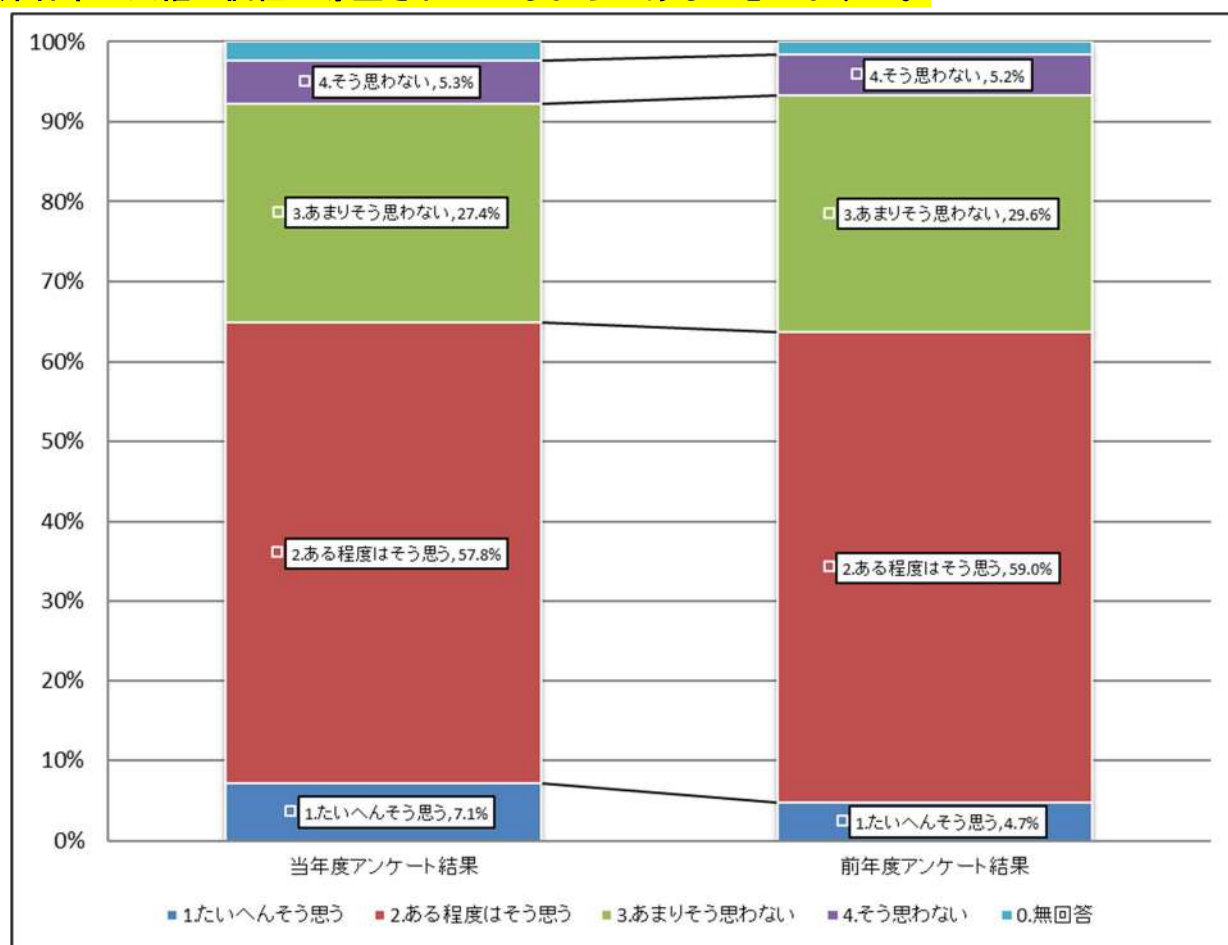


地区別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（18.2%）であり、次いで川本地区（33.3%）となっています。最も多いのは、明戸地区（73.3%）であり、次いで深谷地区（66.0%）となっています。

(7) 協働・行政経営について

①人権を尊重する社会づくり（7. 問1～4）

深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思いますか。



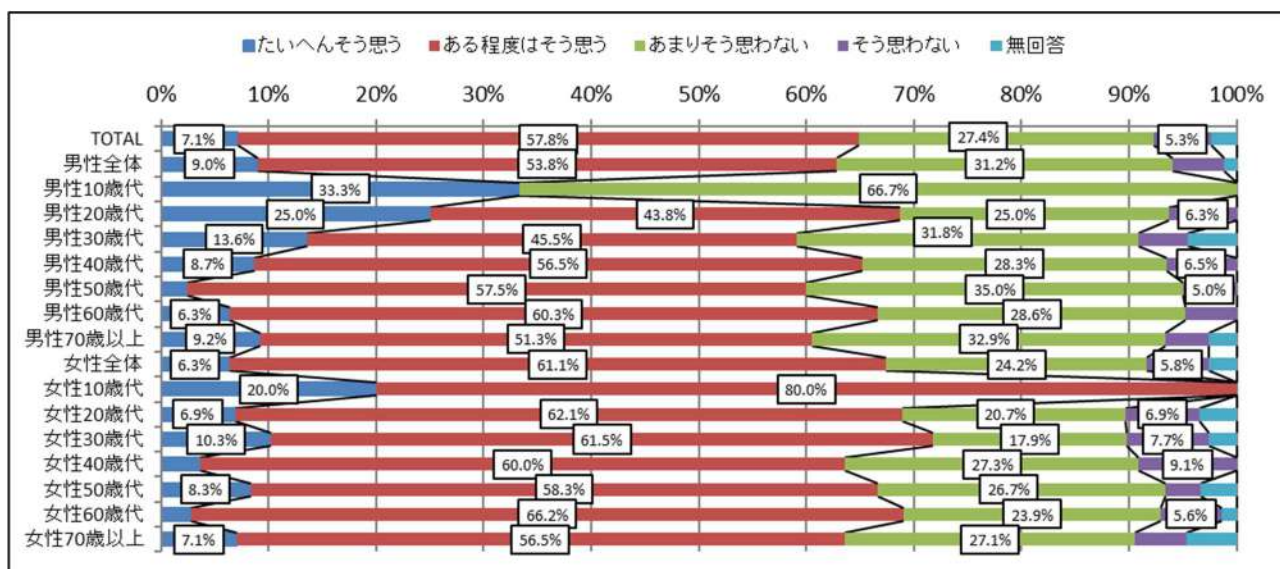
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 57.8%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 27.4%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が 7.1%、「そう思わない」と回答した人の割合が最も少なく 5.3%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 64.9%であり、約 6 割以上の市民が、深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 63.7%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	675	7.1%	57.8%	27.4%	5.3%	2.4%	100.0%
男性全体	266	9.0%	53.8%	31.2%	4.9%	1.1%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	25.0%	43.8%	25.0%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	13.6%	45.5%	31.8%	4.5%	4.5%	100.0%
男性 40 歳代	46	8.7%	56.5%	28.3%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	2.5%	57.5%	35.0%	5.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	6.3%	60.3%	28.6%	4.8%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	9.2%	51.3%	32.9%	3.9%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	6.3%	61.1%	24.2%	5.8%	2.6%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	6.9%	62.1%	20.7%	6.9%	3.4%	100.0%
女性 30 歳代	39	10.3%	61.5%	17.9%	7.7%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	3.6%	60.0%	27.3%	9.1%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	8.3%	58.3%	26.7%	3.3%	3.3%	100.0%
女性 60 歳代	71	2.8%	66.2%	23.9%	5.6%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	7.1%	56.5%	27.1%	4.7%	4.7%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	12.2%	54.4%	25.9%	7.5%	0.0%	12.2%
藤沢地区	61	6.6%	49.2%	41.0%	3.3%	0.0%	6.6%
幡羅地区	74	4.1%	66.2%	24.3%	4.1%	1.4%	4.1%
明戸地区	15	20.0%	53.3%	20.0%	0.0%	6.7%	20.0%
大寄地区	11	0.0%	54.5%	27.3%	9.1%	9.1%	0.0%
八基地区	21	14.3%	61.9%	19.0%	0.0%	4.8%	14.3%
豊里地区	24	8.3%	62.5%	12.5%	12.5%	4.2%	8.3%
上柴地区	73	6.8%	65.8%	20.5%	2.7%	4.1%	6.8%
南地区	41	0.0%	68.3%	22.0%	2.4%	7.3%	0.0%
岡部地区	82	3.7%	52.4%	37.8%	4.9%	1.2%	3.7%
川本地区	66	7.6%	53.0%	28.8%	7.6%	3.0%	7.6%
花園地区	45	2.2%	64.4%	26.7%	6.7%	0.0%	2.2%
無回答	15	6.7%	40.0%	33.3%	6.7%	13.3%	6.7%

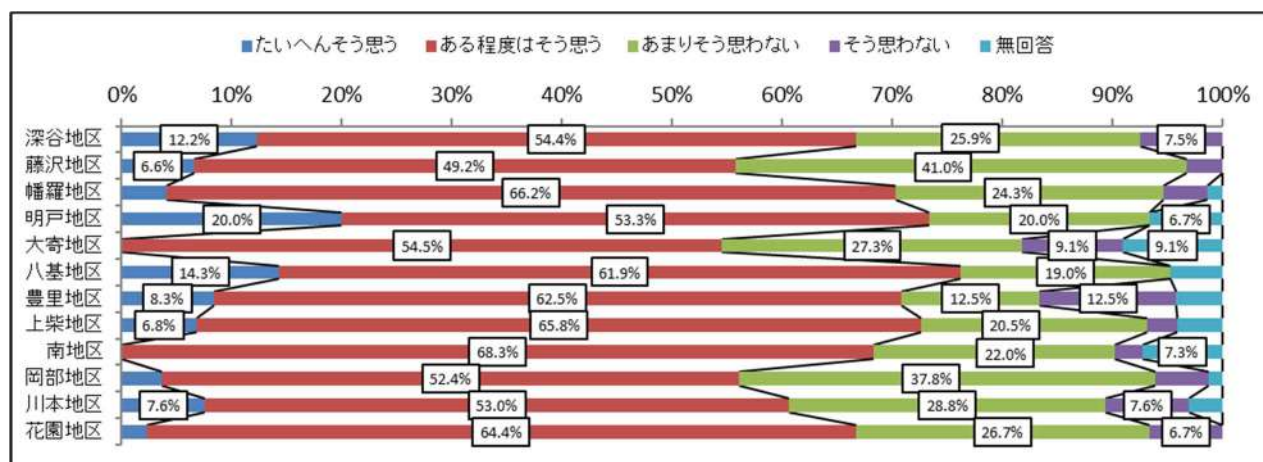
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が62.8%であるのに対して、女性は67.4%となっています。

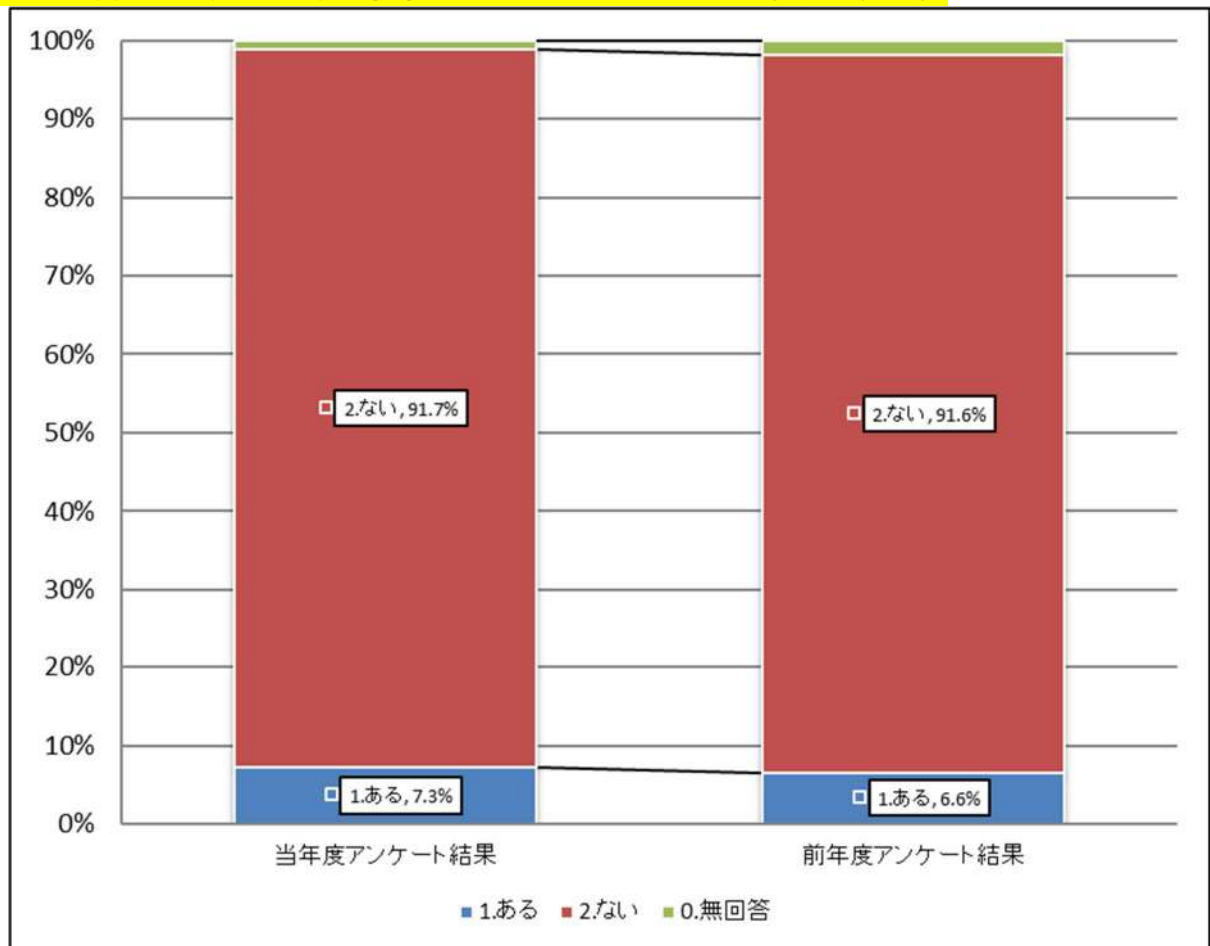
また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が10歳代（33.3%）、女性が70歳以上（63.6%）であり、一方で、最も多い世代は、男性が20歳代（68.8%）、女性が10歳代（100.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（54.5%）であり、次いで藤沢地区（55.8%）となっています。最も多いのは八基地区（76.2%）であり、次いで明戸地区（73.3%）となっています。

この１年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。



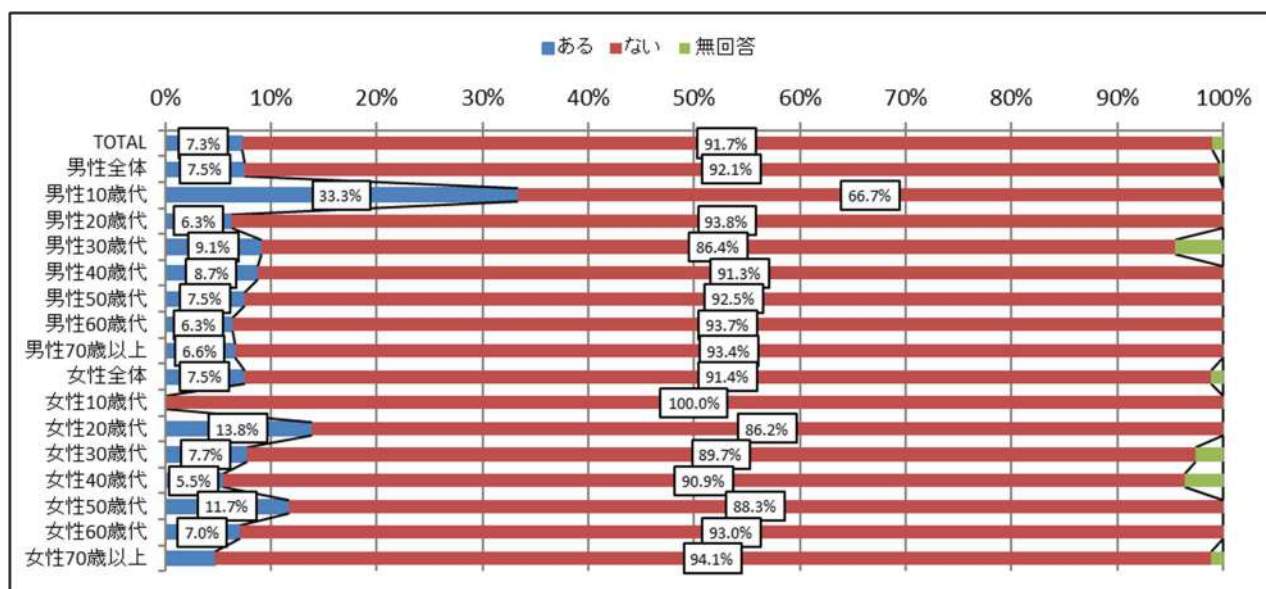
「ある」と回答した人の割合が 7.3%、「ない」と回答した人の割合が 91.7%となっています。

ほとんどの市民が、この１年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはなかったと回答していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ない」と回答した人の割合は 91.6%であり、前年度アンケートと比較して、この１年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはなかったとの回答に大きな変化はありませんでした。

母集団		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	675	7.3%	91.7%	1.0%	100.0%
男性全体	266	7.5%	92.1%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	6.3%	93.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	9.1%	86.4%	4.5%	100.0%
男性 40 歳代	46	8.7%	91.3%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	7.5%	92.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	6.3%	93.7%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	6.6%	93.4%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	347	7.5%	91.4%	1.2%	100.0%
女性 10 歳代	5	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	13.8%	86.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	7.7%	89.7%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	5.5%	90.9%	3.6%	100.0%
女性 50 歳代	60	11.7%	88.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	7.0%	93.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	4.7%	94.1%	1.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	10.2%	89.8%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	9.8%	88.5%	1.6%	100.0%
幡羅地区	74	8.1%	91.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	0.0%	93.3%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	90.9%	9.1%	100.0%
八基地区	21	4.8%	95.2%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	2.7%	97.3%	0.0%	100.0%
南地区	41	9.8%	90.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	82	7.3%	90.2%	2.4%	100.0%
川本地区	66	7.6%	92.4%	0.0%	100.0%
花園地区	45	8.9%	91.1%	0.0%	100.0%
無回答	15	0.0%	86.7%	13.3%	100.0%

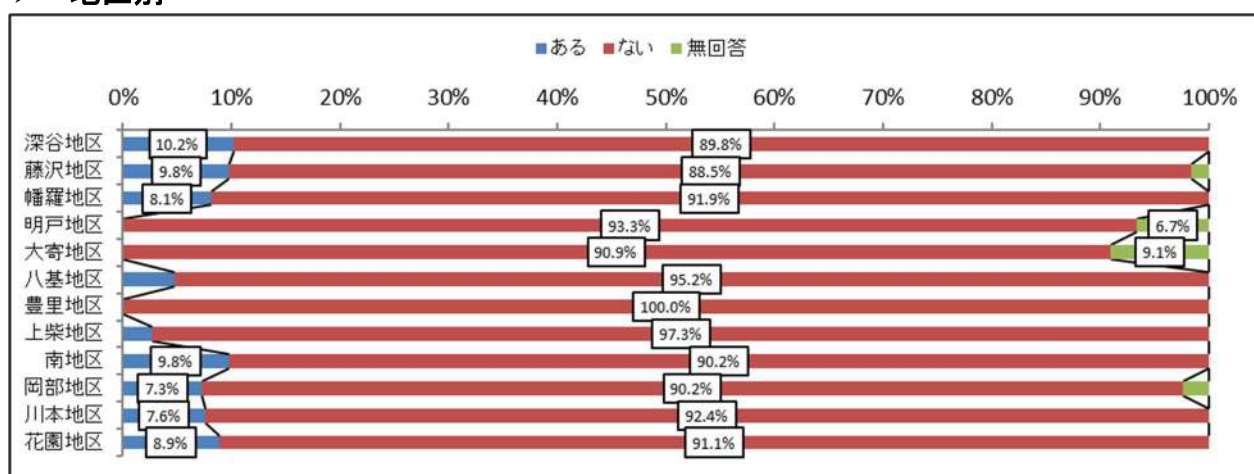
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ある」と回答した人の割合は男女ともに 7.5%となっています。このことから、男女差はないことがうかがえます。

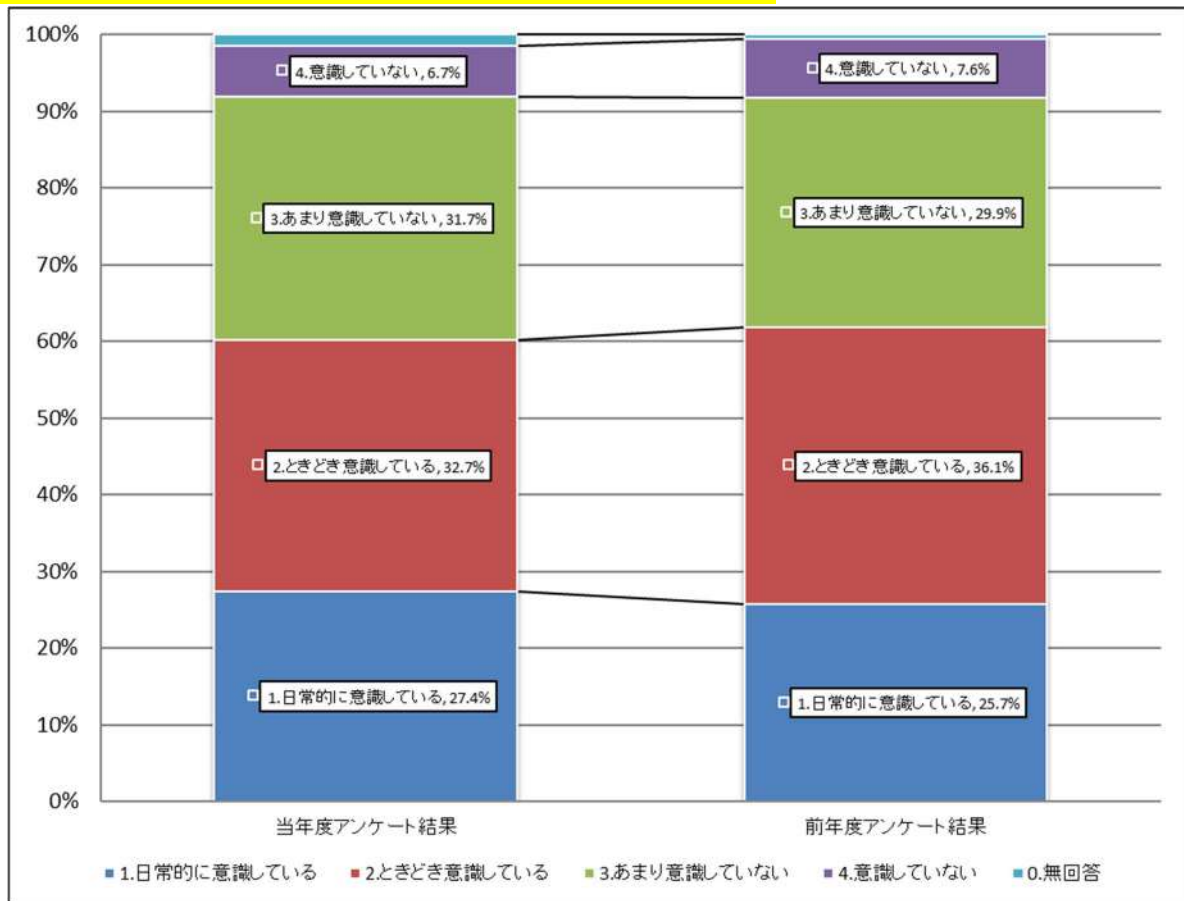
また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 20 歳代・60 歳代 (6.3%)、女性は 10 歳代 (0.0%) であり、一方で、最も多い世代は、男性が 10 歳代 (33.3%) であり、女性は 20 歳代 (13.8%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区・大寄地区・豊里地区 (0.0%) であり、次いで上柴地区 (2.7%) となっています。最も多いのは深谷地区 (10.2%) であり、次いで藤沢地区・南地区 (9.8%) となっています。地域によって差があることがうかがえます。

お互いの人権について意識をして生活をしていますか。



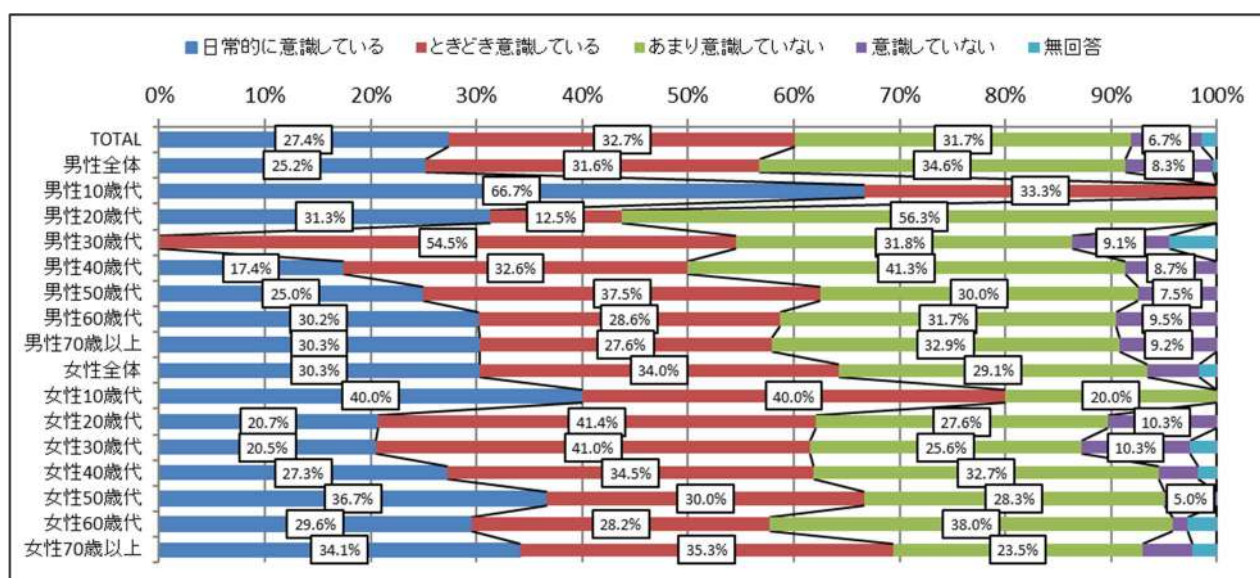
「ときどき意識している」と回答した人の割合が 32.7%と最も多く、次いで「あまり意識していない」と回答した人の割合が 31.7%、「日常的に意識している」と回答した人の割合が 27.4%、「意識していない」と回答した人の割合が最も少なく 6.7%となっています。

「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は 60.1%であり、市民の 6 割以上が日頃からお互いの人権について尊重しながら生活していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は 61.8%であり、前年度アンケートと比較して、微減していることがうかがえます。

母集団		日常的に意識している	ときどき意識している	あまり意識していない	意識していない	無回答	合計
TOTAL	675	27.4%	32.7%	31.7%	6.7%	1.5%	100.0%
男性全体	266	25.2%	31.6%	34.6%	8.3%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	31.3%	12.5%	56.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	0.0%	54.5%	31.8%	9.1%	4.5%	100.0%
男性 40 歳代	46	17.4%	32.6%	41.3%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	25.0%	37.5%	30.0%	7.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	30.2%	28.6%	31.7%	9.5%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	30.3%	27.6%	32.9%	9.2%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	30.3%	34.0%	29.1%	4.9%	1.7%	100.0%
女性 10 歳代	5	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	20.7%	41.4%	27.6%	10.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	20.5%	41.0%	25.6%	10.3%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	27.3%	34.5%	32.7%	3.6%	1.8%	100.0%
女性 50 歳代	60	36.7%	30.0%	28.3%	5.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	29.6%	28.2%	38.0%	1.4%	2.8%	100.0%
女性 70 歳以上	85	34.1%	35.3%	23.5%	4.7%	2.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	21.8%	37.4%	32.0%	8.8%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	27.9%	27.9%	36.1%	6.6%	1.6%	100.0%
幡羅地区	74	25.7%	33.8%	36.5%	4.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	20.0%	20.0%	26.7%	26.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	18.2%	36.4%	36.4%	0.0%	9.1%	100.0%
八基地区	21	38.1%	38.1%	9.5%	14.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	50.0%	29.2%	12.5%	4.2%	4.2%	100.0%
上柴地区	73	23.3%	39.7%	30.1%	6.8%	0.0%	100.0%
南地区	41	24.4%	31.7%	41.5%	0.0%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	30.5%	25.6%	36.6%	6.1%	1.2%	100.0%
川本地区	66	28.8%	36.4%	27.3%	4.5%	3.0%	100.0%
花園地区	45	40.0%	22.2%	33.3%	4.4%	0.0%	100.0%
無回答	15	20.0%	33.3%	20.0%	13.3%	13.3%	100.0%

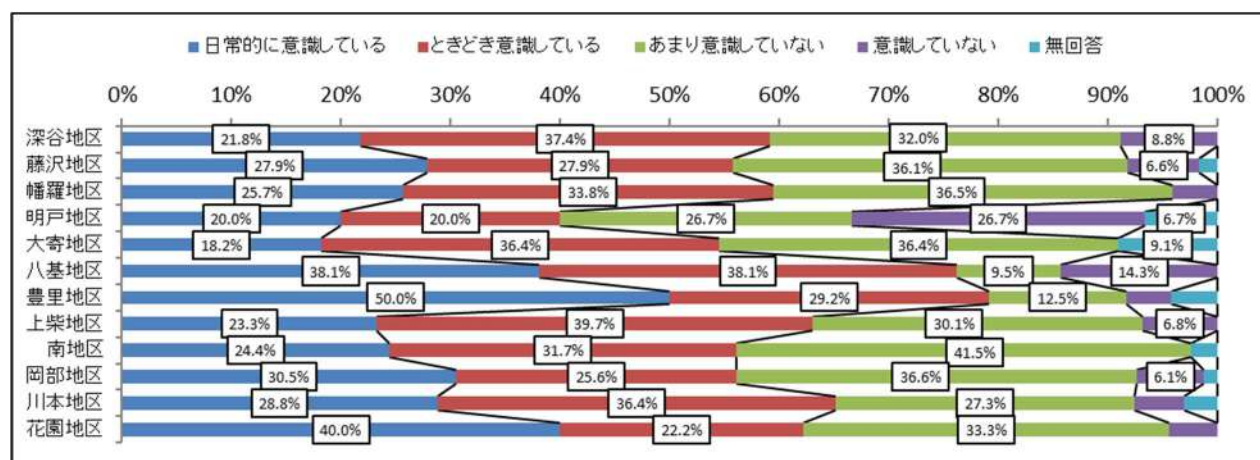
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は男性が56.8%であるのに対して、女性は64.3%となっています。

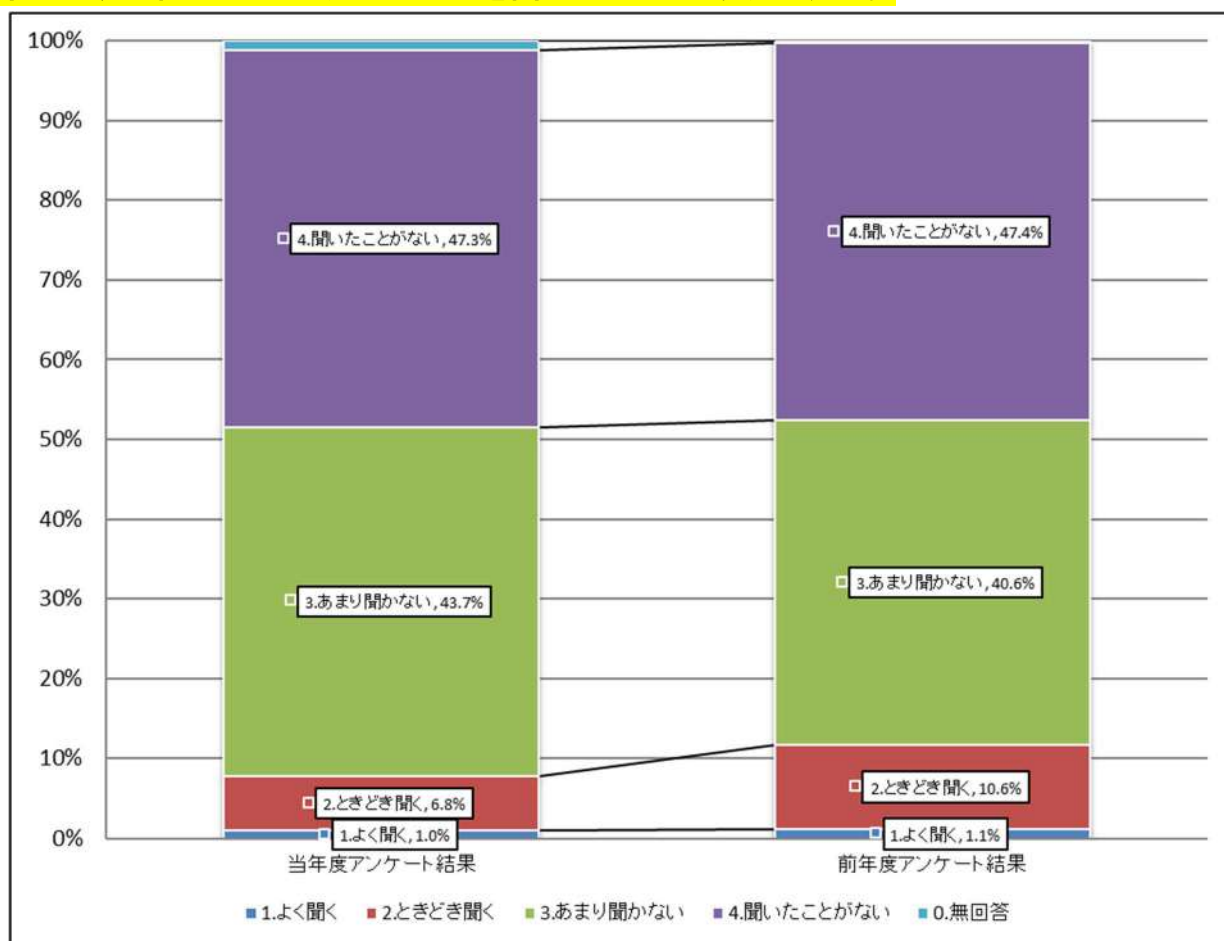
また、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が20歳代（43.8%）、女性が60歳代（57.8%）であり、一方で、最も多い世代は、男女ともに10歳代（男性100.0%、女性80.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区（40.0%）であり、次いで大寄地区（54.6%）となっています。最も多いのは豊里地区（79.2%）であり、次に八基地区（76.2%）となっています。

市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。



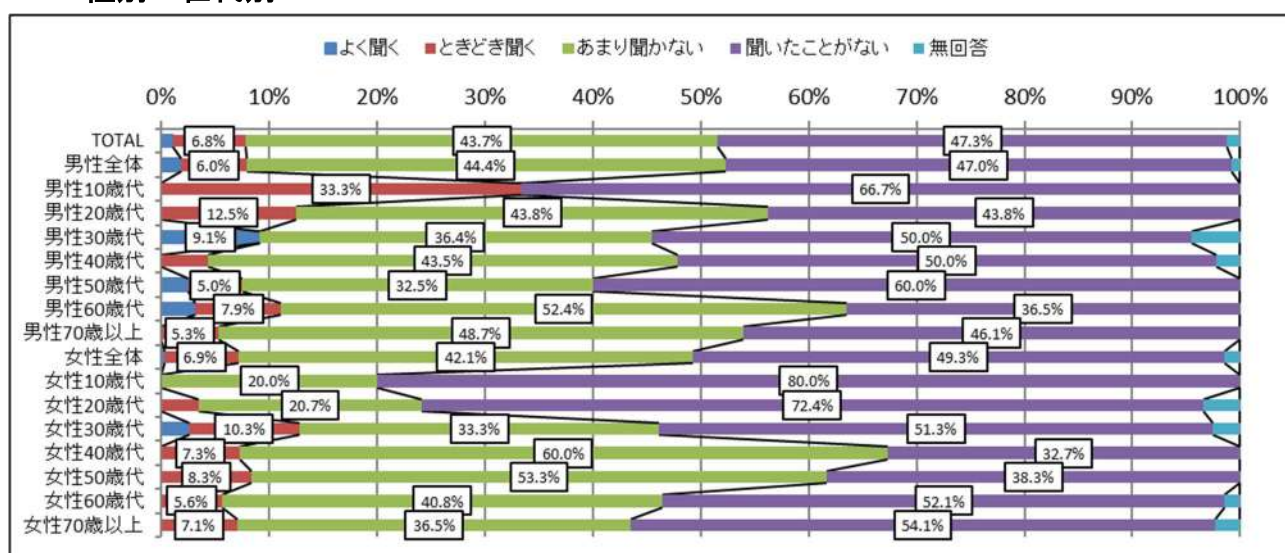
「聞いたことがない」と回答した人の割合が 47.3%と最も多く、次いで「あまり聞かない」と回答した人の割合が 43.7%、「ときどき聞く」と回答した人の割合が 6.8%、「よく聞く」と回答した人の割合が最も少なく 1.0%となっています。

「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は 7.8%であり、深谷市内における外国人とのトラブルはごくわずかであることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は 11.7%であり、前年度アンケートと比較して、減少していることがうかがえます。

母集団		よく聞く	ときどき聞く	あまり聞かない	聞いたことがない	無回答	合計
TOTAL	675	1.0%	6.8%	43.7%	47.3%	1.2%	100.0%
男性全体	266	1.9%	6.0%	44.4%	47.0%	0.8%	100.0%
男性 10 歳代	3	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	0.0%	12.5%	43.8%	43.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	9.1%	0.0%	36.4%	50.0%	4.5%	100.0%
男性 40 歳代	46	0.0%	4.3%	43.5%	50.0%	2.2%	100.0%
男性 50 歳代	40	2.5%	5.0%	32.5%	60.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	3.2%	7.9%	52.4%	36.5%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	0.0%	5.3%	48.7%	46.1%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	0.3%	6.9%	42.1%	49.3%	1.4%	100.0%
女性 10 歳代	5	0.0%	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	0.0%	3.4%	20.7%	72.4%	3.4%	100.0%
女性 30 歳代	39	2.6%	10.3%	33.3%	51.3%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	0.0%	7.3%	60.0%	32.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	0.0%	8.3%	53.3%	38.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	0.0%	5.6%	40.8%	52.1%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	0.0%	7.1%	36.5%	54.1%	2.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	2.7%	5.4%	41.5%	50.3%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	0.0%	3.3%	44.3%	52.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	0.0%	9.5%	43.2%	45.9%	1.4%	100.0%
明戸地区	15	0.0%	0.0%	40.0%	53.3%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	9.1%	0.0%	54.5%	27.3%	9.1%	100.0%
八基地区	21	0.0%	19.0%	57.1%	23.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	0.0%	4.2%	29.2%	66.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	0.0%	8.2%	46.6%	43.8%	1.4%	100.0%
南地区	41	0.0%	7.3%	46.3%	43.9%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	0.0%	11.0%	50.0%	37.8%	1.2%	100.0%
川本地区	66	3.0%	6.1%	47.0%	42.4%	1.5%	100.0%
花園地区	45	0.0%	4.4%	28.9%	66.7%	0.0%	100.0%
無回答	15	0.0%	0.0%	40.0%	53.3%	6.7%	100.0%

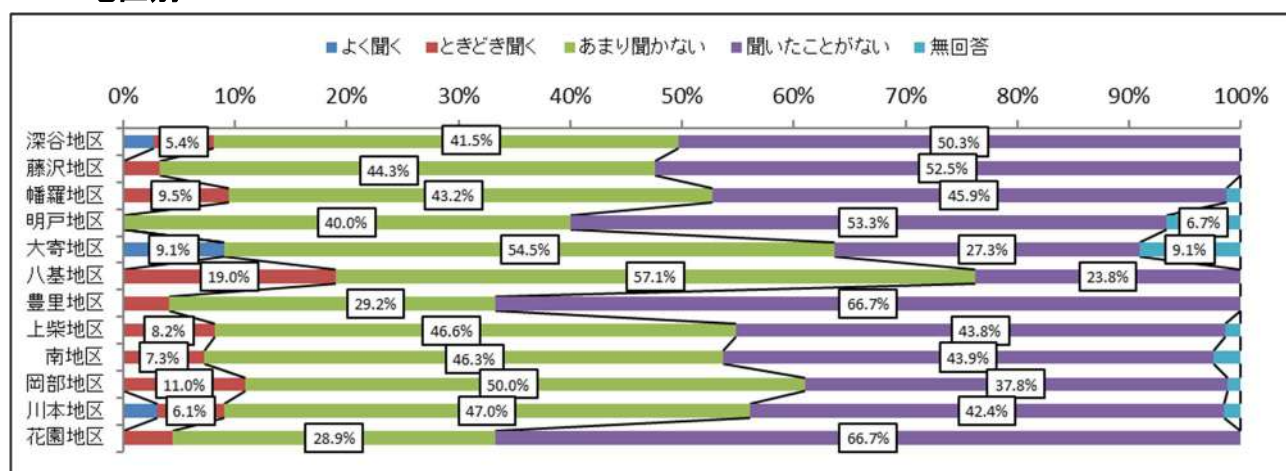
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は男性が7.9%であるのに対して、女性は7.2%となっています。

また、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は40歳代(4.3%)、女性は10歳代(0.0%)であり、一方で、最も多い世代は、男性は10歳代(33.3%)、女性は30歳代(12.9%)となっています。

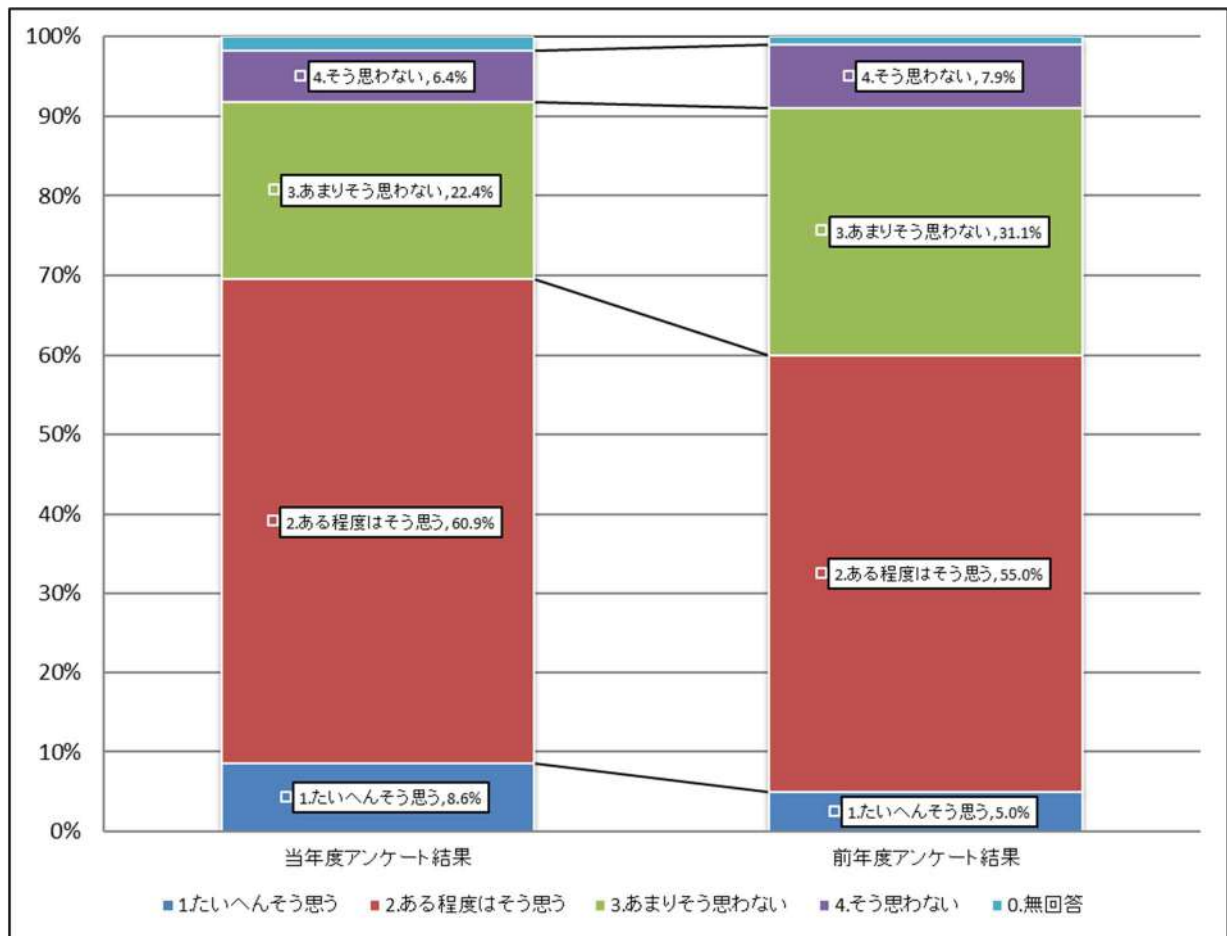
➤ 地区別



地区別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区(0.0%)であり、次いで藤沢地区(3.3%)となっています。最も多いのは八基地区(19.0%)であり、次いで岡部地区(11.0%)となっています。

②男女がともに輝く社会づくり（7. 問5～7）

性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思いますか。

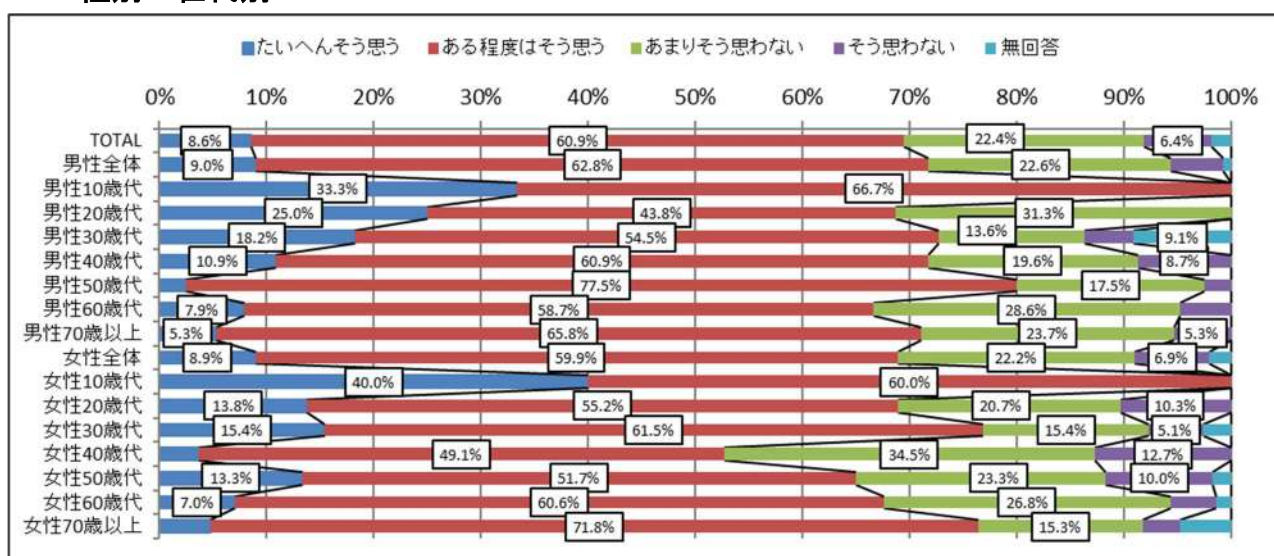


「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 60.9%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 22.4%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が 8.6%、「そう思わない」と回答した人の割合が最も少なく 6.4%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 69.5%であり、性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると感じている市民が約7割を占めることがうかがえます。「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 60.0%であり、前年度アンケートと比較して、性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると感じているとの回答の大きな増加がうかがえます。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	675	8.6%	60.9%	22.4%	6.4%	1.8%	100.0%
男性全体	266	9.0%	62.8%	22.6%	4.9%	0.8%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	25.0%	43.8%	31.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	18.2%	54.5%	13.6%	4.5%	9.1%	100.0%
男性 40 歳代	46	10.9%	60.9%	19.6%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	2.5%	77.5%	17.5%	2.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	7.9%	58.7%	28.6%	4.8%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	5.3%	65.8%	23.7%	5.3%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	8.9%	59.9%	22.2%	6.9%	2.0%	100.0%
女性 10 歳代	5	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	13.8%	55.2%	20.7%	10.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	15.4%	61.5%	15.4%	5.1%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	3.6%	49.1%	34.5%	12.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	13.3%	51.7%	23.3%	10.0%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	71	7.0%	60.6%	26.8%	4.2%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	4.7%	71.8%	15.3%	3.5%	4.7%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	11.6%	61.2%	19.0%	6.8%	1.4%	100.0%
藤沢地区	61	3.3%	67.2%	19.7%	8.2%	1.6%	100.0%
幡羅地区	74	8.1%	62.2%	25.7%	2.7%	1.4%	100.0%
明戸地区	15	6.7%	40.0%	33.3%	13.3%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	54.5%	27.3%	9.1%	9.1%	100.0%
八基地区	21	19.0%	61.9%	14.3%	4.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	12.5%	58.3%	25.0%	4.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	12.3%	60.3%	21.9%	2.7%	2.7%	100.0%
南地区	41	2.4%	63.4%	22.0%	9.8%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	3.7%	63.4%	28.0%	3.7%	1.2%	100.0%
川本地区	66	9.1%	57.6%	24.2%	7.6%	1.5%	100.0%
花園地区	45	13.3%	60.0%	20.0%	6.7%	0.0%	100.0%
無回答	15	0.0%	53.3%	13.3%	26.7%	6.7%	100.0%

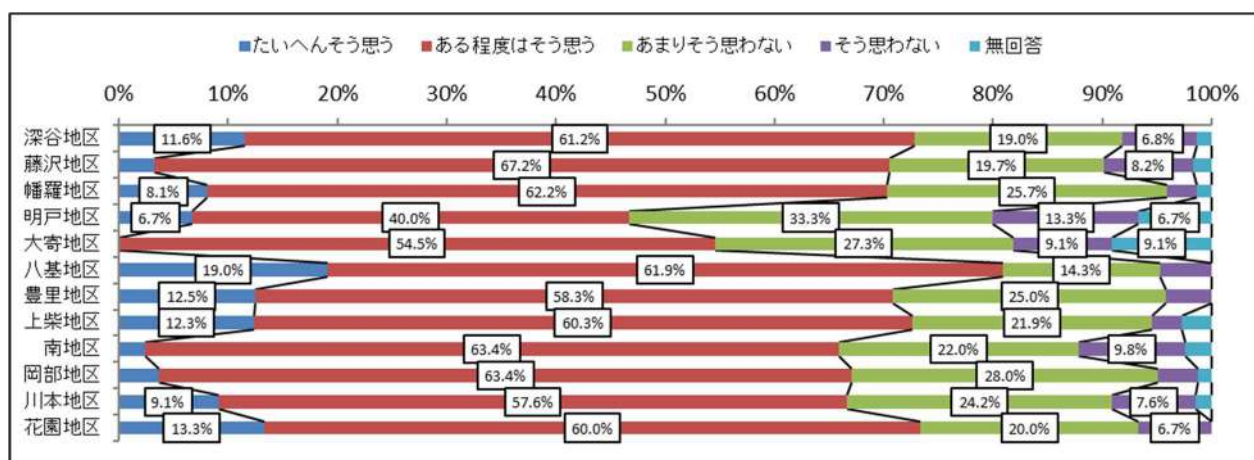
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が71.8%であるのに対して、女性は68.8%となっています。

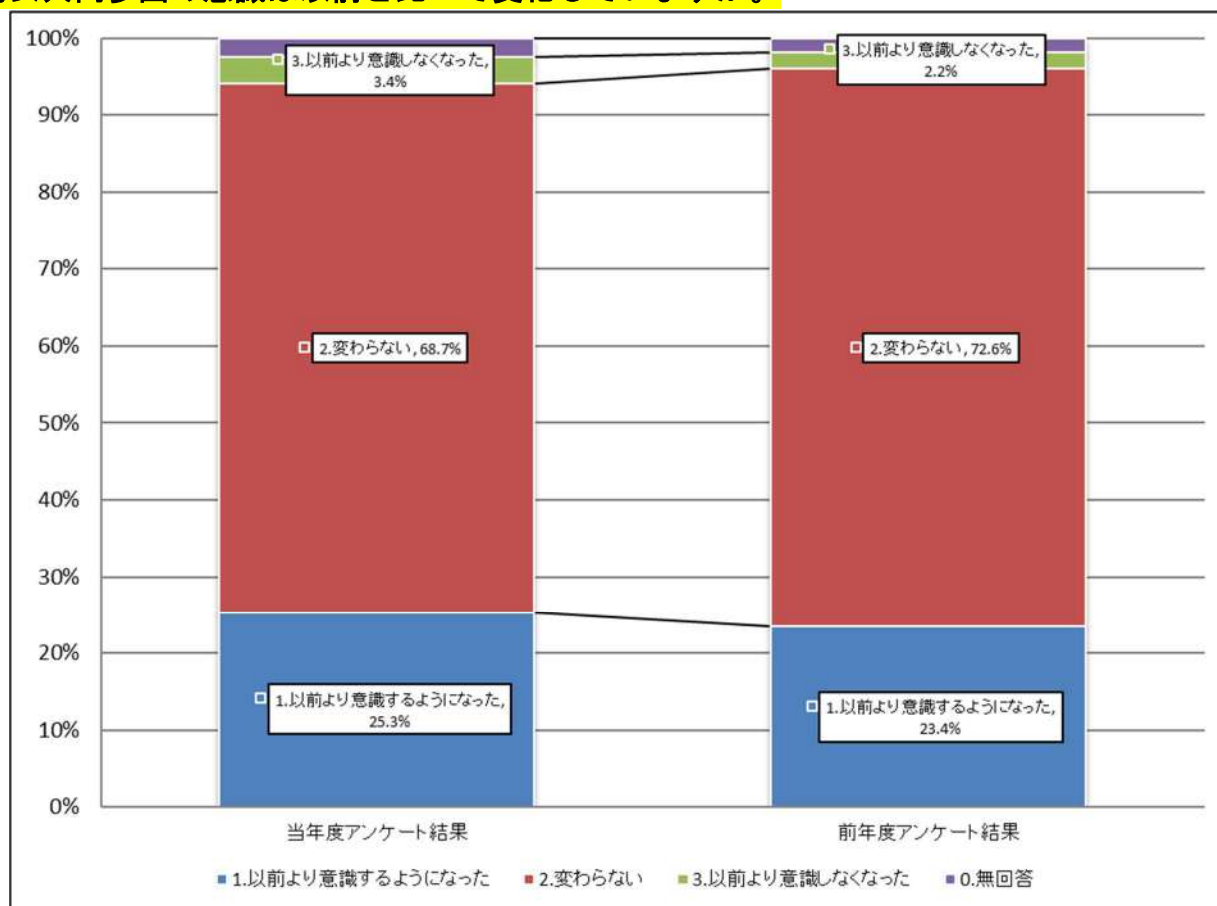
また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が60歳代（66.6%）、女性が40歳代（52.7%）であり、一方で、最も多い世代は、男女ともに10歳代（100.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区（46.7%）であり、次いで大寄地区（54.5%）となっています。最も多いのは八基地区（80.9%）であり、次いで花園地区（73.3%）となっています。

男女共同参画の意識は以前と比べて変化していますか。

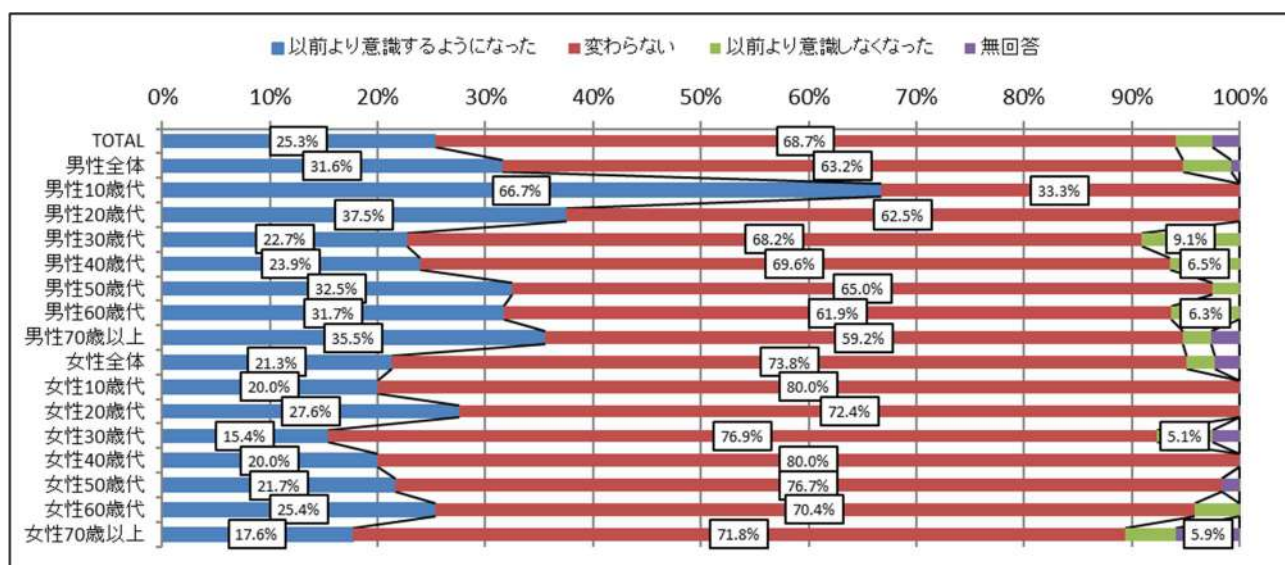


「変わらない」と回答した人の割合が 68.7%と最も多く、次いで「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 25.3%、「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合が 3.4%となっており、男女共同参画に対する意識は、以前から変わっていないと感じる市民が大多数を占めていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は 23.4%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		以前より意識するようになった	変わらない	以前より意識しなくなった	無回答	合計
TOTAL	675	25.3%	68.7%	3.4%	2.5%	100.0%
男性全体	266	31.6%	63.2%	4.5%	0.8%	100.0%
男性 10 歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	22.7%	68.2%	9.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	23.9%	69.6%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	32.5%	65.0%	2.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	31.7%	61.9%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	35.5%	59.2%	2.6%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—
女性全体	347	21.3%	73.8%	2.6%	2.3%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	27.6%	72.4%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	15.4%	76.9%	5.1%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	21.7%	76.7%	0.0%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	71	25.4%	70.4%	4.2%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	17.6%	71.8%	4.7%	5.9%	100.0%
女性年齢不詳	3	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
深谷地区	147	23.8%	69.4%	5.4%	1.4%	100.0%
藤沢地区	61	26.2%	68.9%	3.3%	1.6%	100.0%
幡羅地区	74	31.1%	66.2%	2.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	20.0%	60.0%	13.3%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	9.1%	81.8%	0.0%	9.1%	100.0%
八基地区	21	38.1%	57.1%	0.0%	4.8%	100.0%
豊里地区	24	16.7%	62.5%	16.7%	4.2%	100.0%
上柴地区	73	26.0%	71.2%	0.0%	2.7%	100.0%
南地区	41	19.5%	75.6%	2.4%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	29.3%	64.6%	1.2%	4.9%	100.0%
川本地区	66	24.2%	74.2%	1.5%	0.0%	100.0%
花園地区	45	26.7%	66.7%	4.4%	2.2%	100.0%
無回答	15	13.3%	73.3%	0.0%	13.3%	100.0%

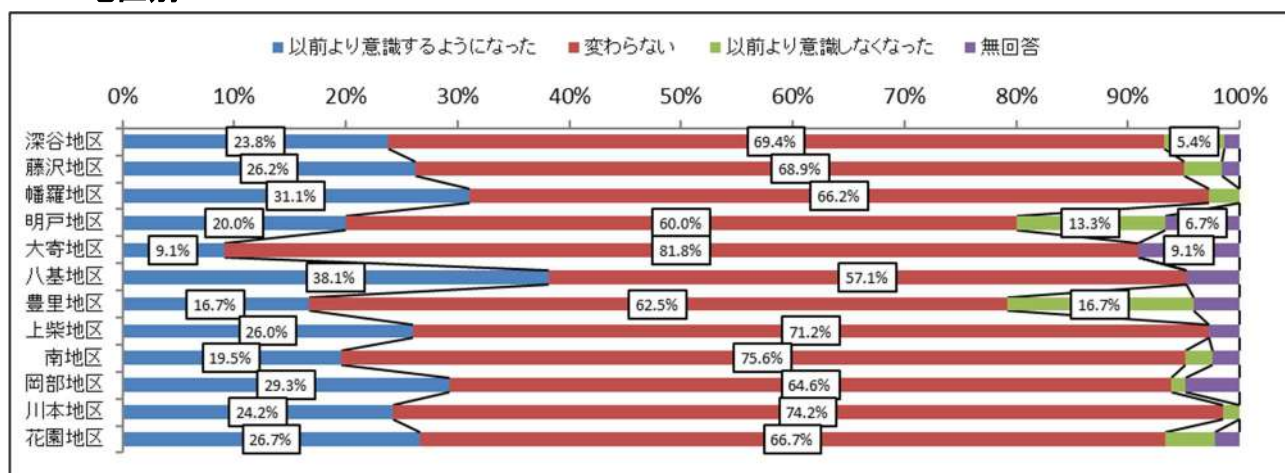
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は男性が 31.6%であるのに対して、女性は 21.3%となっています。このことから、男女によって差があることがうかがえます。

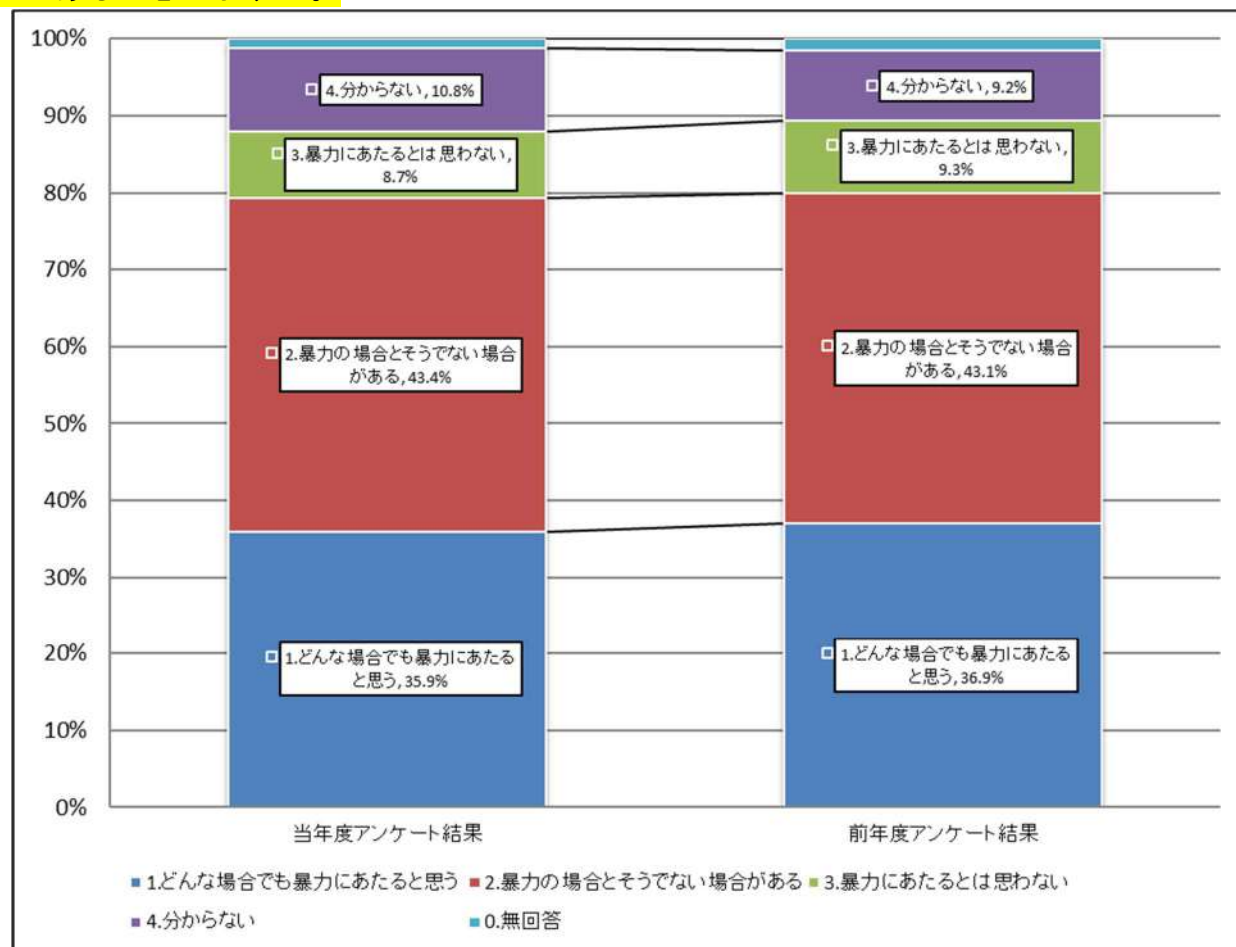
また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに 30 歳代（男性 22.7%、女性 15.4%）となっています。一方で、最も多い世代は、男性が 10 歳代（66.7%）、女性が 20 歳代（27.6%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（9.1%）であり、次いで豊里地区（16.7%）となっています。最も多いのは八基地区（38.1%）であり、次いで幡羅地区（31.1%）となっています。

配偶者などによる「電話、メール等の細かい監視」「生活費を渡さない」などの行為が暴力であると思いますか。

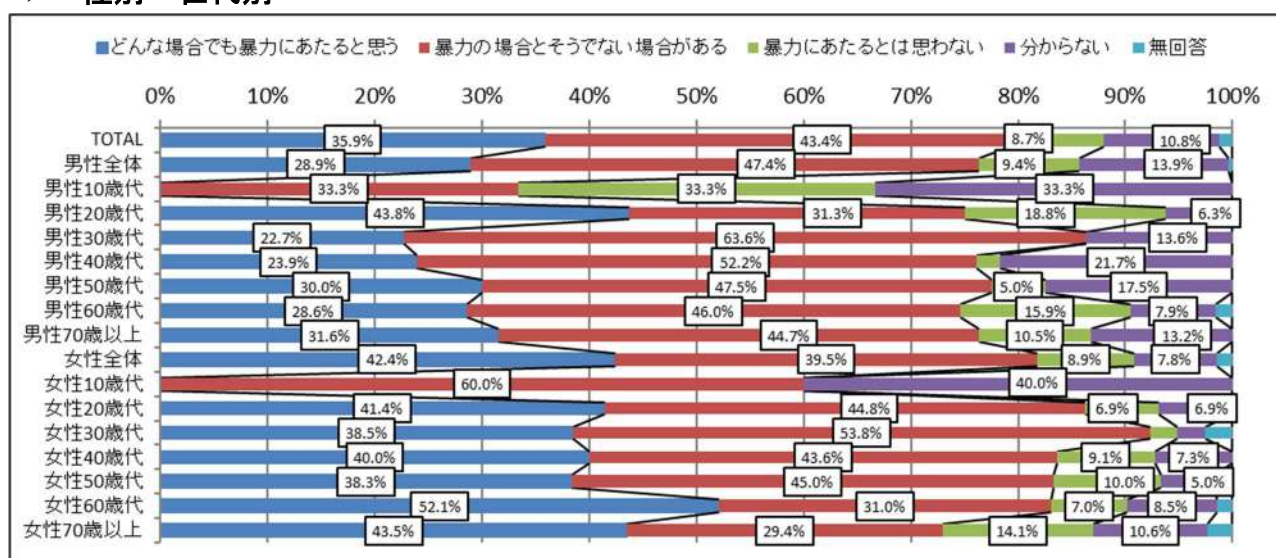


「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合が 43.4%と最も多く、次いで「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が 35.9%、「暴力にあたるとは思わない」と回答した人の割合が 8.7%、「分からない」が 10.8%となっています。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合は 79.3%であり、約 8 割の市民がハラスメントの意識が高いことがうかがえます。

母集団		どんな場合でも 暴力にあたると思う	暴力の場合と そうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	分からない	無回答	合計
TOTAL	675	35.9%	43.4%	8.7%	10.8%	1.2%	100.0%
男性全体	266	28.9%	47.4%	9.4%	13.9%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	43.8%	31.3%	18.8%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	22.7%	63.6%	0.0%	13.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	23.9%	52.2%	2.2%	21.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	30.0%	47.5%	5.0%	17.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	28.6%	46.0%	15.9%	7.9%	1.6%	100.0%
男性 70 歳以上	76	31.6%	44.7%	10.5%	13.2%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	42.4%	39.5%	8.9%	7.8%	1.4%	100.0%
女性 10 歳代	5	0.0%	60.0%	0.0%	40.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	41.4%	44.8%	6.9%	6.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	38.5%	53.8%	2.6%	2.6%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	40.0%	43.6%	9.1%	7.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	38.3%	45.0%	10.0%	5.0%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	71	52.1%	31.0%	7.0%	8.5%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	43.5%	29.4%	14.1%	10.6%	2.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	33.3%	42.9%	8.8%	14.3%	0.7%	100.0%
藤沢地区	61	36.1%	39.3%	11.5%	13.1%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	36.5%	48.6%	6.8%	6.8%	1.4%	100.0%
明戸地区	15	26.7%	46.7%	6.7%	13.3%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	45.5%	36.4%	9.1%	9.1%	0.0%	100.0%
八基地区	21	23.8%	47.6%	14.3%	14.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	33.3%	37.5%	16.7%	8.3%	4.2%	100.0%
上柴地区	73	41.1%	46.6%	5.5%	5.5%	1.4%	100.0%
南地区	41	39.0%	43.9%	2.4%	14.6%	0.0%	100.0%
岡部地区	82	34.1%	41.5%	14.6%	9.8%	0.0%	100.0%
川本地区	66	37.9%	42.4%	7.6%	12.1%	0.0%	100.0%
花園地区	45	37.8%	42.2%	6.7%	8.9%	4.4%	100.0%
無回答	15	40.0%	46.7%	0.0%	6.7%	6.7%	100.0%

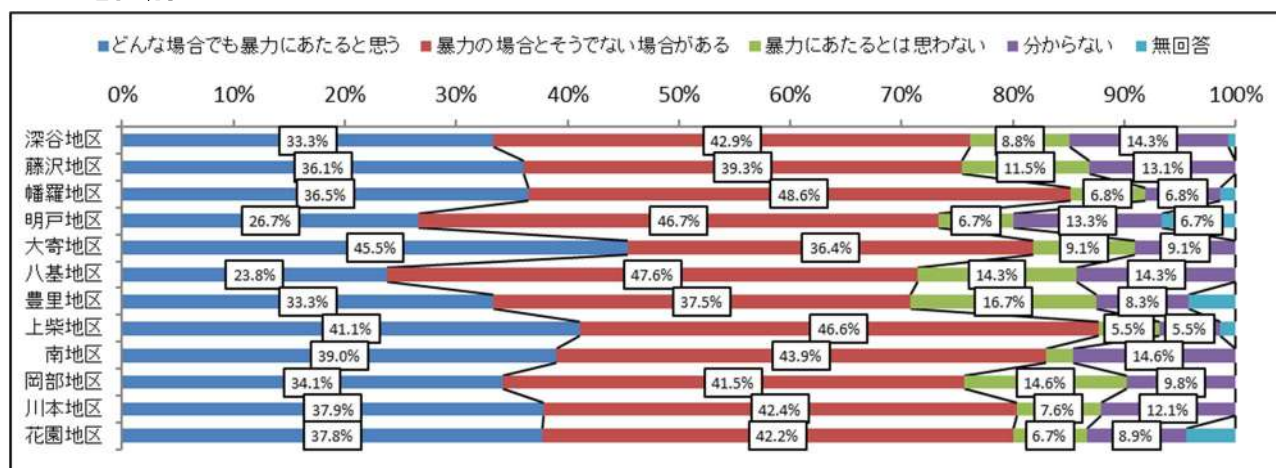
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合は男性が 76.3%であるのに対して、女性は 81.9%となっています。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに 10 歳代（男性 33.3%、女性 60.0%）であり、一方で、最も多い世代は、男女ともに 30 歳代（男性 86.3%、女性 92.3%）となっています。

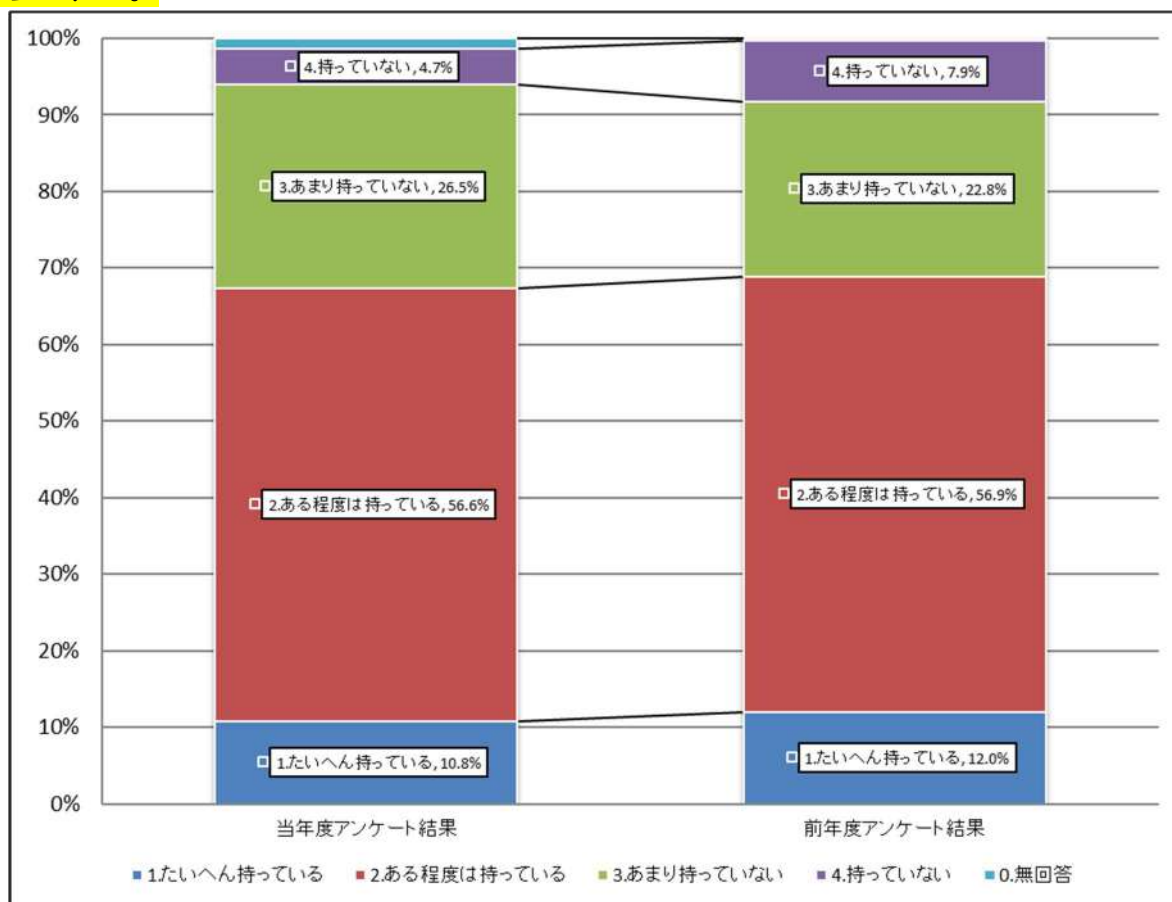
➤ 地区別



地区別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区（70.8%）であり、次いで八基地区（71.4%）となっています。最も多いのは上柴地区（87.7%）であり、次いで幡羅地区（85.1%）となっています。

⑤ 市民と行政との協働のまちづくり（7. 問8～11）

市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心をお持ちですか。



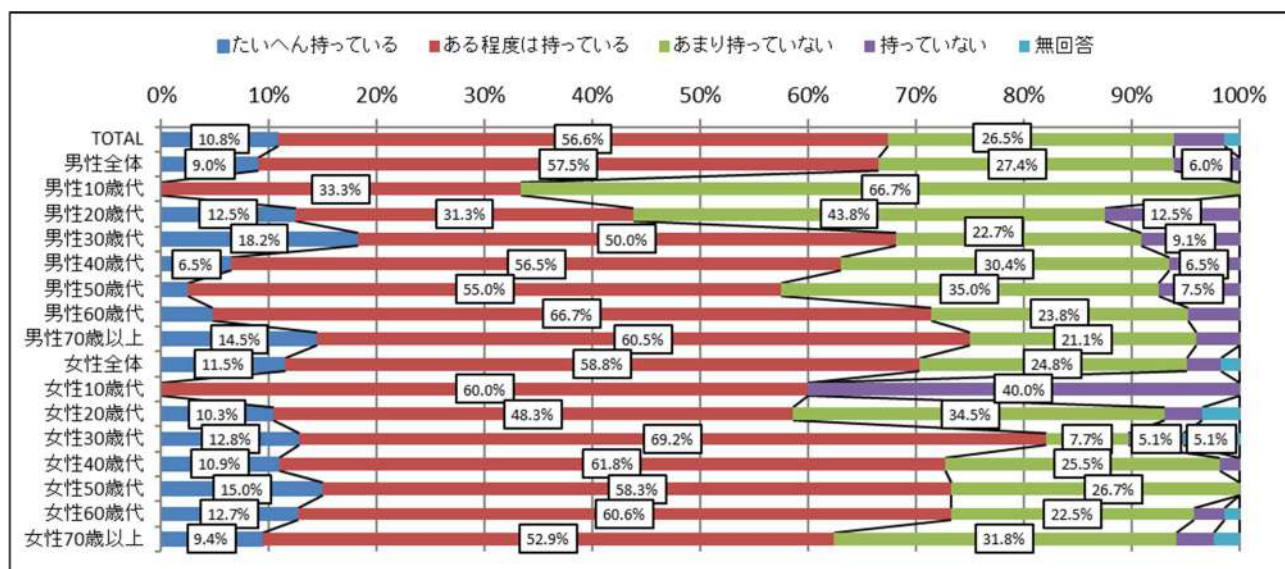
「ある程度は持っている」と回答した人の割合が 56.6%と最も多く、次いで「あまり持っていない」と回答した人の割合が 26.5%、「たいへん持っている」と回答した人の割合が 10.8%、「持っていない」と回答した人の割合が最も少なく 4.7%となっています。

「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合は 67.4%であり、7 割近くの市民は、市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合は 68.9%であり、前年度アンケートと比較して、微減していることがうかがえます。

母集団		たいへん持っている	ある程度は持っている	あまり持っていない	持っていない	無回答	合計
TOTAL	675	10.8%	56.6%	26.5%	4.7%	1.3%	100.0%
男性全体	266	9.0%	57.5%	27.4%	6.0%	0.0%	100.0%
男性 10 歳代	3	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	12.5%	31.3%	43.8%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	18.2%	50.0%	22.7%	9.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	6.5%	56.5%	30.4%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	2.5%	55.0%	35.0%	7.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	4.8%	66.7%	23.8%	4.8%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	14.5%	60.5%	21.1%	3.9%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	11.5%	58.8%	24.8%	3.2%	1.7%	100.0%
女性 10 歳代	5	0.0%	60.0%	0.0%	40.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	10.3%	48.3%	34.5%	3.4%	3.4%	100.0%
女性 30 歳代	39	12.8%	69.2%	7.7%	5.1%	5.1%	100.0%
女性 40 歳代	55	10.9%	61.8%	25.5%	1.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	15.0%	58.3%	26.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	12.7%	60.6%	22.5%	2.8%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	9.4%	52.9%	31.8%	3.5%	2.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	10.2%	54.4%	29.3%	6.1%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	8.2%	65.6%	21.3%	4.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	12.2%	70.3%	17.6%	0.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	0.0%	53.3%	33.3%	6.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	27.3%	72.7%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	21	14.3%	76.2%	4.8%	4.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	8.3%	50.0%	29.2%	8.3%	4.2%	100.0%
上柴地区	73	12.3%	49.3%	28.8%	6.8%	2.7%	100.0%
南地区	41	9.8%	68.3%	12.2%	4.9%	4.9%	100.0%
岡部地区	82	9.8%	58.5%	29.3%	2.4%	0.0%	100.0%
川本地区	66	16.7%	42.4%	33.3%	6.1%	1.5%	100.0%
花園地区	45	8.9%	57.8%	28.9%	2.2%	2.2%	100.0%
無回答	15	20.0%	33.3%	26.7%	13.3%	6.7%	100.0%

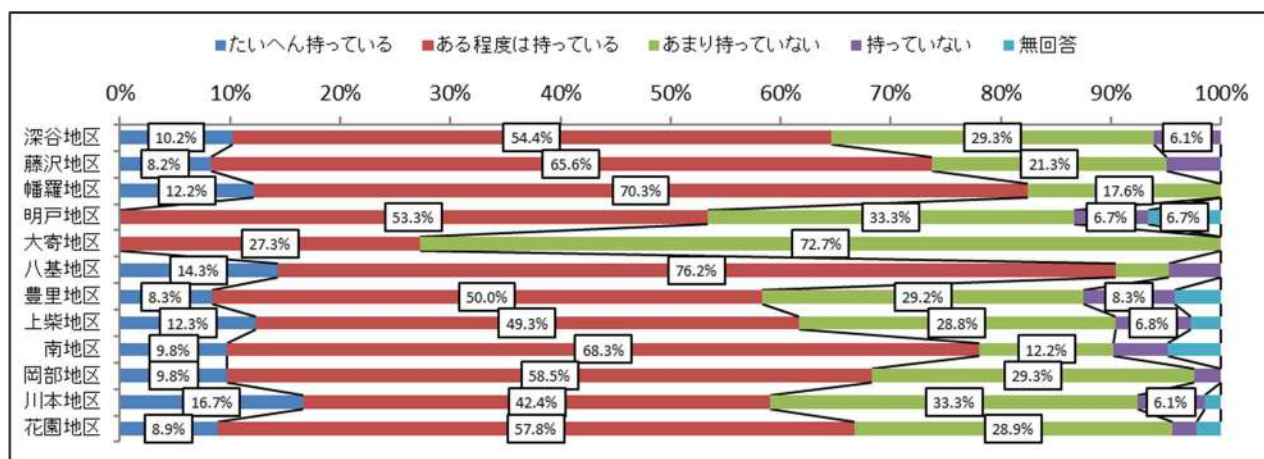
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合は男性が66.5%であるのに対して、女性は70.3%となっています。

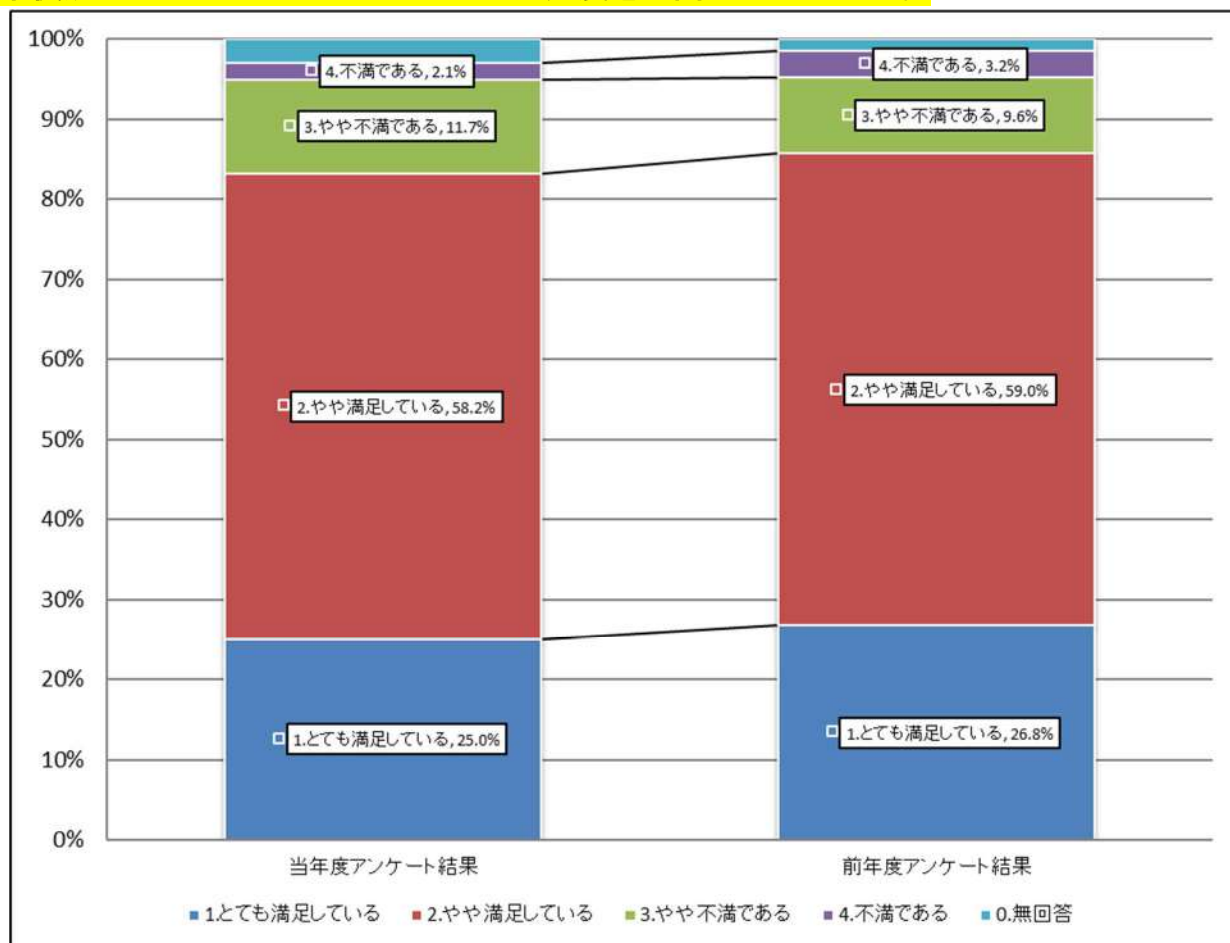
また、「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が10歳代（33.3%）、女性は20歳代（58.6%）であり、一方で、最も多い世代は、男性が70歳以上（75.0%）であり、女性は30歳代（82.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（27.3%）であり、次いで明戸地区（53.3%）となっています。最も多いのは八基地区（90.5%）であり、次いで幡羅地区（82.5%）となっています。

市役所における窓口対応についての満足度をお聞かせください。

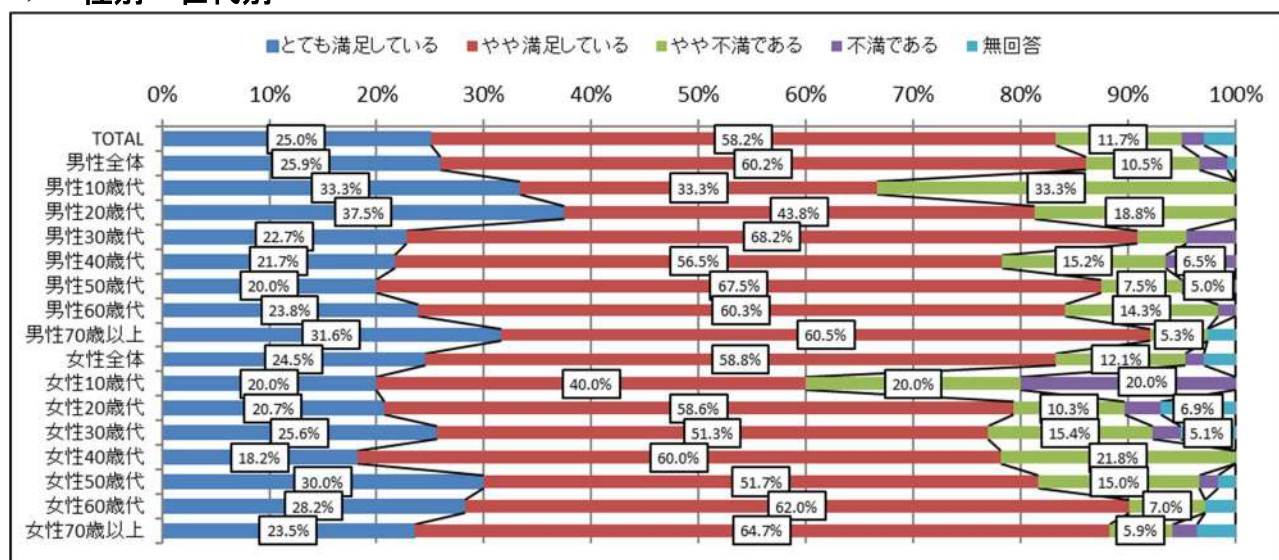


「やや満足している」と回答した人の割合が 58.2%と最も多く、次いで「とても満足している」と回答した人の割合が 25.0%、「やや不満である」と回答した人の割合が 11.7%、「不満である」が 2.1%となっています。

「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は 83.2%であり、約 8 割以上の市民が市役所窓口の対応について満足していることがうかがえます。

母集団		とても満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	無回答	合計
TOTAL	675	25.0%	58.2%	11.7%	2.1%	3.0%	100.0%
男性全体	266	25.9%	60.2%	10.5%	2.6%	0.8%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	37.5%	43.8%	18.8%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	22.7%	68.2%	4.5%	4.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	21.7%	56.5%	15.2%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	20.0%	67.5%	7.5%	5.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	23.8%	60.3%	14.3%	1.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	31.6%	60.5%	5.3%	0.0%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	24.5%	58.8%	12.1%	1.7%	2.9%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	20.7%	58.6%	10.3%	3.4%	6.9%	100.0%
女性 30 歳代	39	25.6%	51.3%	15.4%	2.6%	5.1%	100.0%
女性 40 歳代	55	18.2%	60.0%	21.8%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	30.0%	51.7%	15.0%	1.7%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	71	28.2%	62.0%	7.0%	0.0%	2.8%	100.0%
女性 70 歳以上	85	23.5%	64.7%	5.9%	2.4%	3.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	29.3%	57.8%	8.2%	4.1%	0.7%	100.0%
藤沢地区	61	21.3%	60.7%	16.4%	1.6%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	25.7%	59.5%	10.8%	0.0%	4.1%	100.0%
明戸地区	15	33.3%	46.7%	13.3%	0.0%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	18.2%	54.5%	27.3%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	21	23.8%	71.4%	4.8%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	29.2%	50.0%	16.7%	0.0%	4.2%	100.0%
上柴地区	73	32.9%	50.7%	8.2%	2.7%	5.5%	100.0%
南地区	41	26.8%	51.2%	17.1%	0.0%	4.9%	100.0%
岡部地区	82	22.0%	64.6%	12.2%	0.0%	1.2%	100.0%
川本地区	66	21.2%	60.6%	10.6%	6.1%	1.5%	100.0%
花園地区	45	15.6%	64.4%	13.3%	2.2%	4.4%	100.0%
無回答	15	6.7%	46.7%	20.0%	0.0%	26.7%	100.0%

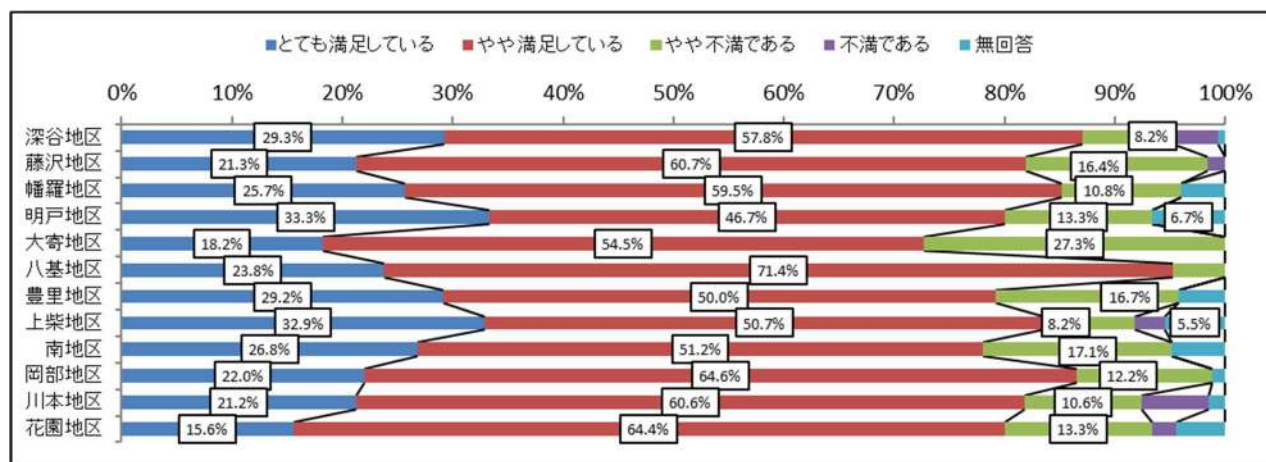
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は男性が86.1%であるのに対して、女性は83.3%となっています。

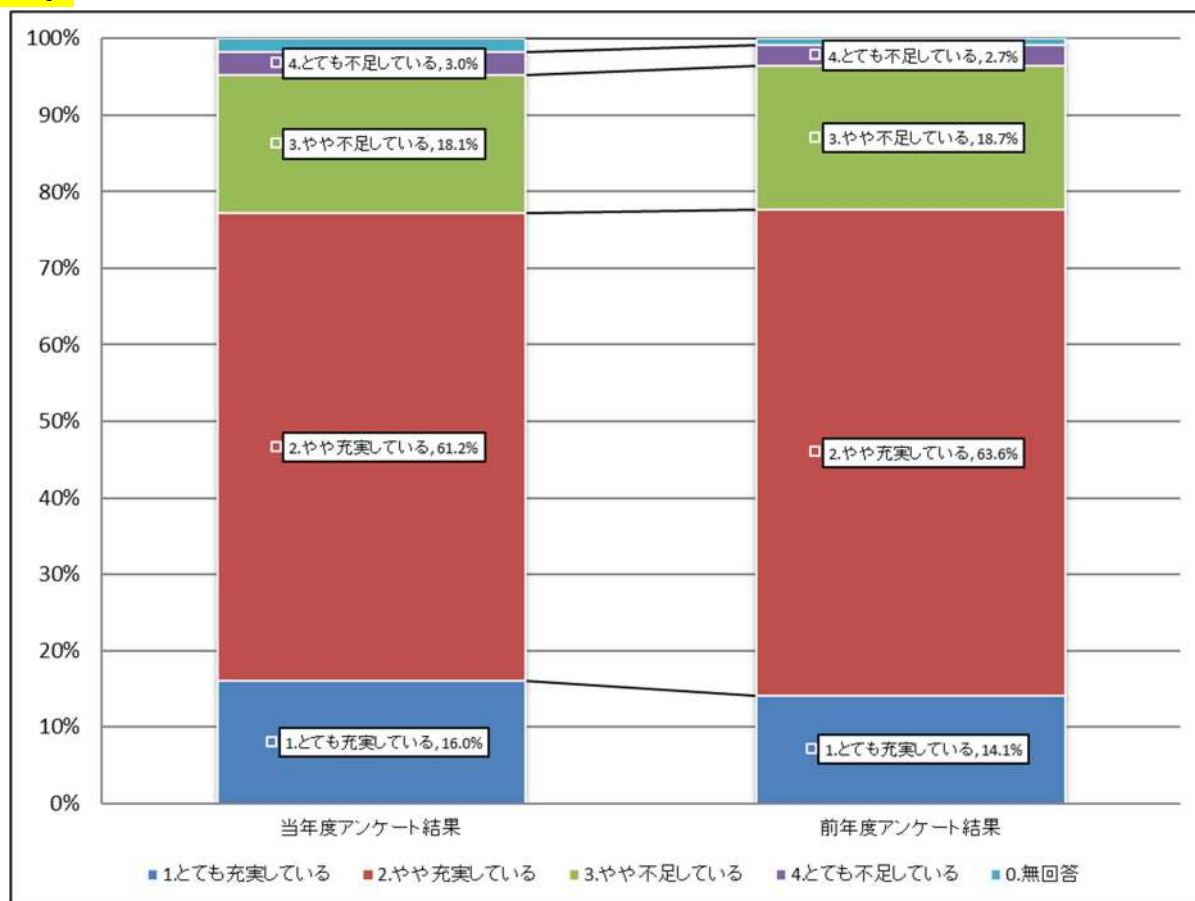
また、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに10歳代（男性66.6%、女性60.0%）であり、一方で、最も多い世代は、男性が70歳以上（92.1%）、女性60歳代（90.2%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（72.7%）であり、次いで南地区（78.0%）となっています。最も多いのは八基地区（95.2%）であり、次いで深谷地区（87.1%）となっています。

市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していますか。



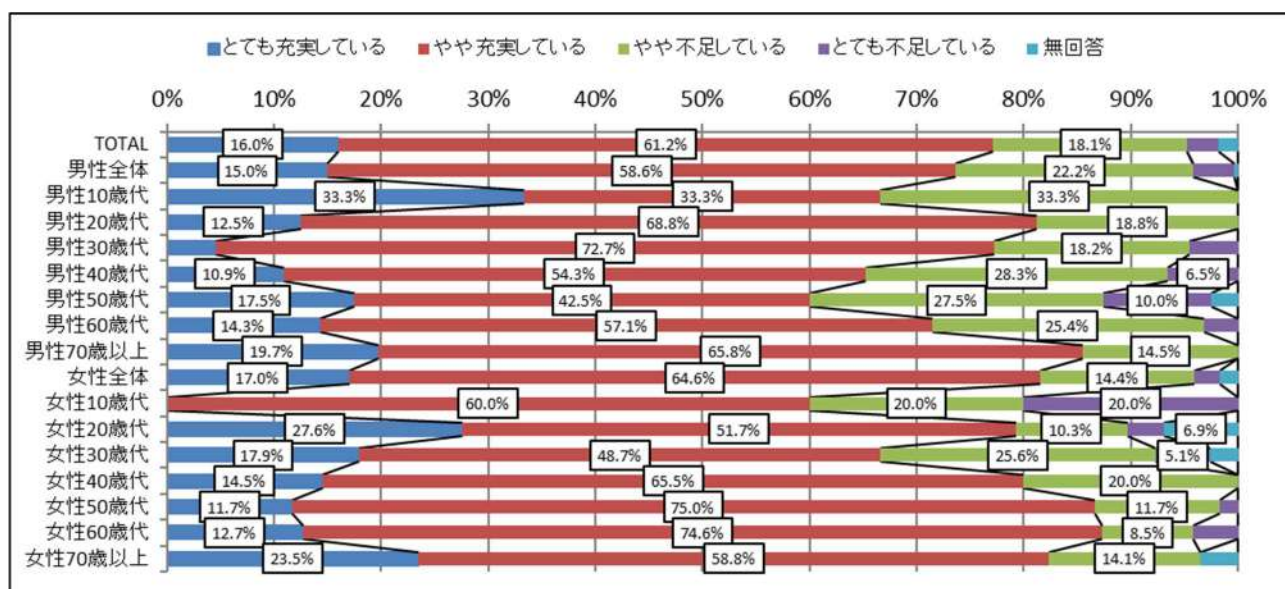
「やや充実している」と回答した人の割合が 61.2%と最も多く、次いで「やや不足している」と回答した人の割合が 18.1%、「とても充実している」と回答した人の割合が 16.0%、「とても不足している」と回答した人の割合が最も少なく 3.0%となっています。

「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は 77.2%であり、市から得られる情報および公表手段は充実していると感じている市民が約 8 割近くを占めることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は 77.7%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変化はありませんでした。

母集団		とても充実している	やや充実している	やや不足している	とても不足している	無回答	合計
TOTAL	675	16.0%	61.2%	18.1%	3.0%	1.8%	100.0%
男性全体	266	15.0%	58.6%	22.2%	3.8%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	12.5%	68.8%	18.8%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	4.5%	72.7%	18.2%	4.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	10.9%	54.3%	28.3%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	17.5%	42.5%	27.5%	10.0%	2.5%	100.0%
男性 60 歳代	63	14.3%	57.1%	25.4%	3.2%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	19.7%	65.8%	14.5%	0.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	17.0%	64.6%	14.4%	2.3%	1.7%	100.0%
女性 10 歳代	5	0.0%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	27.6%	51.7%	10.3%	3.4%	6.9%	100.0%
女性 30 歳代	39	17.9%	48.7%	25.6%	5.1%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	14.5%	65.5%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	11.7%	75.0%	11.7%	1.7%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	12.7%	74.6%	8.5%	4.2%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	23.5%	58.8%	14.1%	0.0%	3.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	17.7%	61.9%	15.0%	4.8%	0.7%	100.0%
藤沢地区	61	14.8%	63.9%	18.0%	1.6%	1.6%	100.0%
幡羅地区	74	16.2%	62.2%	21.6%	0.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	13.3%	53.3%	26.7%	0.0%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	63.6%	18.2%	18.2%	0.0%	100.0%
八基地区	21	19.0%	61.9%	19.0%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	25.0%	45.8%	20.8%	4.2%	4.2%	100.0%
上柴地区	73	26.0%	57.5%	12.3%	1.4%	2.7%	100.0%
南地区	41	9.8%	68.3%	19.5%	0.0%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	12.2%	69.5%	15.9%	1.2%	1.2%	100.0%
川本地区	66	13.6%	48.5%	30.3%	6.1%	1.5%	100.0%
花園地区	45	15.6%	66.7%	11.1%	4.4%	2.2%	100.0%
無回答	15	0.0%	60.0%	20.0%	6.7%	13.3%	100.0%

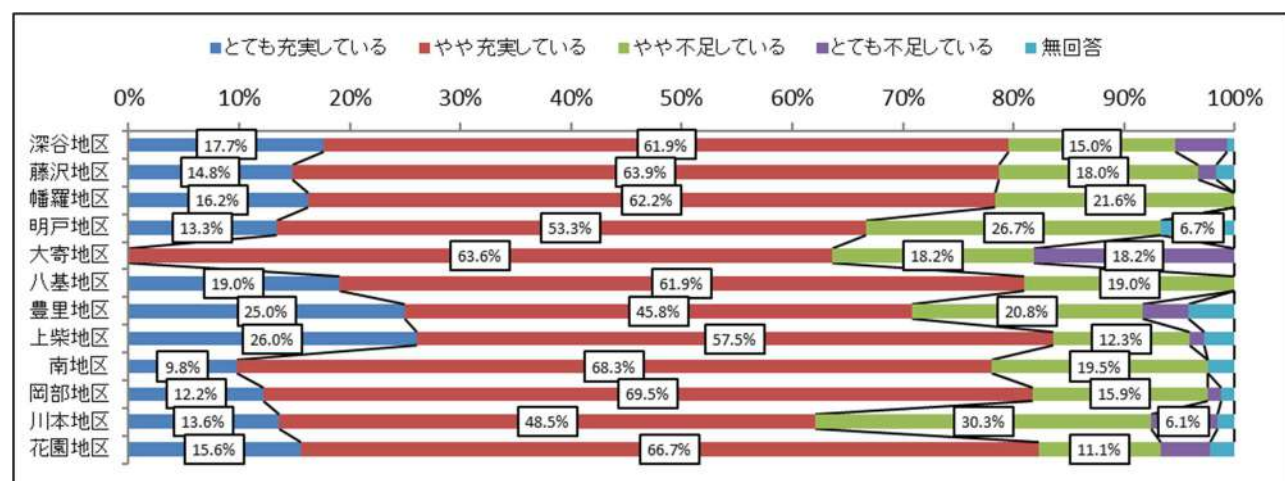
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は男性が73.6%であるのに対して、女性は81.6%となっています。

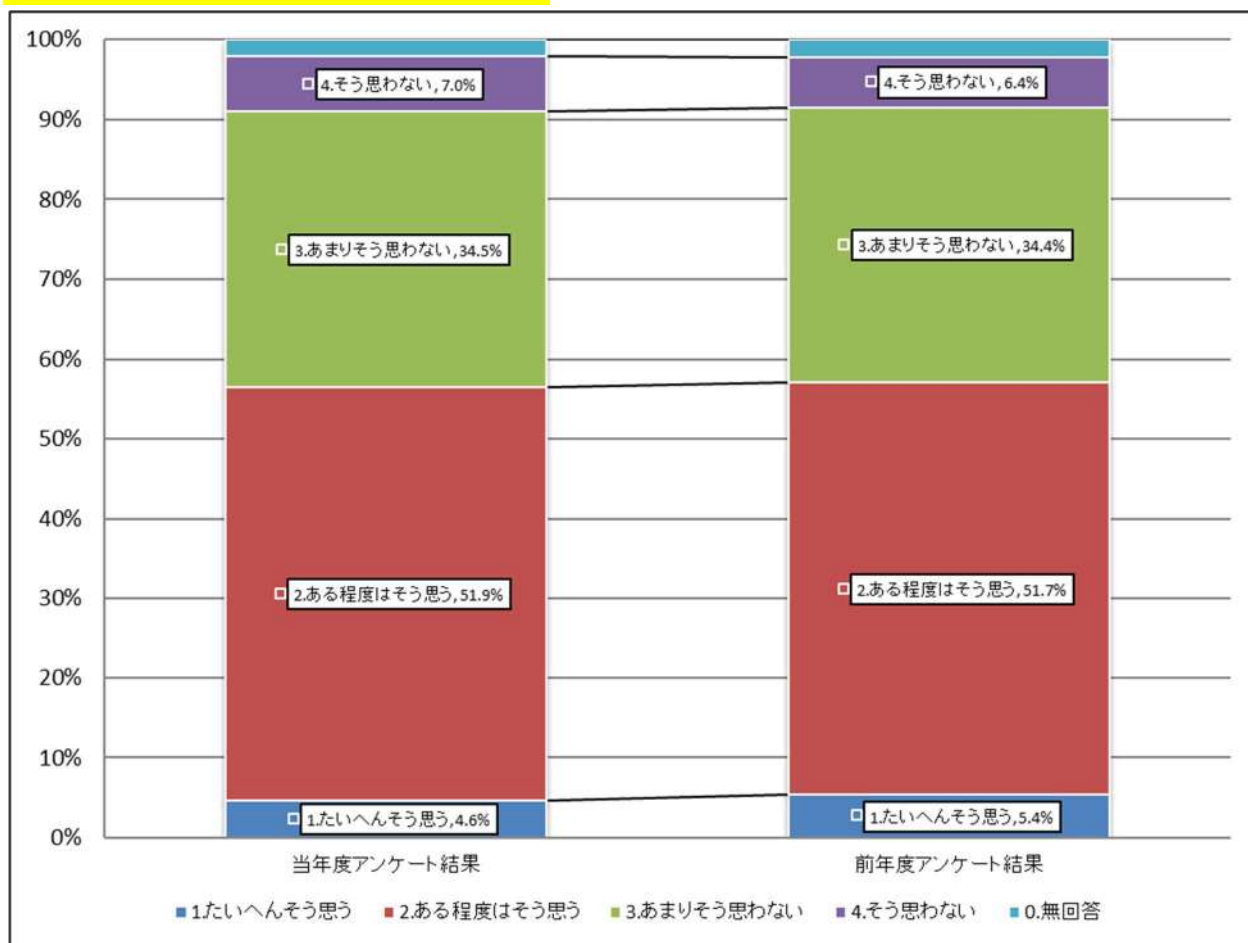
また、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が50歳代（60.0%）であり、女性は10歳代（60.0%）であり、一方で、最も多い世代は、男性が70歳以上（85.5%）であり、女性は60歳代（87.3%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合が最も少ないのは、川本地区（62.1%）であり、次いで大寄地区（63.6%）となっています。最も多いのは上柴地区（83.5%）であり、次いで花園地区（82.3%）となっています。

市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思いますか。



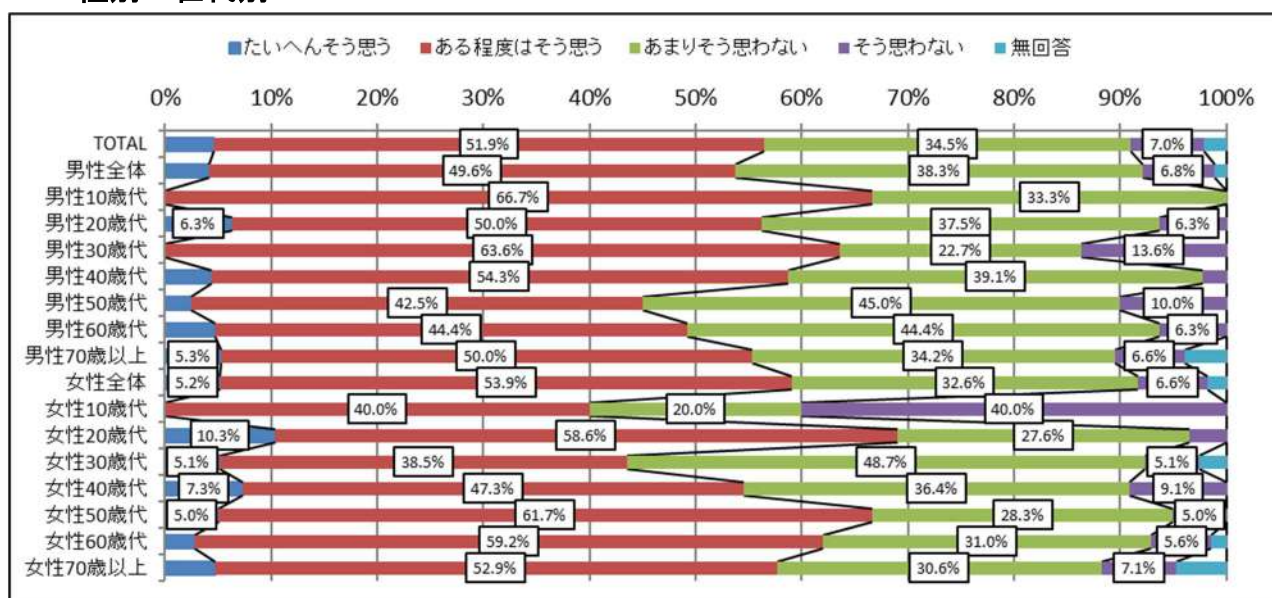
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 51.9%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 34.5%、「そう思わない」と回答した人の割合が 7.0%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が最も少なく 4.6%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 56.5%であり、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決することができていると感じている市民が半数以上を占めることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 57.1%であり、前年度アンケートと比較して、微減したことがうかがえます。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	675	4.6%	51.9%	34.5%	7.0%	2.1%	100.0%
男性全体	266	4.1%	49.6%	38.3%	6.8%	1.1%	100.0%
男性 10 歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	6.3%	50.0%	37.5%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	0.0%	63.6%	22.7%	13.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	4.3%	54.3%	39.1%	2.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	2.5%	42.5%	45.0%	10.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	4.8%	44.4%	44.4%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	5.3%	50.0%	34.2%	6.6%	3.9%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	5.2%	53.9%	32.6%	6.6%	1.7%	100.0%
女性 10 歳代	5	0.0%	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	10.3%	58.6%	27.6%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	5.1%	38.5%	48.7%	5.1%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	7.3%	47.3%	36.4%	9.1%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	5.0%	61.7%	28.3%	5.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	2.8%	59.2%	31.0%	5.6%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	4.7%	52.9%	30.6%	7.1%	4.7%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	5.4%	54.4%	30.6%	8.2%	1.4%	100.0%
藤沢地区	61	6.6%	52.5%	31.1%	9.8%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	0.0%	62.2%	33.8%	4.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	6.7%	33.3%	46.7%	6.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	36.4%	54.5%	9.1%	0.0%	100.0%
八基地区	21	9.5%	61.9%	23.8%	4.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	8.3%	50.0%	37.5%	4.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	4.1%	58.9%	28.8%	4.1%	4.1%	100.0%
南地区	41	2.4%	48.8%	39.0%	4.9%	4.9%	100.0%
岡部地区	82	4.9%	48.8%	39.0%	6.1%	1.2%	100.0%
川本地区	66	6.1%	36.4%	39.4%	13.6%	4.5%	100.0%
花園地区	45	4.4%	55.6%	33.3%	6.7%	0.0%	100.0%
無回答	15	0.0%	40.0%	46.7%	0.0%	13.3%	100.0%

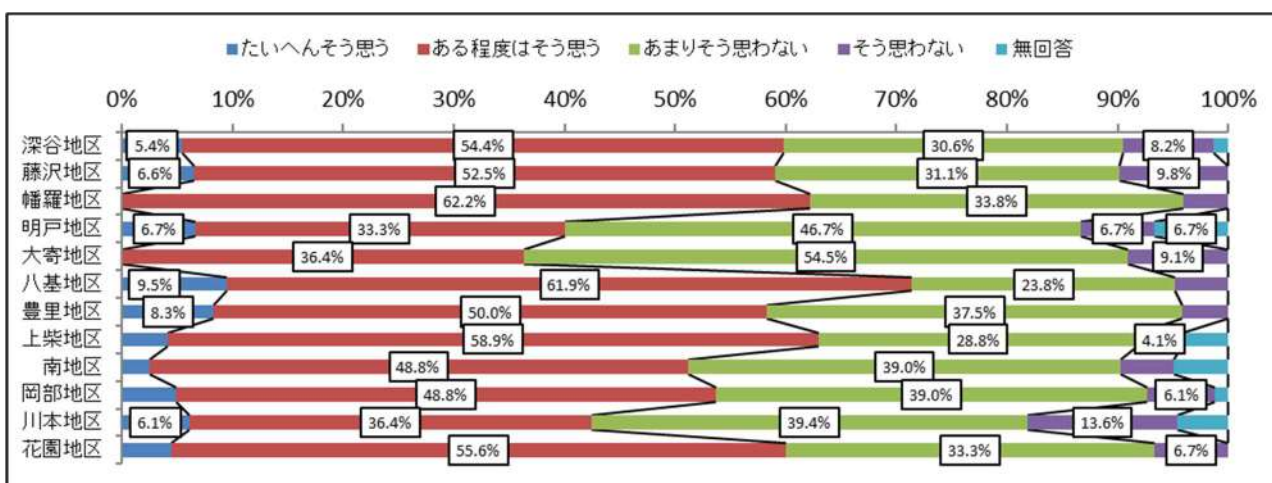
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が53.7%であるのに対して、女性は59.1%となっています。

また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が50歳代（45.0%）、女性は10歳代（40.0%）であり、一方で、最も多い世代は、男性が10歳代（66.7%）、女性は20歳代（68.9%）となっています。

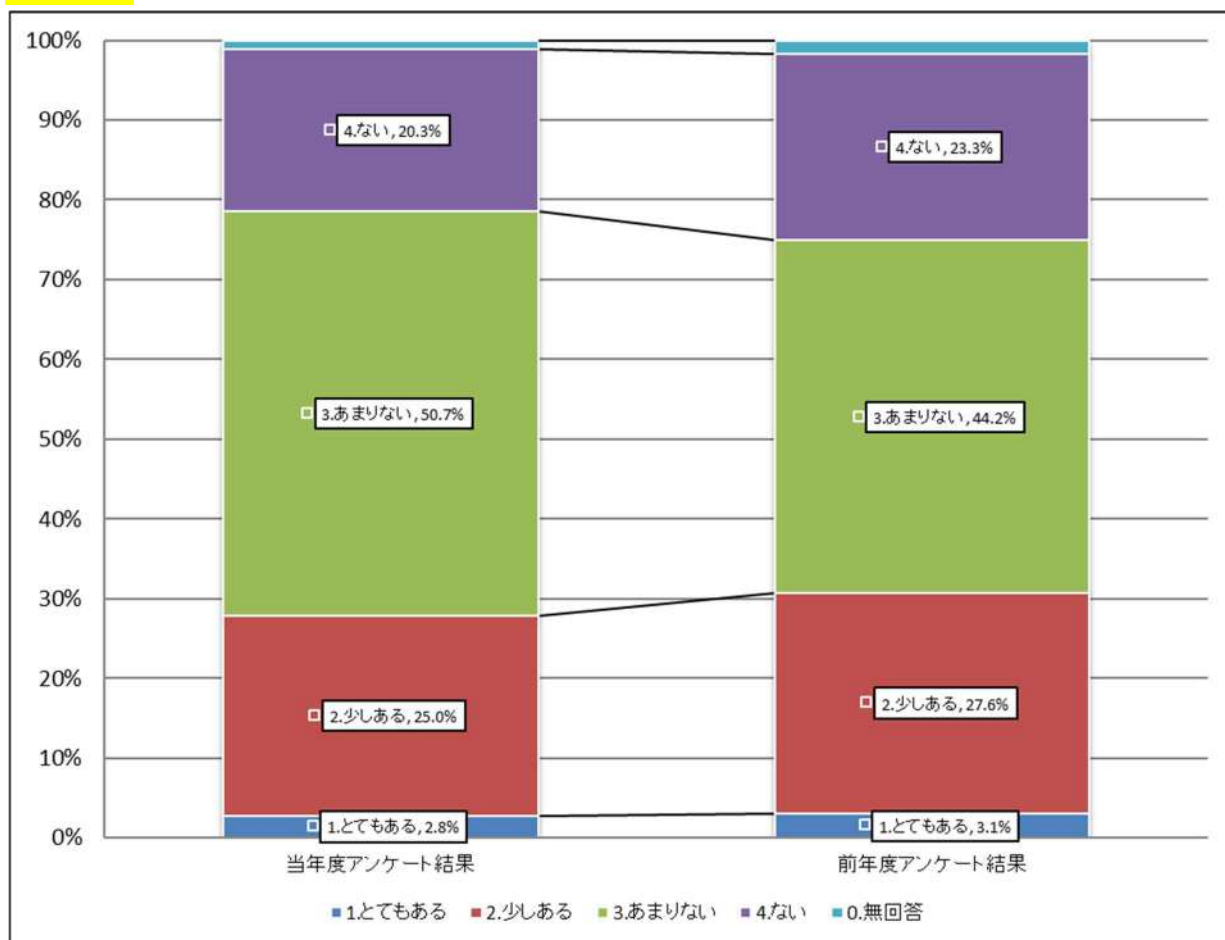
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（36.4%）であり、次いで明戸地区（40.0%）となっています。最も多いのは八基地区（71.4%）であり、次いで上柴地区（63.0%）となっています。

⑥ 絆でつながるひとづくり（7. 問12～15）

市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動はありますか。



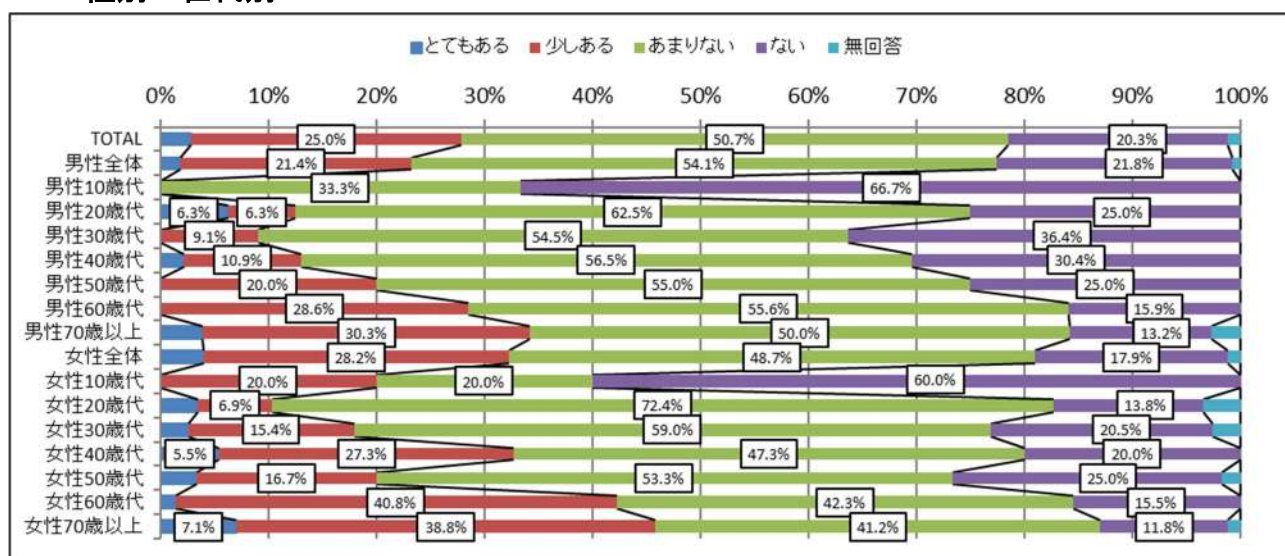
「あまりない」と回答した人の割合が 50.7%と最も多く、次いで「少しある」と回答した人の割合が 25.0%、「ない」と回答した人の割合が 20.3%、「とてもある」と回答した人の割合は最も少なく 2.8%となっています。

「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は 27.8%であり、市民の多くは NPO 団体での活動やボランティア活動に対してあまり興味をもっていないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は 30.7%であり、前年度アンケートと比較して、減少したことがうかがえます。

母集団		とてもある	少しある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	675	2. 8%	25. 0%	50. 7%	20. 3%	1. 2%	100. 0%
男性全体	266	1. 9%	21. 4%	54. 1%	21. 8%	0. 8%	100. 0%
男性 10 歳代	3	0. 0%	0. 0%	33. 3%	66. 7%	0. 0%	100. 0%
男性 20 歳代	16	6. 3%	6. 3%	62. 5%	25. 0%	0. 0%	100. 0%
男性 30 歳代	22	0. 0%	9. 1%	54. 5%	36. 4%	0. 0%	100. 0%
男性 40 歳代	46	2. 2%	10. 9%	56. 5%	30. 4%	0. 0%	100. 0%
男性 50 歳代	40	0. 0%	20. 0%	55. 0%	25. 0%	0. 0%	100. 0%
男性 60 歳代	63	0. 0%	28. 6%	55. 6%	15. 9%	0. 0%	100. 0%
男性 70 歳以上	76	3. 9%	30. 3%	50. 0%	13. 2%	2. 6%	100. 0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	347	4. 0%	28. 2%	48. 7%	17. 9%	1. 2%	100. 0%
女性 10 歳代	5	0. 0%	20. 0%	20. 0%	60. 0%	0. 0%	100. 0%
女性 20 歳代	29	3. 4%	6. 9%	72. 4%	13. 8%	3. 4%	100. 0%
女性 30 歳代	39	2. 6%	15. 4%	59. 0%	20. 5%	2. 6%	100. 0%
女性 40 歳代	55	5. 5%	27. 3%	47. 3%	20. 0%	0. 0%	100. 0%
女性 50 歳代	60	3. 3%	16. 7%	53. 3%	25. 0%	1. 7%	100. 0%
女性 60 歳代	71	1. 4%	40. 8%	42. 3%	15. 5%	0. 0%	100. 0%
女性 70 歳以上	85	7. 1%	38. 8%	41. 2%	11. 8%	1. 2%	100. 0%
女性年齢不詳	3	0. 0%	66. 7%	33. 3%	0. 0%	0. 0%	100. 0%
深谷地区	147	2. 0%	24. 5%	53. 1%	20. 4%	0. 0%	100. 0%
藤沢地区	61	3. 3%	23. 0%	54. 1%	19. 7%	0. 0%	100. 0%
幡羅地区	74	4. 1%	25. 7%	54. 1%	14. 9%	1. 4%	100. 0%
明戸地区	15	6. 7%	6. 7%	53. 3%	26. 7%	6. 7%	100. 0%
大寄地区	11	0. 0%	18. 2%	63. 6%	18. 2%	0. 0%	100. 0%
八基地区	21	9. 5%	23. 8%	57. 1%	9. 5%	0. 0%	100. 0%
豊里地区	24	4. 2%	29. 2%	54. 2%	12. 5%	0. 0%	100. 0%
上柴地区	73	1. 4%	24. 7%	50. 7%	20. 5%	2. 7%	100. 0%
南地区	41	2. 4%	26. 8%	36. 6%	29. 3%	4. 9%	100. 0%
岡部地区	82	1. 2%	30. 5%	51. 2%	17. 1%	0. 0%	100. 0%
川本地区	66	4. 5%	24. 2%	39. 4%	30. 3%	1. 5%	100. 0%
花園地区	45	2. 2%	20. 0%	57. 8%	20. 0%	0. 0%	100. 0%
無回答	15	0. 0%	40. 0%	33. 3%	20. 0%	6. 7%	100. 0%

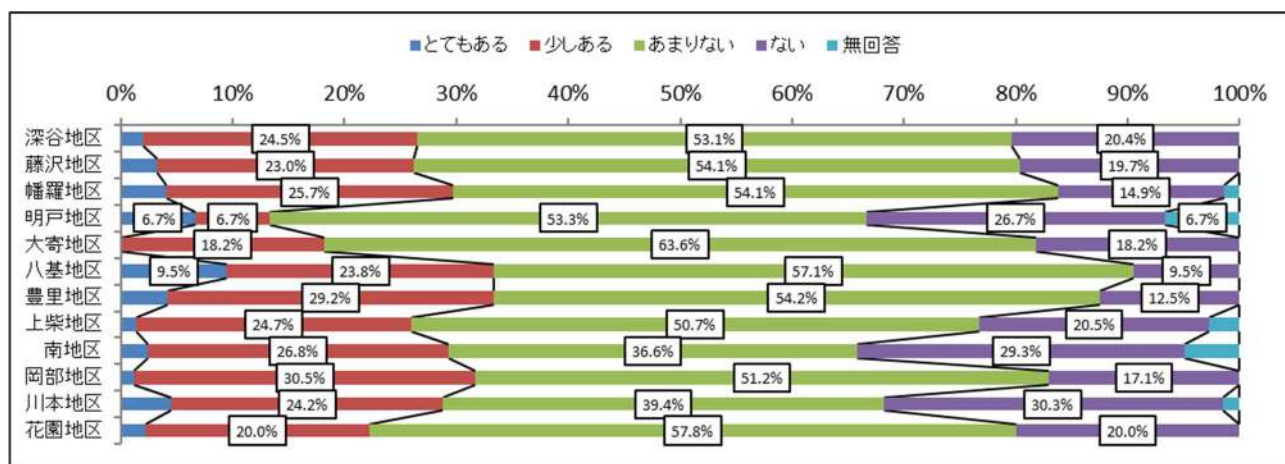
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は男性が23.3%であるのに対して、女性は32.2%となっています。

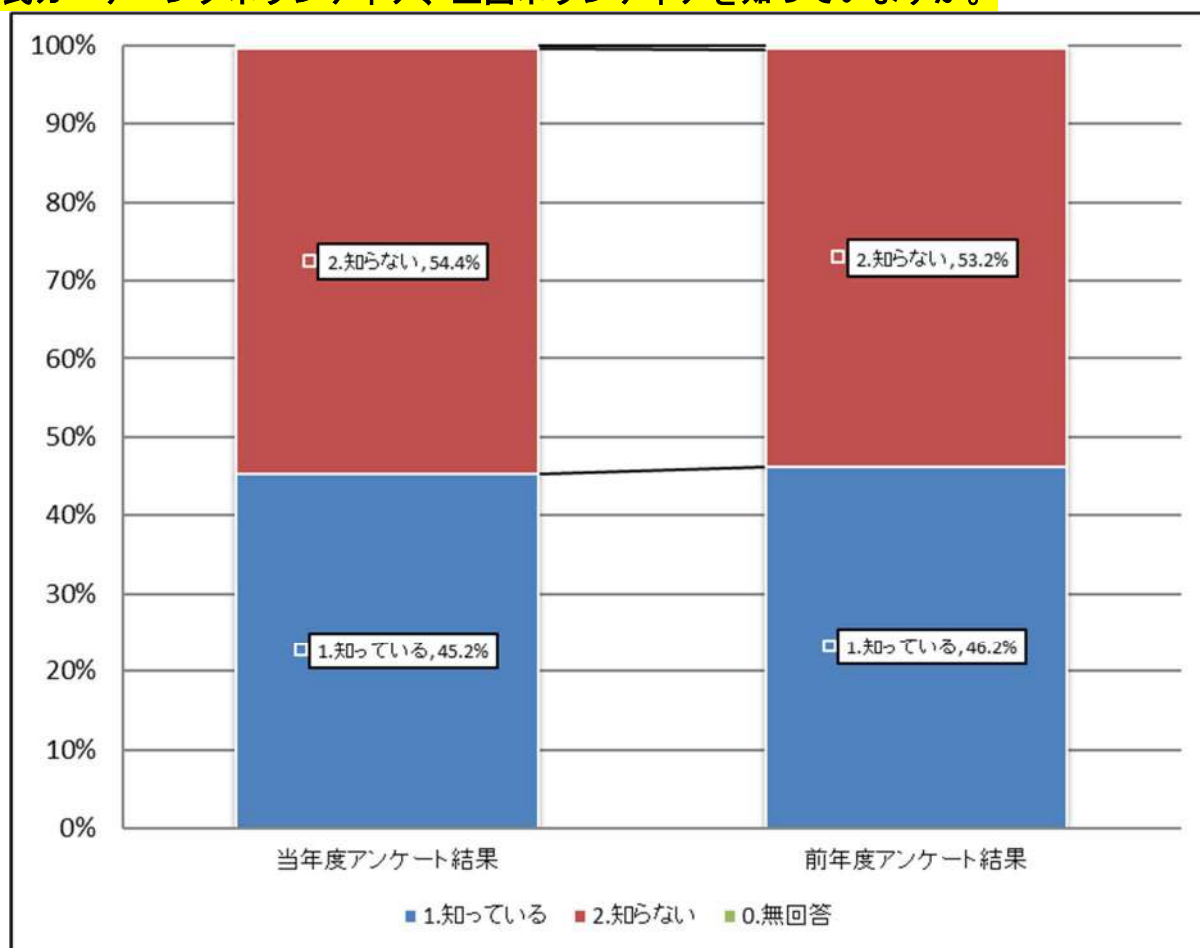
「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が10歳代（0.0%）、女性が20歳代（10.3%）となっています。最も多い世代は、男女ともに70歳以上（男性34.2%、女性45.9%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区（13.4%）であり、次いで大寄地区（18.2%）となっています。最も多いのは豊里地区（33.4%）であり、次いで八基地区（33.3%）となっています。

市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていますか。

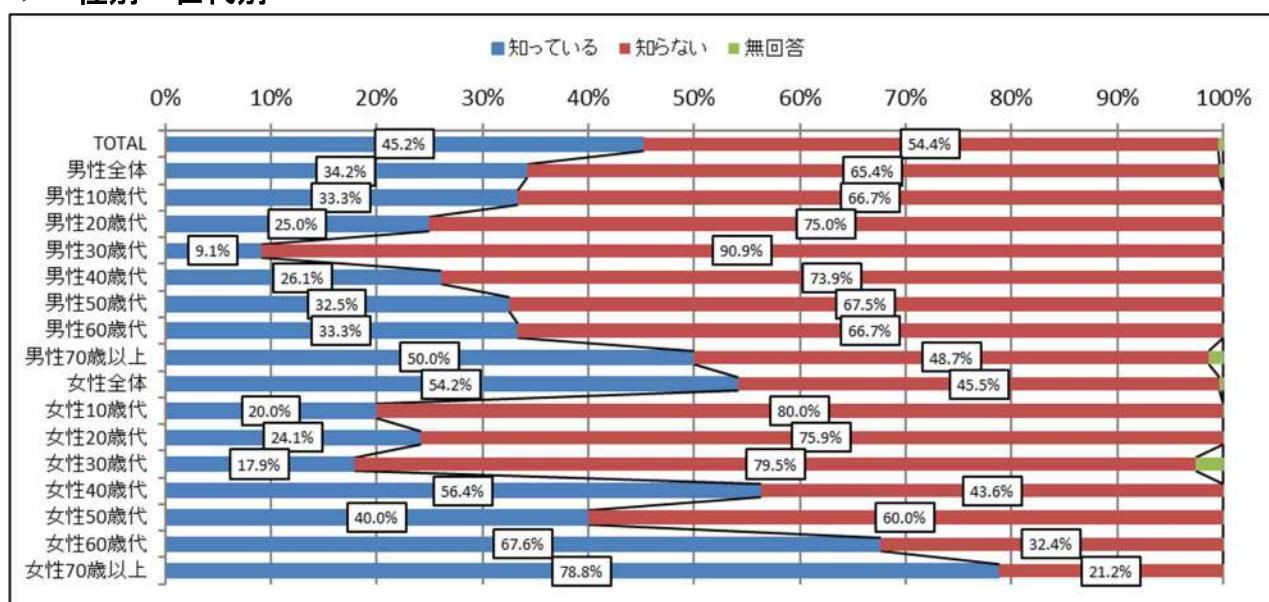


「知らない」と回答した人の割合は 54.4%、「知っている」と回答した人の割合は 45.2%であり、半数以上の人々が市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知らないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は 46.2%であり、前年度アンケートと比較して、微減していることがうかがえます。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	675	45.2%	54.4%	0.4%	100.0%
男性全体	266	34.2%	65.4%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	9.1%	90.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	26.1%	73.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	32.5%	67.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	50.0%	48.7%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	347	54.2%	45.5%	0.3%	100.0%
女性 10 歳代	5	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	24.1%	75.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	17.9%	79.5%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	56.4%	43.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	67.6%	32.4%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	78.8%	21.2%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	37.4%	62.6%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	52.5%	47.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	47.3%	52.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	46.7%	46.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	18.2%	81.8%	0.0%	100.0%
八基地区	21	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	58.3%	41.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	43.8%	56.2%	0.0%	100.0%
南地区	41	58.5%	39.0%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
川本地区	66	37.9%	62.1%	0.0%	100.0%
花園地区	45	46.7%	53.3%	0.0%	100.0%
無回答	15	66.7%	26.7%	6.7%	100.0%

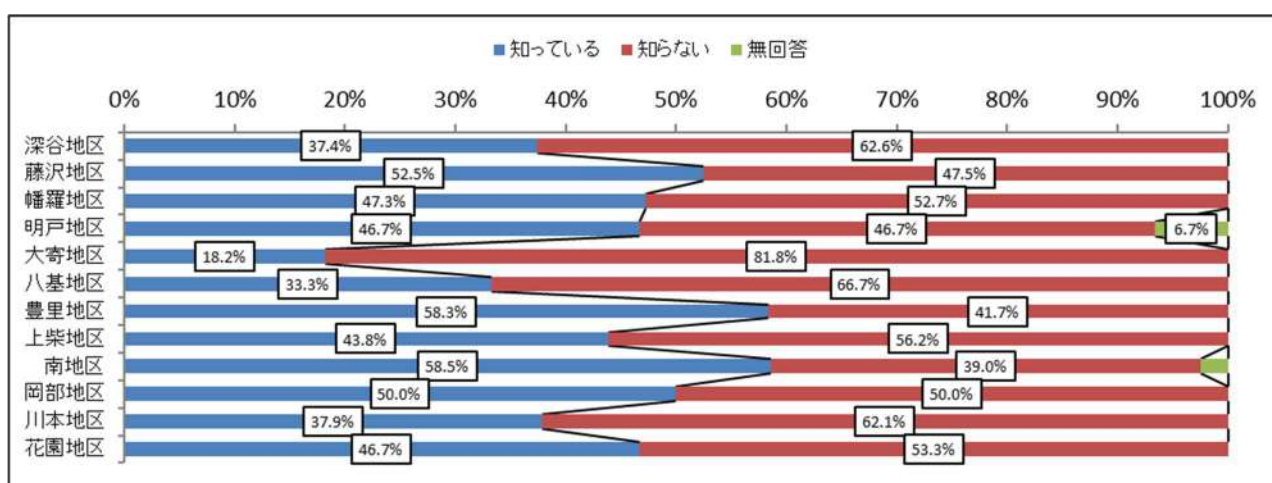
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は、男性が 34.2%であるのに対して、女性は 54.2%となっています。男女によって、差があることがうかがえます。

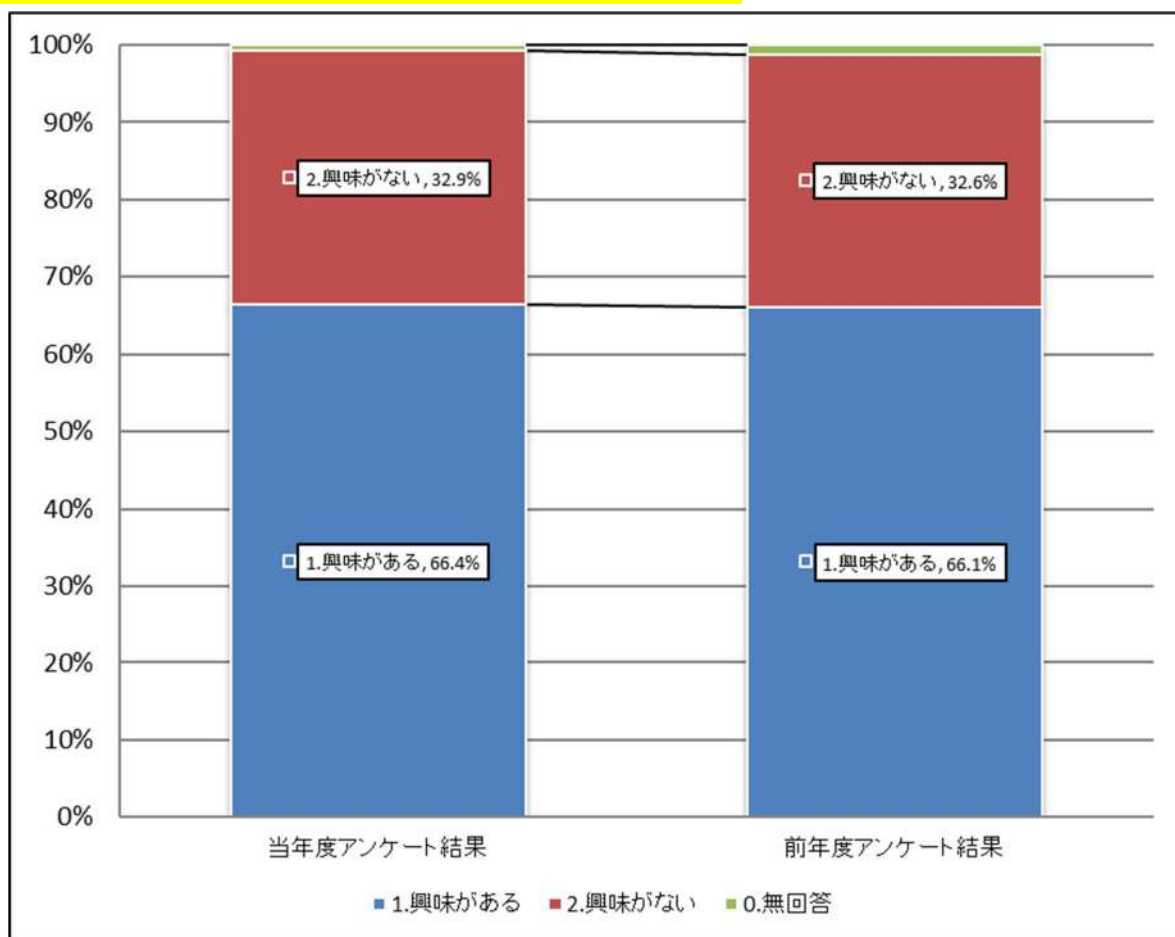
また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに 30 歳代（男性 9.1%、女性 17.9%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに 70 歳以上（男性 50.0%、女性 78.8%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（18.2%）であり、次いで八基地区（33.3%）となっています。最も多いのは南地区（58.5%）であり、次いで豊里地区（58.3%）となっています。

花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。

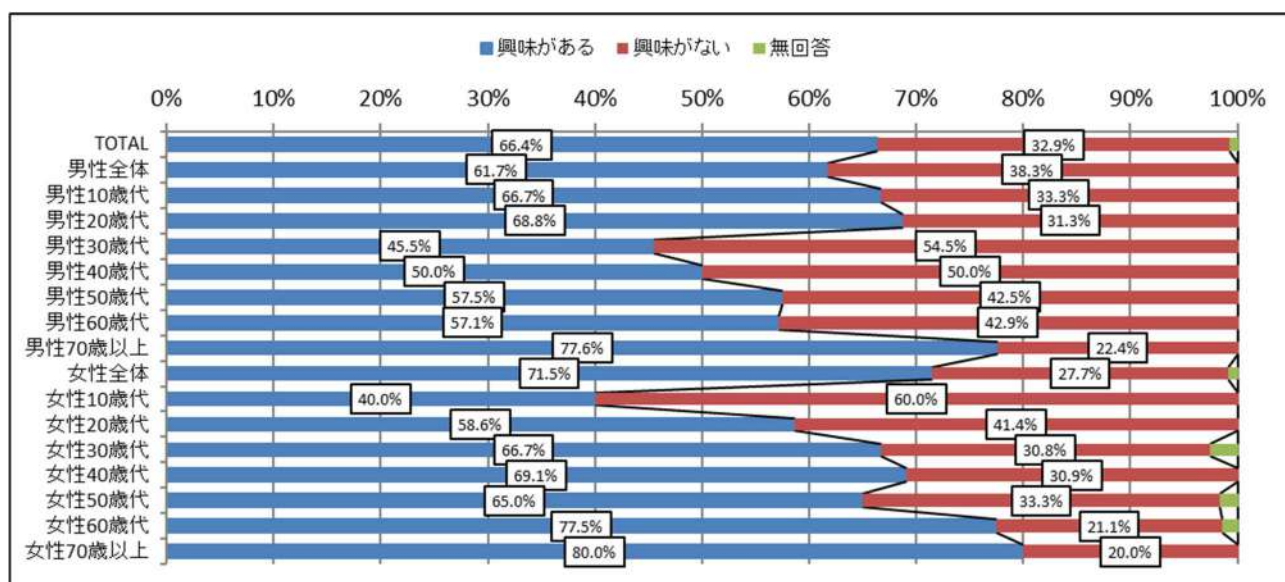


「興味がある」と回答した人の割合は 66.4%、「興味がない」と回答した人の割合は 32.9%であり、市民の 6 割以上が花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「興味がある」と回答した人の割合は 66.1%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変化はありませんでした。

母集団		興味がある	興味がない	無回答	合計
TOTAL	675	66.4%	32.9%	0.7%	100.0%
男性全体	266	61.7%	38.3%	0.0%	100.0%
男性 10 歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	68.8%	31.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	45.5%	54.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	57.5%	42.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	57.1%	42.9%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	77.6%	22.4%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	347	71.5%	27.7%	0.9%	100.0%
女性 10 歳代	5	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	58.6%	41.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	66.7%	30.8%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	69.1%	30.9%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	65.0%	33.3%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	71	77.5%	21.1%	1.4%	100.0%
女性 70 歳以上	85	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	64.6%	35.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	62.3%	37.7%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	77.0%	21.6%	1.4%	100.0%
明戸地区	15	46.7%	46.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	45.5%	54.5%	0.0%	100.0%
八基地区	21	81.0%	19.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	62.5%	37.5%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	61.6%	38.4%	0.0%	100.0%
南地区	41	80.5%	17.1%	2.4%	100.0%
岡部地区	82	58.5%	41.5%	0.0%	100.0%
川本地区	66	66.7%	31.8%	1.5%	100.0%
花園地区	45	71.1%	28.9%	0.0%	100.0%
無回答	15	80.0%	13.3%	6.7%	100.0%

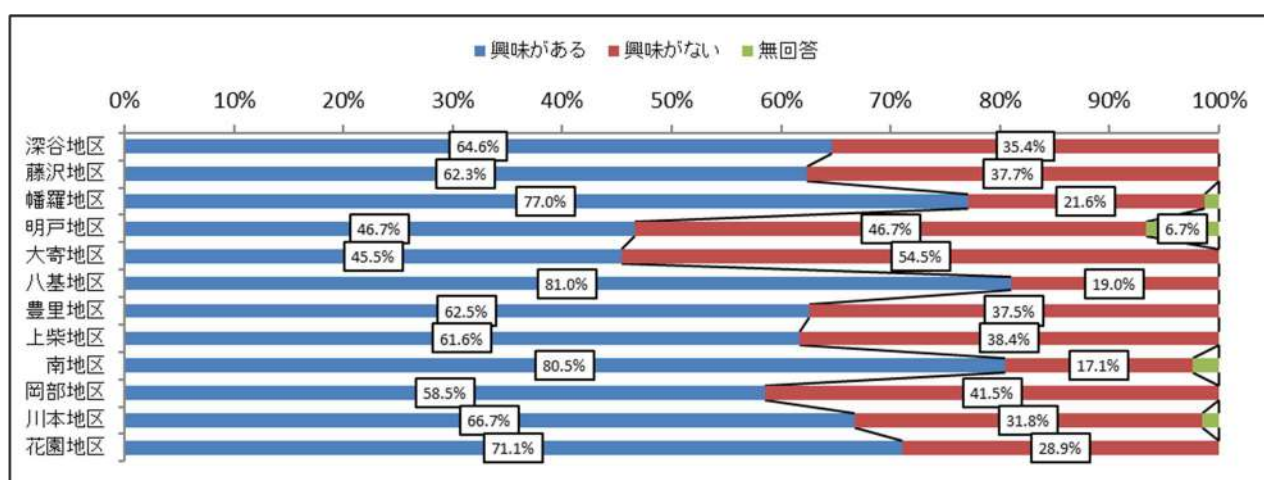
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「興味がある」と回答した人の割合は男性が 61.7%であるのに対して、女性は 71.5%となっています。

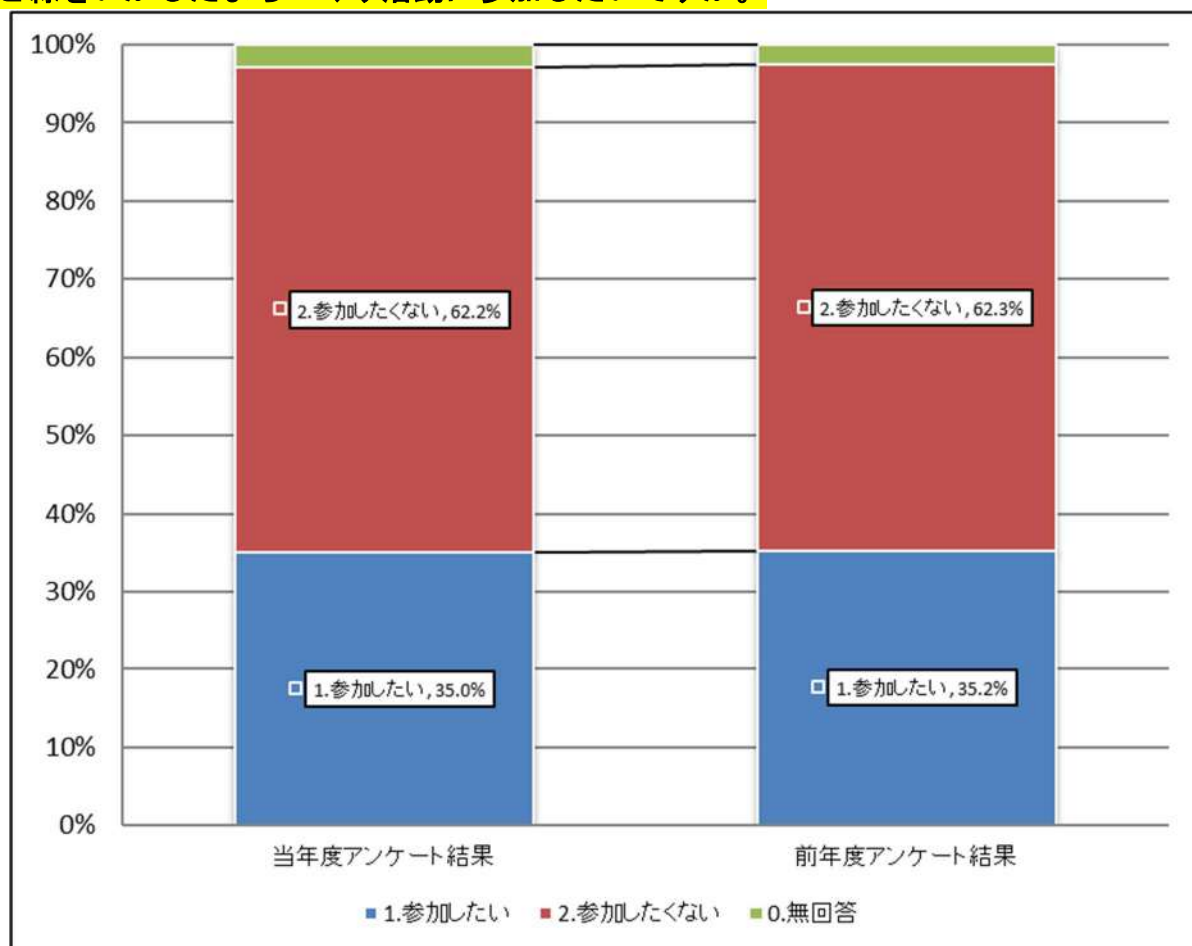
また、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 30 歳以上 (45.5%)、女性が 10 歳代 (40.0%) となっています。最も多い世代は、男女ともに 70 歳以上 (男性 77.6%、女性 80.0%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区 (45.5%) であり、次いで明戸地区 (46.7%) となっています。最も多いのは八基地区 (81.0%) であり、次いで南地区 (80.5%) となっています。

花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいですか。



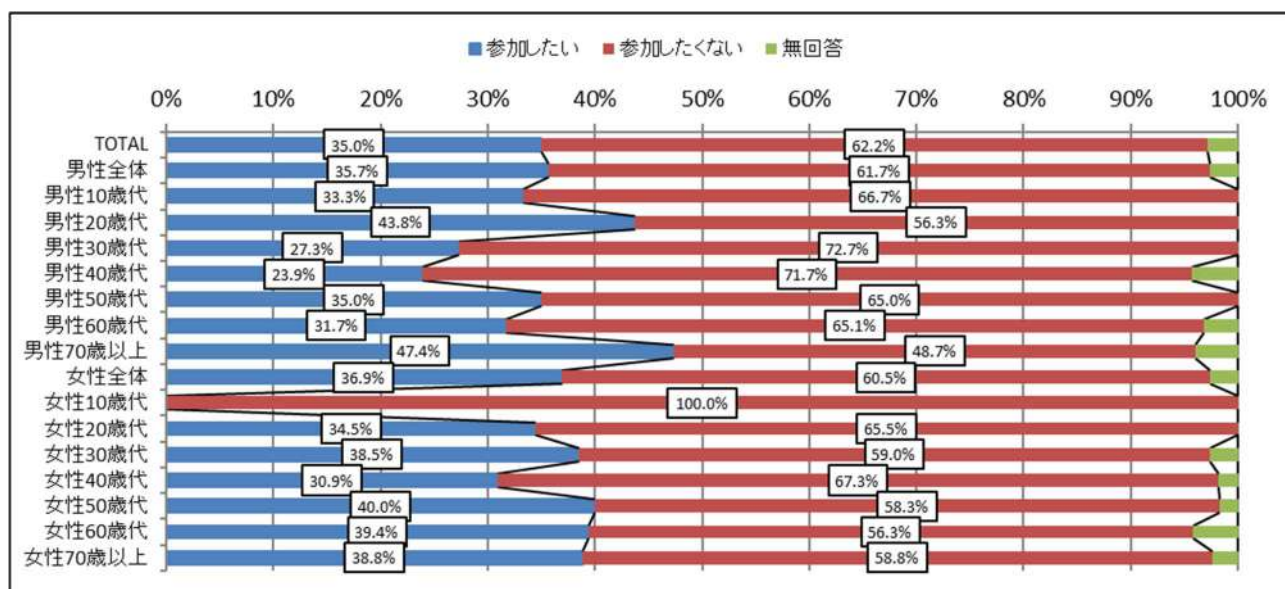
「参加したくない」と回答した人の割合は 62.2%であり、「参加したい」と回答した人の割合は 35.0%となっています。

前問の「花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。」に対して、「興味がある」と回答した人は全体の 66.4%を占めるものの、実際に活動に参加したいと思うまでには至っていない市民が多数いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「参加したい」と回答した人の割合は 35.2%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変化はありませんでした。

母集団		参加したい	参加したくない	無回答	合計
TOTAL	675	35.0%	62.2%	2.8%	100.0%
男性全体	266	35.7%	61.7%	2.6%	100.0%
男性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	43.8%	56.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	27.3%	72.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	23.9%	71.7%	4.3%	100.0%
男性 50 歳代	40	35.0%	65.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	31.7%	65.1%	3.2%	100.0%
男性 70 歳以上	76	47.4%	48.7%	3.9%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	347	36.9%	60.5%	2.6%	100.0%
女性 10 歳代	5	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	34.5%	65.5%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	38.5%	59.0%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	30.9%	67.3%	1.8%	100.0%
女性 50 歳代	60	40.0%	58.3%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	71	39.4%	56.3%	4.2%	100.0%
女性 70 歳以上	85	38.8%	58.8%	2.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	33.3%	33.3%	100.0%
深谷地区	147	34.7%	61.9%	3.4%	100.0%
藤沢地区	61	41.0%	57.4%	1.6%	100.0%
幡羅地区	74	37.8%	59.5%	2.7%	100.0%
明戸地区	15	20.0%	73.3%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
八基地区	21	42.9%	47.6%	9.5%	100.0%
豊里地区	24	41.7%	54.2%	4.2%	100.0%
上柴地区	73	30.1%	65.8%	4.1%	100.0%
南地区	41	46.3%	53.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	82	32.9%	67.1%	0.0%	100.0%
川本地区	66	34.8%	63.6%	1.5%	100.0%
花園地区	45	31.1%	66.7%	2.2%	100.0%
無回答	15	33.3%	53.3%	13.3%	100.0%

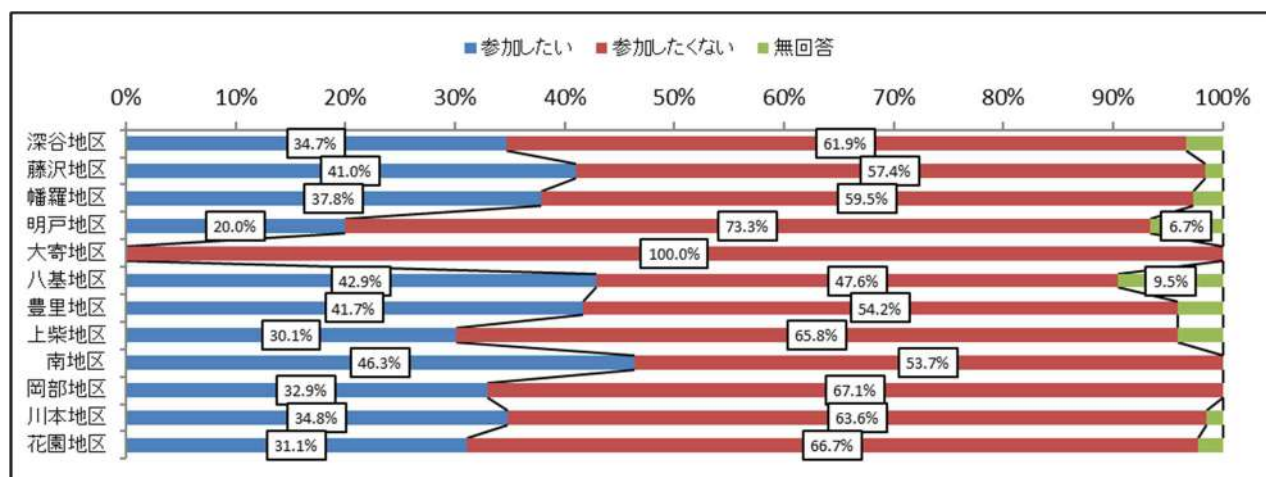
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「参加したい」と回答した人の割合は男性が 35.7%であるのに対して、女性は 36.9%となっています。

また、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 40 歳代 (23.9%) であり、女性は 10 歳代 (0.0%) となっています。最も多い世代は、男性が 70 歳以上 (47.4%)、女性が 50 歳代 (40.0%) となっています。

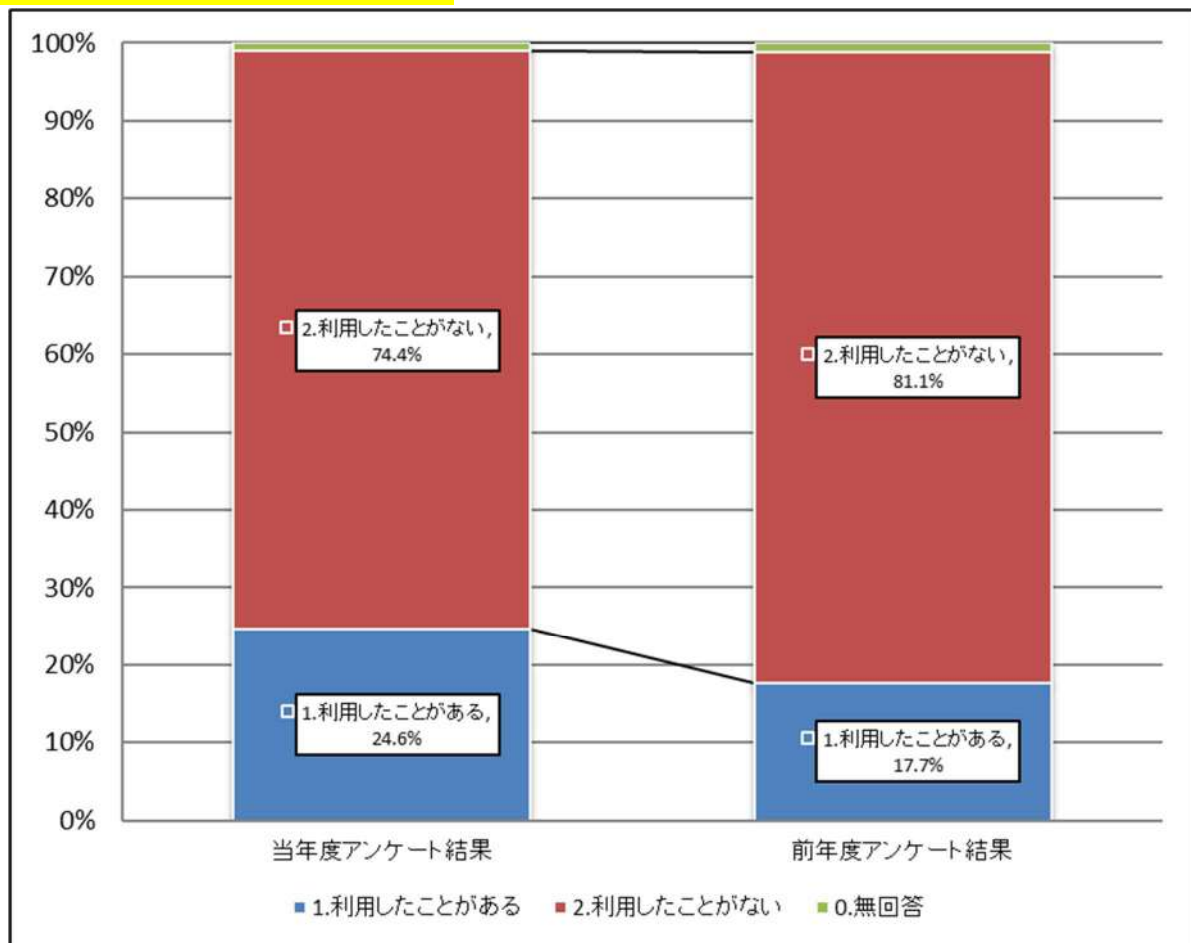
➤ 地区別



地区別にみると、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区 (0.0%) であり、次いで明戸地区 (20.0%) となっています。最も多いのは南地区、(46.3%) であり、次いで八基地区 (42.9%) となっています。

⑦ 行財政運営の推進（7. 問16～17）

市のオンラインサービスを利用したことがありますか。（例：各種申請手続き、相談、イベント参加、コンビニ交付など）

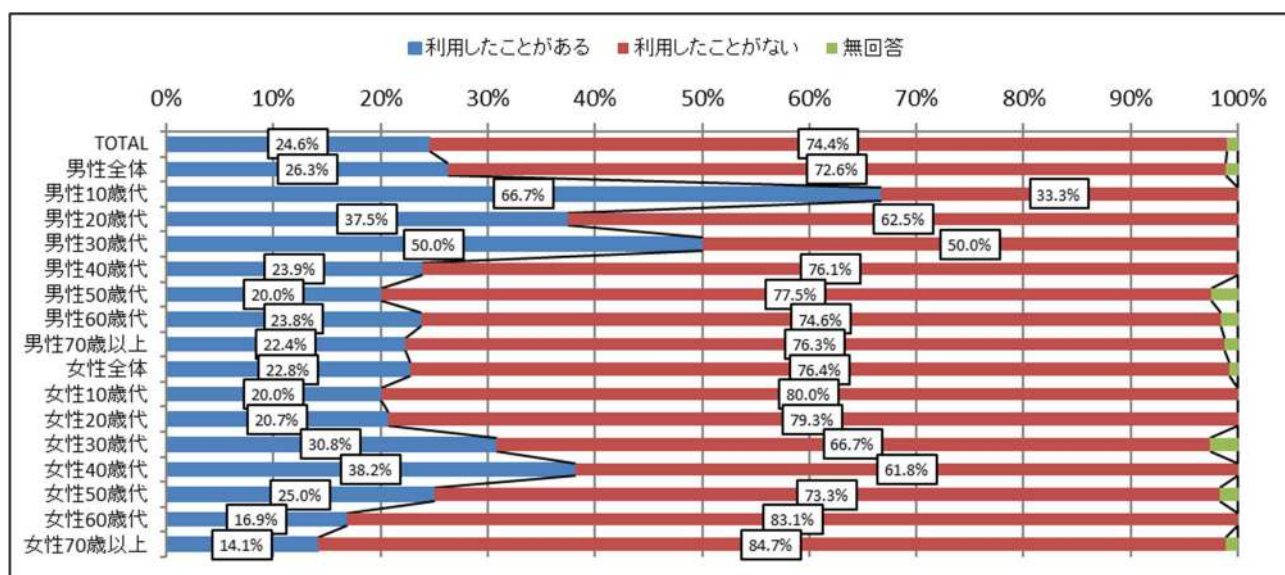


「利用したことがない」と回答した人の割合が 74.4%、「利用したことがある」と回答した人の割合が 24.6%となっています。

また、「前年度アンケート」の結果は、「利用したことがある」と回答した人の割合は 17.7%であり、前年度アンケートと比較して増加したものの、市のオンラインサービスを利用したことがあると回答した市民が 3 割以下と割合が低いことがうかがえます。

母集団		利用したことがある	利用したことがない	無回答	合計
TOTAL	675	24. 6%	74. 4%	1. 0%	100. 0%
男性全体	266	26. 3%	72. 6%	1. 1%	100. 0%
男性 10 歳代	3	66. 7%	33. 3%	0. 0%	100. 0%
男性 20 歳代	16	37. 5%	62. 5%	0. 0%	100. 0%
男性 30 歳代	22	50. 0%	50. 0%	0. 0%	100. 0%
男性 40 歳代	46	23. 9%	76. 1%	0. 0%	100. 0%
男性 50 歳代	40	20. 0%	77. 5%	2. 5%	100. 0%
男性 60 歳代	63	23. 8%	74. 6%	1. 6%	100. 0%
男性 70 歳以上	76	22. 4%	76. 3%	1. 3%	100. 0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	347	22. 8%	76. 4%	0. 9%	100. 0%
女性 10 歳代	5	20. 0%	80. 0%	0. 0%	100. 0%
女性 20 歳代	29	20. 7%	79. 3%	0. 0%	100. 0%
女性 30 歳代	39	30. 8%	66. 7%	2. 6%	100. 0%
女性 40 歳代	55	38. 2%	61. 8%	0. 0%	100. 0%
女性 50 歳代	60	25. 0%	73. 3%	1. 7%	100. 0%
女性 60 歳代	71	16. 9%	83. 1%	0. 0%	100. 0%
女性 70 歳以上	85	14. 1%	84. 7%	1. 2%	100. 0%
女性年齢不詳	3	0. 0%	100. 0%	0. 0%	100. 0%
深谷地区	147	25. 2%	74. 1%	0. 7%	100. 0%
藤沢地区	61	24. 6%	75. 4%	0. 0%	100. 0%
幡羅地区	74	28. 4%	68. 9%	2. 7%	100. 0%
明戸地区	15	20. 0%	73. 3%	6. 7%	100. 0%
大寄地区	11	9. 1%	90. 9%	0. 0%	100. 0%
八基地区	21	19. 0%	81. 0%	0. 0%	100. 0%
豊里地区	24	29. 2%	70. 8%	0. 0%	100. 0%
上柴地区	73	24. 7%	72. 6%	2. 7%	100. 0%
南地区	41	22. 0%	78. 0%	0. 0%	100. 0%
岡部地区	82	26. 8%	73. 2%	0. 0%	100. 0%
川本地区	66	24. 2%	75. 8%	0. 0%	100. 0%
花園地区	45	24. 4%	75. 6%	0. 0%	100. 0%
無回答	15	13. 3%	80. 0%	6. 7%	100. 0%

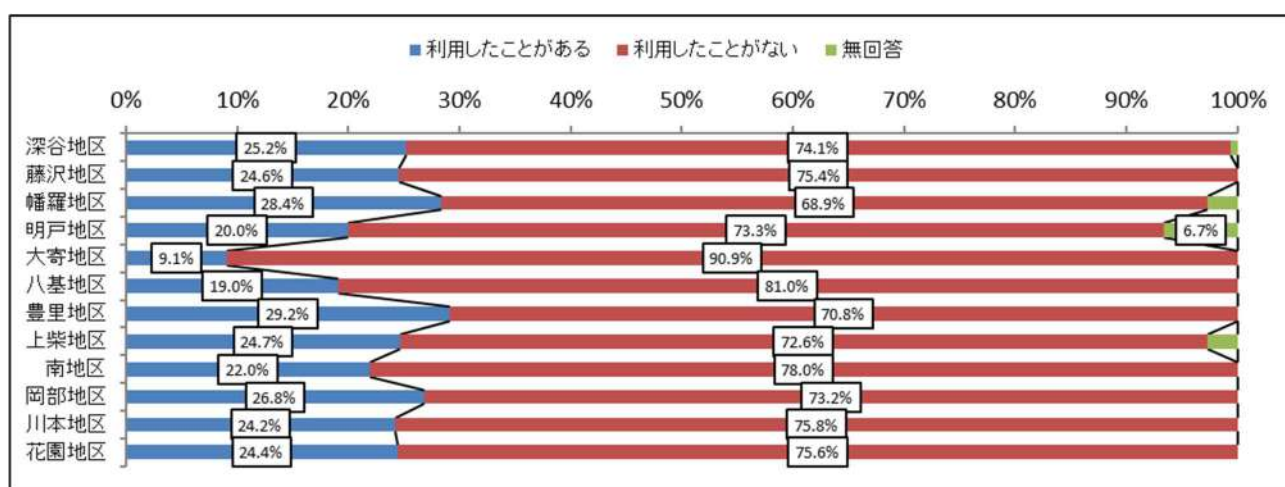
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「利用したことがある」と回答した人の割合は男性が 26.3% であるのに対して、女性は 22.8% となっています。

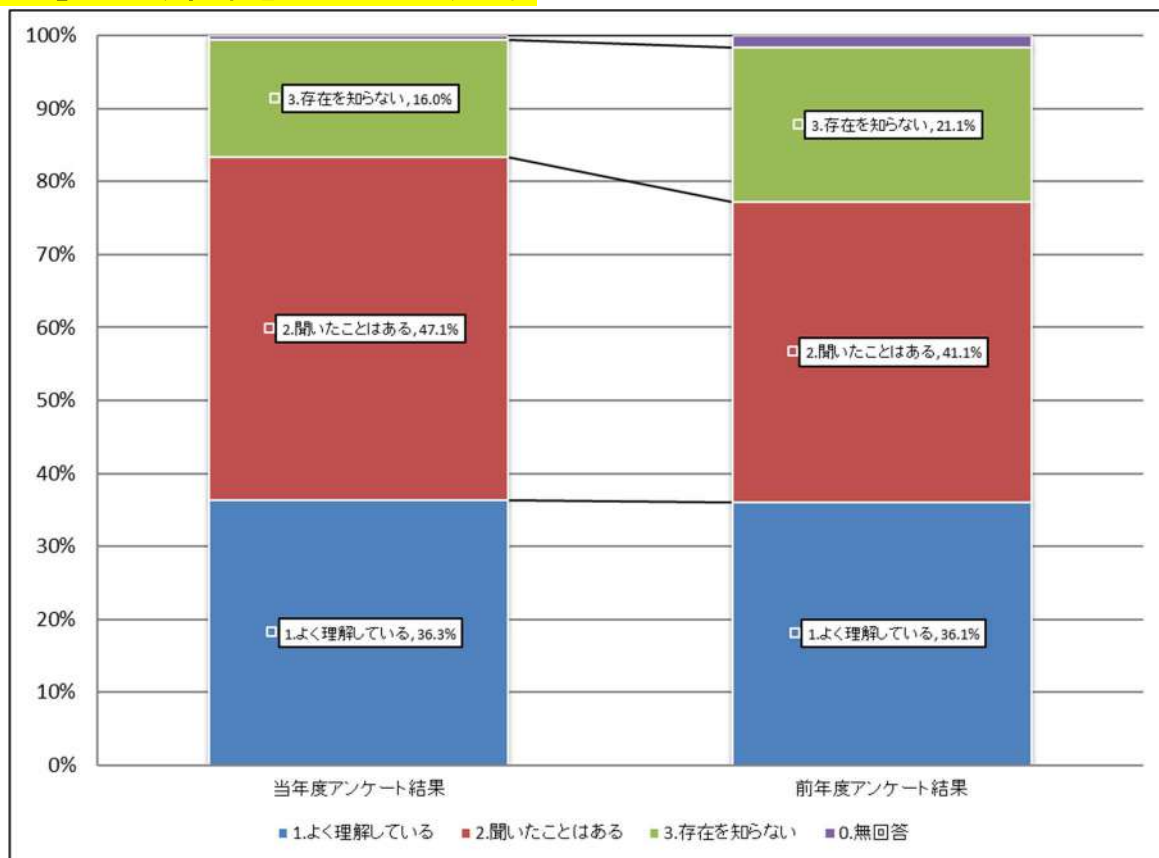
また、「利用したことがある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 50 歳代 (20.0%) 女性 70 歳以上 (14.1%) であり、一方で、最も多い世代は、男性が 10 歳代 (66.7%) 女性 40 歳代 (38.2%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「利用したことがある」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区 (9.1%) であり、次いで八基地区 (19.0%) となっています。最も多いのは豊里地区 (29.2%) であり、次いで幡羅地区 (28.4%) となっています。

「SDGs」という言葉を知っていますか。

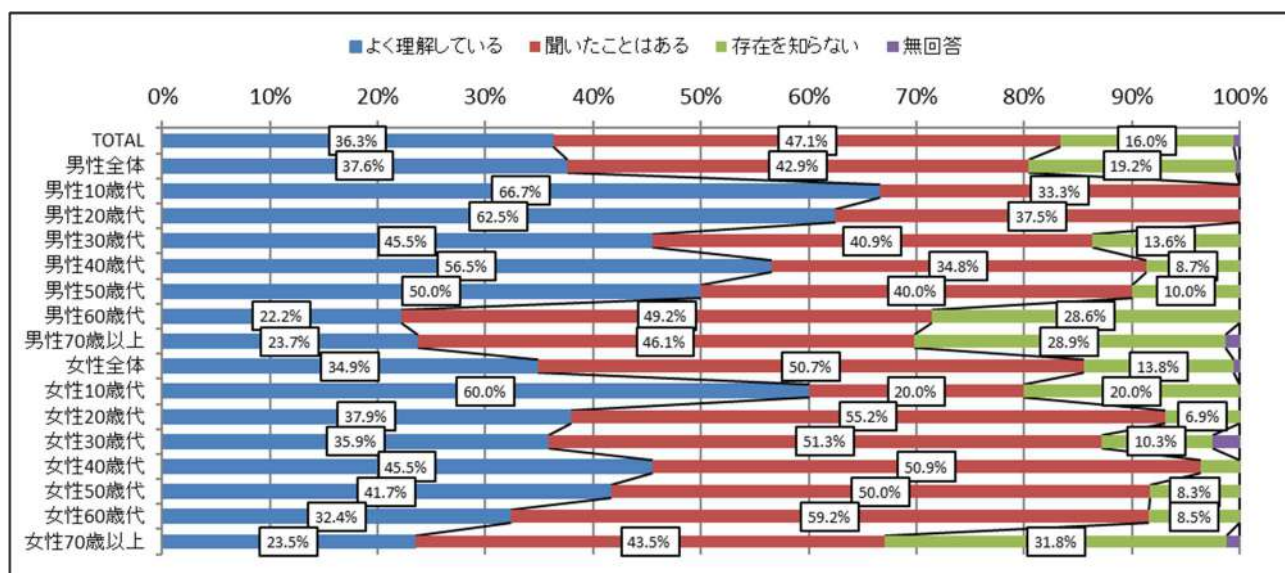


「聞いた事はある」と回答した人の割合が 47.1%と最も多く、次いで「よく理解している」と回答した人の割合が 36.3%、「存在を知らない」と回答した人の割合が 16.0%となっています。

「よく理解している」と回答した人の割合は 36.3%であり、約 3 割以上の市民が「SDGs」という言葉を理解していることがうかがえます。

母集団		よく理解している	聞いた事はある	存在を知らない	無回答	合計
TOTAL	675	36.3%	47.1%	16.0%	0.6%	100.0%
男性全体	266	37.6%	42.9%	19.2%	0.4%	100.0%
男性 10 歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	16	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	45.5%	40.9%	13.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	46	56.5%	34.8%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	40	50.0%	40.0%	10.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	63	22.2%	49.2%	28.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	76	23.7%	46.1%	28.9%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—
女性全体	347	34.9%	50.7%	13.8%	0.6%	100.0%
女性 10 歳代	5	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	37.9%	55.2%	6.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	39	35.9%	51.3%	10.3%	2.6%	100.0%
女性 40 歳代	55	45.5%	50.9%	3.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	60	41.7%	50.0%	8.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	71	32.4%	59.2%	8.5%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	85	23.5%	43.5%	31.8%	1.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
深谷地区	147	40.1%	45.6%	14.3%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	27.9%	59.0%	13.1%	0.0%	100.0%
幡羅地区	74	44.6%	44.6%	10.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	15	20.0%	46.7%	26.7%	6.7%	100.0%
大寄地区	11	45.5%	18.2%	36.4%	0.0%	100.0%
八基地区	21	42.9%	33.3%	23.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	24	37.5%	37.5%	25.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	73	42.5%	45.2%	11.0%	1.4%	100.0%
南地区	41	41.5%	48.8%	9.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	82	37.8%	40.2%	22.0%	0.0%	100.0%
川本地区	66	22.7%	53.0%	24.2%	0.0%	100.0%
花園地区	45	28.9%	57.8%	13.3%	0.0%	100.0%
無回答	15	20.0%	66.7%	0.0%	13.3%	100.0%

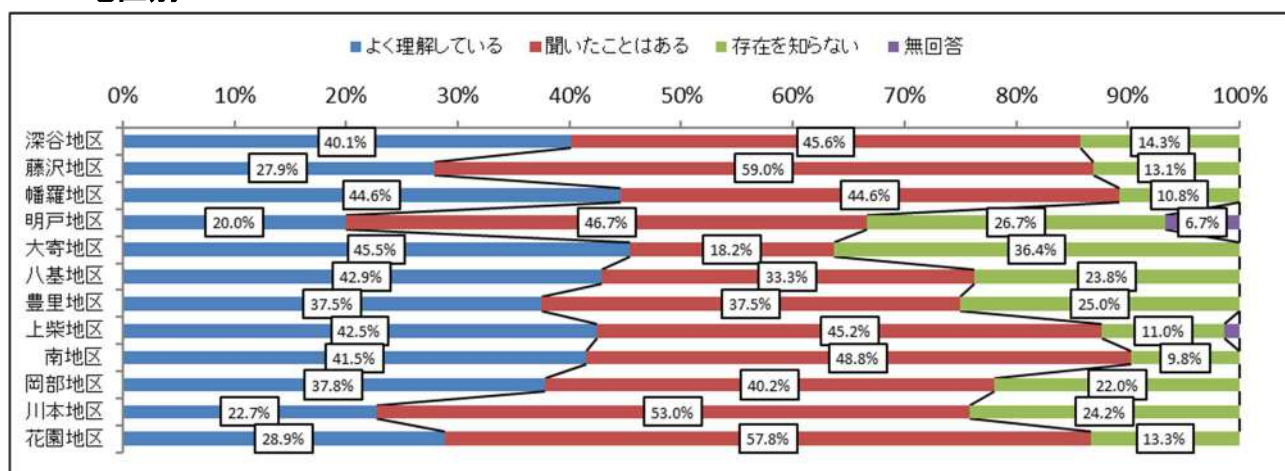
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく理解している」と回答した人の割合は男性が 37.6%であるのに対して、女性は 34.9%となっています。

また、「よく理解している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 60 歳代 (22.2%)、女性 70 歳以上 (23.5%) であり、一方で、最も多い世代は、男女ともに 10 歳代 (男性 66.7%、女性 60.0%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「よく理解している」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区 (20.0%) であり、次いで川本地区 (22.7%) となっています。最も多いのは大寄地区 (45.5%) であり、次いで幡羅地区 (44.6%) となっています。

3. 深谷市の施策について

深谷市が行っている施策を重要度と満足度を軸とし、i) 重要度・満足度ともに高い施策、ii) 重要度が高く、満足度が低い施策、iii) 重要度が低く、満足度が高い施策、iv) 重要度・満足度ともに低い施策の4つに分類し、施策の優先順位付けのための分析を実施しました。

なお、重要度・満足度の得点の算出方法につきましては、P. 2の1. アンケート調査の実施方法に記載されている注意書きをご参照ください。

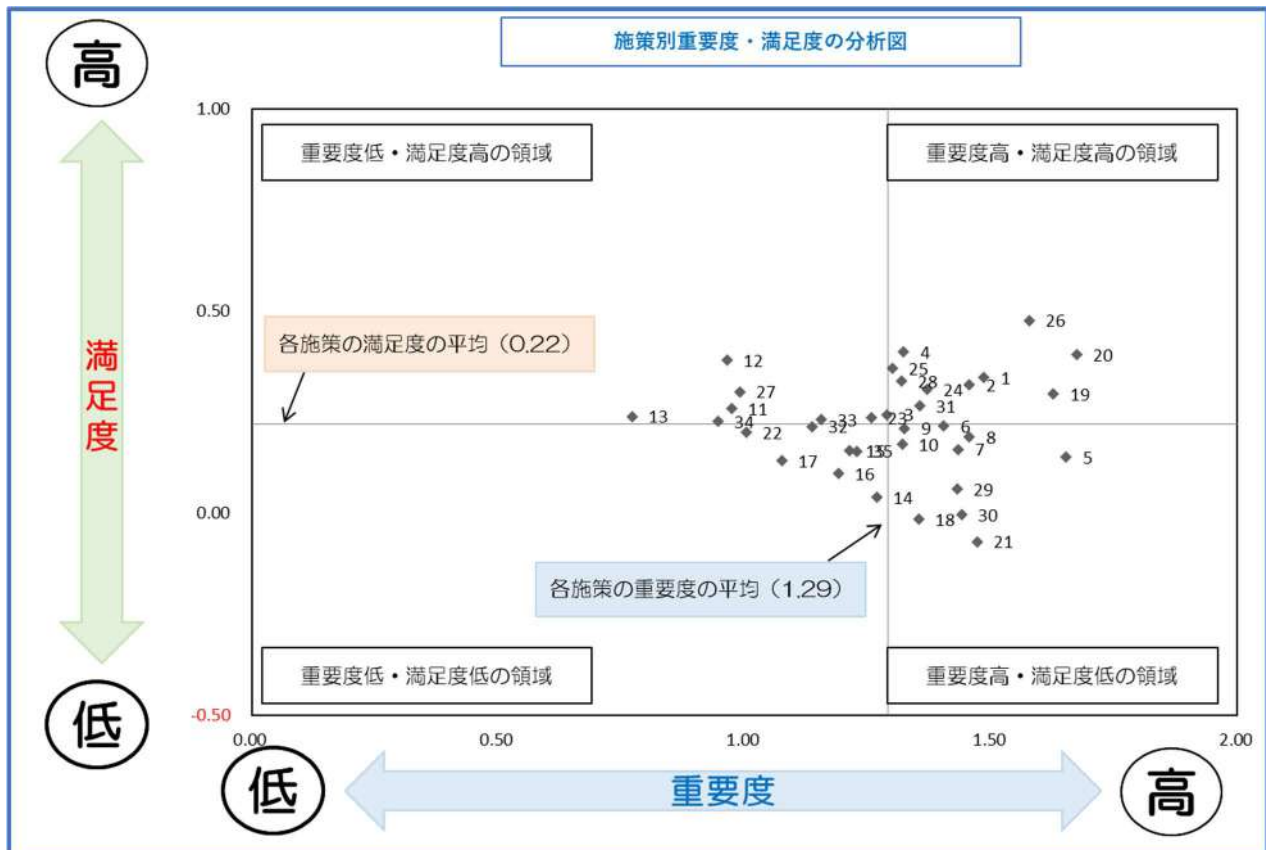
(1) 深谷市全体

① 施策別重要度・満足度一覧

施策			重要度	満足度
1.子育て・保健・福祉	1	子育て支援の充実	1.48	0.34
	2	保育サービスの充実	1.45	0.32
	3	青少年の健全育成の推進	1.29	0.24
	4	健康づくりの推進	1.32	0.40
	5	地域医療体制の充実	1.65	0.14
	6	地域福祉の推進	1.40	0.22
	7	高齢者福祉の推進	1.43	0.16
	8	障害者福祉の推進	1.45	0.19
2.教育・文化	9	「生きる力」を育む学校教育の推進	1.32	0.21
	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	1.32	0.17
	11	生涯学習の推進	0.97	0.26
	12	郷土の歴史・文化の継承と活用	0.96	0.38
	13	スポーツ・レクリエーションの推進	0.77	0.24
3.産業振興	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	1.27	0.04
	15	農畜産物の販売流通体制の充実	1.21	0.16
	16	商工業の振興	1.19	0.10
	17	観光資源の整備と活用	1.08	0.13
	18	就労環境の整備	1.35	(0.01)
4.暮らし・環境	19	災害に強い防災体制の推進	1.63	0.29
	20	消防・救急体制の充実	1.67	0.39
	21	防犯・空き家対策の推進	1.47	(0.07)
	22	地域コミュニティの推進	1.00	0.20
	23	自然・生活環境の保全	1.26	0.24
	24	環境衛生の推進	1.37	0.31
5.都市・生活基礎	25	良好な市街地・住環境形成の推進	1.30	0.36
	26	水の安定供給と下水処理の適正化	1.58	0.48
	27	自然・文化を生かした景観形成	0.99	0.30
	28	治水対策の推進	1.32	0.33
	29	道路・交通環境整備の推進	1.43	0.06
	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進	1.44	(0.00)
6.協働・行政経営	31	人権・個性が尊重される社会の実現	1.36	0.27
	32	男女共同参画の実現	1.14	0.21
	33	情報発信・共有の推進	1.16	0.23
	34	市民との協働・交流の推進	0.95	0.23
	35	行財政運営の推進	1.23	0.15
平均値			1.29	0.22

重要度の平均値は 1.29 となっており、深谷市の実施している施策について、全体的にみて、重要度が高いと認識している市民が多いことがうかがえます。一方で、満足度の平均値は 0.22 と重要度の平均値に比べて低く、行政サービスと市民の期待との間にギャップがあることがうかがえます。

② 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	19	災害に強い防災体制の推進
23	自然・生活環境の保全	20	消防・救急体制の充実
27	自然・文化を生かした景観形成	24	環境衛生の推進
33	情報発信・共有の推進	25	良好な市街地・住環境形成の推進
34	市民との協働・交流の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
		28	治水対策の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
15	農畜産物の販売流通体制の充実	6	地域福祉の推進
16	商工業の振興	7	高齢者福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	8	障害者福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
32	男女共同参画の実現	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
35	行財政運営の推進	18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度も高い領域には「子育て支援の充実」、「保育サービスの充実」、「健康づくりの推進」、「災害に強い防災体制の推進」、「消防・救急体制の充実」、「環境衛生の推進」、「良好な市街地・住環境形成の推進」、「水の安定供給と下水処理の適正化」、「治水対策の推進」、「人権・個性が尊重される社会の実現」の10施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として優先して位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

＜重要度高・満足度低＞

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度が低い領域には、「地域医療体制の充実」、「地域福祉の推進」、「高齢者福祉の推進」、「障害者福祉の推進」、「「生きる力」を育む学校教育の推進」、「家庭・地域・学校の連携による教育力の向上」、「就労環境の整備」、「防犯・空き家対策の推進」、「道路・交通環境整備の推進」、「公共交通の維持確保と交通安全の推進」の10施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

＜重要度低・満足度高＞

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度が高い領域には、「青少年の健全育成の推進」、「生涯学習の推進」、「郷土の歴史・文化の継承と活用」、「スポーツ・レクリエーションの推進」、「自然・生活環境の保全」、「自然・文化を生かした景観形成」、「情報発信・共有の推進」、「市民との協働・交流の推進」の8施策が該当します。

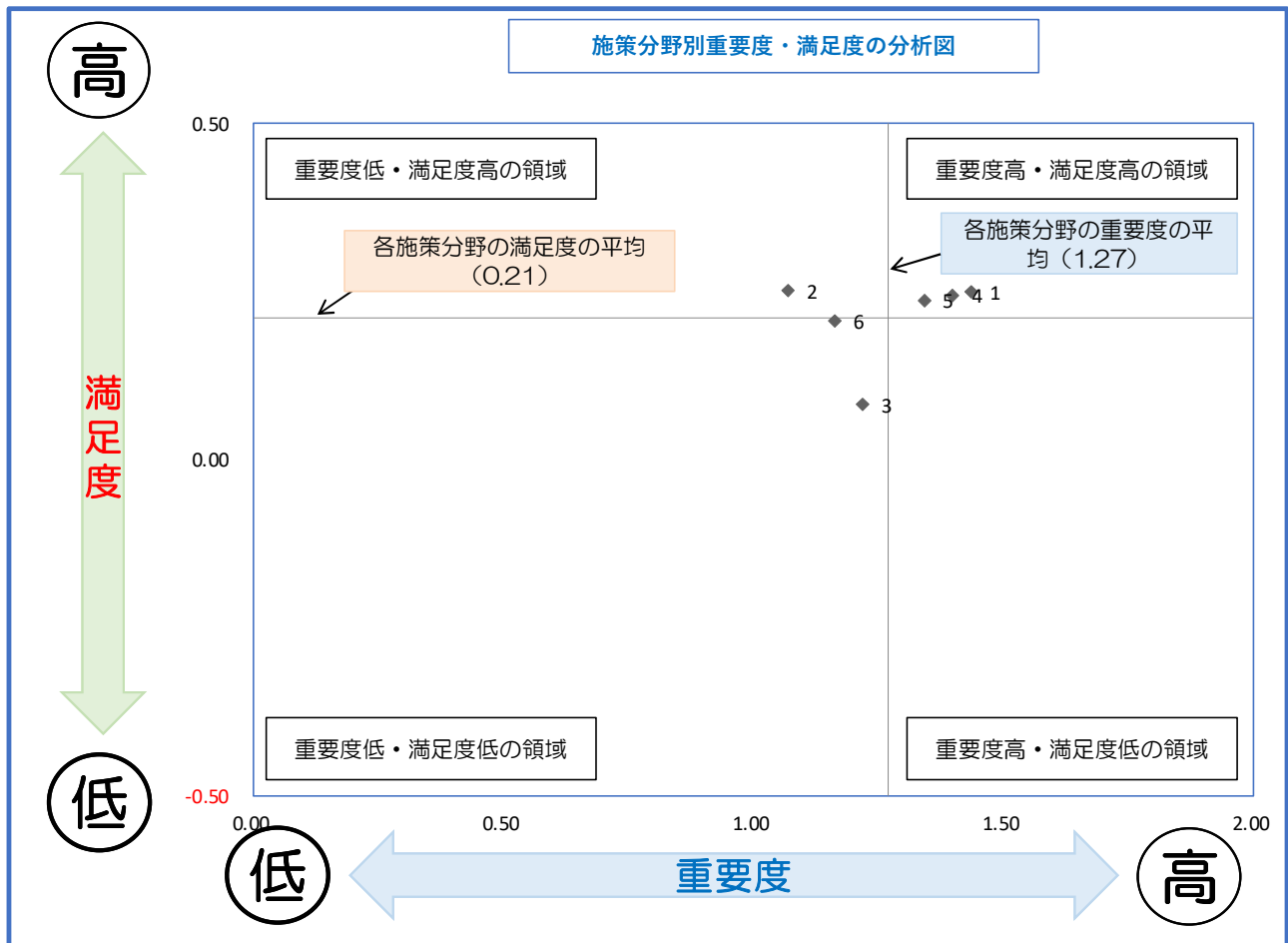
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないかどうか確認する必要があります。

＜重要度低・満足度低＞

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度も低い領域には、「農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「農畜産物の販売流通体制の充実」、「商工業の振興」、「観光資源の整備と活用」、「地域コミュニティの推進」、「男女共同参画の実現」、「行財政運営の推進」の7施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

③ 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
		4	暮らし・環境
		5	都市・生活基礎
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
3	産業振興		
6	協働・行政経営		

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の４つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

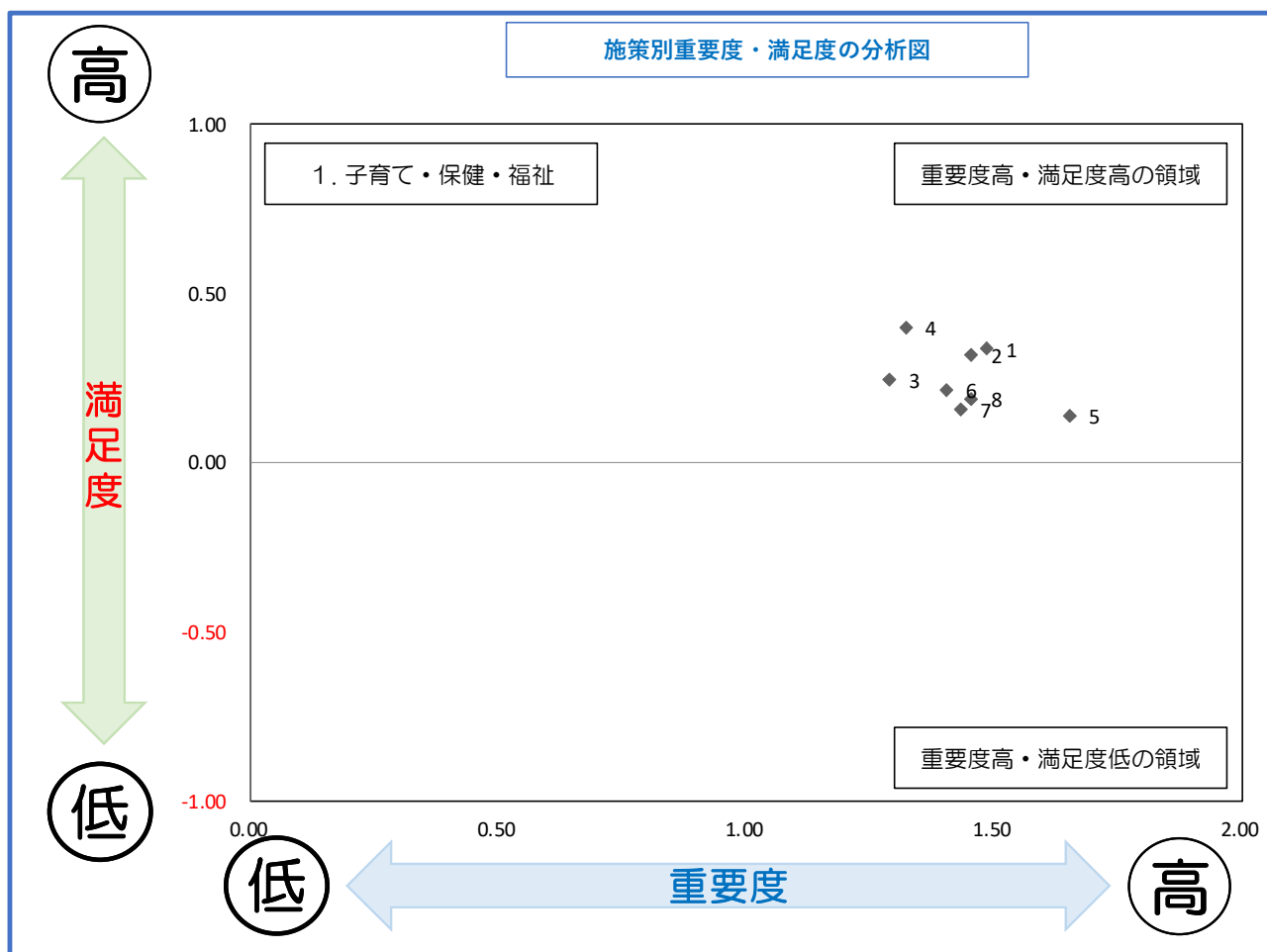
＜重要度高・満足度高＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が高い施策分野であり、「子育て・保健・福祉」、「暮らし・環境」、「都市・生活基礎」の３分野が該当します。

＜重要度高・満足度低＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度は高いものの、満足度が低い施策分野であり、今回は該当はありませんでした。

＜重要度低・満足度高＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度は高いものの、満足度が低い施策分野であり、「教育・文化」の１分野が該当します。

＜重要度低・満足度低＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が低い施策分野であり、「産業振興」、「協働・行政経営」の２分野が該当します。

< 1. 子育て・保健・福祉 >

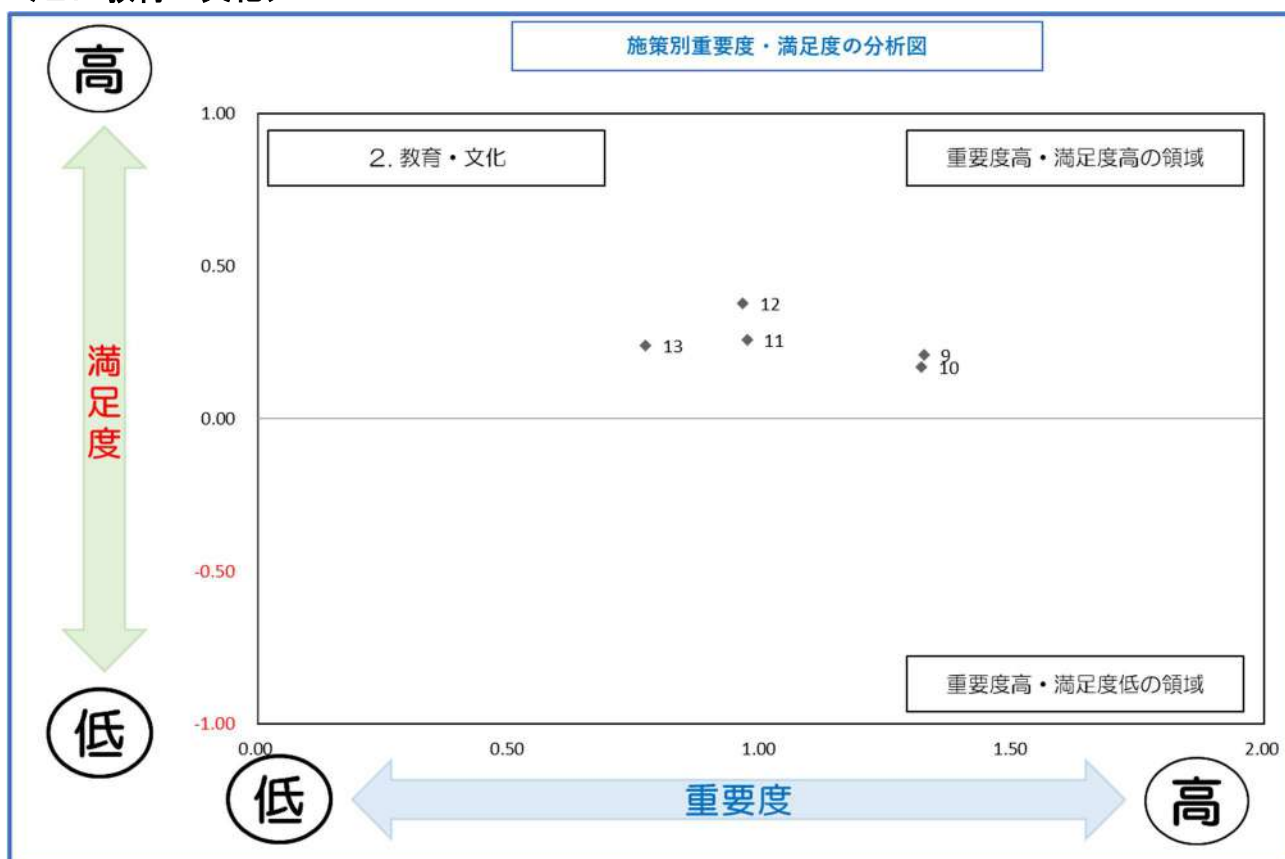


子育て・保健・福祉分野に係る施策は8施策あり、8つの施策すべてが重要度高・満足度高に分類されています。

子育て・保健・福祉分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「5. 地域医療体制の充実」、最も低かった施策は「3. 青少年の健全育成の推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「4. 健康づくりの推進」、最も低かった施策は「5. 地域医療体制の充実」となりました。

「5. 地域医療体制の充実」は重要度が高い施策であるものの、満足度が低いことがうかがえます。

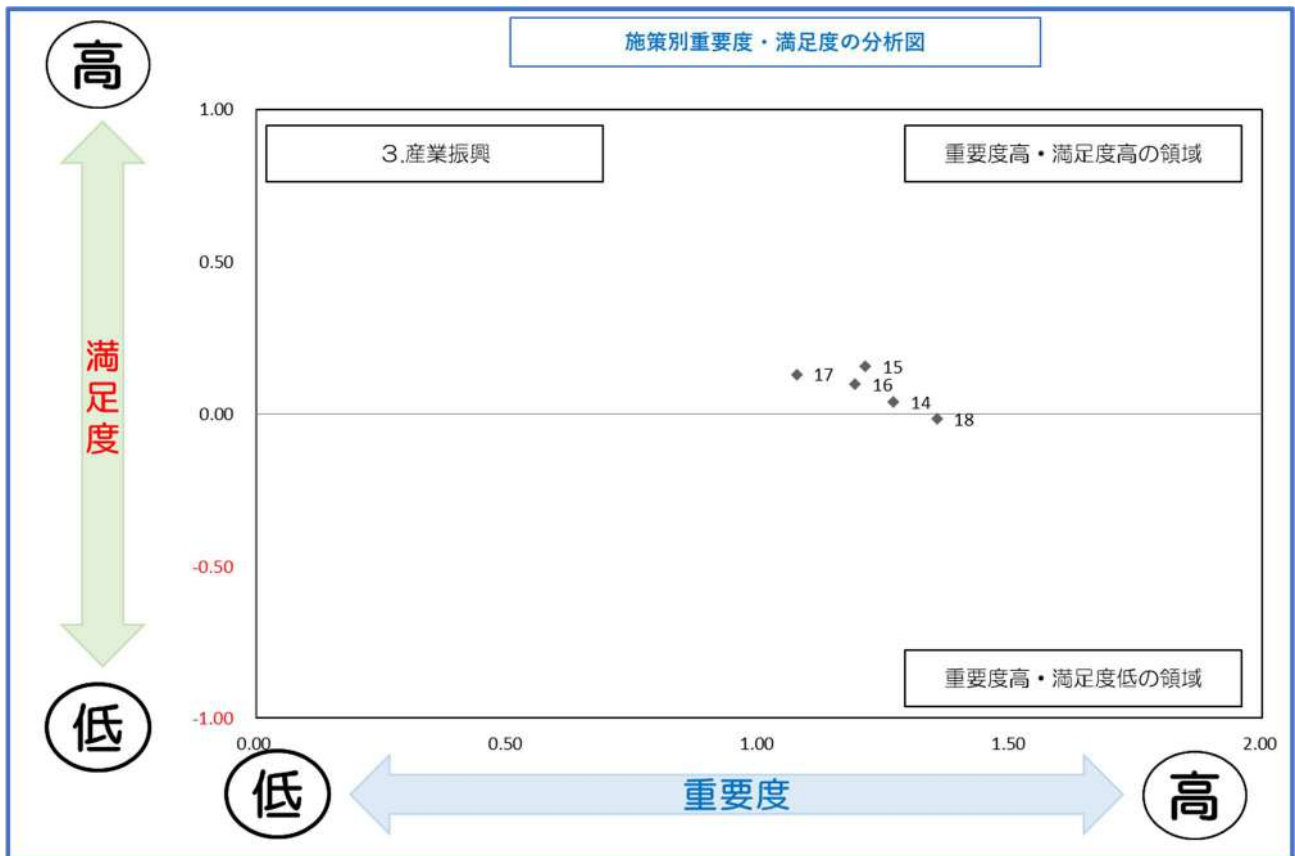
< 2. 教育・文化 >



教育・文化分野に係る施策は5施策あり、全ての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

教育・文化分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、最も低かった施策は「13. スポーツ・レクリエーションの推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「12. 郷土の歴史・文化の継承と活用」、最も低かった施策は「10. 家庭・地域・学校の連携による教育力の向上」となりました。

< 3. 産業振興 >

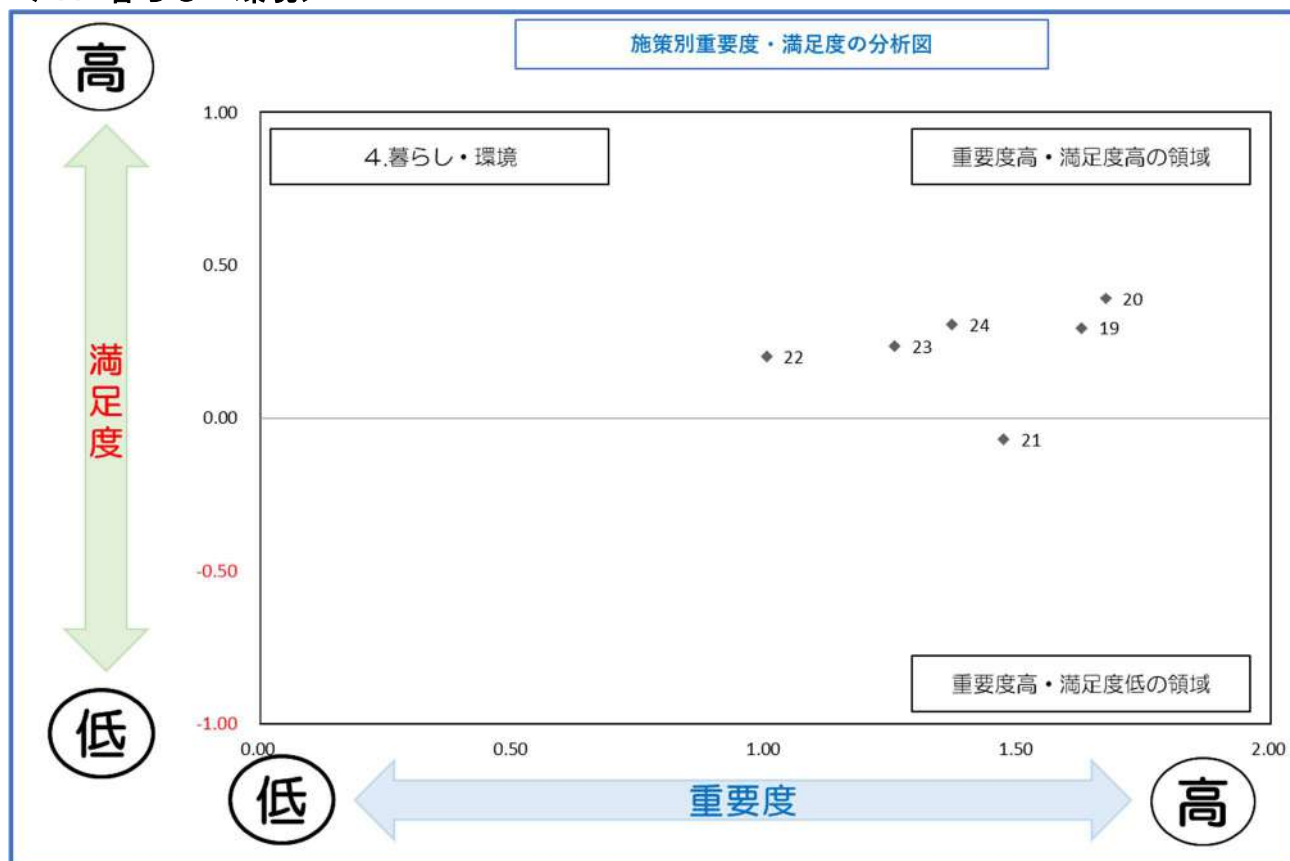


産業振興分野に係る施策は5施策あり、「14. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」と「15. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「16. 商工業の振興」、「17. 観光資源の整備と活用」の4施策において重要度高・満足度高に分類されています。

産業振興分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「18. 就労環境の整備」、最も低かった施策は「17. 観光資源の整備と活用」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「15. 農畜産物の販売流通体制の充実」、最も低かった施策は「18. 就労環境の整備」となりました。

「18. 就労環境の整備」は重要度が高い施策であるものの、満足度は低くなっていることがうかがえます。

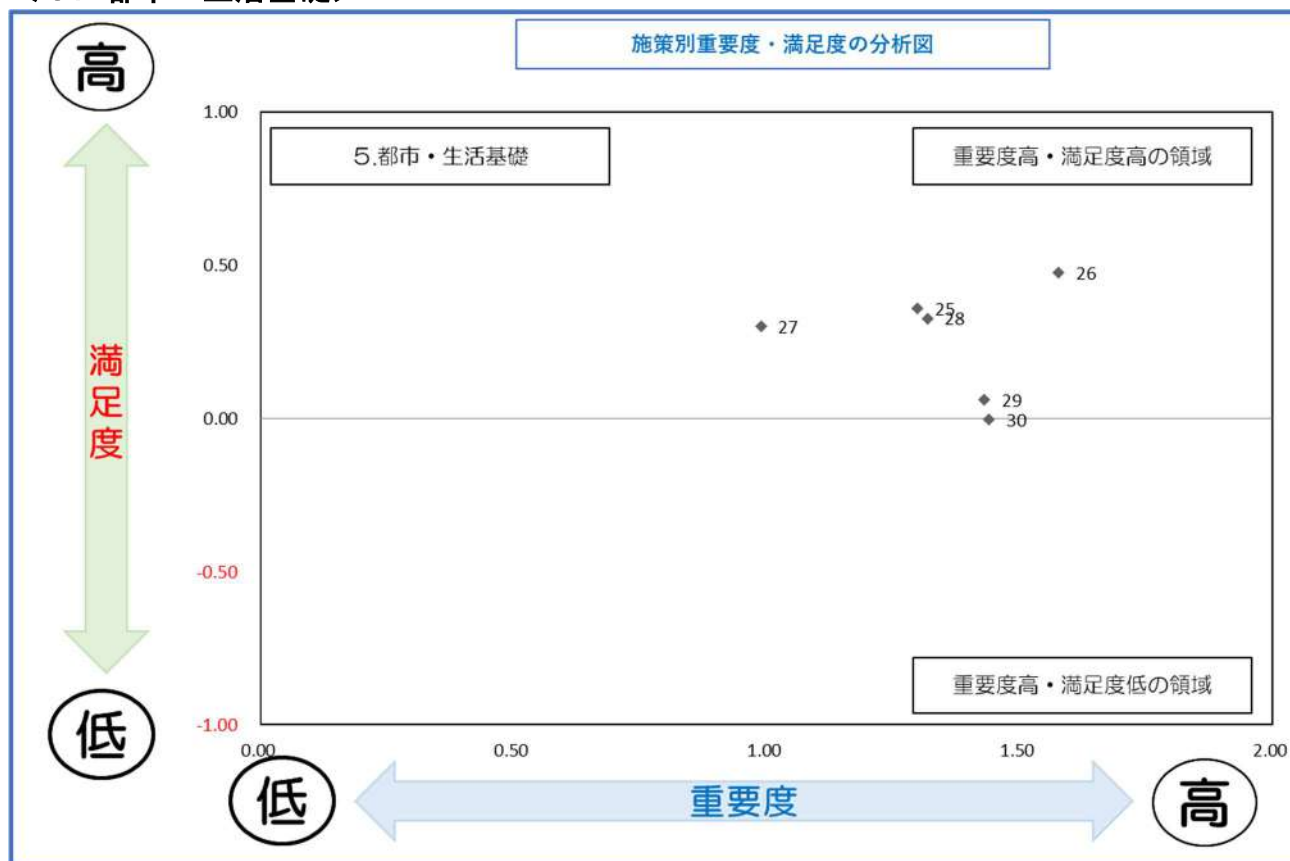
< 4. 暮らし・環境 >



暮らし・環境分野に係る施策は6施策あり、「19. 災害に強い防災体制の推進」「20. 消防・救急体制の充実」「22. 地域コミュニティの推進」「23. 自然・生活環境の保全」「24. 環境衛生の推進」の5施策において重要度高・満足度高に分類されています。

暮らし・環境分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「20. 消防・救急体制の充実」、最も低かった施策は「22. 地域コミュニティの推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「20. 消防・救急体制の充実」、最も低かった施策は「21. 防犯・空き家対策の推進」となりました。

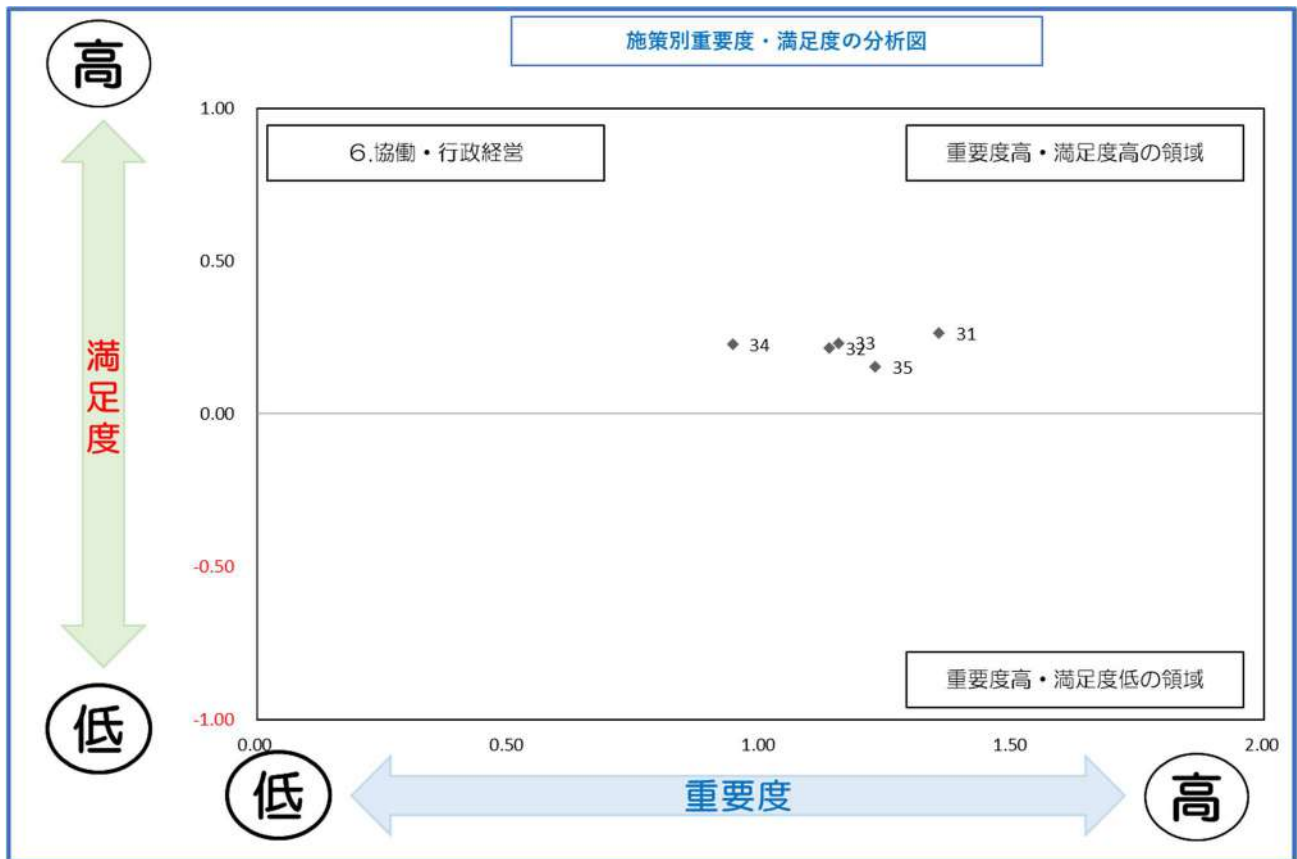
< 5. 都市・生活基礎 >



都市・生活基礎分野に係る施策は6施策あり、「25. 良好な市街地・住環境形成の推進」「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」「27. 自然・文化を生かした景観形成」「28. 治水対策の推進」「29. 道路・交通環境整備の推進」の5施策において重要度高・満足度高に分類されています。

都市・生活基礎分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、最も低かった施策は「27. 自然・文化を生かした景観形成」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、最も低かった施策は「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」となりました。

< 6. 協働・行政経営 >



協働・行政経営分野に係る施策は5施策あり、すべての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

協働・行政経営分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「31. 人権・個性が尊重される社会の実現」、最も低かった施策は「34. 市民との協働・交流の推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「31. 人権・個性が尊重される社会の実現」、最も低かった施策は「35. 行財政運営の推進」となりました。

(2) 地区別

➤ 深谷地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
1	子育て支援の充実	2	保育サービスの充実
5	地域医療体制の充実	4	健康づくりの推進
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	6	地域福祉の推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	7	高齢者福祉の推進
24	環境衛生の推進	8	障害者福祉の推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	11	生涯学習の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	19	災害に強い防災体制の推進
28	治水対策の推進	20	消防・救急体制の充実
31	人権・個性が尊重される社会の実現	26	水の安定供給と下水処理の適正化
		34	市民との協働・交流の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	3	青少年の健全育成の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
23	自然・生活環境の保全	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
29	道路・交通環境整備の推進	16	商工業の振興
30	公共交通の維持確保と交通安全の推進	17	観光資源の整備と活用
33	情報発信・共有の推進	18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		22	地域コミュニティの推進
		32	男女共同参画の実現
		35	行財政運営の推進

深谷地区では、重要度が高い施策として、「4. 健康づくりの推進」、「7. 高齢者福祉の推進」、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「18. 就労環境の整備」、「20. 消防・救急体制の充実」、「22. 地域コミュニティの推進」などの施策が挙げられ、このうち、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「18. 就労環境の整備」、「22. 地域コミュニティの推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「15. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「29. 道路・交通環境整備の推進」、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」、などの施策が挙げられます。これらの施策については、深谷地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 藤沢地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
1	子育て支援の充実	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
24	環境衛生の推進	11	生涯学習の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	19	災害に強い防災体制の推進
28	治水対策の推進	20	消防・救急体制の充実
31	人権・個性が尊重される社会の実現	26	水の安定供給と下水処理の適正化
33	情報発信・共有の推進	32	男女共同参画の実現
		34	市民との協働・交流の推進
		35	行財政運営の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
5	地域医療体制の充実	3	青少年の健全育成の推進
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	6	地域福祉の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	7	高齢者福祉の推進
23	自然・生活環境の保全	8	障害者福祉の推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
29	道路・交通環境整備の推進	16	商工業の振興
30	公共交通の維持確保と交通安全の推進	17	観光資源の整備と活用
		18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		22	地域コミュニティの推進

藤沢地区では、重要度が高い施策として、「4. 健康づくりの推進」、「6. 地域福祉の推進」、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」などの施策が挙げられ、このうち、「6. 地域福祉の推進」、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「25. 良好な市街地・住環境形成の推進」、「29. 道路・交通環境整備の推進」、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」が挙げられます。これらの施策については、藤沢地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 幡羅地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
4	健康づくりの推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
23	自然・生活環境の保全	19	災害に強い防災体制の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	20	消防・救急体制の充実
		24	環境衛生の推進
		25	良好な市街地・住環境形成の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		28	治水対策の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
15	農畜産物の販売流通体制の充実	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	8	障害者福祉の推進
32	男女共同参画の実現	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
33	情報発信・共有の推進	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
34	市民との協働・交流の推進	18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		35	行財政運営の推進

幡羅地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられます。比較的重要度が高い施策の中で、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては、重要度に比べ満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「17. 観光資源の整備」、「22. 地域コミュニティの推進」「34. 市民との協働・交流の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、幡羅地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 明戸地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育サービスの充実
22	地域コミュニティの推進	8	障害者福祉の推進
23	自然・生活環境の保全	17	観光資源の整備と活用
25	良好な市街地・住環境形成の推進	18	就労環境の整備
		20	消防・救急体制の充実
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
		32	男女共同参画の実現
		33	情報発信・共有の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
3	青少年の健全育成の推進	5	地域医療体制の充実
4	健康づくりの推進	6	地域福祉の推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	7	高齢者福祉の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
16	商工業の振興	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
27	自然・文化を生かした景観形成	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
28	治水対策の推進	19	災害に強い防災体制の推進
29	道路・交通環境整備の推進	21	防犯・空き家対策の推進
34	市民との協働・交流の推進	24	環境衛生の推進
35	行財政運営の推進	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

明戸地区では、重要度が高い施策として、「1. 子育て支援の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「6. 地域福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「6. 地域福祉の推進」、「19. 災害に強い防災体制の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「13. スポーツ・レクリエーションの推進」、「27. 自然・文化を生かした景観形成」、「34. 市民との協働・交流の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、明戸地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 大寄地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
9	「生きる力」を育む学校教育の推進	2	保育サービスの充実
10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	7	高齢者福祉の推進
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	8	障害者福祉の推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	18	就労環境の整備
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	19	災害に強い防災体制の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	20	消防・救急体制の充実
22	地域コミュニティの推進	24	環境衛生の推進
23	自然・生活環境の保全	26	水の安定供給と下水処理の適正化
		27	自然・文化を生かした景観形成
		28	治水対策の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
4	健康づくりの推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	3	青少年の健全育成の推進
16	商工業の振興	5	地域医療体制の充実
17	観光資源の整備と活用	6	地域福祉の推進
32	男女共同参画の実現	21	防犯・空き家対策の推進
34	市民との協働・交流の推進	25	良好な市街地・住環境形成の推進
35	行財政運営の推進	29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		33	情報発信・共有の推進

大寄地区では、重要度が高い施策として、「1. 子育て支援の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「8. 障害者福祉の推進」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「1. 子育て支援の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「11. 生涯学習の推進」、「16. 商工業の振興」、「17. 観光資源の整備と活用」などの施策が挙げられます。これらの施策については、大寄地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 八基地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育サービスの充実
16	商工業の振興	3	青少年の健全育成の推進
23	自然・生活環境の保全	4	健康づくりの推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	5	地域医療体制の充実
32	男女共同参画の実現	6	地域福祉の推進
34	市民との協働・交流の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
		10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
		12	郷土の歴史・文化の継承と活用
		19	災害に強い防災体制の推進
		20	消防・救急体制の充実
		24	環境衛生の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		28	治水対策の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	7	高齢者福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	8	障害者福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	15	農畜産物の販売流通体制の充実
27	自然・文化を生かした景観形成	18	就労環境の整備
30	公共交通の維持確保と交通安全の推進	21	防犯・空き家対策の推進
33	情報発信・共有の推進	29	道路・交通環境整備の推進
35	行財政運営の推進		

八基地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「7. 高齢者福祉の推進」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」、「21. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「29. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「7. 高齢者福祉の推進」、「21. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「29. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「17. 観光資源の整備と活用」、「22. 地域コミュニティの推進」、「27. 自然・文化を生かした景観形成」などの施策が挙げられます。これらの施策については、八基地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 豊里地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
4	健康づくりの推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	5	地域医療体制の充実
22	地域コミュニティの推進	7	高齢者福祉の推進
24	環境衛生の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
		19	災害に強い防災体制の推進
		20	消防・救急体制の充実
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
11	生涯学習の推進	6	地域福祉の推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	8	障害者福祉の推進
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	21	防犯・空き家対策の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	28	治水対策の推進
16	商工業の振興	29	道路・交通環境整備の推進
17	観光資源の整備と活用	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
18	就労環境の整備		
23	自然・生活環境の保全		
25	良好な市街地・住環境形成の推進		
31	人権・個性が尊重される社会の実現		
32	男女共同参画の実現		
33	情報発信・共有の推進		
34	市民との協働・交流の推進		
35	行財政運営の推進		

豊里地区では、重要度が高い施策として、「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育サービスの充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「6. 地域福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「21. 防犯・空き家対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「6. 地域福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「21. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「13. スポーツ・レクリエーションの推進」、「16. 商工業の振興」、「34. 市民との協働・交流の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、豊里地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 上柴地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育サービスの充実
23	自然・生活環境の保全	3	青少年の健全育成の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	4	健康づくりの推進
31	人権・個性が尊重される社会の実現	6	地域福祉の推進
32	男女共同参画の実現	19	災害に強い防災体制の推進
33	情報発信・共有の推進	24	環境衛生の推進
34	市民との協働・交流の推進	25	良好な市街地・住環境形成の推進
35	行財政運営の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
		28	治水対策の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
9	「生きる力」を育む学校教育の推進	5	地域医療体制の充実
10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	7	高齢者福祉の推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	8	障害者福祉の推進
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	18	就労環境の整備
15	農畜産物の販売流通体制の充実	20	消防・救急体制の充実
16	商工業の振興	21	防犯・空き家対策の推進
17	観光資源の整備と活用	29	道路・交通環境整備の推進
22	地域コミュニティの推進	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

上柴地区では、重要度が高い施策として、「1. 子育て支援の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「20. 消防・救急体制の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「13. スポーツ・レクリエーションの推進」、「17. 観光資源の整備と活用」、「22. 地域コミュニティの推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、上柴地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 南地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
9	「生きる力」を育む学校教育の推進	1	子育て支援の充実
10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	2	保育サービスの充実
11	生涯学習の推進	3	青少年の健全育成の推進
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	7	高齢者福祉の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	19	災害に強い防災体制の推進
33	情報発信・共有の推進	20	消防・救急体制の充実
		25	良好な市街地・住環境形成の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		28	治水対策の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
15	農畜産物の販売流通体制の充実	6	地域福祉の推進
16	商工業の振興	8	障害者福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	18	就労環境の整備
22	地域コミュニティの推進	21	防犯・空き家対策の推進
32	男女共同参画の実現	23	自然・生活環境の保全
34	市民との協働・交流の推進	24	環境衛生の推進
35	行財政運営の推進	29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現

南地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「31. 人権・個性が尊重される社会の実現」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」、「31. 人権・個性が尊重される社会の実現」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「17. 観光資源の整備と活用」、「22. 地域コミュニティの推進」、「32. 男女共同参画の実現」などの施策が挙げられます。これらの施策については、南地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 岡部地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
9	「生きる力」を育む学校教育の推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
17	観光資源の整備と活用	4	健康づくりの推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	5	地域医療体制の充実
27	自然・文化を生かした景観形成	6	地域福祉の推進
28	治水対策の推進	19	災害に強い防災体制の推進
31	人権・個性が尊重される社会の実現	20	消防・救急体制の充実
32	男女共同参画の実現	24	環境衛生の推進
33	情報発信・共有の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
34	市民との協働・交流の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
13	スポーツ・レクリエーションの推進	7	高齢者福祉の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	8	障害者福祉の推進
16	商工業の振興	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
22	地域コミュニティの推進	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
23	自然・生活環境の保全	18	就労環境の整備
29	道路・交通環境整備の推進	21	防犯・空き家対策の推進
35	行財政運営の推進	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

岡部地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「21. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「13. スポーツ・レクリエーションの推進」、「22. 地域コミュニティの推進」、「35. 行財政運営の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、岡部地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 川本地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
4	健康づくりの推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
11	生涯学習の推進	19	災害に強い防災体制の推進
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	20	消防・救急体制の充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	23	自然・生活環境の保全
15	農畜産物の販売流通体制の充実	24	環境衛生の推進
22	地域コミュニティの推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
25	良好な市街地・住環境形成の推進	28	治水対策の推進
27	自然・文化を生かした景観形成		
33	情報発信・共有の推進		
34	市民との協働・交流の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
2	保育サービスの充実	5	地域医療体制の充実
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	6	地域福祉の推進
16	商工業の振興	7	高齢者福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	8	障害者福祉の推進
32	男女共同参画の実現	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
		18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
		35	行財政運営の推進

川本地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「7. 高齢者福祉の推進」、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「7. 高齢者福祉の推進」、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「14. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「16. 商工業の振興」、「17. 観光資源の整備と活用」が挙げられます。これらの施策については、川本地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 花園地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	6	地域福祉の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	8	障害者福祉の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	19	災害に強い防災体制の推進
28	治水対策の推進	23	自然・生活環境の保全
34	市民との協働・交流の推進	24	環境衛生の推進
		25	良好な市街地・住環境形成の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	1	子育て支援の充実
16	商工業の振興	3	青少年の健全育成の推進
17	観光資源の整備と活用	5	地域医療体制の充実
22	地域コミュニティの推進	7	高齢者福祉の推進
32	男女共同参画の実現	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
33	情報発信・共有の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
35	行財政運営の推進	18	就労環境の整備
		20	消防・救急体制の充実
		21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現

花園地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「8. 障害者福祉の推進」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「29. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「20. 消防・救急体制の充実」、「29. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「14. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「22. 地域コミュニティの推進」、「32. 男女共同参画の実現」が挙げられます。これらの施策については、花園地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

4. 自由記入欄（まちづくり全般について） ※原文の通り

自由意見から主要な意見を抽出し、施策分野ごとに分類しました。

（１）＜子育て・保健・福祉＞に関する意見

- ・ こどもだけでなく高令者と同居する家族に対しての何らかの援助の必要を感じている（老老介護の解決策 e t c）
- ・ 子供は国の宝であり・未来への光である。この言葉の意味を行政は重く感じてほしい。１．養護施設への支援。２．親に捨てられた子供の擁護と心のケアー・子供の未来への道しるべの支援・推進。
- ・ 公園や児童センターが充実しているのは良い点だが天気の悪い日（主に土日）に遊ぶ施設が少ない。年の差がある兄弟がいる家庭だと、小学生に合わせると末就学児が遊べなかったり反対に未就学児に合わせると小学生が満足できなかったりが起きてしまうので、１つの施設で幅広い年齢の子どもが遊べる施設が欲しい。（埼玉県上尾市の“こどもの城”のような）
- ・ 老人が多く、子供が少ない。子供の声も聞こえない。大変な事だと思います。子育て世代に手厚い支援をお願いしたいです。
- ・ ・せまいちゅう車場が多くて、にんぷさんの時、とても大変だった。にんぷさんや、体が不自由な人用の広めのちゅう車場がふえてほしい。・ 子供が遊べる場所で、得に室内で遊べる所を増やしてほしい。
- ・ 子ども２人とも２０代となり、子育てはほぼ終了しました。振り返ると、深谷は子育ての環境が充実していたので、（入学前の子育て支援、公立幼稚園、スポーツ活動、おいしい給食、高校も複数あった等）住んでいて良かったと思います。ありがとうございました。今は夫と市内のイベントや行事等に出かけ楽しんでます。
- ・ 子供達が遊べる公園等がまず少なすぎる。車で行かないと遊べないところに公園があっても、子供同士で遊ぶ約束もできないし、外で遊ぶ事もできない。豊里地区は農業中心かもしれないけど、ちゃんと子供達の事も考えて行ってほしい。
- ・ 車を運転出来る人は不自由はない様ですが、私は車運転出来ないのではほとんど外出は出来ません。高令者なので医療に大変不安があります理由は当地区には統合病院はなく、急病になった時どうするか大変不安を持っています。健康診断（国保）も近くの医療機関もう予約終了したとの事ですまだ健診も初まっていないのにこれは困りますもっと健康診断が出来る開業医を増して下さい。車社会なので車を持っていない私にとっては自然はあり住みやすい町なのでしょうが車を運転しない人にも不便を感じない市にして下さい。

(2) <教育・文化>に関する意見

- ・新しい文化を取り入れつつ、昔ながらの街並みなど残せる物は残して欲しい。今でも充分住み易いので、もっと住み易い環境作りをお願い致します。
- ・年令的にあまり、わからない事もありました・教育に力を入れて欲しいです（家庭ちいき、回りの人々）・直接かかわりが、なりものには、良くわかりませんでした・良くテレビなどで、年よりの集まり何かをするなど、あそびなど運動などがあるといいな一と思ってます、無料で誰でも行ける場所
- ・大学生も医療費補助、学費補助を希望します。
- ・まちづくりは、新しく整備された近代的な住みよい街にすることは、大切である。しかしその一方で古くから受けつがれている文化や古い建造物を継承したり、修復したりして、残し、生かしていくこともとても重要だと思う。伝統や歴史的な建物は、一度失ってしまうと二度と再生できないので…。新しくおしゃれな街並みに生まれ変わる市街地を見ながら、嬉しさとさみしさも感じている。個人で残すことは難しいので、市として、残す手立てはないのだろうか…と思う（もう遅いかもしれませんが…）深谷市は、熊谷と違って空襲を受けなかったので歴史的建造物も多かったように思う。
- ・このアンケートの中に、いじめについての質問がなかったことを残念に思います。新聞やテレビのニュースでいじめの問題が起こる度、心が痛いです。子供が小学生だった時も、いじめについての対応が充分ではないと感じておりました。現在、どのような取り組みを行っているのか分らないのに、いろいろ意見を言うのは、まちがっているかもしれませんが、今、この時、いじめの問題で泣いているお子さんが、1日でも早く笑顔になってほしいと思います。～誰一人取り残さないみんながうれしいふかや～この言葉、通りの深谷市になりますように心から願います。

(3) <産業振興>に関する意見

- ・東芝工場跡地利用など、深谷市を活性化して下さい。
- ・1. 農地の有効活用 2. 農地のほこり対策
- ・市内北部、西部の開発、整備、企業誘致・深谷駅前再開発の継続・外来生物の駆除（オオキンケイギク、アレチハナガサ、ナナミヒナゲシ）※オオキンケイギクは特に
- ・深谷市の特性を生かした施策などで、魅力的な街づくりをして頂き人口が増えていく様願っております。
- ・北側をもっと活用して欲しい（農地をうまく使って欲しい）

- ・ 農業。深谷ネギをもっとPRしてほしい。農業が、たのしく、できる様お願いしたい。
- ・ 深谷市の農業について、これから多いに発展することの出来る希望を持っています。今の時世を考へますと、食料の大切さを思います。この地の都会からの距離の有利さ、農地の豊かさ。短期的な農業政策で無く長期プランを持ち農家の方と市政とが協力して進んでゆかれることを期待します。特に農業に係わる若い方達に希望を託します。
- ・ 農畜産物の販売場の活用（道の駅）特売場（空き農地の活用、農畜産の継承、深谷市民の働く場所の確保）市、行政が管理を行う、（会社）の設置

（４）＜暮らし・環境＞に関する意見

- ・ 水害時の避難場所が分りづらい。又車での移動が多数のため渋滞している。何か全体的なまとめた方法があると良い。
- ・ 唐沢川の整備をしている所を見ましたが、水鳥が寄り付かなくなる様な直し方にならないか心配になりました。人だけの為の整備にならない様にお願いします。
- ・ ※現市長（小島）は緑の町づくりに努力しており良いと思います※又ゴミの収集について、他の市町村に比べ強力的に実行しており支持している。
- ・ 深谷プレミアムアウトレットができ、深谷市が一層にぎやかになっています。周辺の道路整備なども行われ、とても住みやすいと感じています。花、緑、野菜を守りつつ深谷市が自然と共存しながら発展していくといいなあと思っています。これからもずっと住み続けたい自慢の故郷です。
- ・ １０年前位から、通学路の脇に花を植えたり、水をまいたりしてボランティア活動をしていましたが、コロナになり今通学路がどうなっているか通らないのでわからない、自治会で推進して人をあつめ、もり上げてくれたら良いと思う。
- ・ １０年後には、免許を返納したいと考えています。車がなくても生活できるようなまちづくりを望んでいます。
- ・ 選挙の場合投票所まで車にのれない者にとってはつらい
- ・ 高令者のみの世帯や一人暮らしの人が、どんどん増えているように思います。また、空き家も古くなって台風など強風の時は心配な所もあるようですから、対策を進めて頂ければと思います。

- ・ 駅までのバスがなく、車（タクシー）でしか行くことができないのが不便です。コロナに感染した時に、食事や生活用品などをすぐに配達して下さり助かりました。ありがとうございました。
- ・ ゴミ（特に生ゴミ）の集積場所の整備をお願いしたい。かんたんなネットをかけて集積している場所が沢山ある。カラス等にいたずらされて、生ゴミが散乱して、とてもきたない。検討をお願いします。
- ・ 他市、町、とは違う（無いもの）に視点をおき子育て、高令化対策、（活用、チャンス、新需要の発見、既成概念の打破、他にない少子高令社会を好機ととらえ、新需要の創造、自分ならこう自分に置き換えて新しい発想をしてみましょう。心より期待しています。自然を大切に将来に責任をもってその為になにを今のうちになにをどうするか将来今の若年の方々の住みたい仮想を持って是非願います
- ・ 高齢者だけでなく、子育てにもネギー欲しいです。畑や道路にポイ捨てが多くて困っています。
- ・ ※深谷消防署の出張でAEDの使用方法を教そわりました、その際どこにAEDがあるのかわからないのでAEDロードマップと言うものがあったら？と思います。
- ・ 深谷市に住んで10年以上経ちますが、環境面や医療面、教育面など平均的に過ごしやすい、利用しやすいと思います、市の情報をネットで検索できる量を増やして頂けると助かります。（日中仕事の為、市役所の窓口取扱時間内に連絡を取ることが難しいので。）

（５）＜都市・生活基盤＞に関する意見

- ・ 地域の道路の整備をもっとして欲しい。特に歩行者の保護を目的とした歩道を整備して欲しい。地域の小学生中学生を高校生が通行の激しい道路を歩いている様子を見ると危険な状況です。
- ・ 国道140号線（旧道）と秩父鉄道小前田駅までの県道175号線が花園小学校の児童の通学路となっていますが、歩道がなく路側帯を使って登校しています。大型車両の通行も多く、常に危険であると感じます。何か事故でも起きないか心配なので、対策を取っていただければと思います。
- ・ 熊谷市の歩道には、車イスが通り易い様に段差をなくす工夫がなされています。深谷の道路にはとても少く不便を感じています。新しく造る道には是非とも作って欲しいです。
- ・ 歩道、自転車道の整備が不十分に感じられます。

- ・ 交通の便が良く周辺が明るい場所に夜間でも安心して利用できるウォーキングコースや、気軽にスポーツが楽しめるバスケットコートなど、市民が無料でスポーツを楽しめる環境があるといいなあとと思います。ぜひ現実化を！！
- ・ 深谷肛門科前の道路、あおぞら保育園側の歩道が整備されて便利・安全になりました。街灯が道の両側につくと夜安心です。子ども、小中学生が多い地域だと思うので、夜間起こりえる犯罪を防止できればと思います。よろしくお願いします。
- ・ 駅前はきれいになったけど 田舎の方はまだ下水もできてないし 道もガタガタだし平等にしてもらいたい
- ・ ・ もっと、大型スーパーとか、(コストコ、イケヤ、) などあれば、雇用も出来て、若い人も、働ける場所ができるのでは！！・ 深谷は、なんとなく、暗く、楽しくない！駅の周りが、良くない！！・ 若い人も年よりも、生きがいのもてる町に！
- ・ ・ 運転をしていて、危ない場所（狭い道路やアスファルトの劣化）がとても気になります。深谷市役所周辺がここ数年でだいぶきれいになりましたが、その他の場所についても整備をして欲しいなと思っております。
- ・ ・ 見通しの悪い道路、狭い道路をスクールゾーン化してほしい・ 郊外地だが住宅地がある所の街灯を増やしてほしい・ 郊外地の車道（歩道）の線を描き直してほしい
- ・ 深谷市は、秩父線と高崎線と2線あってありがたいことです。しかし、高崎線は籠原止まりのものもあり、深谷駅と籠原駅の間地点の地域では籠原駅を使用しています。籠原駅の南口道路は、整備され、広い見渡しのよい道となりました。そこに通じる道の整備を行うことで、更に高崎線の使用をしやすくなり、若者の都会への流出を防ぐことにつながるのではないのでしょうか。また、アパート経営をされている方や、商店を営んでいる方への恩恵にもつながるのではないかと思います。

（6）＜協働・行政経営＞に関する意見

- ・ 学歴にとらわれず、正しい意見等を積極的にとり入れた町づくりをのぞむ。
- ・ 深谷市は近隣の市町村にくらべて、色々な事に柔軟性を持ち行動しているまちと感じてます。それは市長さんがとてもフットワークが軽く、市民の立場で物事を考えて下さっているからと思ってます。市民の立場、市民の考えを少しでもくみとり、寄り添って感じ取って下さると良いと思います。市の職員さんの意見、市民の声を又、このような書面にて聞いて下さると良いかと思っています。個人の意見としては、もう少しスポーツに力を入れてもらえると嬉しいですが…小島市長さんの俊敏な行動と市民の為に働いて下さる厚い思いを感じながら、増々深谷市の発展を楽しみに期待してます。

- ・セツ梅などを中心とした古き良い施設をもっと活用して、若者が集える地域造りに予算を掛けて頂ければと思います。
- ・深谷駅前の花壇や商店街通り花鉢への給水車事業を維持して、「花の町ふかや」を発展させてほしい。
- ・深谷に生まれて75年になります郊外ばかり発展して、昔からの中心地域は七夕夏祭以外は寂しく思う事があります小島市長さんも深谷の中心で育っているので昔のにぎわいは知っていると思います上柴や花園のようにもう少し発展できるように考えて頂けないでしょうか
- ・花園にアウトレットや道の駅がある為活気があるのは良い事であるが、深谷市の中心である所が、区画整理の遅れや、高齢化で住む人が減っていて、寂しい気がする、他の地域の人からみたら花園が深谷の中心部であると思うと思う、せっかくJRが通っていて、学生がたくさん通学しているので、若者に魅力的な街づくりをしてもらいたい。まわりの人も効外に住む人が多いので、早く中心部の整備が大事だと思います。
- ・中仙道沿いの活性化、若者や家族連れが沢山集まる様に街の若がえりをめざす。市外、県外からも人が集まる様なお店の誘致（戸越銀座商店街の様にその街に住んでいなくても買い物したいと思える様な街だったらいと思う）
- ・頼りになる行政と感じています。市報は楽しみにしており、大切な事を知る機会です。自転車での通学の為にむずかしいかと思いますが、自転車レーンがあれば助かると思います。アリオ近辺も塾帰りの自転車の子供達が照明の消えた暗い道を帰るのを見た事があります。街灯の少ない所は心配です。プロパンガスの場所も都市ガスになると嬉しいです。何につけ財政の厳しい今、将来を荷なう子供達が深谷を愛する元気な人に育ってくれるよう願っています。宜しくお願い致します
- ・これからも「渋沢栄一氏」は、まちづくりに重要であると思います。また、花園インター周辺は、さらに開発がすすむことと思います。女性や子供にやさしいまちづくりを期待しています。日本で一番、女性や子供にやさしい市になりますように。
- ・少子高齢化、人口減少により、地方自治の運営が厳しくなっていくことが、明白であり、市独自の対策を早期に取り組んで欲しい。また、深谷市の特徴を生かした市政を積極的に推進して欲しい。今後「誰一人取り残さないみんながうれしいふかや」を実現するため、よい良い市政を期待している。
- ・若い保育士が辞めないような環境（保育士の確保）・保育料無料化ではなく、保育士への給料を上げ、女性が働ける環境作り・役所の対応を改善してほしい。（1回で済むように、説明をわかりやすくもう少し長く営業してほしい。）

3. Ⅲ. アンケート調査結果の単純集計結果

1. 深谷市のまちづくりについて

深谷市の現状を把握し、今後のまちづくりの参考とします。該当する番号に○をつけてください。

1. 深谷市のまち全体の印象について

問1. これからもずっと深谷市に住みたいと思いますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. ずっと住みたい | 68.0% |
| 2. 当分の間は住みたい | 25.5% |
| 3. できれば転居したい | 4.6% |
| 4. すぐにでも転居したい | 0.4% |

2. 子育て・保健・福祉について

問1. 地域で子どもを育む活動に参加していますか。(例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など)

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 参加している | 14.1% |
| 2. ときどき参加している | 7.3% |
| 3. あまり参加していない | 10.4% |
| 4. 参加していない | 66.4% |

問2. 小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。仕事と子育てを両立できていると思いますか。

- | | |
|--------------------|-------|
| 1. 両立できていると思う | 15.5% |
| 2. ある程度は両立できていると思う | 48.5% |
| 3. あまり両立できていないと思う | 20.4% |
| 4. 両立できていないと思う | 15.5% |

問3. 中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。深谷市が子育てのしやすいまちだと思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 12.3% |
| 2. ある程度はそう思う | 67.7% |
| 3. あまりそう思わない | 13.8% |
| 4. そう思わない | 6.2% |

問4. 普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に取り組んでいる | 32.1% |
| 2. ときどき取り組んでいる | 27.3% |
| 3. あまり取り組んでいない | 25.6% |
| 4. 取り組んでいない | 13.6% |

問5. 定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていますか。

- | | |
|-----------|-------|
| 1. 受けている | 76.7% |
| 2. 受けていない | 22.4% |

問6. かかりつけのお医者さんはいますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. いる | 72.1% |
| 2. いない | 26.4% |

問7. 健康的な食生活に気をつけていますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に気をつけている | 44.1% |
| 2. ときどき気をつけている | 37.0% |
| 3. あまり気をつけていない | 15.4% |
| 4. 気をつけていない | 2.2% |

問8. 悩みごとを相談できる人（家族や友人など）はいますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. いる | 86.5% |
| 2. いない | 12.1% |

問9. 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. いる | 46.5% |
| 2. いない | 51.4% |

3. 教育・文化について

問1. 生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に実践している | 14.5% |
| 2. ときどき実践している | 20.7% |
| 3. あまり実践していない | 26.2% |
| 4. 実践していない | 36.3% |

問2. この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がありましたか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. たいへんあった | 5.2% |
| 2. ある程度はあった | 22.4% |
| 3. あまりなかった | 28.7% |
| 4. なかった | 42.2% |

問3. スポーツやレクリエーション活動をどの程度行っていますか。

※スポーツ・レクリエーション活動は、以下の様な活動も含みます。

散歩・ウォーキング、ジョギング・ランニング、軽い体操、筋力トレーニング、ヨガ、ゲートボール、フォークダンス、民謡踊りなど

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 28.0% |
| 2. ときどき行っている | 26.5% |
| 3. あまり行っていない | 14.5% |
| 4. 行っていない | 29.9% |

4. 産業振興について

問1. 市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. よく目にする | 18.1% |
| 2. たまに目にする | 41.3% |
| 3. あまり目にしない | 29.0% |
| 4. 目にしない | 10.1% |

問2. 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. いつも心掛けています | 19.3% |
| 2. たまに心掛けています | 44.3% |
| 3. あまり心掛けていない | 25.8% |
| 4. 心掛けていない | 9.6% |

問3. ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか(休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか)。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. とてもバランスが取れている | 19.3% |
| 2. ややバランスが取れている | 49.8% |
| 3. あまりバランスが取れていない | 22.5% |
| 4. バランスが取れていない | 6.5% |

5. 暮らし・環境について

問1. ハザードマップで自宅等の災害の危険性(自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど)について確認しましたか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 確認した | 66.5% |
| 2. 確認していない | 32.1% |

問2. ご自宅に災害に対する備え(備蓄品など)はありますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 十分ある | 4.4% |
| 2. ある程度はある | 41.5% |
| 3. あまりない | 41.8% |
| 4. ない | 11.4% |

問3. 地震発生時の避難所・避難場所を知っていますか。

- | | |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 76.7% |
| 2. 知らない | 22.5% |

問4. この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 3.1% |
| 2. ない | 95.9% |

問5. 日ごろ、防犯対策を行っていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 十分行っている | 7.6% |
| 2. ある程度は行っている | 50.1% |
| 3. あまり行っていない | 34.2% |
| 4. 行っていない | 7.1% |

問6. 地域活動(自治会での活動など)への程度参加していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に参加している | 16.0% |
| 2. ときどき参加している | 27.1% |
| 3. あまり参加していない | 23.3% |
| 4. 参加していない | 32.3% |

問7. 環境に配慮した取組(省エネ(節電を含みます)、自然や川の保全活動など)を行っていますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 24.4% |
| 2. ときどき行っている | 37.8% |
| 3. あまり行っていない | 23.1% |
| 4. 行っていない | 13.6% |

問8. 環境問題(地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など)を以前より意識するようになりましたか。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 以前より意識するようになった | 54.4% |
| 2. 変わらない | 43.3% |
| 3. 以前より意識しなくなった | 1.2% |

問 9. 普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. いつも心がけている | 30.7% |
| 2. ある程度は心がけている | 55.0% |
| 3. あまり心がけていない | 11.9% |
| 4. 心がけていない | 2.2% |

6. 都市・生活基盤について

問 1. 市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思いますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. たいへんとれている | 3.6% |
| 2. ある程度はとれている | 56.9% |
| 3. あまりとれていない | 30.7% |
| 4. とれていない | 7.1% |

問 2. お住まい周辺の住環境に満足していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. とても満足している | 19.0% |
| 2. やや満足している | 52.4% |
| 3. あまり満足していない | 20.3% |
| 4. 満足していない | 7.1% |

問 3. あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. たいへんある | 25.5% |
| 2. ある程度はある | 54.5% |
| 3. あまりない | 19.1% |

問 4. 市内に魅力的なまち並みや景観があると思いますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. たいへんある | 6.2% |
| 2. ある程度はある | 46.5% |
| 3. あまりない | 38.4% |
| 4. ない | 7.9% |

問 5. 水害に対して安心した生活を送ることができていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. たいへんできている | 21.0% |
| 2. ある程度はできている | 57.6% |
| 3. あまりできていない | 15.6% |
| 4. できていない | 4.4% |

問 6. 市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはありませんか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 感じない | 13.8% |
| 2. あまり感じない | 36.1% |
| 3. ときどき感じる | 39.9% |
| 4. いつも感じる | 8.9% |

問 7. 市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 感じない | 17.8% |
| 2. あまり感じない | 33.9% |
| 3. ときどき感じる | 30.5% |
| 4. いつも感じる | 15.3% |

7. 協働・行政経営について

問 1. 深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 7.1% |
| 2. ある程度はそう思う | 57.8% |
| 3. あまりそう思わない | 27.4% |
| 4. そう思わない | 5.3% |

問 2. この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 7.3% |
| 2. ない | 91.7% |

問 3. お互いの人権について意識をして生活をしていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に意識している | 27.4% |
| 2. ときどき意識している | 32.7% |
| 3. あまり意識していない | 31.7% |
| 4. 意識していない | 6.7% |

問 4. 市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. よく聞く | 1.0% |
| 2. ときどき聞く | 6.8% |
| 3. あまり聞かない | 43.7% |
| 4. 聞いたことがない | 47.3% |

問 5. 性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 8.6% |
| 2. ある程度はそう思う | 60.9% |

- | | |
|--------------|-------|
| 3. あまりそう思わない | 22.4% |
| 4. そう思わない | 6.4% |

問6. 男女共同参画の意識は以前と比べて変化していますか。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 以前より意識するようになった | 25.3% |
| 2. 変わらない | 68.7% |
| 3. 以前より意識しなくなった | 3.4% |

問7. 配偶者などによる「電話、メール等の細かい監視」「生活費を渡さない」などの行為が暴力であると思いますか。

- | | |
|---------------------|-------|
| 1. どんな場合でも暴力にあたると思う | 35.9% |
| 2. 暴力の場合とそうでない場合がある | 43.4% |
| 3. 暴力にあたるとは思わない | 8.7% |
| 4. 分からない | 10.8% |

問8. 市の財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心をお持ちですか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. たいへん持っている | 10.8% |
| 2. ある程度は持っている | 56.6% |
| 3. あまり持っていない | 26.5% |
| 4. 持っていない | 4.7% |

問9. 市役所における窓口対応についての満足度をお聞かせください。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. とても満足である | 25.0% |
| 2. やや満足している | 58.2% |
| 3. やや不満である | 11.7% |
| 4. 不満である | 2.1% |

問10. 市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. とても充実している | 16.0% |
| 2. やや充実している | 61.2% |
| 3. やや不足している | 18.1% |
| 4. とても不足している | 3.0% |

問11. 市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 4.6% |
| 2. ある程度はそう思う | 51.9% |
| 3. あまりそう思わない | 34.5% |
| 4. そう思わない | 7.0% |

問12. 市民活動（NPO団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動はありますか。

- | | |
|----------|-------|
| 1. とてもある | 2.8% |
| 2. 少しある | 25.0% |
| 3. あまりない | 50.7% |
| 4. ない | 20.3% |

問13. 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていますか。

- | | |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 45.2% |
| 2. 知らない | 54.4% |

問14. 花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。

- | | |
|----------|-------|
| 1. 興味がある | 66.4% |
| 2. 興味がない | 32.9% |

問15. 花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいですか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 参加したい | 35.0% |
| 2. 参加したくない | 62.2% |

問16. 市のオンラインサービスを利用したことがありますか。（例：各種申請手続き、相談、イベント参加、コンビニ交付など）

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 利用したことがある | 24.6% |
| 2. 利用したことがない | 74.4% |

問17. 「SDGs」という言葉を知っていますか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. よく理解している | 36.3% |
| 2. 聞いたことはある | 47.1% |
| 3. 存在を知らない | 16.0% |

※SDGs（Sustainable Development Goals）は、2030年を期限とする国際社会全体の開発目標であり、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すための目標として、17のゴール（目標）が設定されています。

2. 深谷市の施策について

あなたは、深谷市の次の各分野別の行政施策について、どのくらい重要だと思いますか？また、現在の深谷市の取り組みについて、どのくらい満足していますか？
それぞれあてはまるものを1つずつ選び、○をつけてください。

●重要度に関する回答

	重要度（％）					無回答（％）	重要度（点数）
	重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

◆＜子育て・保健・福祉＞に関すること

子育て支援の充実	66.7	18.4	3.0	0.1	8.0	3.9	1.48
保育サービスの充実	63.3	21.9	2.7	0.1	8.1	3.9	1.45
青少年の健全育成の推進	50.5	32.3	3.6	0.4	9.2	4.0	1.29
健康づくりの推進	51.9	35.0	5.0	0.7	4.0	3.4	1.32
地域医療体制の充実	75.1	16.7	1.2	0.3	3.1	3.6	1.65
地域福祉の推進	56.6	30.7	2.7	0.4	5.6	4.0	1.40
高齢者福祉の推進	60.3	27.9	3.1	1.0	4.3	3.4	1.43
障害者福祉の推進	58.8	30.5	2.1	0.3	4.7	3.6	1.45

◆＜教育・文化＞に関すること

「生きる力」を育む学校教育の推進	55.3	27.6	5.0	0.3	7.7	4.1	1.32
家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	52.4	32.1	3.6	0.7	7.0	4.1	1.32
生涯学習の推進	37.8	36.7	12.9	1.0	8.0	3.6	0.97
郷土の歴史・文化の継承と活用	34.2	42.7	10.5	2.1	6.5	4.0	0.96
スポーツ・レクリエーションの推進	27.9	42.4	16.1	2.4	7.6	3.7	0.77

◆＜産業振興＞に関すること

農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	49.8	32.4	2.5	1.3	9.9	4.0	1.27
農畜産物の販売流通体制の充実	46.5	34.2	4.0	1.0	10.4	3.9	1.21
商工業の振興	45.0	35.4	4.0	1.2	10.5	3.9	1.19
観光資源の整備と活用	40.1	38.1	7.3	1.8	9.0	3.7	1.08
就労環境の整備	53.6	31.9	2.5	0.6	8.1	3.3	1.35

重要度 (%)					無回答 (%)	重要度(点数)
重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		

◆＜暮らし・環境＞に関すること

災害に強い防災体制の推進	71.9	20.1	0.9	0.1	3.0	4.0	1.63
消防・救急体制の充実	75.6	17.3	0.7	0.1	2.8	3.4	1.67
防犯・空き家対策の推進	60.6	29.0	2.4	0.3	3.6	4.1	1.47
地域コミュニティの推進	34.4	43.7	10.1	1.0	6.8	4.0	1.00
自然・生活環境の保全	46.5	38.8	5.0	0.6	5.2	3.9	1.26
環境衛生の推進	51.3	37.8	2.7	0.3	4.3	3.7	1.37

◆＜都市・生活基盤＞に関すること

良好な市街地・住環境形成の推進	48.7	37.8	4.1	0.6	4.7	4.0	1.30
水の安定供給と下水処理の適正化	68.0	23.6	1.2	0.3	3.4	3.6	1.58
自然・文化を生かした景観形成	36.0	42.1	12.1	1.5	4.6	3.7	0.99
治水対策の推進	50.2	35.6	3.3	0.4	6.5	4.0	1.32
道路・交通環境整備の推進	57.9	31.6	3.1	0.6	2.8	4.0	1.43
公共交通の維持確保と交通安全の推進	57.5	32.4	3.1	0.1	3.3	3.6	1.44

◆＜協働・行政経営＞に関すること

人権・個性が尊重される社会の実現	55.6	30.2	4.0	0.9	5.6	3.7	1.36
男女共同参画の実現	44.9	34.8	8.6	1.2	6.8	3.7	1.14
情報発信・共有の推進	40.9	41.5	6.2	0.7	6.5	4.1	1.16
市民との協働・交流の推進	33.3	41.8	10.4	1.8	8.7	4.0	0.95
行財政運営の推進	47.6	33.8	4.3	0.9	9.8	3.7	1.23

●満足度に関する回答

	満足度 (%)					無回答 (%)	満足度(点数)
	満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

◆＜子育て・保健・福祉＞に関すること

子育て支援の充実	6.2	40.7	11.0	4.3	31.1	6.7	0.34
保育サービスの充実	6.5	37.8	10.7	4.1	34.4	6.5	0.32
青少年の健全育成の推進	3.6	35.1	10.7	3.6	39.7	7.4	0.24
健康づくりの推進	6.8	45.6	13.9	2.7	24.3	6.7	0.40
地域医療体制の充実	5.6	42.4	19.9	9.9	15.4	6.8	0.14
地域福祉の推進	3.4	40.0	14.5	5.3	30.2	6.5	0.22
高齢者福祉の推進	4.9	36.3	17.2	6.5	28.9	6.2	0.16
障害者福祉の推進	3.9	33.9	14.7	4.0	36.7	6.8	0.19

◆＜教育・文化＞に関すること

「生きる力」を育む学校教育の推進	4.3	31.4	12.1	3.4	40.4	8.3	0.21
家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	4.9	30.8	14.7	4.4	37.2	8.0	0.17
生涯学習の推進	4.6	34.7	11.7	3.1	37.9	8.0	0.26
郷土の歴史・文化の継承と活用	5.6	42.5	11.4	2.2	30.1	8.1	0.38
スポーツ・レクリエーションの推進	4.3	36.0	15.6	2.5	34.2	7.4	0.24

◆＜産業振興＞に関すること

農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	3.9	25.5	13.5	7.9	42.7	6.7	0.04
農畜産物の販売流通体制の充実	4.4	30.1	13.0	5.2	40.4	6.8	0.16
商工業の振興	3.9	28.0	13.3	6.2	41.6	7.0	0.10
観光資源の整備と活用	3.9	33.2	14.8	6.5	34.8	6.8	0.13
就労環境の整備	3.0	25.5	16.0	8.4	40.3	6.8	-0.01

満足度 (%)					無回答 (%)	満足度(点数)
満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		

◆＜暮らし・環境＞に関すること

災害に強い防災体制の推進	4.4	41.9	13.0	4.1	28.6	7.9	0.29
消防・救急体制の充実	8.1	44.7	11.1	5.3	23.6	7.1	0.39
防犯・空き家対策の推進	3.3	27.9	19.4	11.0	31.7	6.8	-0.07
地域コミュニティの推進	2.7	36.6	14.8	3.6	34.7	7.7	0.20
自然・生活環境の保全	3.0	39.9	13.9	4.1	31.9	7.3	0.24
環境衛生の推進	5.0	41.2	11.7	4.4	30.4	7.3	0.31

◆＜都市・生活基盤＞に関すること

良好な市街地・住環境形成の推進	6.8	43.1	12.3	4.3	25.0	8.4	0.36
水の安定供給と下水処理の適正化	12.3	44.9	11.1	5.3	18.8	7.6	0.48
自然・文化を生かした景観形成	4.9	41.3	15.4	2.8	27.6	8.0	0.30
治水対策の推進	5.8	38.1	11.6	2.7	33.5	8.4	0.33
道路・交通環境整備の推進	5.8	37.5	21.3	10.8	17.0	7.6	0.06
公共交通の維持確保と交通安全の推進	5.0	34.7	21.3	11.9	19.4	7.7	0.00

◆＜協働・行政経営＞に関すること

人権・個性が尊重される社会の実現	4.6	37.0	12.6	3.6	34.8	7.4	0.27
男女共同参画の実現	3.9	33.8	13.5	3.3	38.1	7.6	0.21
情報発信・共有の推進	3.7	37.5	15.4	3.1	33.0	7.3	0.23
市民との協働・交流の推進	4.1	33.0	12.4	3.1	40.1	7.1	0.23
行財政運営の推進	3.7	31.3	12.3	5.5	40.3	7.0	0.15

3. 自由記入欄（まちづくり全般について）

これからの深谷市のまちづくりについて、ご意見などがありましたら自由にお書き下さい。

4. 最後に、あなた自身のことについておたずねします。

次のア～ウについて、あてはまる番号に○をつけてください。

ア. 性別	1	男性	39.4%	2	女性	51.4%	3	回答しない	9.2%
イ. 年齢（無回答 1.3%）	1	10 歳代	1.2%	2	20 歳代	7.1%	3	30 歳代	10.1%
	4	40 歳代	16.1%	5	50 歳代	16.1%	6	60 歳代	21.5%
	7	70 歳以上	26.5%						
ウ. お住まいの地区 （公民館の区域） （無回答 2.2%）	1	深谷地区	21.8%	2	藤沢地区	9.0%	3	幡羅地区	11.0%
	4	明戸地区	2.2%	5	大寄地区	1.6%	6	八基地区	3.1%
	7	豊里地区	3.6%	8	上柴地区	10.8%	9	南地区	6.1%
	10	岡部地区	12.1%	11	川本地区	9.8%	12	花園地区	6.7%